

令和八年三月

上杉文書調査報告書

― 第四分冊

絵図編

米沢市教育委員会

上杉文書調査報告書 第四分冊 絵図編

目 次

目次	3
凡例	4
上杉文書所収絵図簡易目録	5
解題「米沢藩の絵図作成と岩瀬家文書」	10
上杉文書絵図目録	15
1. 国絵図	16
(1) 国絵図	16
(2) 際絵図	29
(3) 会形	36
2. 預所絵図	40
3. 領内絵図	48
(1) 城下絵図	48
(2) 藩境	70
4. 指図	92
(1) 御殿絵図	92
①江戸上屋敷（桜田邸）	92
②江戸中屋敷（麻布邸）	100
③江戸下屋敷（白銀邸）	102
④米沢城内	105
⑤米沢藩内の陣屋など	113
(2) 屋敷図	115
5. 村絵図	119
(1) 村絵図等	119
(2) 村境絵図	124
(3) 御普請	126
6. 堰絵図	128
7. 合戦図	134
(1) 合戦図	134
(2) 陣形図	136
8. 領外絵図	146
(1) 米沢以外の城絵図	146
(2) 他所・道中絵図	155

凡 例

- ・ 目録は、①史料番号 ②史料名 ③内容／④頁数／⑤紙数／⑥形状／⑦法量／⑧作成年月日または時代／⑨絵図裏面の記載内容／⑩料紙／⑪作成者（→受給者）／⑫備考／⑬マイクロフィルムのリール番号（マイクロフィルムに未収載の場合は「無」）の順に記載した。なお、史料上に記載が確認できない項目は、目録に記載していない。
- ・ 原則として当用漢字を用い、虫損や破損などによって判読困難な文字は■で示し、その他の解読不能な文字は□で示した。
 - ① 史料番号は、原本に付された番号をそのまま採用したが、枝番号は本調査事業で新たに付した。
 - ② 史料名は、史料の外題・内題・題箋等がある場合はこれを採用し、鍵括弧付きで表記した。もとの名称がない場合は、調査者が史料名を付与し、鍵括弧をつけずに表記した。
 - ③ 内容には、絵図の記載範囲や縮尺、作成経緯なども記載した。

なお、絵図の内容と関連する上杉文書及び岩瀬家文書（市立米沢図書館蔵）から、内容を補っているものもある。
 - ⑤ 紙数の（ ）内は、一紙あたりの法量を指す。
 - ⑥ 形状には、絵図の装丁（折畳装や現状は巻など）と史料状態（裏打の有無）を記載した。

なお、同項目内の法量は折り畳んだ際の法量を指す。
 - ⑦ 法量は、縦×横の順に記し、単位はcmで統一した。
 - ⑧ 作成年月日は、原本に明記されているものはそのまま採用し、推定によるものは括弧書で記した。作成年月日が判明しない場合は、内容などから時代区分を推定して記載した。なお、時代区分の年代幅は、文書編目録の凡例に拠った。
 - ⑨ 絵図裏面の記載内容での「外題」は、史料名に採用した墨書表記を指す。また、題箋に墨書されているものは「外題題箋」と表記した。
 - ⑩ 作成者及び受給者が3名以上の場合は、代表者の名前の後に他○名と記載した。
 - ⑫ 備考には、彩色、針穴、へら跡、端の折返し、凡例、方位書、押印、畠紙書、袋墨書（袋の法量）、一括関係、ラベル・蔵書印等を採録した。なお、ラベル・蔵書印の採録は、文書編目録の凡例に拠った。

また、絵図の内容と関連する上杉文書及び岩瀬家文書（市立米沢図書館蔵）を参照した場合は、その史料番号を付記した。
- ・ 図版の順序は、「国絵図」・「預所絵図」・「領内絵図」・「指図」などに大別した上で、さらに絵図の内容によって細別し、それぞれできるだけ時代順に掲載した。作成年代が不詳なものは、整理番号順の掲載を基本とした。
- ・ 図版の掲載にあたっては、資料の形状や性格上、必ずしも北を上にはしていない。また、貼紙のあるものは、貼紙を捲らない状態で掲載した。

上杉文書所収絵図簡易目録

番号	史料名	員数	単位	法量		作成年月日または時代
				縦	横	
1769	会津領大絵図	1	鋪	335.7	419.3	(明治2年・1869)
1770	「米沢福嶋二而三拾万石之御絵図」	1	鋪	161.8	242.8	元禄15年(1702)8月15日
1771	「三拾万石之節御国絵図」写	1	鋪	72.6	144.3	文化14年(1817)8月
1772	御国絵図控	1	鋪	254.0	288.2	元禄13年(1700)3月4日
1773	御国絵図下図	1	鋪	295.2	268.6	(元禄12年(1699)6月9日)
1774	米沢城堀濠願絵図	1	鋪	95.5	138.9	正徳元年(1711)7月2日
1775	「米沢伊達信夫御図」	1	鋪	154.0	230.5	寛政6年(1794)
1776	「御国絵図」	1	鋪	116.7	118.9	文化10年(1813)12月
1777	置賜郡絵図	1	鋪	40.6	54.5	江戸後期(年月日未詳)
1778	「出羽一国御絵図」	1	鋪	543.5	537.0	元禄14年(1701)2月
1779	「出羽一国御絵図」	1	鋪	80.3	192.7	江戸後期(年月日未詳)
1780	御国絵図控	1	鋪	185.8	185.2	(享保10年(1725)9月)
1781	伊達・信夫郡絵図(玉野絵図)	1	鋪	168.2	199.2	(承応3年(1654)5月12日)
1782	「米沢領山形領会形絵図之写」	1	鋪	60.3	77.9	江戸後期(年月日未詳)
1783	山形領米沢境縁絵図	1	鋪	82.4	233.8	元禄12年(1699)10月28日
1784	御領御私領境御絵図	1	鋪	369.0	210.0	元禄2年(1689)6月
1785	「御老中并諸奉行御下判御絵図写」	1	鋪	113.1	107.1	(元禄11年・1698)
1786	米沢領端絵図	1	鋪	194.0	100.1	江戸中期(年月日未詳)
1787	米沢領仙台境際絵図控	1	鋪	49.5	70.7	元禄12年(1699)10月28日
1788	米沢領山形境縁絵図控	1	鋪	61.0	217.0	元禄12年(1699)10月28日
1789	米沢領会津境縁絵図控	1	鋪	59.2	188.6	元禄12年(1699)10月28日
1790	米沢領福島境縁絵図控	1	鋪	67.5	110.2	元禄12年(1699)10月28日
1791	福島領米沢境際絵図	1	鋪	72.4	125.2	元禄12年(1699)12月
1792	仙台領米沢境縁絵図	1	鋪	42.1	99.2	元禄13年(1700)4月9日
1793	仙台領米沢境会形	1	鋪	27.0	53.3	(元禄13年(1700)4月9日)
1794	「羽州置賜郡米沢御領 但奥州仙台境通会形」控	1	鋪	52.2	27.4	(元禄13年・1700)
1795	「羽州置賜郡米沢御領 但奥州山形境通会形」控	1	鋪	179.3	53.4	(元禄13年・1700)
1796	「羽州置賜郡米沢御領 但奥州会津境通会形」控	1	鋪	178.2	50.1	(元禄13年・1700)
1797	米沢領福島境会形控	1	鋪	49.7	107.7	(元禄12年・1699)
1798	米沢領村上境会形控	1	鋪	48.8	178.1	江戸中期(年月日未詳)
1799	「御領御私領境絵図控」	1	鋪	215.1	146.8	元禄2年(1689)11月5日
1800	「出羽国米沢領端絵図 陸奥国会津領之方」	1	鋪	176.8	108.4	(元禄12年・1699ヵ)
1801	「出羽国米沢領端絵図 陸奥国福島領之方」	1	鋪	80.3	116.5	(元禄12年・1699ヵ)
1802	「出羽国米沢領端絵図 同国山形領之方」	1	鋪	109.3	196.8	(元禄12年・1699ヵ)
1803	「出羽国米沢領端絵図 陸奥国仙台領之方」控	1	鋪	52.4	53.9	(元禄13年・1700)
1804	山形領米沢境会形	1	鋪	77.1	216.9	江戸中期(年月日未詳)
1805	「北御境絵図写」	1	鋪	98.2	89.0	(明和6年・1769ヵ)
1806	御国境諸口絵図			-	-	(天明2年(1782)12月)
1806-01	「一 板谷口」	1	鋪	84.5	134.3	(天明2年(1782)12月)
1806-02	「二 中荒井口」	1	鋪	85.3	134.1	(天明2年(1782)12月)
1806-03	「二ノ東 山上村ノ内赤浜刈安口」	1	鋪	85.4	134.4	(天明2年(1782)12月)
1806-04	「二ノ西 白旗松原通」	1	鋪	84.6	134.3	(天明2年(1782)12月)
1806-05	「三 関那戸口 荒井口」	1	鋪	85.2	134.3	(天明2年(1782)12月)
1806-06	「三ノ東 梓山村ノ内大石原」	1	鋪	85.6	134.7	(天明2年(1782)12月)
1806-07	「三四ノ東 上片子口 下片子口」	1	鋪	84.5	134.4	(天明2年(1782)12月)
1806-08	「四 堂森村 牛森村」	1	鋪	84.6	134.4	(天明2年(1782)12月)
1806-09	「四ノ東 梓山村ノ内大笹生」	1	鋪	84.7	134.6	(天明2年(1782)12月)
1806-10	「五 新洞台口 鉄砲町口 花沢口」	1	鋪	82.1	133.0	(天明2年(1782)12月)
1806-11	「六 八木橋口 芦附口」	1	鋪	83.2	132.6	(天明2年(1782)12月)
1806-12	「六ノ東 八木橋 芦附 副」	1	鋪	82.6	131.6	(天明2年(1782)12月)
1806-13	「七 一本松口 上窪田町 并穀留番所」	1	鋪	81.8	132.0	(天明2年(1782)12月)
1806-14	「八 戸ノ内口 下窪田口 并穀留番所」	1	鋪	82.5	132.3	(天明2年(1782)12月)
1806-15	「九 糠野目口 福沢口 并穀留番所」	1	鋪	83.0	133.3	(天明2年(1782)12月)
1806-16	「九ノ東 山崎村」	1	鋪	82.7	133.8	(天明2年(1782)12月)

番号	史料名	員数	単位	法量		作成年月日または時代
				縦	横	
1806-17	「十 筑茂村」	1	鋪	83.7	134.5	(天明2年(1782)12月)
1806-18	「十一 大橋口 粗柳口 櫛塚口」	1	鋪	83.5	134.6	(天明2年(1782)12月)
1806-19	「十二 十分一口」	1	鋪	83.5	134.8	(天明2年(1782)12月)
1806-20	「十二ノ東 松澤村」	1	鋪	84.0	134.6	(天明2年(1782)12月)
1806-21	「十三 大洞口」	1	鋪	83.0	133.9	(天明2年(1782)12月)
1806-22	「十四 中山口」	1	鋪	83.4	134.3	(天明2年(1782)12月)
1806-23	「十五 小瀧口」	1	鋪	85.5	134.2	(天明2年(1782)12月)
1806-24	「十五南 金山番所」	1	鋪	84.8	134.4	(天明2年(1782)12月)
1806-25	「十六 萩野口 田尻番所」	1	鋪	85.5	134.8	(天明2年(1782)12月)
1806-26	「十六南 滝野穀留番所」	1	鋪	85.9	134.0	(天明2年(1782)12月)
1806-27	「十七 平田番所」	1	鋪	84.6	135.0	(天明2年(1782)12月)
1806-28	「十八 大瀬口」	1	鋪	85.8	134.7	(天明2年(1782)12月)
1806-29	「十八南 高岡番所 菖蒲御陣屋」	1	鋪	85.2	134.3	(天明2年(1782)12月)
1806-30	「十九 枳窪口」	1	鋪	85.9	133.7	(天明2年(1782)12月)
1806-31	「二十 黒鴨口」	1	鋪	84.5	134.3	(天明2年(1782)12月)
1806-32	「二十一 蓬生戸口 折戸口」	1	鋪	85.1	133.7	(天明2年(1782)12月)
1806-33	「二十二 玉川口」	1	鋪	84.9	134.4	(天明2年(1782)12月)
1806-34	「二十三 綱木口 鳥川番所」	1	鋪	85.8	134.5	(天明2年(1782)12月)
1807	幕府評定所裁許裏書絵図	1	鋪	175.4	249.5	元禄11年(1698)12月22日
1808	「御料所絵図」	1	鋪	79.9	91.2	享保10年(1725)9月
1809	「御預所之絵図」	1	鋪	297.0	453.6	元禄2年(1689)3月29日
1811	「一本柳村ノ御私領分山崎村江分ケ相渡候地之絵図」	1	鋪	88.0	164.3	江戸後期(年月日未詳)
1812-01	「御預所上新田村若神子御子御普請ニ付御私領中田村地之内堀替絵図」	1	鋪	85.5	59.3	明和5年(1768)4月
1813	「御預所上新田村若神子御子御普請ニ付御私領中田村地之内堀替絵図」	1	鋪	85.9	59.3	明和5年(1768)4月
1814	「置賜郡御預所三拾五ヶ村之内六ヶ村去亥九月中織田八百八様御知行渡被仰出相済候ニ付公料与織田様御知行所村境相分申絵図面」	1	鋪	163.5	175.0	明和5年(1768)12月
1815	「寛政元年九月廿七日御領所御代官藤崎紋蔵殿御私領御代官松浦太郎兵衛殿御立合御見分絵図面」	1	鋪	73.6	59.0	寛政元年(1789)9月27日
1816	「越後御料 御預所絵図」	1	鋪	60.8	91.5	江戸後期(年月日未詳)
1817	「東御料 御預所絵図」	1	鋪	60.8	89.2	江戸後期(年月日未詳)
1818	「最上御料 御預所絵図」	1	鋪	60.7	88.5	江戸後期(年月日未詳)
1819	「御預所 越後岩船郡海岸絵図」	1	鋪	70.4	412.0	江戸後期(年月日未詳)
1820	「御預所越後岩船郡栗島絵図」	1	鋪	77.0	114.7	(嘉永3年・1850カ)
1821	「春日山本城之図」	1	鋪	37.9	53.2	江戸後期(年月日未詳)
1822	「越州春日山城跡図」	1	鋪	75.5	105.7	江戸後期(年月日未詳)
1823-01	「越後国頸城郡春日山長尾謙信公古城之図」	1	鋪	37.9	58.3	江戸後期(年月日未詳)
1823-02	「越州長尾謙信公古城之図」	1	鋪	38.5	60.5	江戸後期(年月日未詳)
1823-03	「越州頸城郡春日山長尾謙信公古城図」	1	鋪	38.3	59.2	元禄7年(1694)5月16日
1824	米沢城堀浚願絵図	1	鋪	80.5	60.1	宝永7年(1710)
1825	米沢城堀浚絵図	1	鋪	94.3	63.4	正徳元年(1711)7月11日
1827	「御城絵図」控	1	鋪	218.8	211.0	明和5年(1768)6月
1828	「出羽国米沢城絵図」控	1	鋪	78.9	88.3	文政元年(1818)6月
1829	「出羽国米沢城絵図」控	1	鋪	79.9	89.1	嘉永3年(1850)5月
1830	「出羽国米沢城絵図」控	1	鋪	73.8	98.9	元治元年(1864)12月
1831	「御城廻堀間敷之図」控	1	鋪	102.3	106.4	江戸中期(年月日未詳)
1832	米沢城下絵図	1	鋪	153.4	205.4	江戸中期(年月日未詳)
1833	米沢城絵図	1	鋪	211.6	587.4	(明和5年(1768)10月)
1834	米沢城絵図	1	鋪	163.8	584.8	明和5年(1768)10月
1835	「表御座之間図」	1	鋪	38.5	52.7	江戸後期(年月日未詳)
1836	「米沢御城御式台表御座間ヨリ御奥向迄御住居総絵図」	1	鋪	118.5	97.2	文化4年(1807)7月改
1837	「表御座之間絵図」写	1	鋪	42.5	61.3	文政10年(1827)8月
1838	「御廟御絵図」	1	鋪	203.0	55.6	江戸後期(年月日未詳)
1839	桜田御殿御絵図	1	鋪	118.2	186.0	享和元年(1801)7月
1840	「江戸桜田御屋敷小屋割之図」	1	鋪	88.7	149.8	延享2年(1745)11月

番号	史料名	員数	単位	法量		作成年月日または時代
				縦	横	
1841	「桜田御奥絵図」	1	鋪	49.0	80.9	延享3年(1746)12月1日
1842	江戸桜田御屋敷絵図	1	鋪	72.5	139.1	(宝暦10~明暦4年・1760~1767)
1843	「桜田御殿総御絵図」	1	鋪	101.6	184.0	(天明5年・1785)
1844	「桜田御屋鋪絵図」	1	鋪	111.2	179.5	文政5年(1822)6月
1845	「桜田御屋鋪絵図」	1	鋪	113.2	190.0	安政3年(1856)8月
1846	「麻布御屋鋪絵図」	1	鋪	120.2	218.9	安政3年(1856)8月
1847	「白銀御屋鋪絵図」	1	鋪	154.0	146.7	安政3年(1856)8月
1848	「桜田御屋敷御前様御殿之図」	1	鋪	183.0	123.7	享保15年(1730)8月吉日
1849	「麻布御屋鋪内御境通絵図」	1	鋪	53.1	72.0	安永2年(1773)5月
1850	「麻布御屋鋪絵図」写	1	鋪	115.9	209.0	文化4年(1807)9月
1851	「白金御屋鋪全図」	1	鋪	180.6	199.7	(文化6年・1809頃)
1852	「寛政十二年 白金御屋鋪絵図」写	1	鋪	146.7	146.4	文化4年(1807)9月写
1853	白金屋敷絵図	1	鋪	83.6	95.2	文化5年(1808)
1854	「白金御屋鋪絵図」	1	鋪	113.8	117.0	文化6年(1809)7月
1855	「白金御殿御絵図」	1	鋪	74.3	90.1	江戸後期(年月日未詳)
1856	屋敷部屋割図面	1	鋪	79.7	59.7	江戸後期(年月日未詳)
1857	「鉄仙之間御礼之図」	1	鋪	32.8	42.7	江戸後期(年月日未詳)
1858	「相模様御絵図」	1	鋪	44.0	65.2	天明5年(1785)6月17日
1859	麻布中屋敷図	1	鋪	31.7	41.3	享保14年(1729)
1860	「麻布御屋敷御殿之図」	1	鋪	78.0	55.0	江戸中期(年月日未詳)
1861	「赤湯村御殿之図」写	1	鋪	41.5	31.3	寛保3年(1743)4月
1862	「赤湯村御殿旧図」	1	鋪	62.6	143.4	江戸前期(年月日未詳)
1863	「板谷御殿之絵図」	1	鋪	79.6	104.2	宝暦4年(1754)5月
1864	米沢城本丸御殿図	1	鋪	139.5	129.6	江戸中期(年月日未詳)
1865	江戸桜田屋敷図	1	鋪	85.4	73.3	江戸後期(年月日未詳)
1866	桜田御屋敷絵図	1	鋪	109.4	194.6	江戸後期(年月日未詳)
1867	「御本丸御舞台二而御能御補理之図」	1	鋪	91.8	104.7	安永3年(1774)3月22日
1868	桜田屋鋪絵図	1	鋪	115.8	199.7	江戸中期(年月日未詳)
1869	桜田御殿屋敷図	1	鋪	63.9	93.8	江戸後期(年月日未詳)
1870	江戸桜田御屋敷絵図	1	鋪	86.1	125.8	(明和9~天明5年・1772~1785)
1871	屋敷図	1	鋪	66.3	108.5	江戸中期(年月日未詳)
1872	役所部屋割図(米沢ヵ)	1	鋪	78.2	57.3	(明治3年・1870頃)
1873	米沢城下絵図	1	鋪	279.0	200.8	江戸中期(年月日未詳)
1874	「万治年中 御城下屋敷割図」	1	鋪	176.0	134.3	(承応2年・1653)
1875	「御城下絵図」	1	鋪	218.8	170.5	元禄7年(1694)
1876	御城下絵図	1	鋪	188.8	183.9	江戸中期(年月日未詳)
1877	「御城下絵図」控	1	鋪	201.0	274.2	享保10年(1725)
1880	「御城下町割略御絵図」	1	鋪	145.6	116.2	享保10年(1725)9月16日
1881	米沢御城下絵図	1	鋪	118.6	144.4	江戸中期(年月日未詳)
1882	「諸奉公人屋鋪絵図 南原五町 六十在家 長手新田」	1	鋪	115.4	185.3	明和6年(1769)10月
1883	「諸奉公人屋鋪絵図 花沢八町 山上三町 橋本町共」	1	鋪	187.9	58.3	明和6年(1769)10月
1884	「御城下絵図」	1	鋪	185.8	188.6	明和6年(1769)10月
1885	「諸奉公人屋鋪絵図 花沢 山上」	1	鋪	70.6	148.8	文化8年(1811)
1886	「諸奉公人屋鋪絵図 館山通」	1	鋪	106.9	86.6	文化8年(1811)
1887	「御城下絵図」	1	鋪	132.6	208.2	文化8年(1811)
1888	「高畑御陣屋絵図」	1	鋪	186.6	147.7	(元禄2年(1689)6月)
1889	「安田若狭貞広役所絵図」	1	鋪	61.6	80.2	延享5年(1748)5月
1890	寺町御蔵絵図	1	鋪	65.6	86.5	文化8年(1811)5月
1891	「御役所絵図」	1	鋪	120.8	81.1	文政2年(1819)12月
1892	「学館絵図」	1	鋪	81.1	105.5	文政3年(1820)7月
1893	「学館絵図」	1	鋪	90.3	103.2	安政4年(1857)11月
1894	「武芸所絵図」	1	鋪	153.6	146.1	安政4年(1857)11月
1895	「御作事新建絵図」	1	鋪	64.7	42.5	江戸後期(年月日未詳)
1896	「千坂兵部宅」	1	鋪	43.7	64.3	江戸中期(年月日未詳)
1897	「梓山村林絵図」	1	鋪	99.9	91.2	寛文12年(1672)3月23日
1898	「朝日嶽絵図」	1	鋪	118.5	57.0	享保4年(1719)

番号	史料名	員数	単位	法量		作成年月日または時代
				縦	横	
1899	葭野川下四ヶ村落シ周辺村境絵図	1	鋪	92.8	120.6	宝暦8年(1758)3月26日
1900	「小国村々色分并外中津川御絵図」	1	鋪	212.4	262.9	享和2年(1802)3月
1901	内中津川村絵図	1	鋪	134.5	212.5	(享和2年(1802)3月)
1902	「外中津川之内上叶水村辺之図」	1	鋪	134.5	211.6	(享和2年(1802)3月)
1903	「玉川村辺之図」	1	鋪	173.0	131.8	(享和2年(1802)3月)
1904	「沼沢辺之図」	1	鋪	136.7	201.9	(享和2年(1802)3月)
1905	「東河原川除土手御手伝御絵図」	1	鋪	75.4	179.2	寛政10年(1798)6月
1906	「出羽国置賜郡御料露藤村入生田村舟橋村亀岡村私領福沢村立合御普請所絵図」	1	鋪	156.9	61.1	江戸中期(年月日未詳)
1908	「小国絵図」	1	鋪	107.6	129.8	享和2年(1802)写
1909	「板谷新道絵図」	1	鋪	131.9	210.8	嘉永元年(1848)
1910	茂庭絵図	1	鋪	60.4	93.2	(貞享2年・1685)
1911	「小玉川村辺之図」	1	鋪	174.2	130.6	(享和2年(1802)3月)
1912	「置賜山絵図」	1	鋪	110.2	120.6	江戸後期(年月日未詳)
1913	「綱木絵図」	1	鋪	61.2	90.3	江戸後期(年月日未詳)
1914	「栃窪村黒鴨村論地之絵図」	1	鋪	60.8	77.3	江戸中期(年月日未詳)
1915	「黒井堰之図」	1	鋪	78.8	43.0	江戸後期(年月日未詳)
1916	黒井堰図写	1	鋪	39.5	82.6	江戸後期(年月日未詳)
1918	「御城下今町より中田村迄黒井堰絵図」	1	鋪	65.9	163.2	寛政7年(1795)6月
1919	窪田村、糠野目村、福沢村、筑茂村堰絵図	1	鋪	75.0	202.2	(寛政7年(1795)6月)
1920	黒井堰図	1	鋪	64.6	138.1	江戸後期(年月日未詳)
1921	黒井堰図	1	鋪	170.3	115.1	江戸後期(年月日未詳)
1922	石岡村、鍋田村、中野目村、高梨村、沖田村、萩生田村絵図	1	鋪	62.7	129.2	江戸後期(年月日未詳)
1923	塩野村、宮井村、小瀬村、藤泉村絵図	1	鋪	63.3	131.5	江戸後期(年月日未詳)
1924	大橋村、組柳村、長岡村、桐塚村、赤湯村絵図	1	鋪	55.0	171.2	江戸後期(年月日未詳)
1925	「飯豊山穴堰御普請御成就白川元水附益候付長堀堰江増水高山村江御掛渡之堰筋」	1	鋪	151.9	120.2	文政3年(1820)5月
1926	「飯豊山穴堰絵図」	1	鋪	122.2	117.7	文政元年(1818)
1927	「畔藤村新堰絵図」	1	鋪	88.5	167.4	文政元年(1818)6月
1928	「飯豊山穴堰御普請御成就白川元水附益候付長堀堰江増水高山村江御掛渡之堰筋」	1	鋪	153.6	64.4	文政3年(1820)5月
1929	川中島合戦図	1	鋪	24.3	31.1	江戸後期(年月日未詳)
1930	「信州川中島合戦陣取略画図」	1	鋪	31.2	40.8	江戸後期(年月日未詳)
1931	川中島合戦陣形図	1	鋪	64.0	95.5	江戸後期(年月日未詳)
1932	川中島合戦図取	1	鋪	27.4	420.5	江戸中期(年月日未詳)
1933	「大阪御陣図」	1	鋪	105.3	75.2	江戸後期(年月日未詳)
1934	大阪御陣之図	1	鋪	74.7	53.2	江戸後期(年月日未詳)
1935	「大坂夏御陣之図」	1	鋪	107.4	127.4	江戸後期(年月日未詳)
1936	羽後一円大絵図	1	鋪	616.6	543.0	元禄14年(1701)2月
1937	名古屋城図	1	鋪	124.8	149.1	江戸後期(年月日未詳)
1938	米沢ヨリ奥州仙台之絵図	1	鋪	64.3	102.6	江戸後期(年月日未詳)
1939	「仙台居城絵図並城下略図」	1	鋪	37.7	53.4	江戸後期(年月日未詳)
1940	「駿府一御加番図」	1	鋪	94.4	55.4	江戸中期(年月日未詳)
1941	「奥州仙台領絵図」	1	鋪	66.4	134.2	江戸後期(年月日未詳)
1942	「越後略絵図」	1	鋪	122.5	178.5	(寛保元年・1741ヵ)
1943	松代城絵図	1	鋪	150.5	107.2	江戸中期(年月日未詳)
1944	上田絵図	1	鋪	150.8	106.2	江戸中期(年月日未詳)
1945	「越後領三面絵図」	1	鋪	57.4	87.0	江戸後期(年月日未詳)
1946	「山形之図 城下ノ略図」	1	鋪	49.6	37.5	江戸中期(年月日未詳)
1947	「栃尾組万石絵図写」	1	鋪	111.6	80.5	江戸後期(年月日未詳)
1950	「御陣場奉行備之図」	1	鋪	196.4	89.9	(寛文12年～延宝2年・1672～1674頃)
1951	「二之御備之図」	1	鋪	254.4	88.8	(寛文12年～延宝2年・1672～1674頃)
1952	「御先備之図」	1	鋪	254.4	89.5	(寛文12年～延宝2年・1672～1674頃)
1953	河中島稲荷山城絵図	1	鋪	136.4	96.1	江戸前期ヵ(年月日未詳)
1954	「信州川中島絵図」	1	鋪	147.0	98.8	江戸後期(年月日未詳)
1955	大将陣営図	1	鋪	121.0	64.2	江戸後期(年月日未詳)

番号	史料名	員数	単位	法量		作成年月日または時代
				縦	横	
1956	「御堂近火手配之図」写	1	鋪	38.5	45.8	江戸後期(年月日未詳)
1957	江戸城内之図	1	鋪	115.8	104.4	江戸後期(年月日未詳)
1958	「若松城画図并家中附」	1	鋪	61.3	60.9	慶応4年(1868)3月
1959	南奥羽略絵図	1	鋪	31.3	42.0	江戸後期(年月日未詳)
1960	「米沢藩家老毛利家享保六辛丑年十二月六日郷広夫婦婚礼相調二付同年夏分官元公御指図ニテ建部屋之絵図」	1	鋪	60.7	59.4	享保6年(1721)12月
1961	「武州金沢郷筆山地蔵院能見堂八景之画図」	1	鋪	66.6	48.2	天明元年(1781)10月5日
1962	江戸日光御成道図	1	鋪	27.5	81.7	江戸後期(年月日未詳)
1963	福島城下絵図	1	鋪	99.6	106.6	貞享4年(1687)6月25日
1964	「嶋々之図」	1	鋪	39.5	30.5	江戸中期(年月日未詳)
1965	「元禄十六年酒井左衛門尉殿居城羽州庄内堀泥場普請願之節公方様御役人中江被指出候絵図之写」	1	鋪	81.5	60.5	元禄16年(1703)7月12日作成 天保16年(1845)写
1966	「きりしたん籠中城の絵図」写	1	鋪	79.3	88.7	江戸中期(年月日未詳)
1967	「蝦夷絵図」写	1	鋪	77.5	116.2	江戸後期(年月日未詳)
1968	「自米沢中山至津軽三厩道中記」	1	冊	13.3	18.9	江戸後期(年月日未詳)
1969	「東蒲原郡明細図 全」	1	鋪	110.7	103.9	近代(年月日未詳)
1970	「御旗殿之図」	1	鋪	27.2	39.7	江戸後期(年月日未詳)
1971	「本陣之図」	1	鋪	39.5	27.3	江戸後期(年月日未詳)
1972	「本陣備之図」	1	鋪	49.5	33.0	江戸後期(年月日未詳)
1973	「箭所之図」	1	鋪	39.6	27.1	江戸後期(年月日未詳)
1974	「隠敷之図」	1	鋪	31.3	41.2	江戸後期(年月日未詳)
1976	陣屋配置図	1	鋪	179.3	138.7	江戸後期(年月日未詳)
1977	陣形図	1	鋪	46.7	67.6	江戸後期(年月日未詳)
1978	「大坂城之図」	1	鋪	65.5	71.2	文化6年(1809)11月
1979	気多大社境内図	1	鋪	27.2	36.7	江戸後期(年月日未詳)
1980	駿州有渡郡府中御城絵図写	1	鋪	65.1	58.3	享和2年(1802)2月写
1981	「松崎城堞図」	1	鋪	269.2	244.0	享和2年(1802)12月
1985	御国絵図控	1	鋪	243.8	289.0	元禄13年(1700)3月4日
1986	「米沢伊達信夫郡大絵図」	1	鋪	271.6	432.6	(貞享元年・1684)

米沢藩の絵図作成と岩瀬家文書

はじめに

本調査事業の対象となっている「上杉文書」には、241点の絵図が収められている（関係文書11点を除く。関係文書は文書編に所収。以下、「上杉文書」所収の絵図群は「本絵図群」と表記する）⁽¹⁾。これらは、米沢藩によって作成された絵図がほとんどを占め、当時の景観描写や地域のあり様を視覚的に伝える重要な史料である。一方で、絵図だけでは得られる情報量に限界があり、作成の時期やその背景など具体的な情報を知ることが難しい場合も多分にある。

そこで、まずは本論に先立ち、本絵図群の内容をより詳しく知る手がかりとなる史料群として、岩瀬家文書（市立米沢図書館所蔵）を紹介しておきたい。岩瀬家文書は、承応年間（1652～1655）以降、米沢藩の絵図方を勤めた岩瀬家に伝来した史料群で、720点の目録が公開されている⁽²⁾。特に、江戸幕府が主導した国絵図編纂に係る史料は注目すべきもので、岩瀬家が米沢藩絵図方の立場として江戸幕府の国絵図編纂にどのように関与したのか、その具体相を知ることができる（後掲の絵図分類①に該当）⁽³⁾。岩瀬家文書は、他の藩政史料ではうかがい知れない、絵図方独自の視点による叙述が豊富で、いわば絵図作成の「裏側」を知り得る貴重な史料群と言えよう。

また、岩瀬家は、近世後期になって自身で手がけた絵図を目録に起こして整理しており、岩瀬家文書のなかには絵図目録や由来書が数点存在する⁽⁴⁾。これらは、本絵図群の伝来を知る重要な手がかりとなるだけでなく、米沢藩絵図方として絵図をどのように管理してきたのか、その一端をうかがい知る史料として検討を重ねる必要がある。

本稿では、本絵図群の特徴を概括するとともに、岩瀬家文書を素材に組み込みながら米沢藩の絵図作成とその伝来について紹介したい。

1 本絵図群の概要

本章では、後述する個別的検討の前提として、本絵図群を概観しておきたい。まず、現在の絵図の保管状況であるが、本報告書の目録から見て明らかなように、改装されているものが多くを占める。縦横各方向に蛇腹状に折り畳まれる形態が原状と考えられるが、新しく裏打が施され、筒状に巻く形に改装されてしまっている。なかには、もともと絵図が入っていた袋と共に巻かれているものも存在し、作成当時の原状を留めているものはそれほど多くない。折り畳みから巻きへの改装は、昭和42年（1967）に行われたようである。また、絵図の裏面には、当初使用されていた絵図袋の表題部分だけを切り取って貼り付けたものも見られ、当時の絵図の伝来状況についても改変された形跡がある（第一分冊解題22ページ参照）。

本絵図群は、大きく8つに編成した。①国絵図、②預所絵図、③領内絵図、④指図、⑤村絵図、⑥堰絵図、⑦合戦図、⑧領外絵図に分けられる。紙幅の関係上、絵図1点ずつを細かに取り上げることが難しいため、ここでは本絵図群の内訳や簡単な概要に触れて、その特徴を見ていきたい（5～9ページの簡易目録も参照）。なお、本報告書で示した絵図の分類は、昭和44年（1969）刊行の『マイクロフィルム版 上杉文書目録』（市立米沢図書館）による分類を踏まえながら、新たに再編成したものである。

①国絵図：34点

米沢藩絵図方岩瀬家の手がけた国絵図関係史料が中核となっている。元禄国絵図は、他国との境界の画定が作成の趣旨の一つにあったため、国絵図に付随して境界地域をクローズアップした際絵図（縁絵図・端絵図とも言う）や境界に沿って切られた会形のほか、境界画定を裏付ける史料として裁許裏書絵図も確認できる。際絵図は、当時収納されていた袋に入った状態で伝来しており、当時の絵図管理のあり方を知る上でも興味深い。

このほか、国絵図と同様の描写方法で作成された米沢藩30万石時代の領地を描いた絵図や、国絵図の縮小版も本項に収めた。特に江戸時代後期になって、国絵図の表現技法が領土の地図を描く手法として敷衍された様相を知ることができ、ここに国絵図の広がりやうかがうことができよう。

②預所絵図：12点

米沢藩は、長期間にわたり幕府領である屋代郷を預所として管理した⁽⁵⁾。当郷は、もとは米沢藩領であったが、寛文4年（1664）に3代藩主綱勝が急死したことによって15万石に減封された際に幕府領となり、預所として米沢藩に委ねられた。その後、元禄2年（1689）から寛保2年（1742）は幕府直轄で、その後は再び預所となった。また明和4年（1767）には、当郷内の一部（6ヶ村）が高畠藩織田家（天保元年〔1830〕まで存続）の領地に割り当てられるなど、当郷の変遷は複雑である。

本絵図群には、幕府領と米沢藩領の境界画定を示す絵図が多く、土地区分の色分や村境の墨引、該当する村の肝煎の署判が絵図中に見られる。また、幕府領と藩領の間で生じた複雑な境界を、替地を通して河川（羽黒川）に沿った境界に整備するなど、当時頻発した境界争論の防止に努める施策の実態も確認できる。

このほか文書史料には、元禄2年の預所廃止に伴う替地に係る文書も一括されて残されており、絵図と突き合わせて検証することによって米沢藩領と幕府領の土地関係がより明確になろう。預所に関する文書史料の内容については、第一分冊解題31ページを参照されたい。

③領内絵図：63点

本項が、本絵図群の中で最も多くを占める。これらは、天明2年（1782）にまとまって村境絵図34鋪が作成された

ことや、米沢藩で城下絵図を度々手がけてきたことなどで集積されたものである。

後者については居住者を示した詳細な城下絵図（屋敷割）のほか、藩主交代に伴う作成や、幕府巡見使への提出用、米沢城普請に伴う幕府請願用など、その作成経緯は様々である。詳細な城下絵図を作成年別に比べてみると、町割りや居住者の変化など、米沢城下の街並みの変遷を徹視的に知る上で重要な手がかりを与えてくれるものになろう⁽⁶⁾。

④指図：51点

作成年代が不明なものが何点かあるが、上杉家当主に関連する屋敷図だけでなく、米沢藩の支藩である米沢新田藩主家に関連するものも含まれている。特に、まとまって残存する米沢城本丸御殿と江戸屋敷（上屋敷・中屋敷・下屋敷）の指図は、それぞれの絵図内の記載を細かに検証したことで、ある程度の年次比定が可能となった⁽⁷⁾。時期によって変化する御殿（特に奥向き）の構造が、当時の米沢藩の政策や藩主の正室の出自などに規定される点は、本項の絵図類を一覧するとよく理解できる。

⑤村絵図：17点

本項は、米沢藩領内の村境絵図のほか、米沢藩の賦課による御普請や郊外の村絵図からなる。村境絵図には、江戸時代前期に頻発する他藩領の村落との境界争論の様相⁽⁸⁾や、河川の堀替に伴う村境の取り決めを示した絵図を収録した。また、米沢郊外の村絵図には、享和2年（1802）3月に5枚組で仕立てられた外中津川流域に面する飯豊・小国地域の絵図が一括して伝来するが、この絵図の作成背景については不詳である⁽⁹⁾。

⑥堰絵図：13点

本項は、9代藩主鷹山の藩政改革において、米の増収を図る水利整備事業のもとで作成された絵図が主となる。普請奉行を務めた黒井忠寄が主導した黒井堰と飯豊山穴堰の絵図が複数伝来する。この政策によって開削された堰そのものの絵図のほか、堰の開削によって村々を流れる流路の変更や新堰の堀替えなどを示した絵図もあり、堰の開削に関わる流域全域の状況を見て取ることができる。

⑦合戦図：20点

合戦の陣形図が多くを占める。上杉謙信と武田信玄の対戦で著名な川中島合戦や、慶長19年（1614）冬と同20年夏に起きた大坂の陣の陣形図・合戦図が複数枚残されている。このほか、千坂・長尾・本庄といった上杉家に仕える上級家臣を中心とした部隊の陣形図もまとまって確認でき、文書編に多く収録されている米沢藩の軍制を可視化した史料として注目されよう（第二分冊9ページ参照）。

特に合戦に係る陣形図は、江戸時代に盛行する甲州流や越後流といった軍学とも関連する部分があると思料され、近世軍学との接続により更なる理解が可能であろう。大名家の軍学の受容を知る事例としても注目される絵図類である。

⑧領外絵図：31点

仙台藩や松代藩などの他藩領の絵図を取めた。他国・他藩領の絵図を一括して保有することは他大名家の所蔵史料においても紹介されているが⁽¹⁰⁾、本絵図群はそれらに比べて数量が多くない。あくまでも、本絵図群は①～⑦の米沢藩で作成された絵図が主たる構成であることを示していよう。ただし、岩瀬家の「御絵図目録」（慶応元年〔1865〕作成、岩瀬家文書628）によると、「日本絵図 壹筆筭」の括りで288点の他国・他領を描いた絵図が確認できる。これらの絵図の所在は現在不明ではあるものの、当時の米沢藩においても他藩と同様に日本各地の絵図を所有していたことは確かと言え、「日本絵図」が大名家の絵図を構成する一つであったことがうかがえる。

以上のように、米沢藩による絵図作成の背景には、藩政の動向が大きく関わっており、藩の施策を可視化したものとして本絵図群を理解することで、更なる理解の広がりを見ることが可能となる。

なお、本調査事業で調査したこれらの絵図は、可能な限り高精細（最小文字が判読できることを基準とし、80Mb程度）で撮影し、今後の幅広い利用に供することに努めた。本絵図群のデジタル画像化が完遂できたことにより、絵図同士の比較検討が容易になり、編年的に把握できるようになった。このように、研究利用や展覧会等での公開活用を資する環境を整えられた点も、本調査事業での大きな成果と言えよう。米沢市上杉博物館のホームページ内に「上杉文書データベース」を設け、本絵図群の全点公開を予定しているため、多くの方に利活用されることを願いたい。

2 米沢藩による絵図の作成と伝来

(1) 絵図作成の伝来と記録

本節では、本絵図群の伝来について、絵図方岩瀬家の遺した記録を手がかりにまとめてみたい。本絵図群の伝来を知る上で参考になり得る史料として、(1)「御絵図目録」（天明3年〔1783〕作成、岩瀬家文書620）、(2)「御絵図目録」（文政2年〔1819〕作成、岩瀬家文書622）、(3)「御絵図由来書」（嘉永5年〔1852〕作成、岩瀬家文書627）、(4)「御絵図目録」（慶応元年〔1865〕作成、岩瀬家文書628）の4点が挙げられる。これらに記載されている絵図史料名を数えると、(1)36点（ただし後欠）、(2)81点、(3)200点、(4)447点となる。これらから、絵図方岩瀬家が米沢藩の絵図の所在について、どのように把握していたのかがよく分かり、絵図の伝来をひも解くカギとなろう。

また、(1)～(4)を時系列で追っていくと、米沢藩で保有した絵図の集積状況も一瞥できる。これを踏まえると、江戸時代後期の中でも特に(3)から(4)の時期にかけて、絵図方岩瀬政辰による絵図作成・集積が盛行していたことが分かり、絵図目録の項目数も急激に増加の一途をたどっている。例えば、当該期では日本各地の景観を描いた絵図類の集積が顕著で、注(10)で触れた熊本藩細川家と類似した集積傾向が確認できる。ただし、上述の通り、これらは現在の本絵図群には残っておらず、その実態を確認することはできない。

とはいえ、本絵図群の主たる構成要素と言える①国絵図、②預所絵図、③領内絵図、④指図、⑤村絵図、⑥堰絵図は、

(3)の段階で岩瀬家の記録によって網羅的に確認できるため、本絵図群の中核は19世紀前半に確立していたと思料される。本絵図群の特徴として、その多くが江戸時代前期から文政年間の中に収まる背景には、こうした伝来状況が関係していよう。絵図方岩瀬家が、19世紀になって再三にわたり絵図を目録化して管理したのも、米沢藩の絵図の集積状況が一つの要因ではないかと思われる。

さて、ここで、本絵図群と岩瀬家文書がどのように関連付けられて読み解けるのか、その一例を見ておこう。本絵図群には、米沢藩領の境界地域を詳細に描いた「御国境諸口絵図」という絵図が34鋪のまとまりで残されている(No.1806、本書75～91ページ参照)。この絵図と関連する御記録方片山紀兵衛の達書(岩瀬家文書616)によると、「此絵図仕立藤紙地ニ候間、後年虫喰或ハ破損之様子ニ候ハ、其節申立、別紙ニ調直し可申」とあり、絵図が「虫喰或ハ破損之様子」になった場合に申請した上で別途書き直すべき旨が但し書きで申し送られている。また、「御国境諸口絵図」は、当時絵図方に任じられた小嶋弥左衛門・香坂次郎左衛門・岩瀬左吉の三人によって作成され、それらの清書が岩瀬に箱入りで渡り、「年々虫干等念入取量」ことが通達された。岩瀬が当時の絵図方の筆頭として、この絵図の管理を任されたと思われる。

片山が所属する御記録方は、主に米沢藩の重要文書の整理・管理や、上杉家歴代当主の事績をまとめた御年譜の編纂に従事した役職だが⁽¹¹⁾、その配下に絵図方が置かれる構造となっており、絵図の作成・管理において御記録方の一定程度の関与がうかがえる。ただ、絵図方の組織や実態については、未解明な点も多く、今後の研究の進展が俟たれる。

(2) 絵図方岩瀬家の絵図管理

絵図方岩瀬家の職務の一つとして、米沢藩で作成した絵図の管理・保管がある。岩瀬家文書には、^{すみ}角の御蔵に保管している絵図類を土用の丑の日に虫干しした記録が残っている(「御絵図土用干日割帳」(岩瀬家文書627))。この史料の記載によると、岩瀬政十が6日間に分けて絵図のほか目録、証書類を含む75点を虫干ししたことが確認できる。これは、岩瀬家が絵図方として絵図の管理にあっていた様相を伝えるとともに、絵図と関係文書が当時一括して管理されていたことを示している。本文中には、本絵図群に含まれる絵図の史料名が確認でき、当時の絵図管理のあり方を端的にうかがうことができる。

このほか、絵図役務日記(岩瀬家文書629)には、元文4年(1739)11月～宝暦12年(1762)6月までの期間に、池田左市⁽¹²⁾が絵図の保存に必要な資材(樟脳など)を取り寄せていたことが度々記述されており、米沢藩で作成された絵図の管理のあり様が具体的に示されている。また、「御絵図仕立并申立万留帳」(岩瀬家文書624)には、絵図方の職務について、藩役人と岩瀬政十とのやり取りが覚書の形で記録されており、絵図方としての立ち回りが詳細にうかがえる。こうした岩瀬家の記録類や、御記録方の史料をさらに詳細に検討していくことで、米沢藩の絵図の管理の実態がより明解になってくると思われ、この点も今後の研究の進展が俟たれる。

また、別の視点で絵図本体に注目すると、絵図の裏面にカナ文字を付したものが一部確認できる(No.1780、1784、1877、1880、1942、1943など)。これは、岩瀬が絵図の保管管理のために付けた言わば管理記号であり、岩瀬が作成した目録のカナ文字と照合することができる⁽¹³⁾。絵図の管理記号は絵図本体だけでなく、それを納めていた保管箱にも書かれていたようで、どの保管箱にどの絵図がまとまりとして保管されていたのか、絵図の管理実態をひも解くことができる点で貴重な情報である。ただし、当時使用された保管箱は現在残っていないため、絵図が保管された具体的な姿を見ることは叶わないが、こうした岩瀬による記録管理のあり方はその一端を垣間見せてくれよう。

おわりに

以上、2章にわたって、本絵図群を概観するとともに、岩瀬家文書を素材としながら米沢藩の絵図作成とその伝来について述べてきた。

前述のように、本絵図群は米沢藩絵図方によって作成された絵図史料が大部分を占め、特に米沢藩政との関連が認められる絵図史料群である。その種類も多様であり、幕政や藩政のみならず、軍学なども接点を持ち得る絵図史料が一括して保管されている点は、絵図単体の基礎研究に留まらない学際的発展が大いに見込めることを示唆していよう。

また、主に第2章で取り上げた岩瀬家文書を紐解くと、岩瀬家が江戸幕府あるいは米沢藩の指令を受けて、絵図方としてどのような活動をしてきたのかがより明確に分かってくる。上杉文書中の文書群と本絵図群、岩瀬家文書を相互に関連付けながら見ていくことで、絵図作成の背景を詳細にたどることが可能となる。したがって、岩瀬家文書は、米沢藩の絵図作成の歴史を知る上で欠くことのできない史料群であり、その史料的价值は高く評価されよう。

本稿では、絵図方岩瀬家による絵図の作成、そしてその管理・保管に絞って記述したため、米沢藩の絵図作成に関連する大枠の提示に留まってしまった。本調査事業の成果を踏まえ、今後の展望を見据えるならば、岩瀬家文書のさらなる分析を通して、米沢藩の絵図作成についてより詳細な実態解明が必要となつてこよう。また、岩瀬家文書の中には、絵図史料も多く残されているため、本絵図群といかなる関係にあるものなのか、絵図方の活動実態をさらに明解にしていくための課題も浮かび上がってくる⁽¹⁴⁾。これらの課題は、全て今後の研究に委ねたい。

本絵図群が、今後の絵図研究の発展に十分に寄与し得るものとして、さらに注目・活用されることを期待したい。

注

- (1) 本絵図群以外に、文書編にも絵図が数点伝来している。それらは、文書編を参照されたい。
- (2) 市立米沢図書館編『郷土関係寄贈寄託文書目録』(市立米沢図書館、1983年)。以下で記す岩瀬家文書の番号は、本書記載の番号による。なお、岩瀬家文書の一部は、市立米沢図書館デジタルライブラリーにおいてネット上で

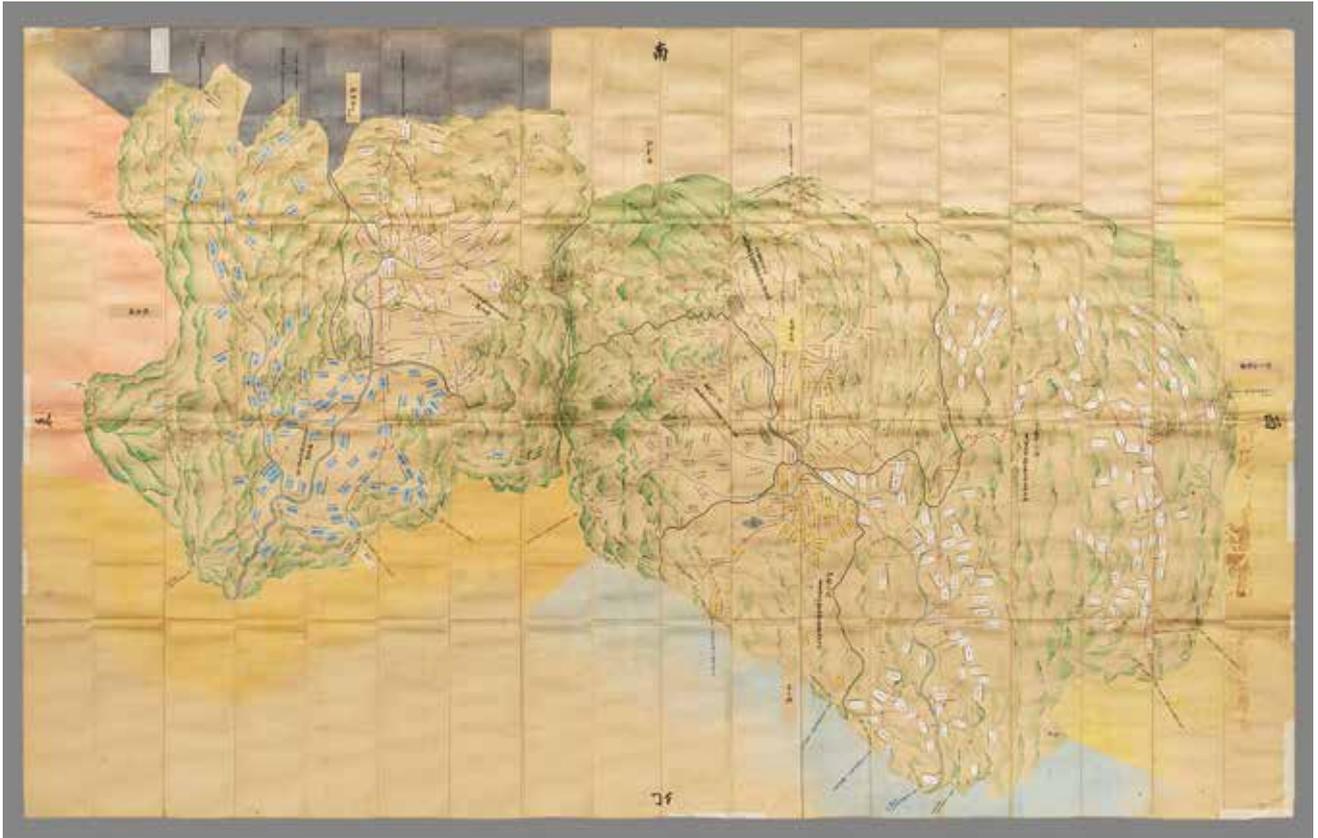
画像公開されている。また、岩瀬家については、川村博忠『近世絵図と測量術』（古今書院、1992年）251～284ページで詳しく取り上げられているので参照されたい。

- (3) この点については、『米沢市史 近世編二』（1993年）303～322ページでも紹介されている（浅倉有子氏執筆）。なお、米沢藩の国絵図作成については、「特別展 上杉家伝来絵図」（2014年4月19日～6月8日）と「特別展 上杉氏と国絵図の世界」（2023年9月2日～11月5日）で取り上げた。同名で刊行した図録もあわせて参照されたい。
- (4) 岩瀬家文書620、622、627、628など。
- (5) 近年、米沢藩の預所は、宮田直樹氏による一連の研究成果があるが、本稿では同「出羽国村山郡における米沢藩預所とその支配」（荒武賢一郎・渡辺尚志編『近世・近代の村山地域 出羽国から山形県へ』清文堂出版、2022年）48～54ページの記述に依拠する。
- (6) 渡辺理絵『近世武家地の住民と屋敷管理』（大阪大学出版会、2008年）も参照。
- (7) ④指図関係の絵図については、当館開催の特別展「上杉家の御殿～城・藩邸・伯爵邸～」(2025年4月19日～6月22日)で詳細に検討を加え、米沢城内の御殿や江戸屋敷（上屋敷・中屋敷・下屋敷）の指図の作成年代を編年的に整理し、各時期の御殿の特徴を紹介した。同名で刊行した図録もあわせて参照されたい。
なお、最近になって、港区教育委員会・森ビル株式会社・大成エンジニアリング株式会社の三者により、上杉家の中屋敷（麻布屋敷）が所在した我善坊谷遺跡の発掘調査が行われ、その成果が上梓された。上杉家の江戸滞在期の生活を直接物語る貴重な成果であるとともに、まとまった文献調査の成果が提示され、今後の研究利用に資するものであるため、ここに付記する。森ビル株式会社・大成エンジニアリング株式会社編『港区近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告99 我善坊谷遺跡発掘調査報告書』（2023年）の第1分冊「概要・大名屋敷跡・旗本屋敷跡編」及び第5分冊「自然科学分析・文献調査・考察・総括編」を参照。
- (8) 村境絵図については、池野理・渡辺理絵「陸奥国と出羽国の国境争論一元禄年間の板谷・李平間の争論を中心に」（『地理』847、2025年）で、茂庭絵図（No.1910、本書124ページ収載）などを検討材料に組み込みながら、米沢・福島間の境界争論について論じているので参照されたい。
- (9) 小国地域の絵図については、岩瀬家文書525～533に中津川流域を描いた絵図の下書きが残されており、本絵図群との関連性が考えられるが、岩瀬家文書の調査活動は本調査事業の対象外であるため、今後の課題として検討を進めていきたい。
- (10) 例えば、熊本藩細川家では、日本各地の絵図がまとめて保管しており、「江戸時代中頃には、江戸より西国の地図が多く見られ、東の上総・武蔵・常陸・出羽地方の絵図は見られない」という指摘のほか、宝暦10年（1760）の徳川家治の巡見に備えて、同8年に写しを作成したことが指摘されている。北野隆「永青文庫所蔵の「絵図・地図・指図」－江戸幕府の成立と領国支配」（熊本大学文学部附属永青文庫研究センター編『永青文庫叢書 細川家文書 絵図・地図・指図Ⅱ』吉川弘文館、2013年、196～197ページ）を参照。ただし、米沢藩の場合、日本各地の絵図は慶応元年（1865）に作成された「御絵図目録」（岩瀬家文書628）でその大半が確認できる。
- (11) 米沢藩の御記録方（御記録所）の職務については、浅倉有子「記録方から見た米沢藩中期藩政改革」（幕藩研究会編『論集 近世国家と幕府・藩』岩田書院、2019年）を参照。
- (12) 岩瀬政奥は小納戸頭に勤仕していた享保14年（1729）閏9月27日に、「引負」（年貢未進のことカ）を起こしたため改易の処分を受け、絵図方の任から離れていた時期がある。絵図役務日記を作成した池田左市は政奥から数えて2代後の人物で、この当時は母方の池田姓を名乗っており、宝暦12年になって岩瀬の姓を許されている。『上杉家御年譜23 上杉氏系図 外姻譜略 御家中諸士略系譜（1）』（米沢温故会、1986年）207ページ。
- (13) 例えば、「御絵図由来書」（岩瀬家文書627）の最初に記載されている「御上納御絵図之写御控」は「イ」箱のうちの「イ」に該当することが示されている。これは、御国絵図控（上杉文書1772）の裏面の貼紙でも「イ」とカナ書きされており（本書18ページ参照）、双方の史料を突き合わせることができる。ただし、なかには絵図の整理・管理に伴い、他の保管箱への移管作業が何回も行われていたようで、絵図に記されたカナ書きが岩瀬の目録と必ずしも照合されない点は留意しなければならない。この点は、第2章でも触れた通り、江戸時代後期になって米沢藩で岩瀬家を中心にして絵図が多く作成されたことと関連しており、絵図の集積に伴う対応と考えられる。なお、「御絵図由来書」は、「市立米沢図書館デジタルライブラリー」（<https://www.library.yonezawa.yamagata.jp/dg/FD627.html> [2025年8月4日最終閲覧])にて全ページが公開されているため、米沢藩の絵図管理の一端に触れていただければ幸いである。
- (14) 前掲注（2）『郷土関係寄贈寄託文書目録』を見る限り、岩瀬家文書の中には233点の絵図が確認できる。このほか、米沢の郷土史家である伊佐早謙が収集した「林泉文庫」（市立米沢図書館所蔵）にも絵図が保管されており、これらの絵図史料を総合して見ていくことで、米沢藩（あるいは近代の米沢）の絵図作成及び保管管理の具体相に近づくことができるわけだが、これらは本調査事業の対象外であるため今後の課題となる。なお、「林泉文庫」に関する最近の研究として、石黒志保「伊佐早謙が収集した『林泉文庫』について」（『山形大学歴史・地理・人類学論集』23、2022年）があるので参照されたい。

（池野 理）

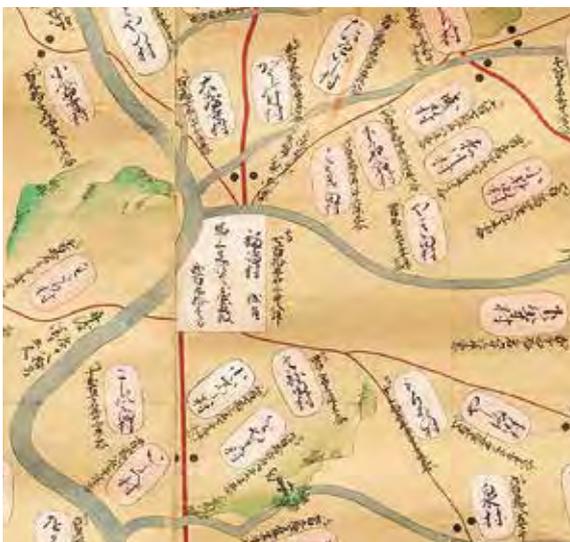
上杉文書絵図目録

国絵図一 国絵図



1986 「米沢伊達信夫郡大絵図」

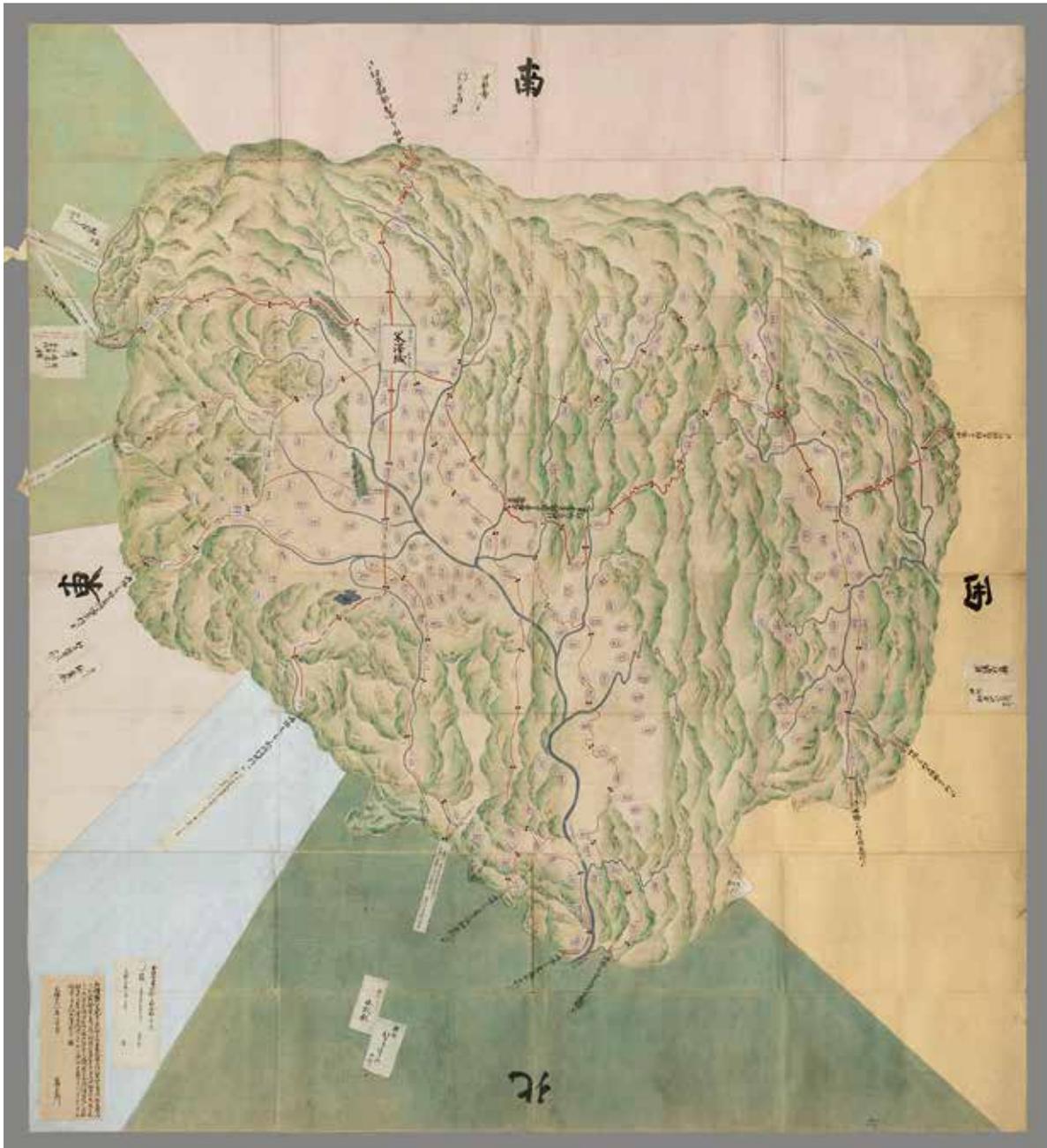
米沢藩領30万石時代／1 鋪／39枚 (34.1×90.7) ／折畳装 (原装) ・69.0×26.4、原装裏打／271.6×423.6／貞享元年 (1684) ／外題「米沢伊達信夫郡大絵図」／間似合紙／彩色あり、他領を示す貼紙7ヵ所、方位書：東西南北／無



福島城下周辺

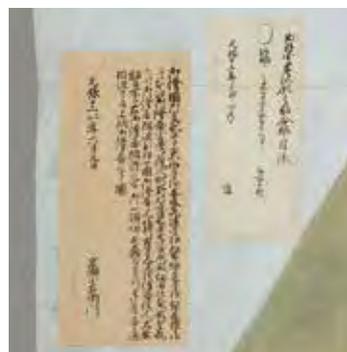


米沢城下周辺



1773 御国絵図下図

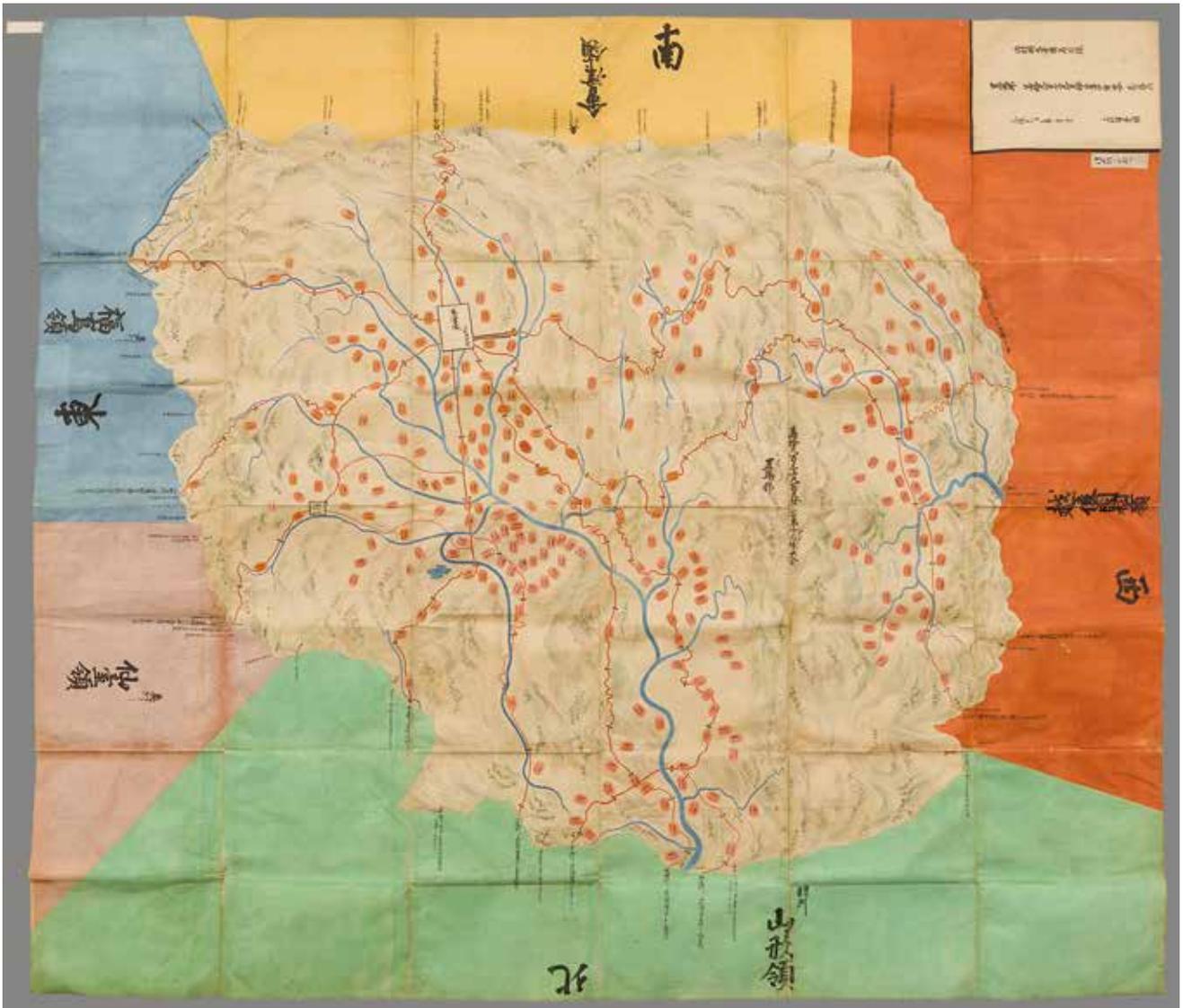
元禄期の国絵図作成において幕府役人に指示を受けた際の下絵図／1 鋪／80枚 (29.8×42.0)／折畳装 (原装)・67.4×37.3、原装裏打／295.2×268.6／元禄12年 (1699) 6月9日／作成経緯に関する貼紙／楮紙／岩瀬小右衛門／彩色あり、訂正指示の貼紙、方位書：東西南北、袋墨書「元禄十二己卯年 ワ 本郷御小屋御役人御指図 五月 上杉弾正大弼内岩瀬小右衛門 但本郷御小屋御絵図役町野新兵衛様・平野次郎左衛門様・細田伊左衛門様江受ル御指図、下御絵図巨細別帳ニ調記置、勿論御絵図之端書ニ断有之、此御絵図御附紙之□町野新兵衛様御差図有之」)／233



貼紙



裏面の貼紙

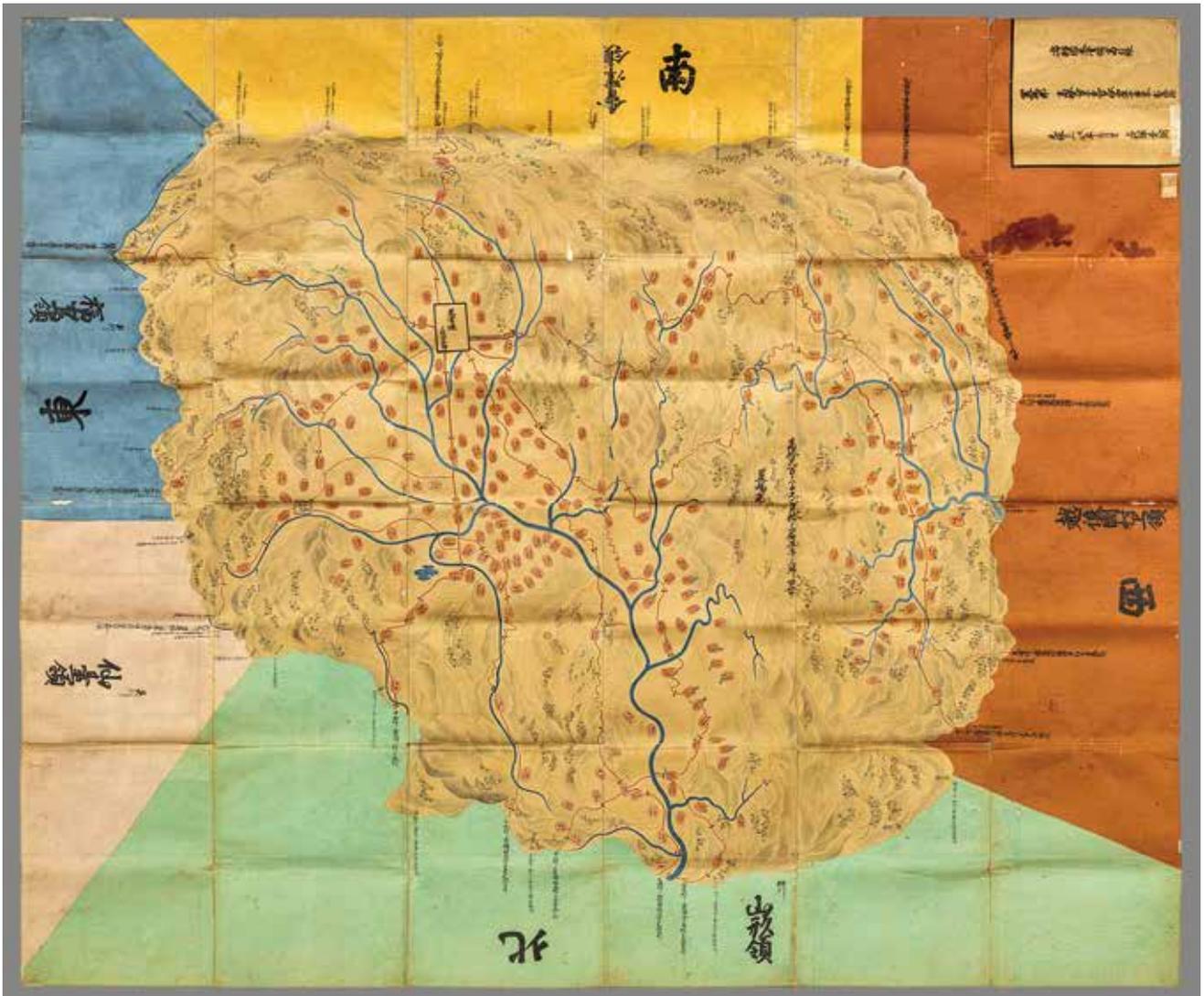


1772 御国絵図控

米沢藩が献上した元禄国絵図の控え / 1 鋪 / 48 枚 (35.2×49.5) / 折畳装 (原装) ・ 63.6×47.7、原装裏打 / 254.0 × 288.2 / 元禄13年 (1700) 3月4日 / 幕府評定所に提出した旨の貼紙 / 鳥の子紙 / 岩瀬小右衛門 / 彩色あり、へら跡あり、端の折返しあり、貼紙「御上納ハ式枚也」、方位書：東西南北 / 233

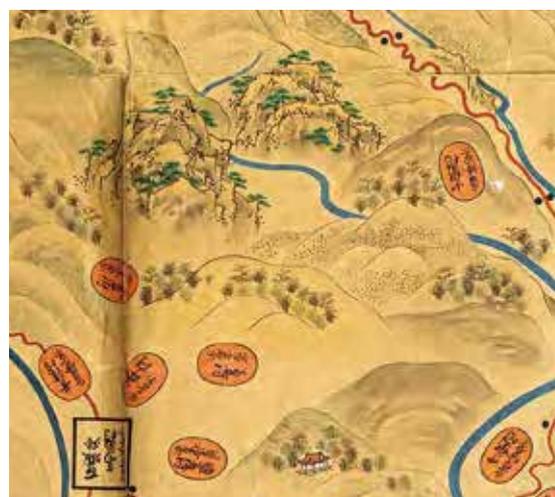


絵図裏面の貼紙



1985 御国絵図控

米沢藩が提出した元禄国絵図の控え／1 鋪／42枚 (36.6×51.7) ／折畳装 (原装) ・31.0×48.5、原装裏打／243.8×289.0／元禄13年 (1700) 3月4日／幕府評定所に提出した旨の貼紙／鳥の子紙／岩瀬小右衛門／彩色あり、へら跡あり、端の折返しあり、一部の村形に青色付箋の貼付あり、方位書：東西南北／無

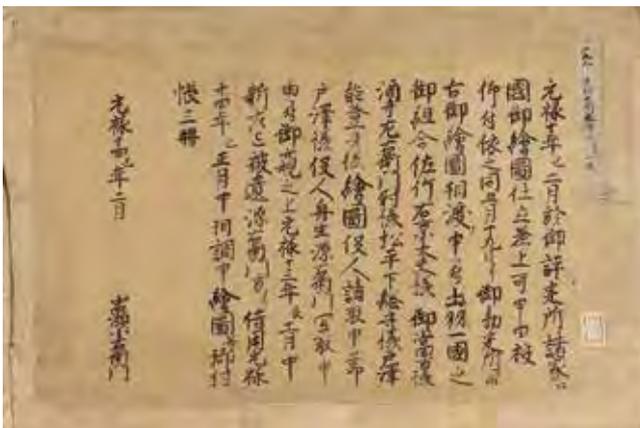


高島村周辺の植生表現 (左：No.1772、右：No.1985)



1936 羽後一円大絵図

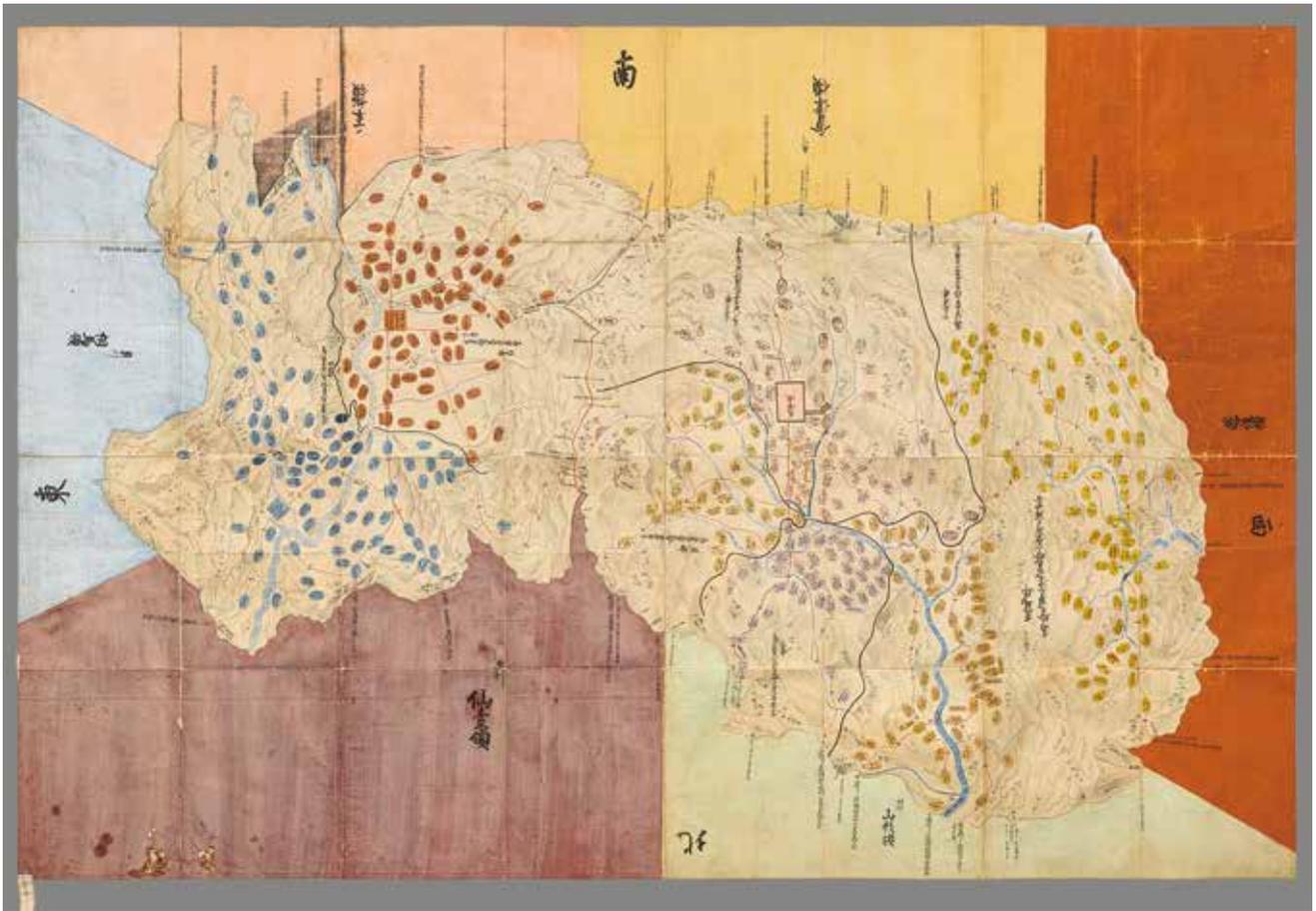
元禄国絵図作成時に幕府から借用した正保国絵図羽後部分の写し／1 鋪／330枚 (30.0×39.0) ／折畳装 (原装) ・
89.2×70.8、原装裏打／616.6×543.0／ (元禄14年 (1701) 2月) ／楮紙／彩色あり、端の折返しあり、領主名の貼
紙、方位書：東西北／236



絵図裏面の貼紙

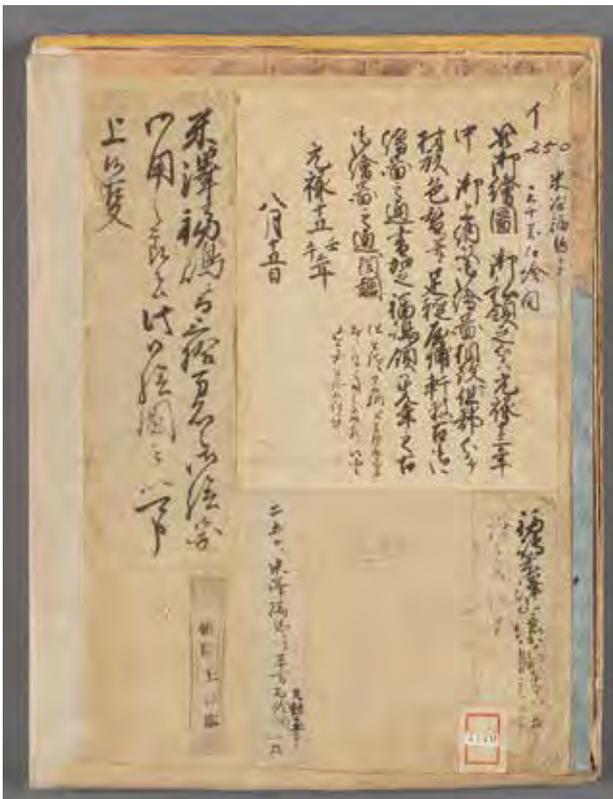
1778 「出羽一國御絵図」

元禄国絵図作成時に幕府から借用した正保国絵図羽前部分の写し／1 鋪／285枚 (29.7×40.0) ／折畳装 (原装) ・46.0×75.0、原装裏打／543.5×537.0／元禄14年 (1701) 2月／絵図方岩瀬小右衛門による元禄国絵図の作成経緯に関する貼紙 (鳥の子紙) ／楮紙／岩瀬小右衛門／彩色あり、端の折り返しあり、郡別の凡例色分けあり、各藩主名貼紙、方位書：南、大名別の石高の畠紙書／233



1770 「米沢福嶋ニ而三拾万石之御絵図」

元禄国絵図に足軽屋敷と福島領を加えて作成した30万石時代の米沢領絵図／1鋪／20枚（35.6×62.6）／折畳装（原装）・40.9×30.6、原装裏打／161.8×242.8／元禄15年（1702）8月15日／作成経緯の貼紙あり／間似合紙／岩瀬小右衛門／彩色あり、端の折返しあり、方位書：東西南北／233



裏面貼紙



1775 「米沢伊達信夫御図」

村別石高・国郡境を記載、山並みなどは鳥瞰図・俯瞰図の描写／1 鋪／32枚 (29.8×45.4) ／折畳装 (原装) ・39.0×28.4、後補裏打、折れ目に切れあり／154.0×230.5／寛政6年 (1794) ／貼紙「寛政六甲寅年 米沢伊達□□御絵図」／楮紙／彩色あり、端の折返しあり、方位書：東西南北／233



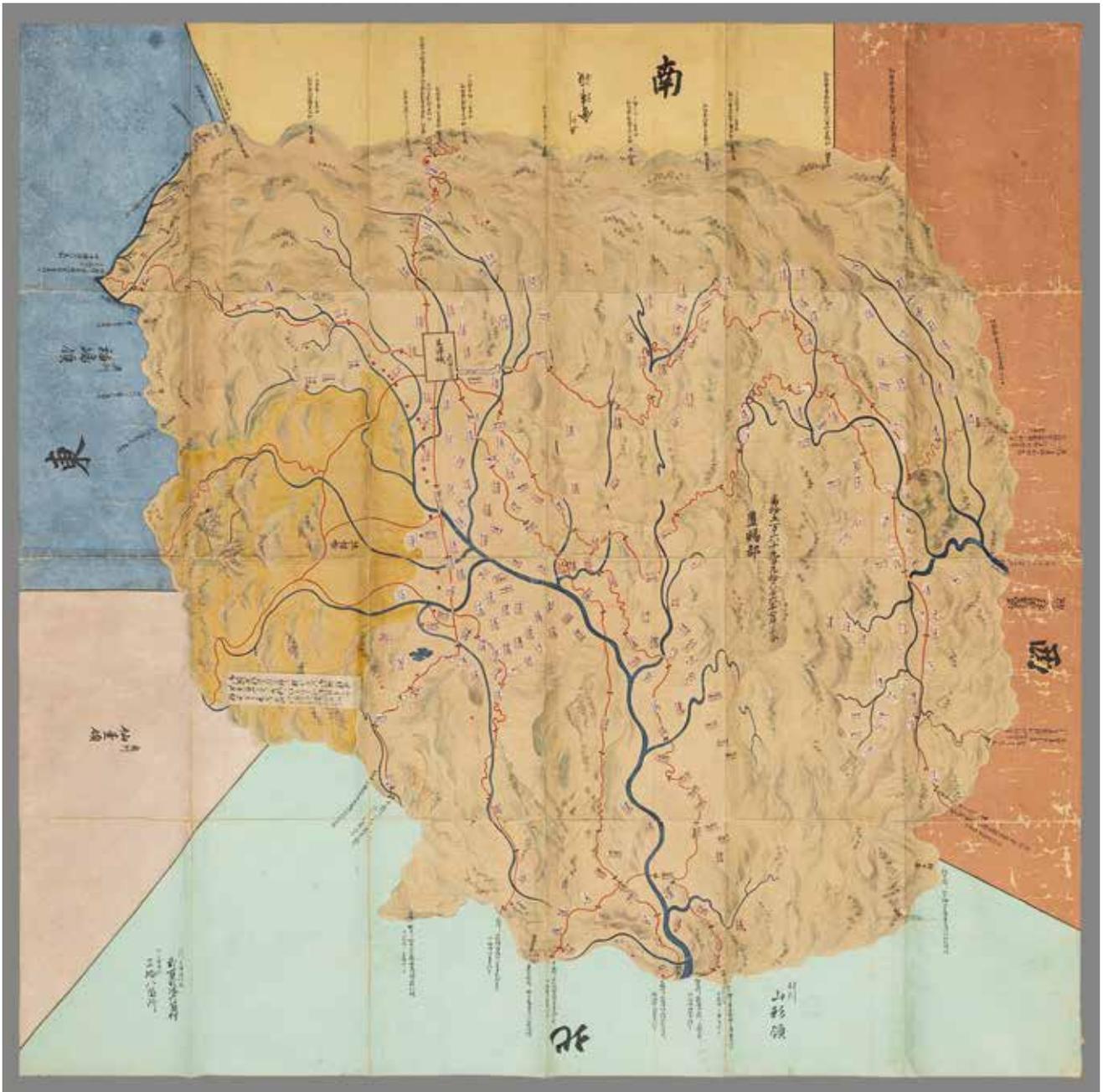
米沢城下周辺



福島城下周辺



梁川城下周辺



1780 御国絵図控

幕府御目付衆の指図で色分し、幕府領を除いた元禄国絵図の控図／1鋪／10枚(38.0×92.3)／現状は巻(元は折畳装)・46.3×31.0、後補裏打／185.8×185.2／享保10年(1725)9月／墨書「イ」／間似合紙／彩色あり、端の折返しあり、御目付衆の指示による御料所の取扱いに関する貼紙、方位書：東西南北、罫紙書「羽州米沢領村数貳百貳拾六箇村、同口留番所三拾八箇所」及び藩境小書あり、No.1808と関連／233

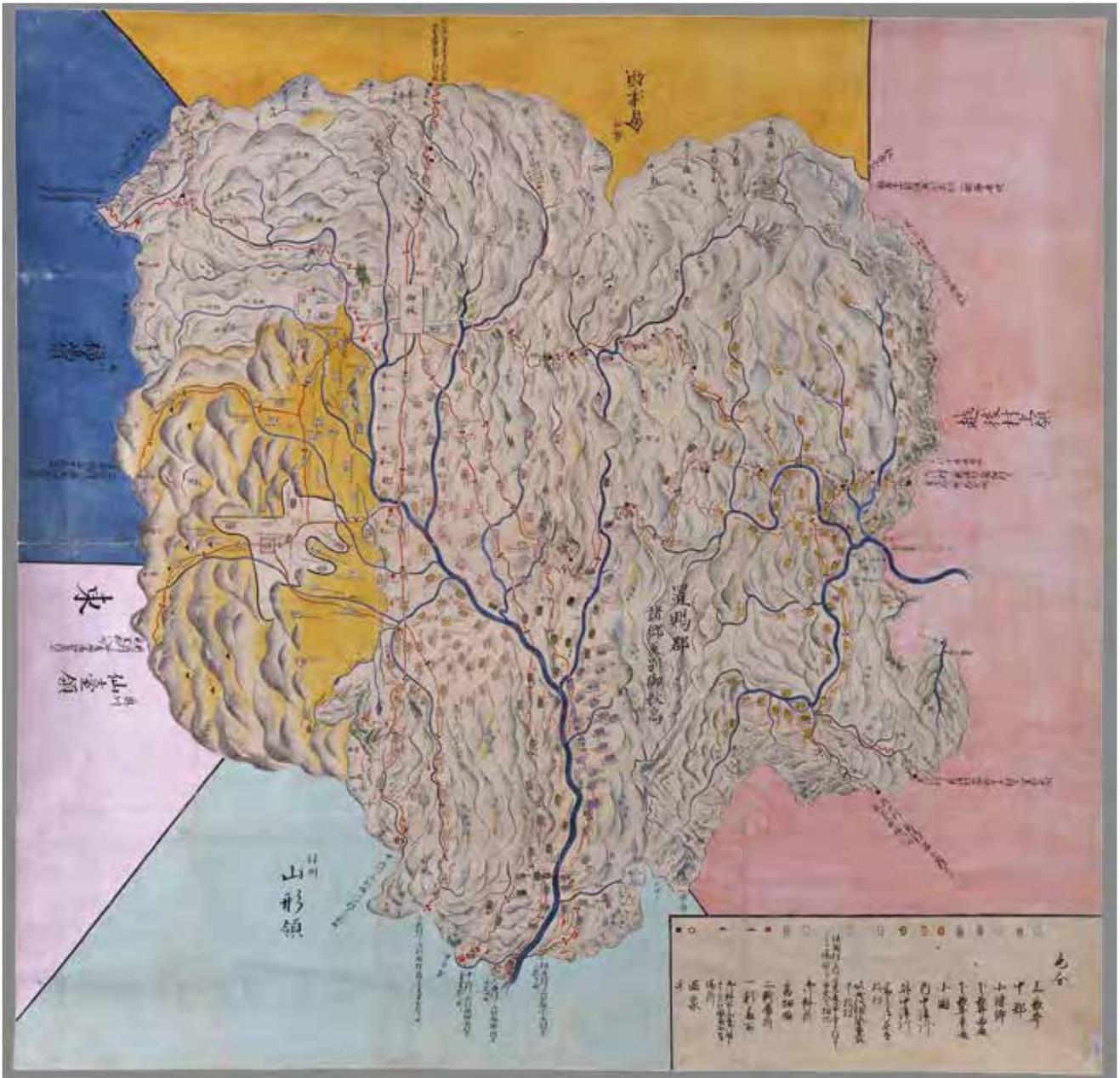


1777 置賜郡絵図

米沢藩15万石時代の藩領図（屋代郷を含む）／1 鋪／4枚（29.9×13.5）／現状は巻（元は折畳装）・6.9×13.5、後補裏打／40.6×54.5／江戸後期（年月日未詳）／楮紙／彩色あり、藩境小書の晶紙書／233

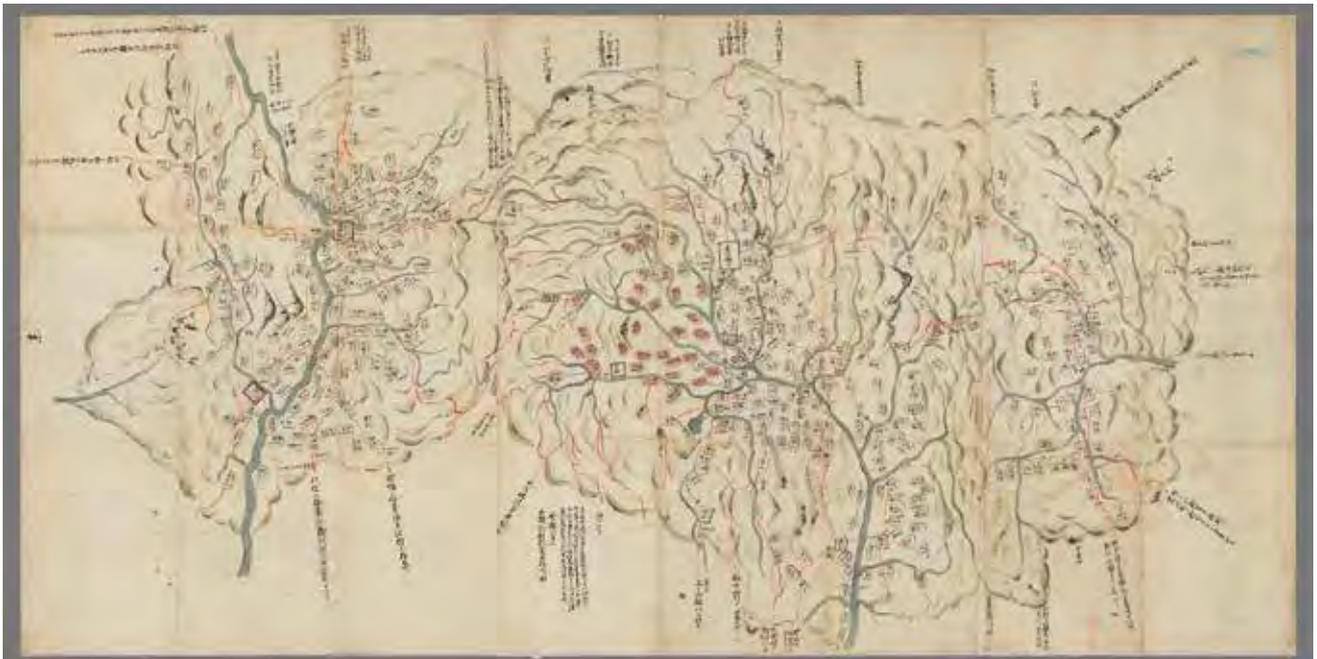


米沢城下周辺



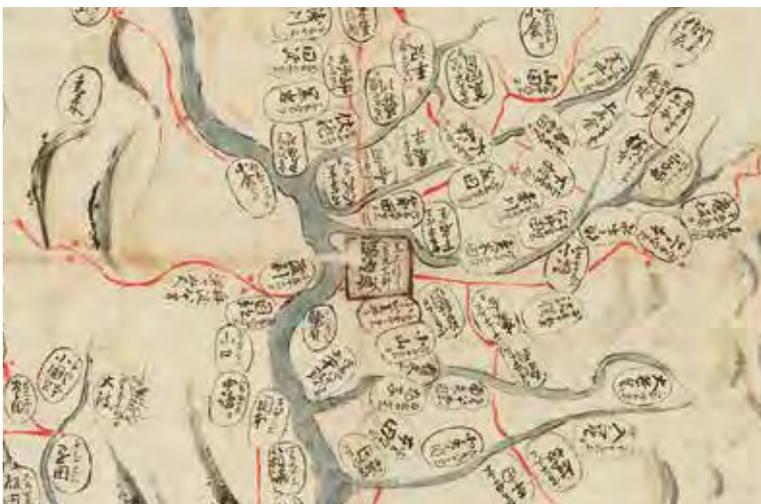
1776 「御国絵図」

文化10年8月の上杉齊定初入部時の絵図上覧のため作成されたと考えられる米沢領15万石と屋代郷分の絵図／1 鋪／20枚 (27.1×39.5)／現状は巻 (元は折畳装)・39.7×28.6、後補裏打／116.7×118.9／文化10年 (1813) 12月／貼紙「文化十年十二月 御国絵図」／楮紙／彩色あり、凡例色分けあり、方位書：東、袋墨書「文化十一年十二月 御国絵図 岩瀬三左衛門」(33.0×22.5)、袋墨書の「一」はペンにて抹消／233

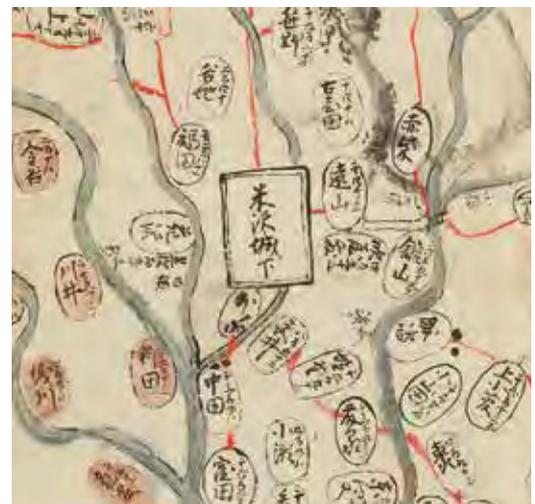


1771 「三拾万石之節御国絵図」写

福島側を含んだ米沢藩領絵図／1鋪／12枚 (29.5×36.7) ／現状は巻 (元は折畳装) ・24.0×17.9、後補裏打／72.6×144.3／文化14年 (1817) 8月／貼紙「三拾万石之節御国絵図 赤筋往来之通春調之 文化十四年八月 時年七拾五長井専政写之」、近代の反故1点を後補裏打に貼付、馬具代請求に関する本間正五郎書状1通を貼継／楮紙／長井専政写／彩色あり、修正貼紙あり、方位書：東／233



福島城下周辺



米沢城下周辺



1779 「出羽一国御絵図」

出羽国絵図、正保期カの縮図／1
鋪／15枚 (27.5×40.3) ／現状は
巻 (元は折疊装) ・19.2×不詳、後
補裏打／80.3×192.7／江戸後期
(年月日未詳) ／楮紙／彩色あり、
方位書：東西南、郡別石高の鬮紙書
あり／233

国絵図一際絵図



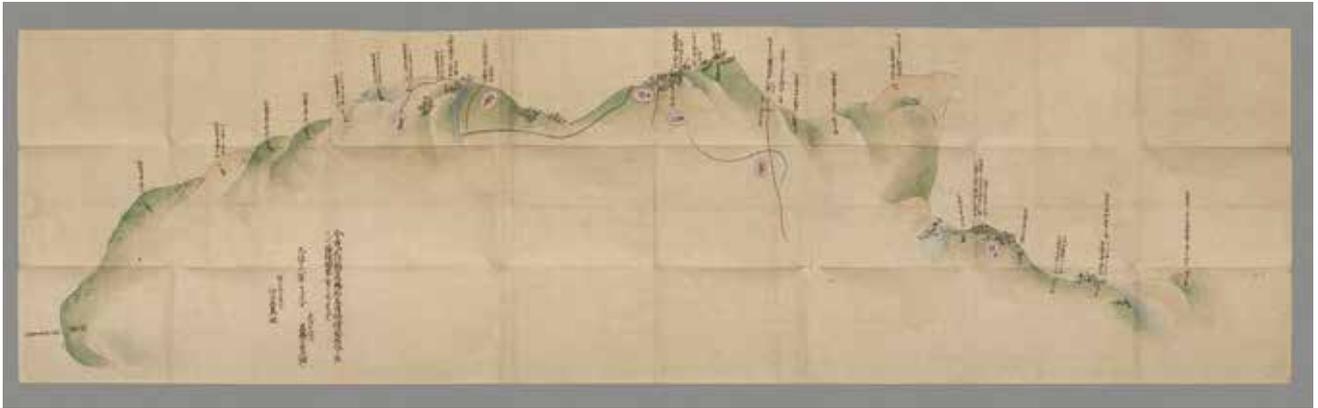
1783 山形領米沢境縁絵図

出羽国内郡境確認のため山形藩が米沢藩に提出／1 鋪／18枚 (28.5×41.3) ／折畳装 (原装) ・27.7×19.5、原装裏打／82.4×233.8／元禄12年 (1699) 10月28日／河上善右衛門の捺印／楮紙／松平下総守内河上善右衛門 (黒印) →上杉弾正大弼御内岩瀬小右衛門殿／彩色あり、縁絵図の取交しに関する畠紙書あり、袋墨書「山形領米沢領境縁絵図并合形図」(40.2×26.2) ／233



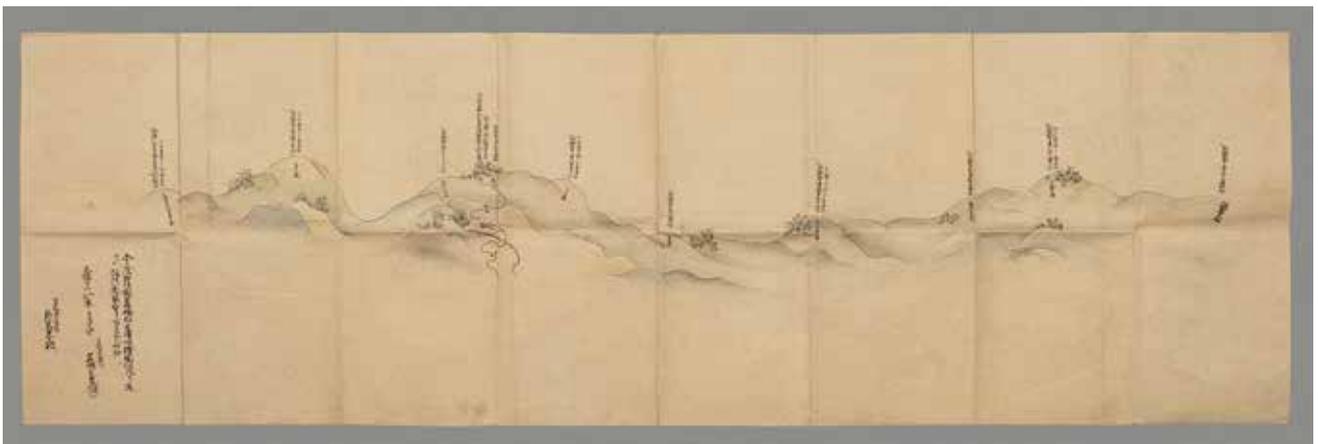
1787 米沢領仙台境際絵図控

出羽・陸奥国境確認のため仙台藩に提出／1 鋪／2枚 (36.3×49.5) ／折畳装 (原装) ・17.7×12.6、原装裏打／49.5×70.7／元禄12年 (1699) 10月28日／異筆墨書「仙台領江遣ス」(原文ママ)、岩瀬小右衛門の裏印2ヶ所／鳥の子紙／上杉弾正大弼御内岩瀬小右衛門 (黒印) →松平陸奥守様御内大河内源大夫殿他2名宛／彩色あり、畠紙書の一行目にへら跡あり、方位書：東西、際絵図取交し及び境界小書の畠紙書あり、袋墨書「五ヶ所江相渡会形御控五枚」(59.7×30.7)、No.1787~1790は袋一括／233



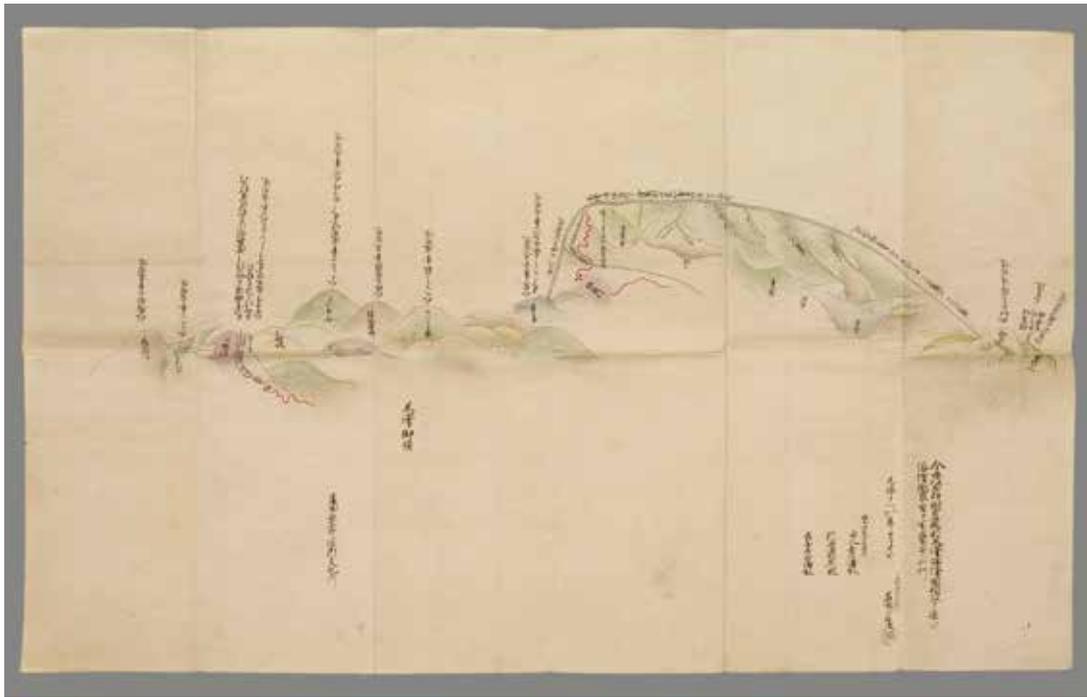
1788 米沢領山形境縁絵図控

出羽国内郡境確認のため山形藩に提出／1 鋪／10枚 (31.0×45.1) ／折畳装 (原装) ・27.6×21.0、原装裏打／61.0×217.0／元禄12年 (1699) 10月28日／異筆墨書「山形領江遺ス」(原文ママ)、岩瀬小右衛門の裏印4ヶ所／楮紙／上杉弾正大弼内岩瀬小右衛門 (黒印) →松平下総守様御内河上善右衛門殿宛／彩色あり、畠紙書の1行目・川山村名の小判型にへら跡あり、際絵図取り交わし及び境界小書の畠紙書あり、袋墨書「五ヶ所江相渡会形御控五枚」(59.7×30.7)、No.1787～1790は袋一括／233



1789 米沢領会津境縁絵図控

出羽・陸奥国境確認のため会津藩に提出／1 鋪／10枚 (30.6×43.7) ／折畳装 (原装) ・30.5×24.2、原装裏打／59.2×188.6／元禄12年 (1699) 10月28日／異筆墨書「会津領江遺ス」(原文ママ)、岩瀬小右衛門の裏印4カ所／楮紙／上杉弾正大弼内岩瀬小右衛門 (黒印) →松平肥後守様御内野口九郎大夫殿宛／彩色あり、畠紙書の一行目・山の嶺線にへら跡あり、際絵図取り交わし及び境界小書の畠紙書あり、袋墨書「五ヶ所江相渡際絵図御控」(59.7×30.7)、No.1787～1790は袋一括／233



1790 米沢領福島境縁絵図控

出羽・陸奥国境確認のため福島藩に提出／1 鋪／8枚 (31.0×43.3) / 折畳装 (原装)・34.5×19.4、原装裏打／67.5×110.2／元禄12年 (1699) 10月28日／異筆墨書「福島領江遺ス」(原文ママ)、岩瀬小右衛門の裏印2ヶ所／鳥の子紙／上杉弾正大弼内岩瀬小右衛門 (黒印) →堀田伊豆守御内由比安兵衛殿他2名／彩色あり、畠紙書の一行目・山境部分にへら跡あり、際絵図取り交わし及び境界小書の畠紙書あり、袋墨書「五ヶ所江相渡際絵図御控」(59.7×30.7)、No.1787~1790は袋一括／233



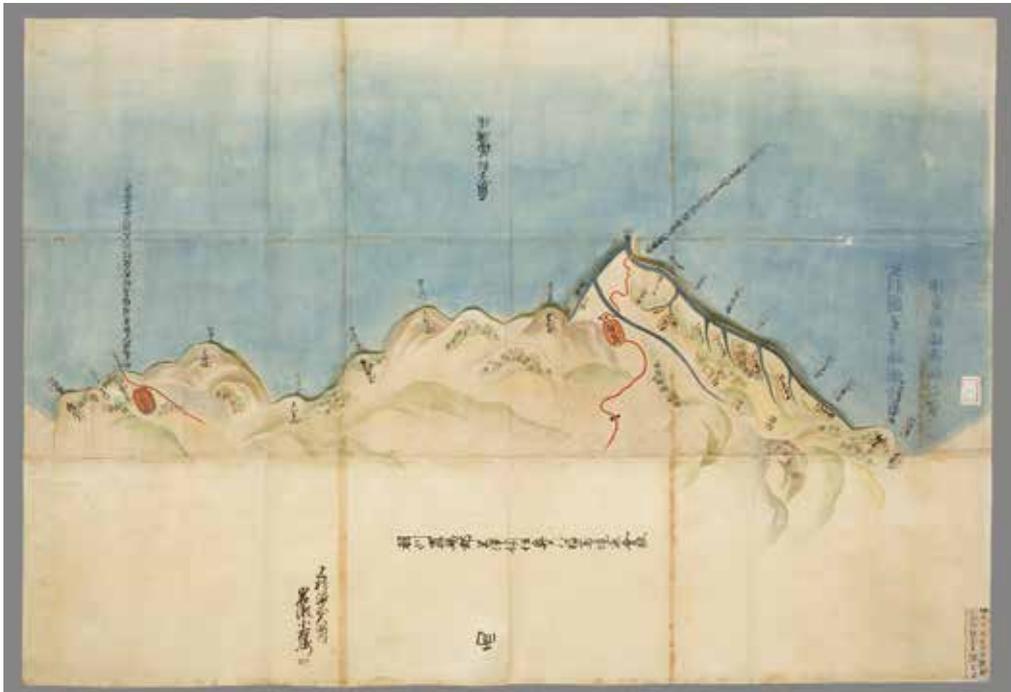
1791 福島領米沢境際絵図

出羽・陸奥国境確認のため米沢藩に提出／1 鋪／10枚 (26.5×44.5) / 折畳装 (原装)・31.6×18.5、原装裏打／72.4×125.2／元禄12年 (1699) 12月／料紙継目に杉崎治部左衛門と由比安兵衛の捺印6ヶ所／楮紙／堀田伊豆守内吉田平次兵衛 (黒印) 他2名→上杉弾正大弼様御内岩瀬小右衛門殿／彩色あり、子午線部分にへら跡あり、方位書：南北、際絵図取り交わし及び境界小書の畠紙書あり／233



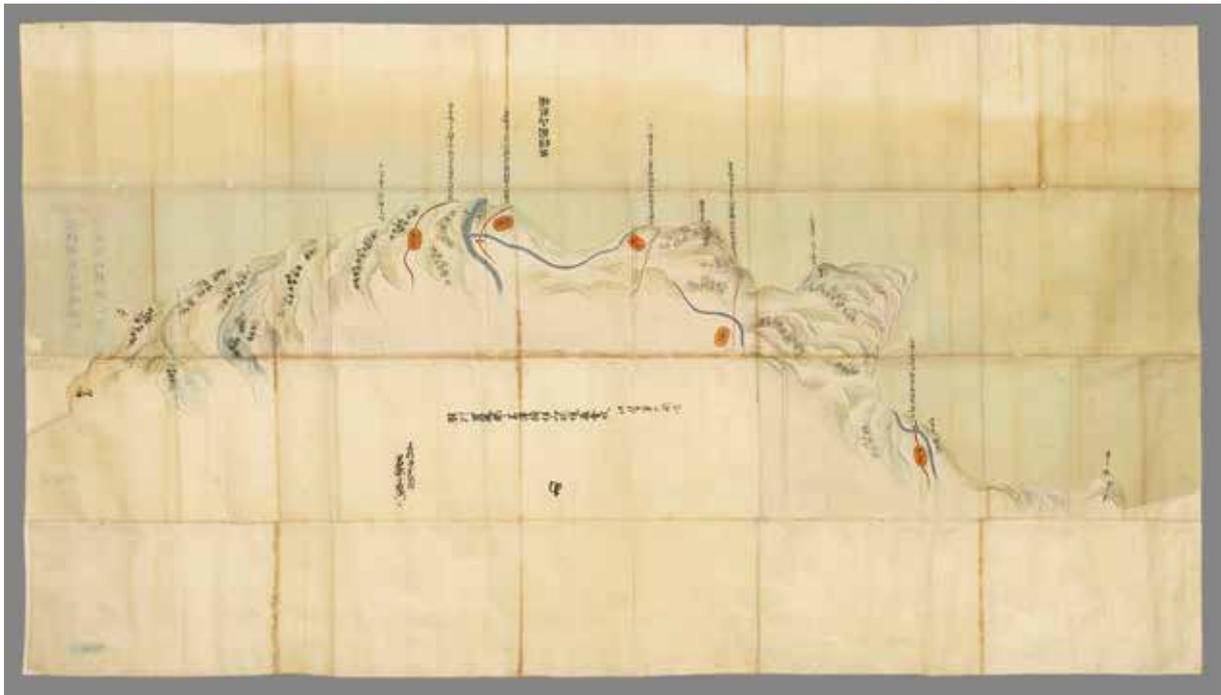
1800 「出羽国米沢領端絵図 陸奥国会津領之方」

会津領を示した台紙に会形を貼付け／1 鋪／20枚 (26.5×40.0) ／現状は巻 (元は折畳装) ・26.7×22.3、後補裏打／176.8×108.4／ (元禄12年・1699カ) ／外題「出羽国米沢領端絵図 陸奥国会津領之方」／楮紙／上杉弾正大弼岩瀬小右衛門印／彩色あり、方位書：北、畠紙書「羽州置賜郡米沢領 但奥州会津境通会形」／233



1801 「出羽国米沢領端絵図 陸奥国福島領之方」

福島領を示した台紙に会形を貼付け／1 鋪／9枚 (27.3×40.5) ／現状は巻 (元は折畳装) ・27.4×不祥、後補裏打／80.3×116.5／ (元禄12年・1699カ) ／外題「出羽国米沢領端絵図 陸奥国福島領之方」／楮紙／上杉弾正大弼内岩瀬小右衛門印／彩色あり、方位書：西／233



1802 「出羽国米沢領端絵図 同国山形領之方」

山形領を示した台紙に会形を貼付け／1 鋪／27枚 (28.0×40.5) ／現状は巻 (元は折畳装) ・27.4×25.2、後補裏打／109.3×196.8／(元禄12年・1699カ) ／外題「出羽国米沢領端絵図 同国山形領之方」／楮紙／上杉弾正大弼内岩瀬小右衛門印／彩色あり、方位書：南、畠紙書「羽州置賜郡米沢領 但山形境通会形 但双方峯通国境」及び国境筋に小書あり／233



1792 仙台領米沢境縁絵図

出羽・陸奥国境確認のため仙台藩が米沢藩に提出／1 鋪／80枚 (27.6×42.1) ／折畳装 (原装) ・21.3×12.7、裏打なし／42.1×99.2／元禄13年 (1700) 4月9日／料紙継目に大河内源大夫の捺印3ヶ所／楮紙／松平陸奥守内松元出雲 (黒印) 他2名→上杉弾正大弼様御内岩瀬小右衛門殿／彩色あり、方位書：東西南、際絵図取交し及び境界小書の畠紙書あり、袋墨書「奥州仙台領端絵図壺通并会形」(38.4×15.6) ／233



1803 「出羽国米沢領端絵図 陸奥国仙台領之方」控

仙台領を示した台紙に会形を貼付け／1 鋪／6枚 (27.6×40.6) ／現状は巻 (元は折畳装) ・26.8×17.5、原装裏打／52.4×53.9／(元禄13年・1700) ／外題「出羽国米沢領端絵図 陸奥国仙台領之方」／楮紙／上杉弾正大弼内岩瀬小右衛門／彩色あり、旧外題「出羽国米沢領端絵図 陸奥国仙台領之方」、方位書：西／233



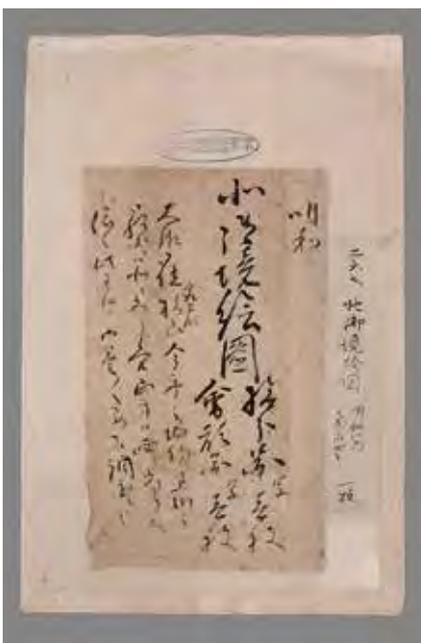
1786 米沢領端絵図

15万石時代の東側藩境見取図、北は新宿辺から南は板谷辺／1 鋪／12枚 (35.5×50.5) ／現状は巻 (元は折畳装) ・24.7×36.6、裏打強く元の折目から剥離／194.0×100.1／江戸中期 (年月日未詳) ／鳥の子紙／上杉弾正大弼内岩瀬小右衛門／彩色あり、方位書：東西南北／233



1805 「北御境絵図写」

米沢藩領と山形藩領（萩野中山口）、庄内藩領（大瀬口・栃窪口）、幕府領、村上藩領との境界付近／1 鋪／10枚（29.5×38.1）／現状は巻（元は折畳装）・24.4×11.0、後補裏打／98.2×89.0／（明和6年・1769カ）／袋書とは別の記載の複写物を貼付／楮紙／彩色あり、方位書：北、袋墨書「北御境絵図」（30.5×20.1）／233



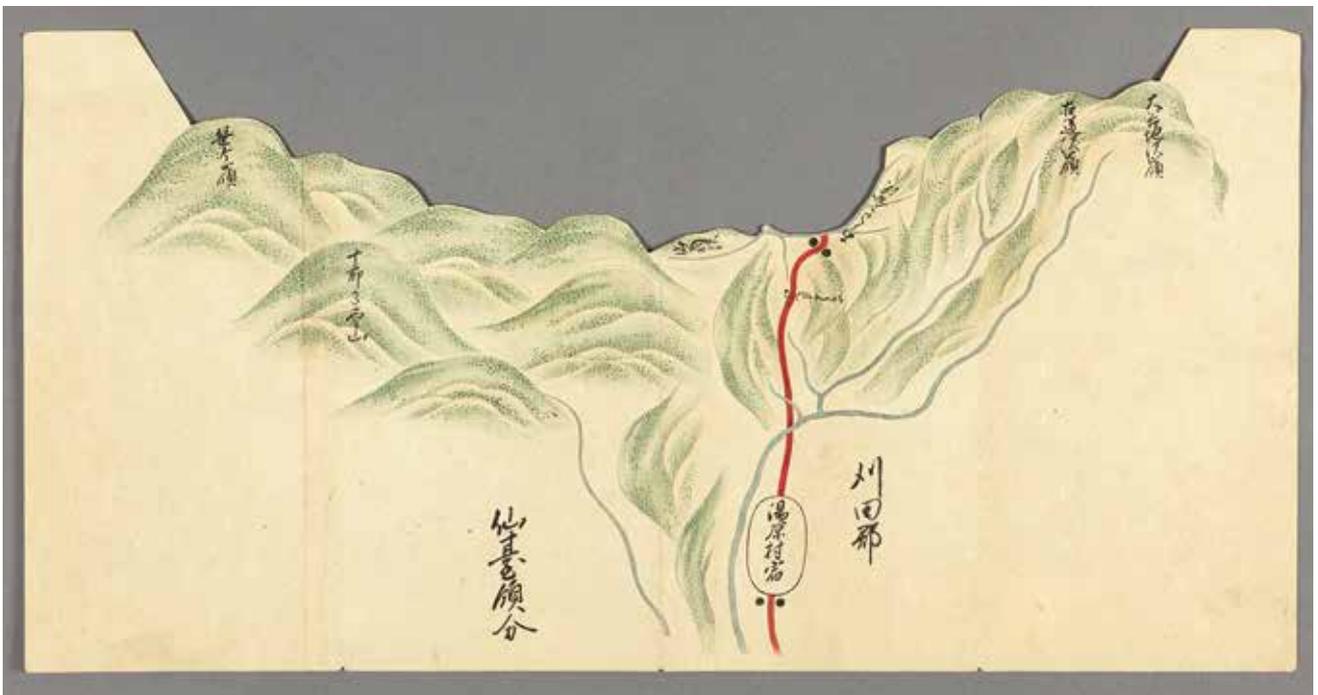
絵図の入っていた袋

国絵図一会形



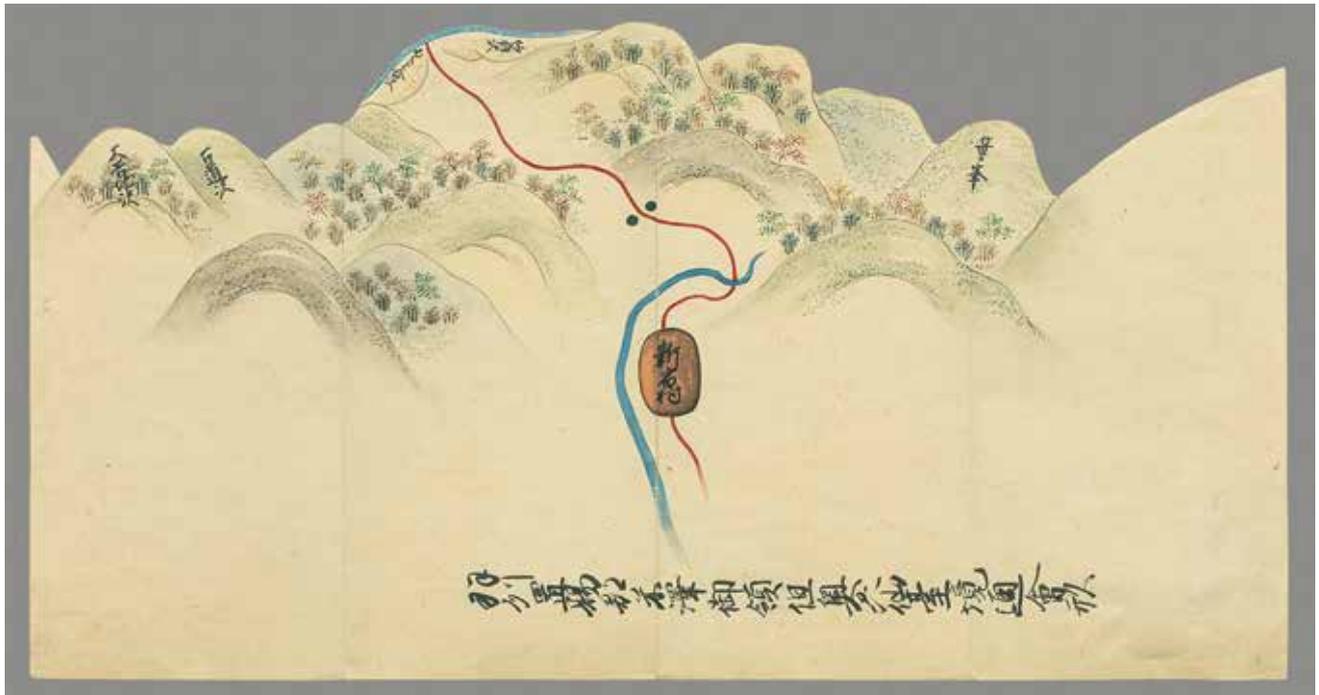
1797 米沢領福島境界会形控

米沢藩・福島藩の境界に沿った切形／1 鋪／3枚 (36.5×49.7) ／折畳装 (原装) ・27.0×18.1、原装裏打／49.7×107.7／(元禄12年・1699) ／異筆墨書「福瀧領江遺ス」(原文ママ) ／鳥の子紙／岩瀬小右衛門／彩色あり、畠紙書「羽州置賜郡米沢領但奥州福島境通会形」、ラベル「伯爵上杉家」／233



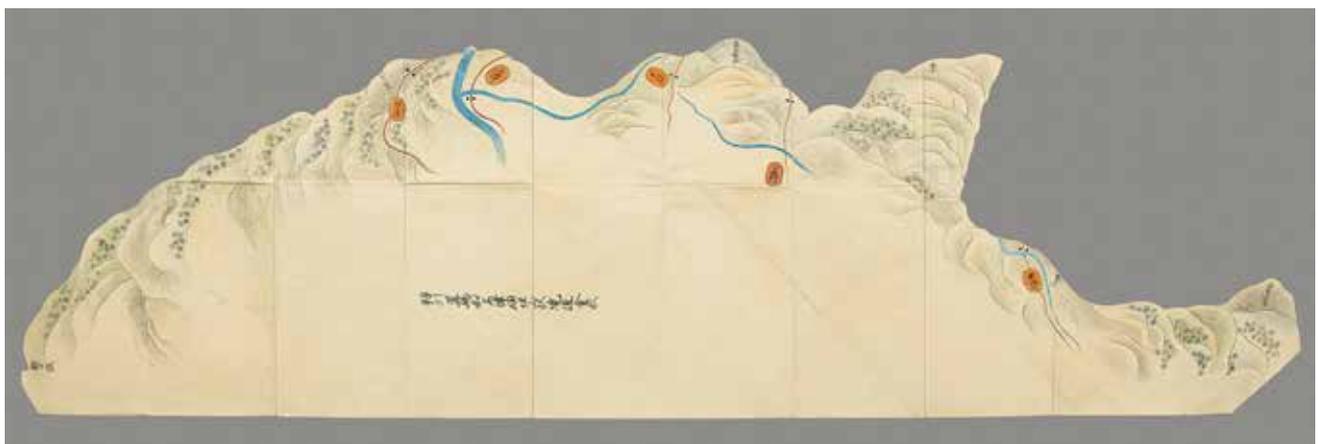
1793 仙台領米沢境界会形

出羽・陸奥国境確認のため境界に沿った切形を米沢藩に提出／1 鋪／2枚 (27.0×41.6) ／折畳装 (原装) ・27.0×13.4、原装裏打／27.0×53.3／(元禄13年 (1700) 4月9日) ／楮紙／彩色あり、袋墨書「奥州仙台領端絵図壱通并会形」(38.4×15.7) ／233



1794 「羽州置賜郡米沢領 但奥州仙台境通會形」控

米沢藩・仙台藩の境界に沿った切形／1 鋪／1枚（料紙法量不詳）／折畳装（原装）・27.4×13.0、原装裏打／52.2×27.4／（元禄13年・1700）／異筆墨書「仙台領江遺ス」（原文ママ）／鳥の子紙／彩色あり、袋墨書「五ヶ所江相渡會形御控五枚」（40.4×26.7）、ラベル「伯爵上杉家」／233



1795 「羽州置賜郡米沢領 但山形境通會形」控

米沢藩・山形藩の境界に沿った切形／1 鋪／9枚（35.9×45.3）／折畳装（原装）・33.3×18.5、原装裏打／179.3×53.4／（元禄13年・1700）／異筆墨書「山形領江遺ス」（原文ママ）／鳥の子紙／彩色あり、袋墨書「五ヶ所江相渡會形御控五枚」（40.4×26.7）、ラベル「伯爵上杉家」／233



1796 「羽州置賜郡米沢領 但奥州会津境通会形」控

米沢藩・会津藩の境界に沿った切形／1 鋪／5枚 (36.6×50.1) ／折畳装 (原装) ・33.6×22.5、原装裏打／178.2×50.1／ (元禄13年・1700) ／異筆墨書「会津領江遺ス」(原文ママ) ／鳥の子紙／彩色あり、袋墨書「五ヶ所江相渡会形御控五枚」(40.4×26.7)、ラベル「伯爵上杉家」／233



1798 米沢領村上境会形控

米沢藩・村上藩の境界に沿った切形／1 鋪／5枚 (36.6×48.8) ／折畳装 (原装) ・33.1×22.4、原装裏打／48.8×178.1／江戸中期 (年月日未詳) ／異筆墨書「越後国村上領江遺ス」(原文ママ) ／鳥の子紙／岩瀬小右衛門／彩色あり、晶紙書「羽州置賜郡米沢領但越後国村上境通会形」、袋墨書「五ヶ所江相渡会形御控五枚」(40.4×26.7)、ラベル「伯爵上杉家」／233



1804 山形領米沢境会形

出羽国内郡境確認のため米沢藩に提出／1 鋪／12枚 (28.9×39.7) ／折畳装 (原装)・20.7×18.6、裏打なし／77.1×216.9／江戸中期 (年月日未詳) ／楮紙／彩色あり、山境に貼紙跡あり、方位書：南、畠紙書「羽州村山郡山形領」／233



1782 「米沢領山形領会形絵図之写」

米沢藩・山形藩双方の際絵図2枚を1枚に調製／1 鋪／4枚 (30.6×38.4) ／折畳装 (原装)・20.3×13.4、原装裏打／60.3×77.9／江戸後期 (年月日未詳) ／墨書「手控ニ付而双方取替し候式枚ヲ一枚ニ調、正保式年御絵図御写本之通但公儀江ハ御上納已後際絵図計御取上ケ、且又取替之前書御案調御差図ニ而如此」／楮紙／上杉弾正大弼内岩瀬小右衛門印、松平下総守内河上善右衛門印／彩色あり、方位書：北、米沢・山形領間の縁絵図取替しに関する畠紙書あり／233

預所絵図



1809 「御預所之絵図」

屋代郷預所内にある米沢藩領の飛地およびその境界画定／1鋪／121枚(32.6×43.7)／折疊装(原装)・43.0×29.7、裏打なし／297.0×453.6／元禄2年(1689)3月29日／貼紙「ニ此飛入図式扱元禄二年三月中ニ認、但シ御領所之差上候節為御用如此、御代官江者不相渡候、古来之方形故御蔵江納置 御領所飛入絵図 元禄十五年三月改 岩瀬小右衛門」／楮紙／彩色あり、領知別の色分凡例あり、飛入地高及び村境他の貼紙あり、方位書：東西南北／234

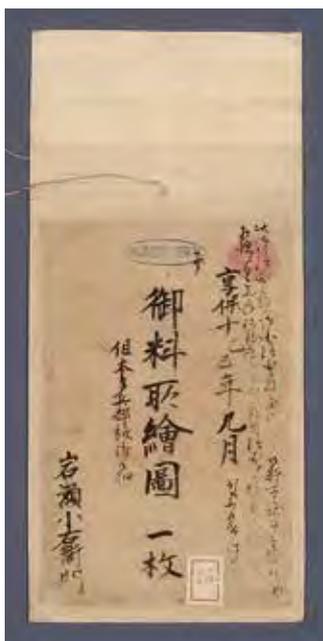


上平柳村から中田村までの村境

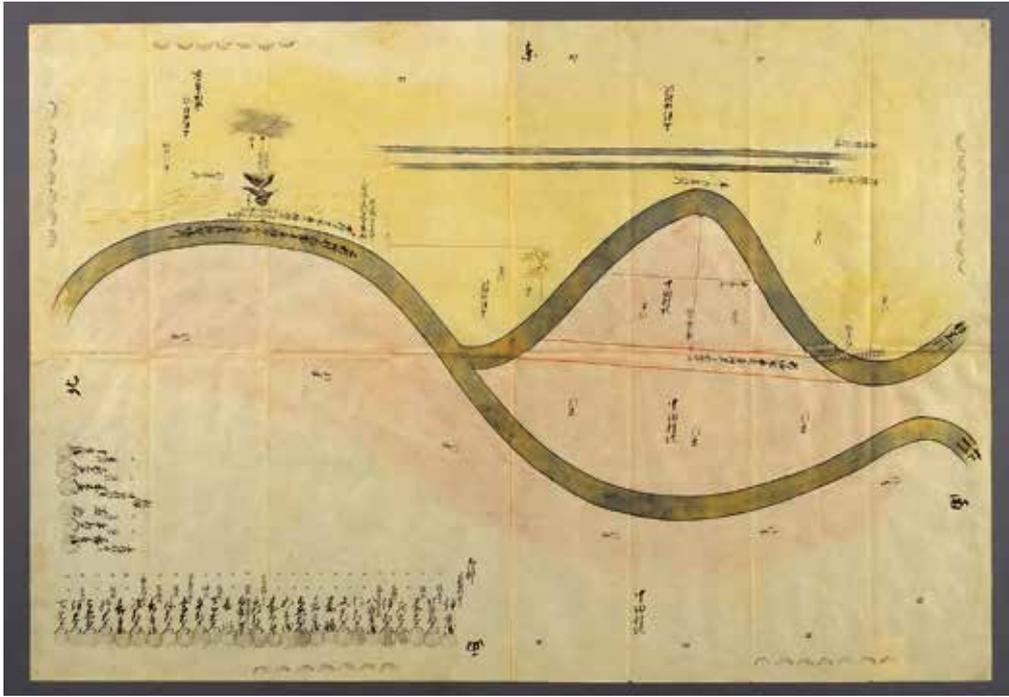


1808 「御料所絵図」

元禄国絵図から幕府領屋代郷部分を書抜く／1 鋪／8枚 (26.8×40.3) ／折畳装 (原装) ・26.8×15.6、裏打なし／79.9×91.2／享保10年 (1725) 9月／墨書「チ」／楮紙／岩瀬小右衛門／彩色あり、端の折返しあり、絵図の作成経緯に関する貼紙、方位書：東西南北、罫紙書「元禄十三年中新絵図之面ニ而御料所之分書拔仕如斯御座候」、袋墨書「御料所絵図 但本多兵部様御手控」(39.7×18.3)、No.1780と関連／234

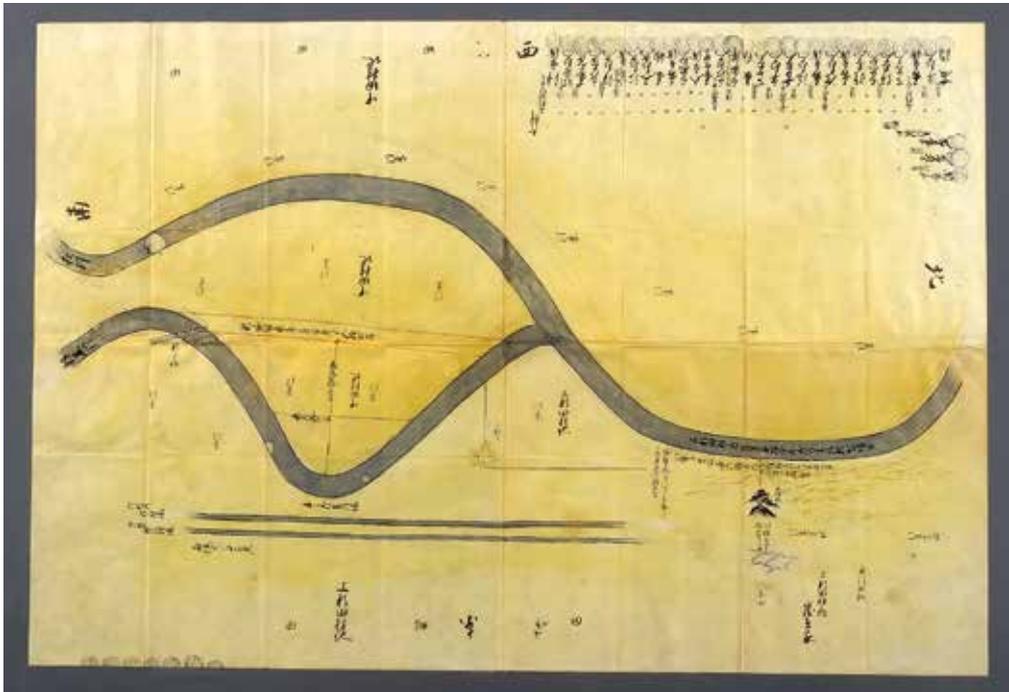


絵図の入っている袋



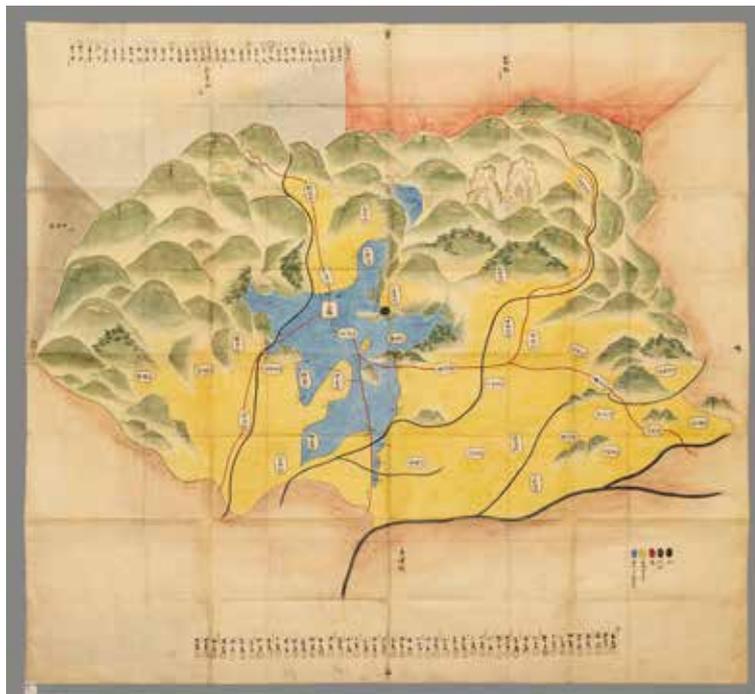
1812-01 「御預所上新田村若神子御子御普請ニ付御私領中田村地之内堀替絵図」

史料名を参照／1 鋪／4枚 (29.8×42.6) ／折畳装 (原装) ・29.7×11.0、裏打なし／85.5×59.3／明和5年 (1768) 4月／外題「明和五年子四月 御預所上新田村若神子御子御普請ニ付御私領中田村地之内堀替絵図」、郡奉行所の捺印／楮紙／彩色あり、方位書：東西南北、畠紙書として幕府領と米沢藩領中田村の村役人の署判、袋墨書「御預所上新田村…取替証文迄通」(43.5×15.0)、No.0805に関連文書あり／234



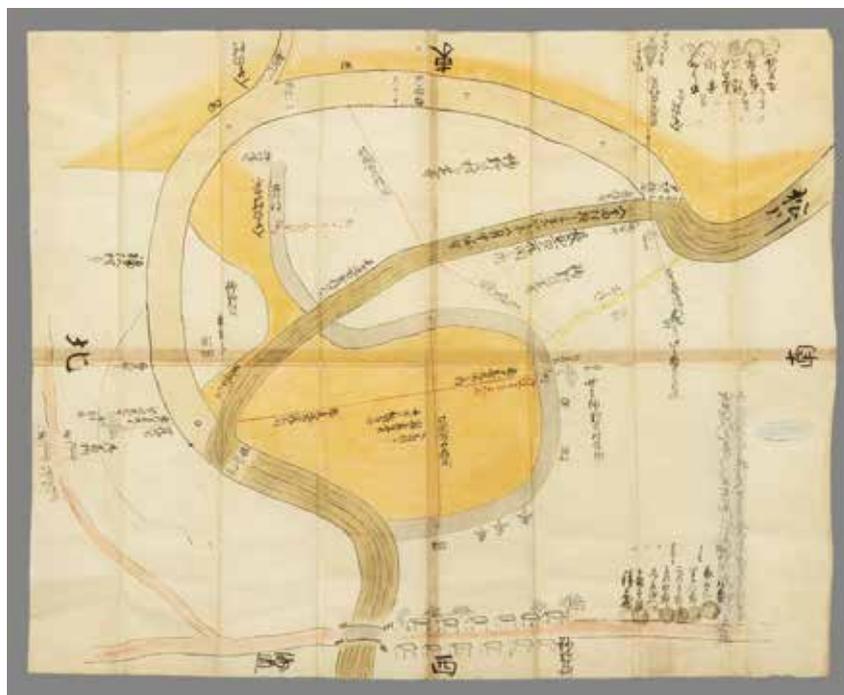
1813 「御預所上新田村若神子御子御普請ニ付御私領中田村地之内堀替絵図」

史料名を参照／1 鋪／4枚 (29.8×43.2) ／折畳装 (原装) ・29.7×10.8、裏打なし／85.9×59.3／明和5年 (1768) 4月／外題「明和五年子四月 御預所上新田村若神子御子御普請ニ付御私領中田村地之内堀替絵図」、郡奉行所の捺印／楮紙／彩色あり、方位書：東西南北、畠紙書として幕府領と米沢藩領中田村の村役人の署判、No.0805に関連文書あり／234



1814 「置賜郡御預所三拾五ヶ村之内六ヶ村去亥九月中織田八百八様御知行渡被 仰出相済候ニ付公料与織田様御知行所村境相分申絵図面」

史料名を参照／1 鋪／24枚 (29.7×43.2) ／折畳装 (原装) ・44.0×22.0、裏打なし／163.5×175.0／明和5年 (1768) 12月／外題「ト 置賜郡御預所三拾五ヶ村之内六ヶ村去亥九月中織田八百八様御知行渡被 仰出相済候ニ付公料与織田様御知行所村境相分申絵図面并証文一通入 十二月 土肥丹下」／楮紙／土肥丹下／彩色あり、色分の凡例あり、方位書：東西南北、高島村名主長兵衛他17ヶ村の村役人連署晶紙書あり、外題に証文一通入りとあるが現状は無し、裏書と同様の袋墨書あり (60.5×23.5)、袋に明和5年12月7日役所で渡され岩瀬左市が受け取った旨の貼紙あり／234



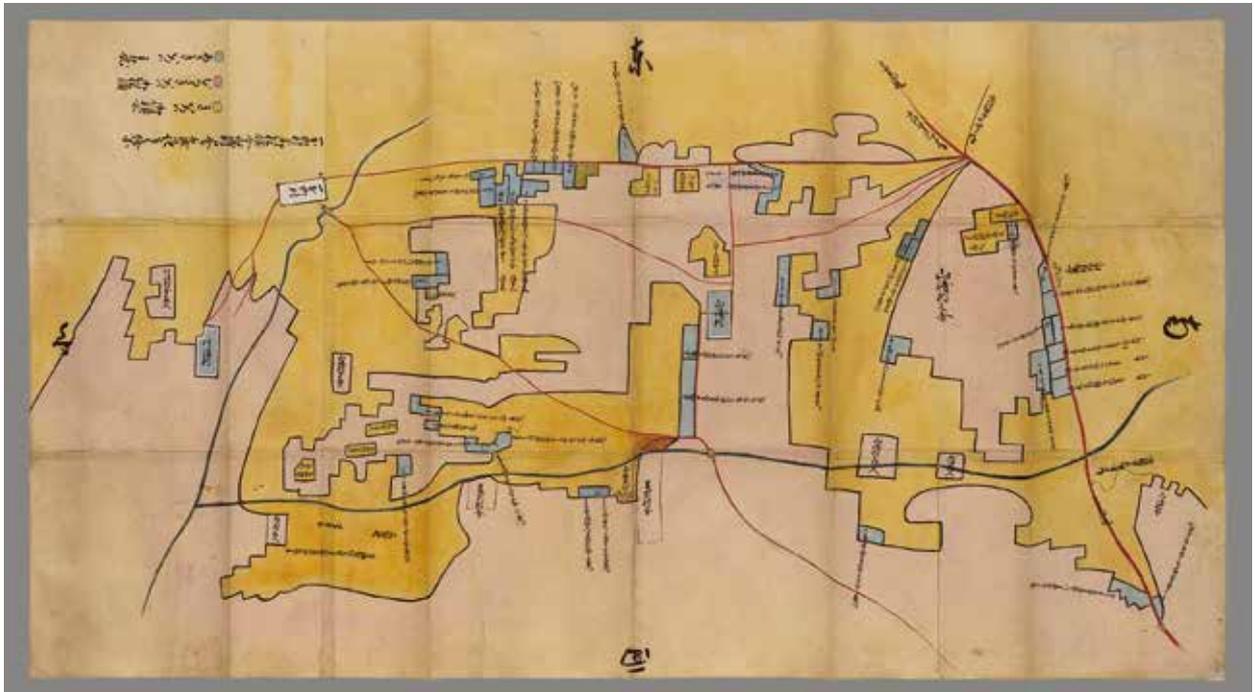
1815 「寛政元年九月廿七日御預所御代官藤崎紋蔵殿御私領御代官松浦太郎兵衛殿御立合御見分絵図面」

松川通り欠落につき堀替普請のこと／1 鋪／4枚 (30.3×37.4) ／折畳装 (原装) ・30.9×10.2、裏打なし／73.6×59.0／寛政元年 (1789) 9月27日／外題「寛政元年九月廿七日御預所御代官藤崎紋蔵殿御私領御代官松浦太郎兵衛殿御立合御見分絵図面」／楮紙／岩瀬三左衛門／彩色あり、方位書：東西南北、入生田村・糠野目村の村役人の署判の晶紙書あり、絵図の作成経緯について袋墨書あり (35.6×14.3)、No.0807に関連文書あり／234



1820 「御預所越後岩船郡栗島絵図」

史料名を参照／1 鋪／9枚 (27.0×39.4) ／折畳装 (原装) ・28.6×19.2、原装裏打／77.0×114.7／ (嘉永3年・1850ヵ) ／楮紙／彩色あり、コンパス穴あり、方位書：東西南北、島の大きさ・海深・新潟酒田間の距離の畠紙書あり、資料名の後補外題あり／234



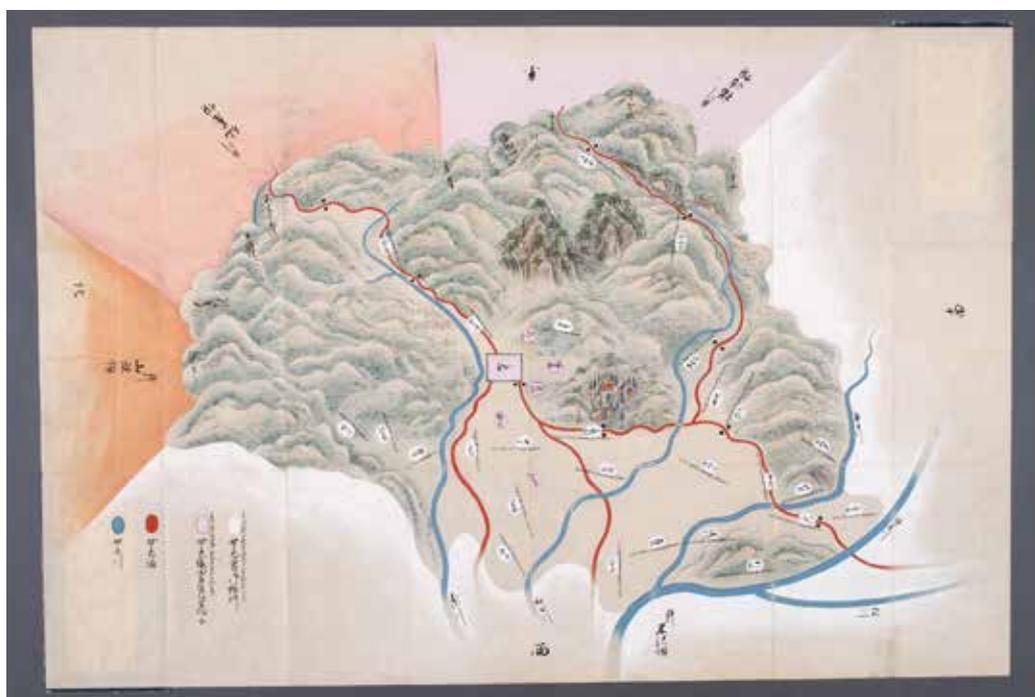
1811 「一本柳村の御私領分山崎村江分ケ相渡候地之絵図」

史料名を参照／1 鋪／12枚 (31.2×42.4) ／現状は巻 (元は折畳装) ・27.3×31.8／後補裏打／88.0×164.3／江戸後期 (年月日未詳) ／墨書「山崎飛入図」／楮紙／彩色あり、領知別の凡例色分、方位書：東西南北／234



1816 「越後御料 御預所絵図」

越後岩船郡内における米沢藩の預所周辺とその内訳／1 鋪／4枚 (30.5×45.7) ／折畳装 (原装)・20.5×11.6、裏打なし／60.8×91.5／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／彩色あり、方位書：東西南北／234



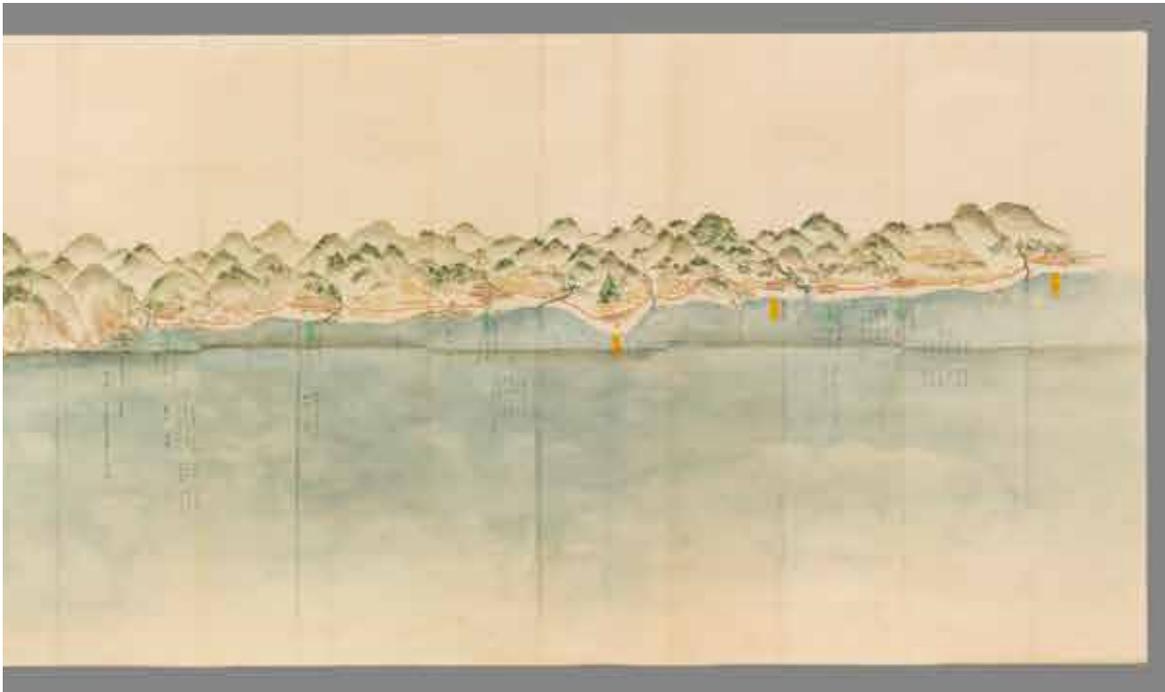
1817 「東御料 御預所絵図」

置賜郡屋代郷内の預所周辺とその内訳／1 鋪／4枚 (30.7×45.1) ／折畳装 (原装)・20.5×11.3、裏打なし／60.8×89.2／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／彩色あり、方位書：東西南北／234



1818 「最上御料 御預所絵図」

村山郡内預所周辺とその内訳／1 鋪／4枚 (30.0×44.2) ／折畳装 (原装)・20.4×11.4、裏打なし／60.7×88.5／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／彩色あり、方位書：東西南北／234



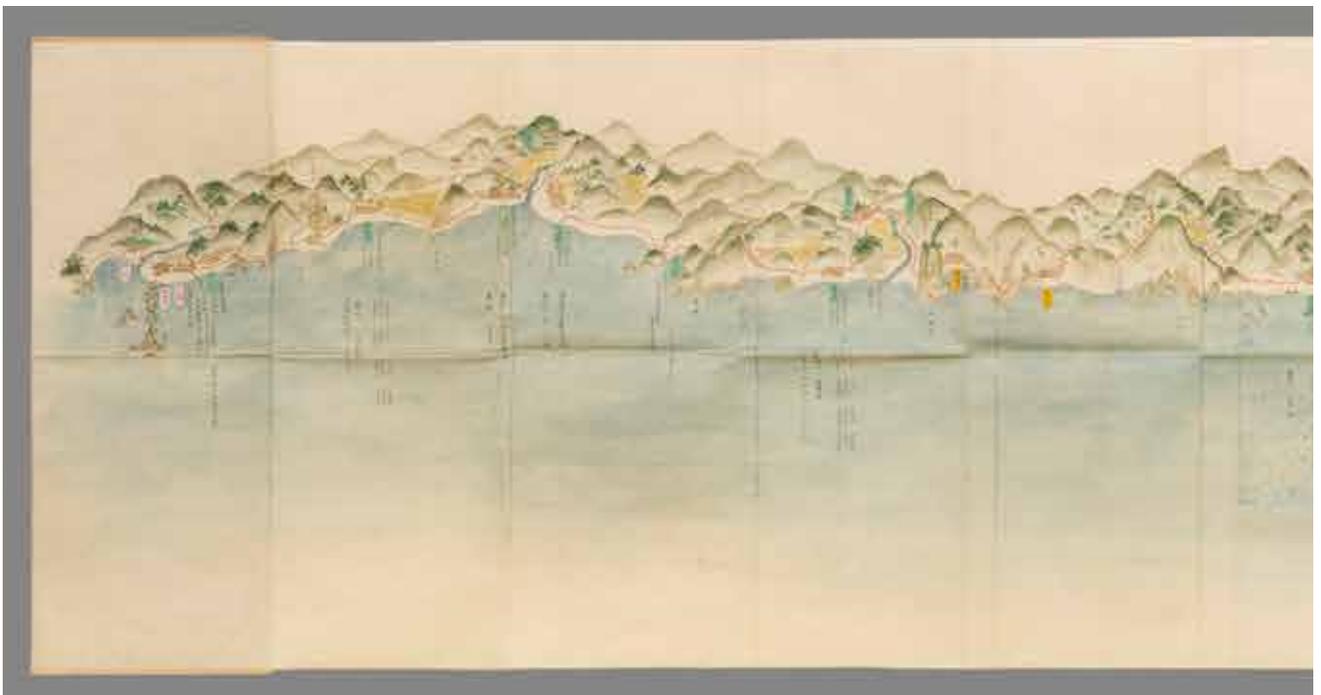
①

1819 「御預所 越後岩船郡海岸絵図」

村上藩領岩ヶ崎村から庄内藩領鼠ヶ関まで／1 鋪／34枚 (26.8×35.9) ／折畳装 (原装)・35.8×26.0、原装裏打／70.4×412.0／江戸後期 (年月日未詳) ／彩色あり、方位書：東西南北、村高及び各村の軒数・人数・粟島までの距離・地名などの罫紙書あり／234

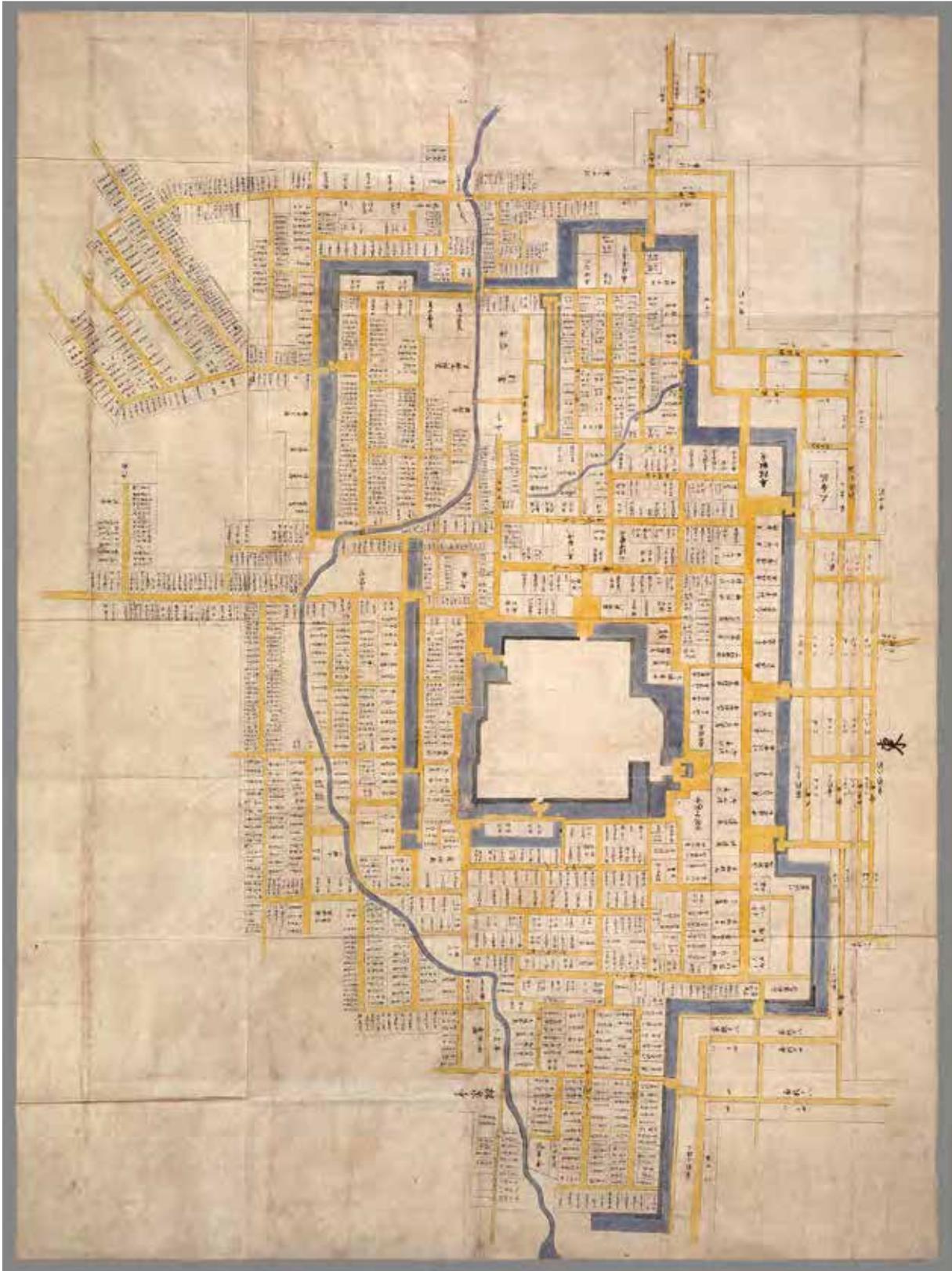


②



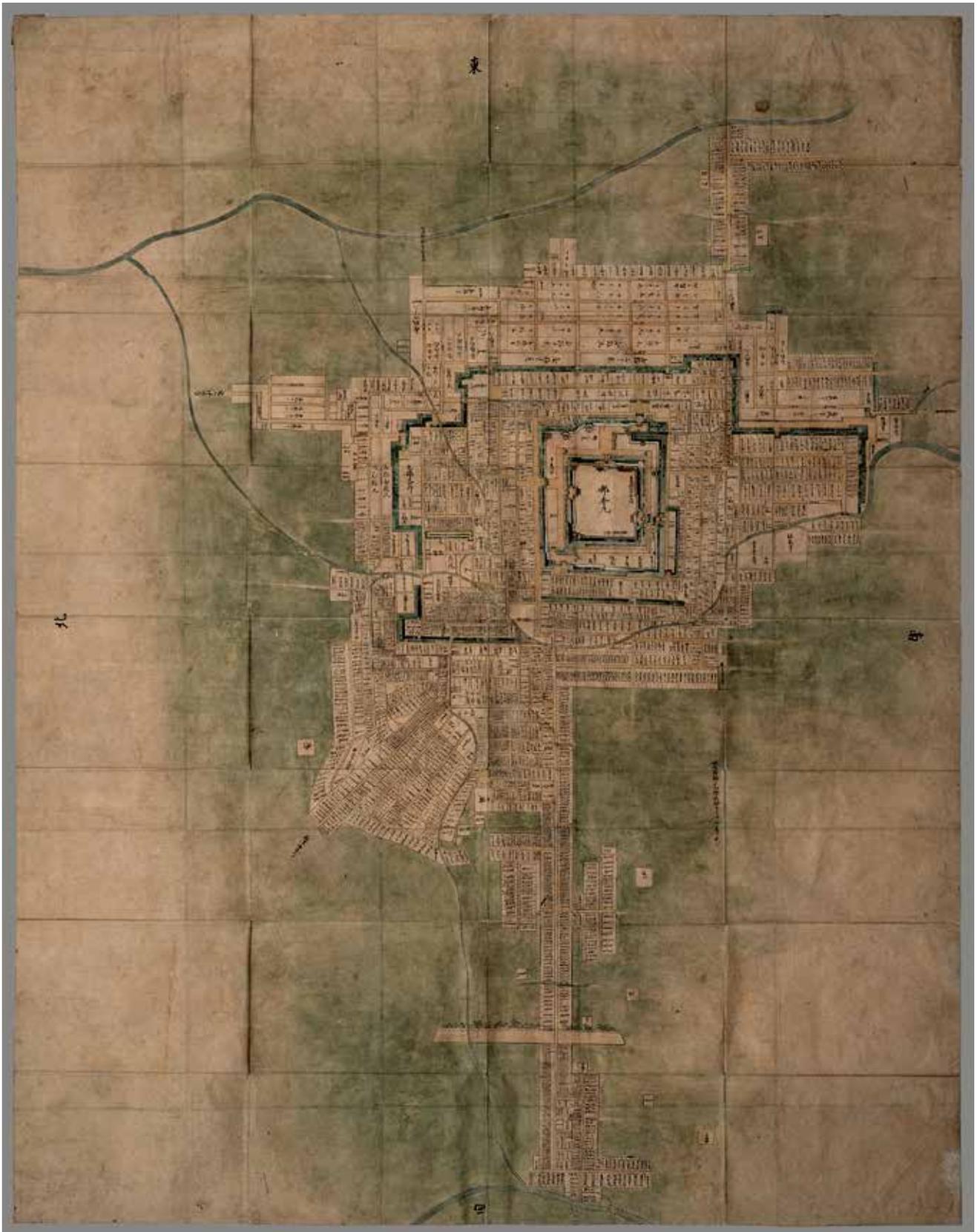
③

領内絵図一城下絵図



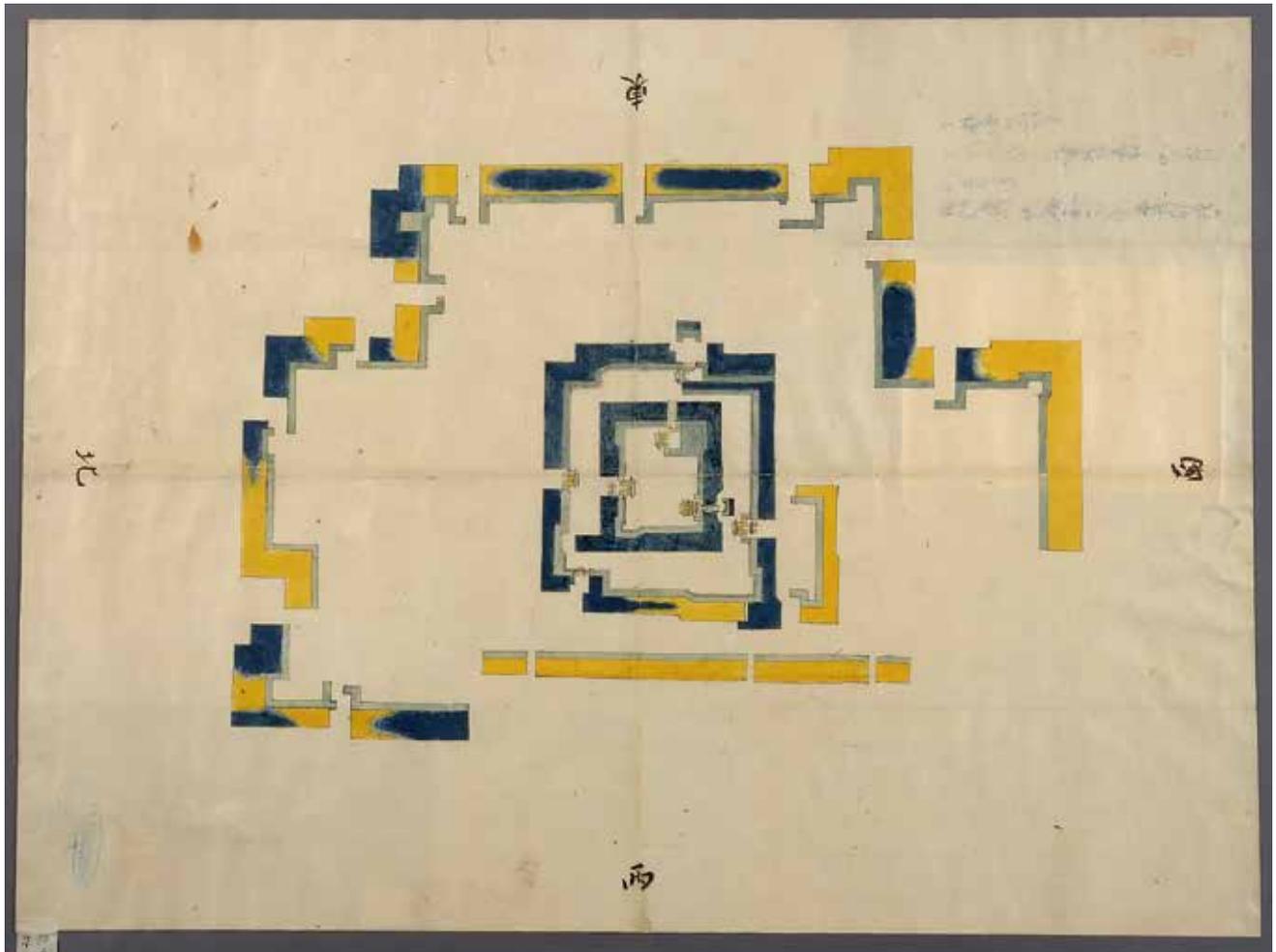
1874 「万治年中 御城下屋敷割図」

居住者名から承応年間と推定／1 鋪／32枚 (28.2×37.4) ／折畳装 (原装)・34.0×23.2、原装裏打／176.0×134.3／(承応2年・1653) ／楮紙／彩色あり、修正の貼紙あり、方位書：東、袋墨書「万治年中頃 御城下絵図 壹枚外覚書壹通 嘉永四年六月御修復」(40.0×26.1) ／235



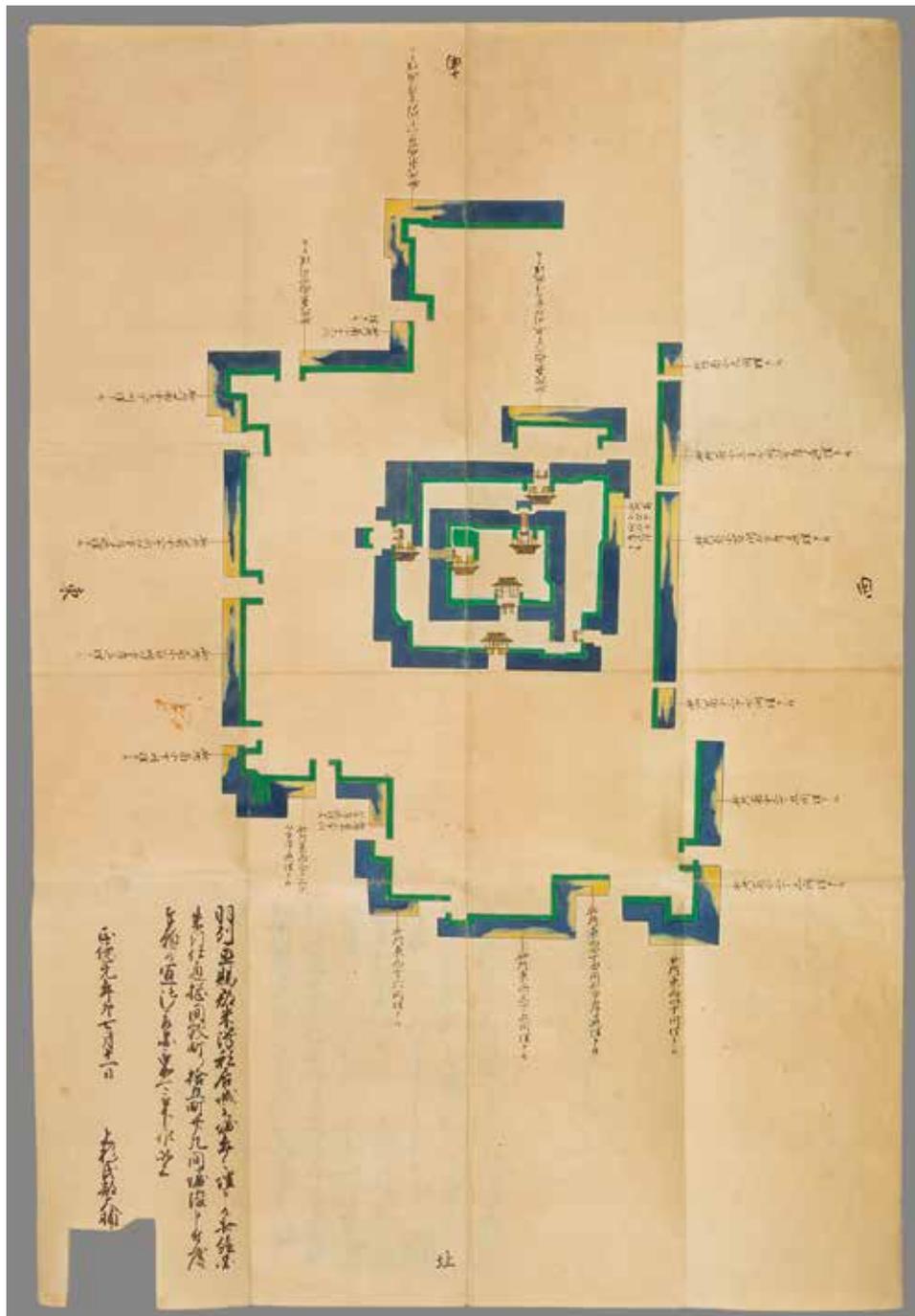
1875 「御城下絵図」

元禄7年時点の馬口旁町から地番匠町（南北）及び館山から東寺町（東西）の屋敷割／1 鋪／25枚（35.6×50.2）／折疊装（原装）・41.7×27.4、原装裏打／218.8×170.5／元禄7年（1694）／外題「御城下絵図 元禄七年 住人取附上杉家」／鳥の子紙／岩瀬小右衛門／彩色あり、方位書：東西南北／235



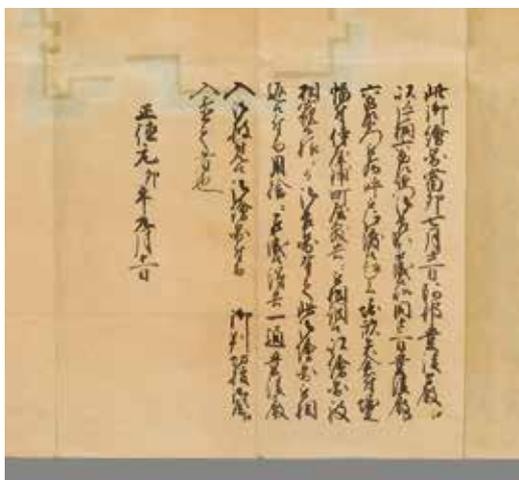
1824 米沢城堀浚願絵図

三の丸までの堀の泥揚普請につき幕府へ差出、対象箇所を黄色で彩色／1鋪／4枚(30.3×40.2)／現状は巻(元は折疊装)・26.9×15.0、後補裏打／80.5×60.1／宝永7年(1710)／墨書「羽州米沢 御城堀泥揚普請御願被 仰出候付而 公方様役方江宝永七年中初度目被指出候絵図」／楮紙／彩色あり、裏書の複写貼付、「林泉文庫」の朱印、方位書：東西南北／234

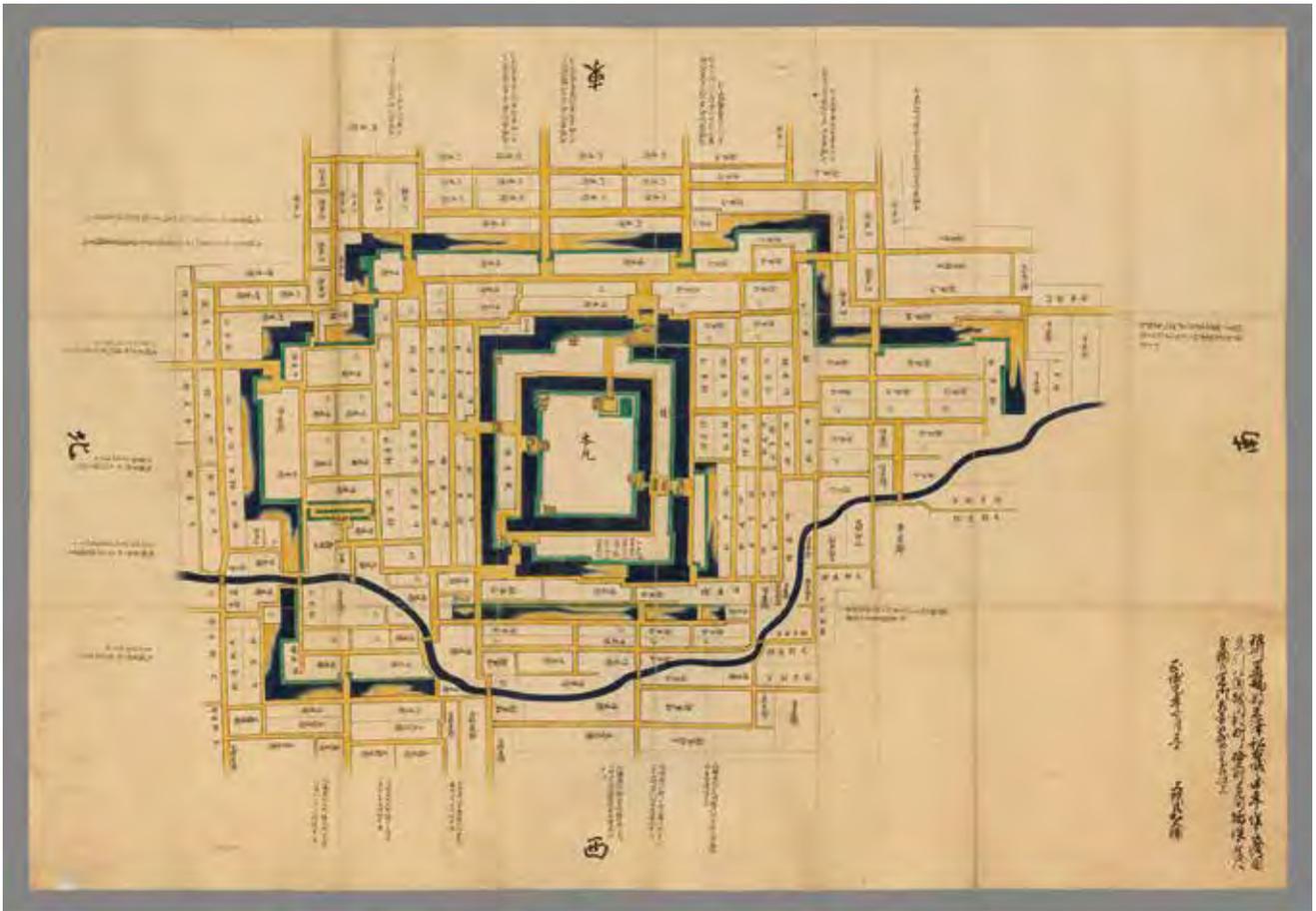


1825 米沢城堀浚絵図

本丸、二の丸部分の浚渫を幕府に願い出、差し戻されたもの／
 1 鋪／4枚 (31.6×46.7) ／折畳装 (原装)・31.4×15.9、原装
 裏打／94.3×63.4／正徳元年 (1711) 7月11日／貼紙「口 此御
 絵図御差図有之相返り候、委細ハ別帳ニ有」、差し戻し経緯の書
 付あり (9月11日付) ／楮紙／彩色あり、浚渫の願出に係る文言
 あり、後補題箋あり、方位書：東西南北、袋墨書「正徳元年九月
 御堀没之図ニ并入記一」(38.4×23.1)、ラベル「三〇二 御堀
 浚之御絵図 日記共 一冊 一枚」、No.1826に関連文書あり／
 234



裏面墨書

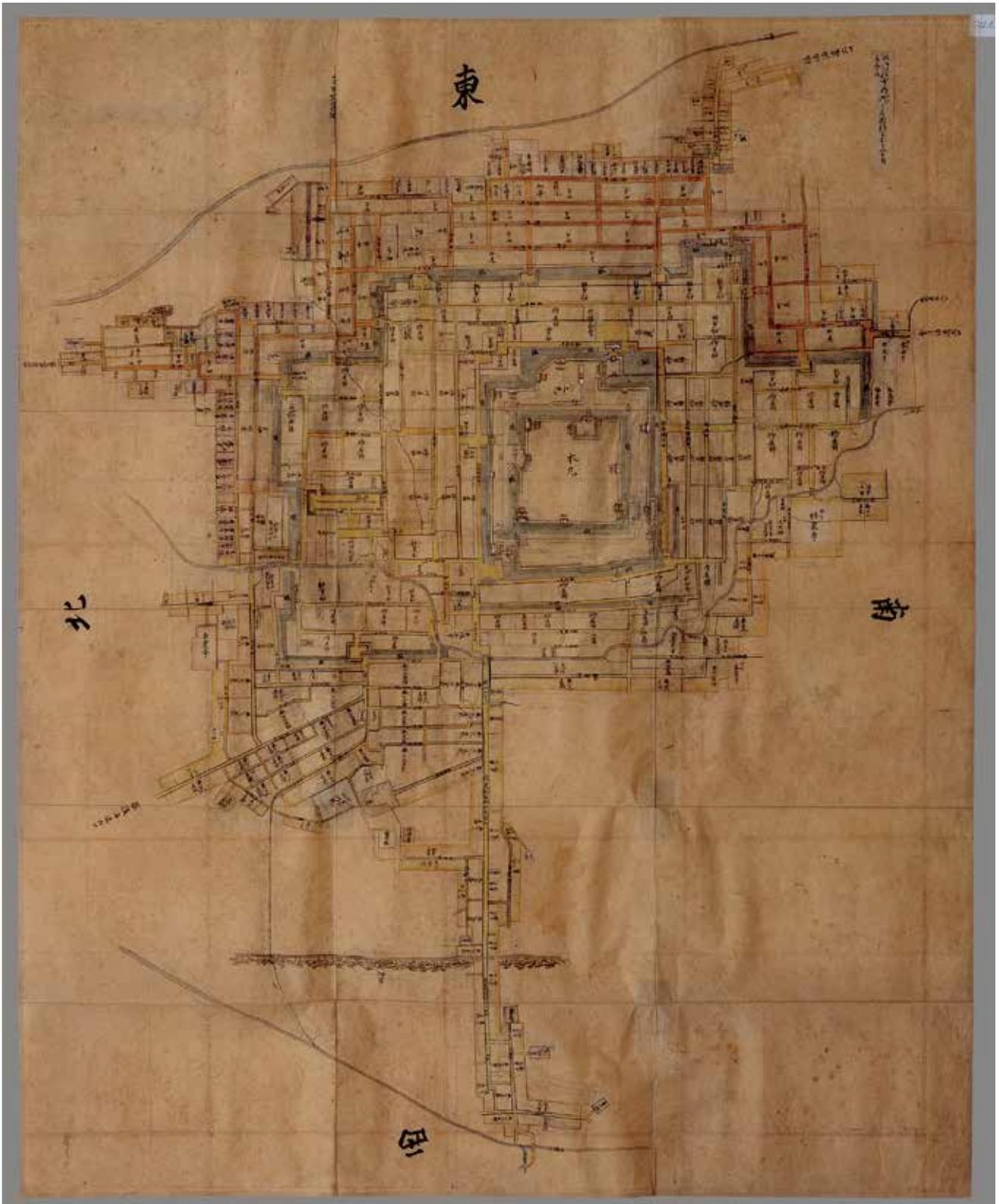


1774 米沢城堀浚願絵図

堀浚願出の通り許諾につき御蔵へ納め置く／1 鋪／9枚 (32.8×48.2) ／現状は巻 (元は折疊装)・31.1×17.1、後補裏打／95.5×138.9／正徳元年 (1711) 7月2日／貼紙「此御城絵図之内東櫓門ニ土留之積石之図不相見候 安永九年十二月七日 米沢付記」、作成経緯の書付あり／楮紙／上杉民部大輔／彩色あり、方位書：東西南北、No.0284に関連文書あり／233

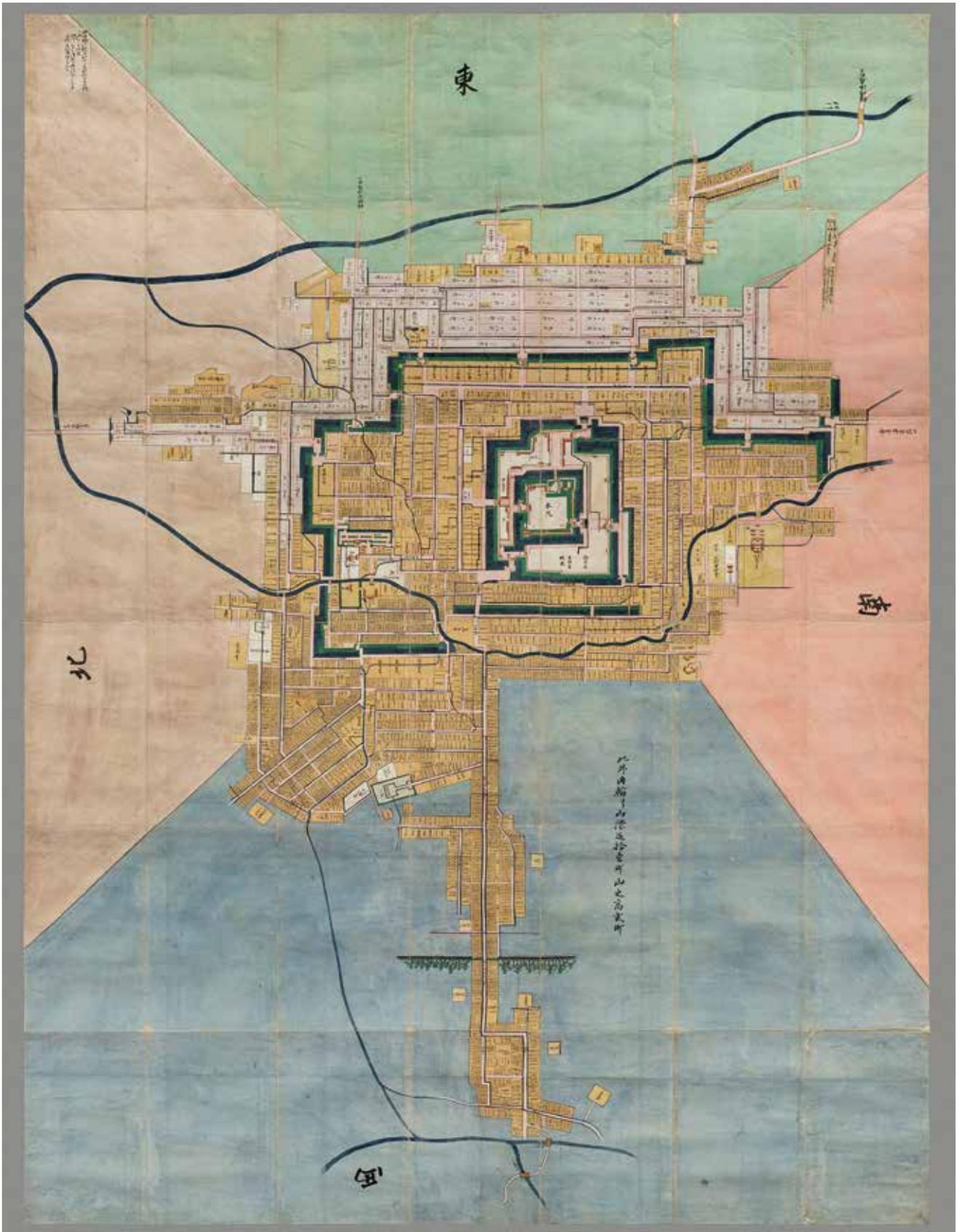


黄色に彩色された堀部分が浚渫対象箇所



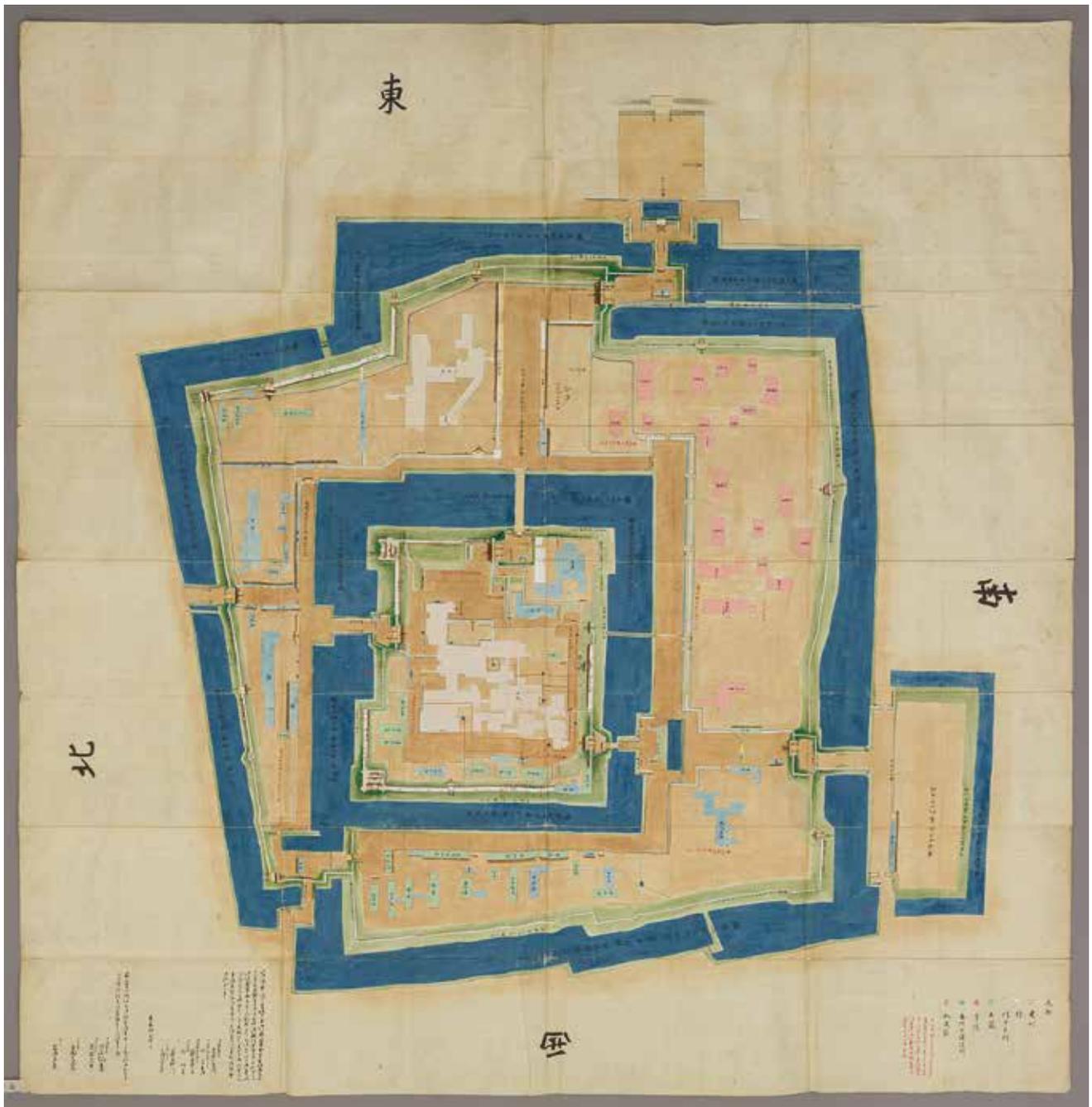
1880 「御城下町割略御絵図」

北は北町、南は七軒町、東は東寺町、西は館山口まで／1鋪／25枚(29.2×36.5)／折畳装(原装)・36.5×29.2、
 原装裏打(裁断跡あり)／145.6×116.2／享保10年(1725)9月16日／墨書「ト」／楮紙／彩色あり、堀・道路にへ
 ら跡あり、端の折返しあり、貼紙「此御絵図之内町之名周防差図を以書付差上申候」、方位書：東西南北、袋墨書「享
 保十乙巳年九月十六日 御城下町割略御 但御差図相替御城絵図与一差上之」(48.0×29.4)／235



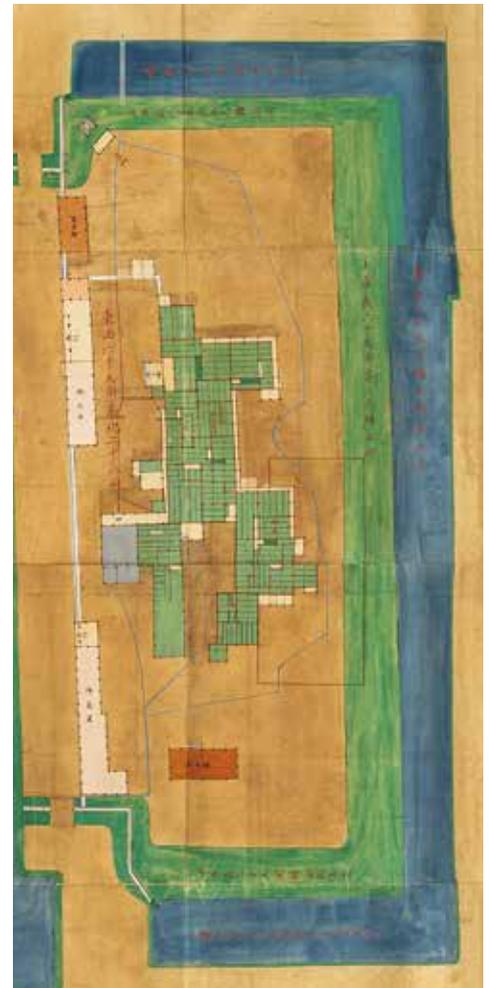
1877 「御城下絵図」控

国目付下向につき提出、米沢城三の丸までの屋敷割／1鋪／36枚 (36.1×51.5) /現状は巻 (元は折畳装)・46.4×29.6、後補裏打／201.0×274.2／享保10年 (1725) /貼紙①「口 此御絵図御差図有之相返り候、委細ハ別帳ニ有」、貼紙②「此明細御城下絵図ハ兵部様・久太夫様へ□□□之御控也、但御上江も御城下略絵図ニシテ差上候、勿論兩御目附御差図也」、貼紙③「ほ 御城下絵図 享保十年御国目付御兩人江被差出御控絵図」 /鳥の子紙/彩色あり、端の折返しあり、身分差別に関する箇所の現代貼紙あり、福田町百姓地館山坂ノ上裏地藏堂に関する付箋、方位書：東西南北、No.1949に関連文書あり/235



1827 「御城絵図」控

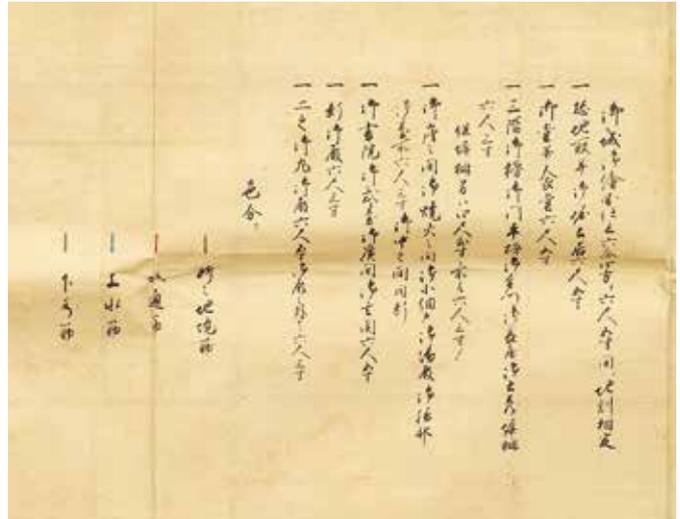
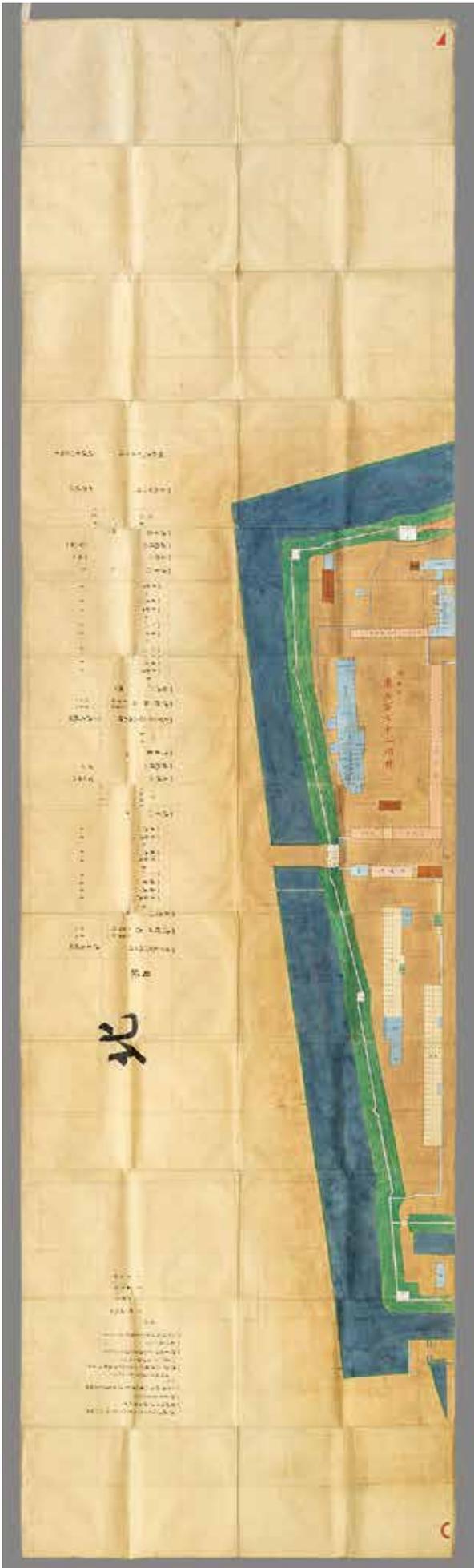
享保10年国目附本多兵部・鳥居久太夫お越しにつき差出し、2分計り／1鋪／48枚（27.1×39.5）／折畳装（原装）・27.4×52.6、原装裏打／218.8×211.0／明和5年（1768）6月／外題「御城絵図」／楮紙／御絵図懸片山紀兵衛、御絵図方岩瀬左市／彩色あり、城内の建物の種類を示す凡例あり、方位書：東西南北、明和5年6月に控えとして作成した旨の晶紙書あり／234



上杉勝延御住居

1833 米沢城絵図

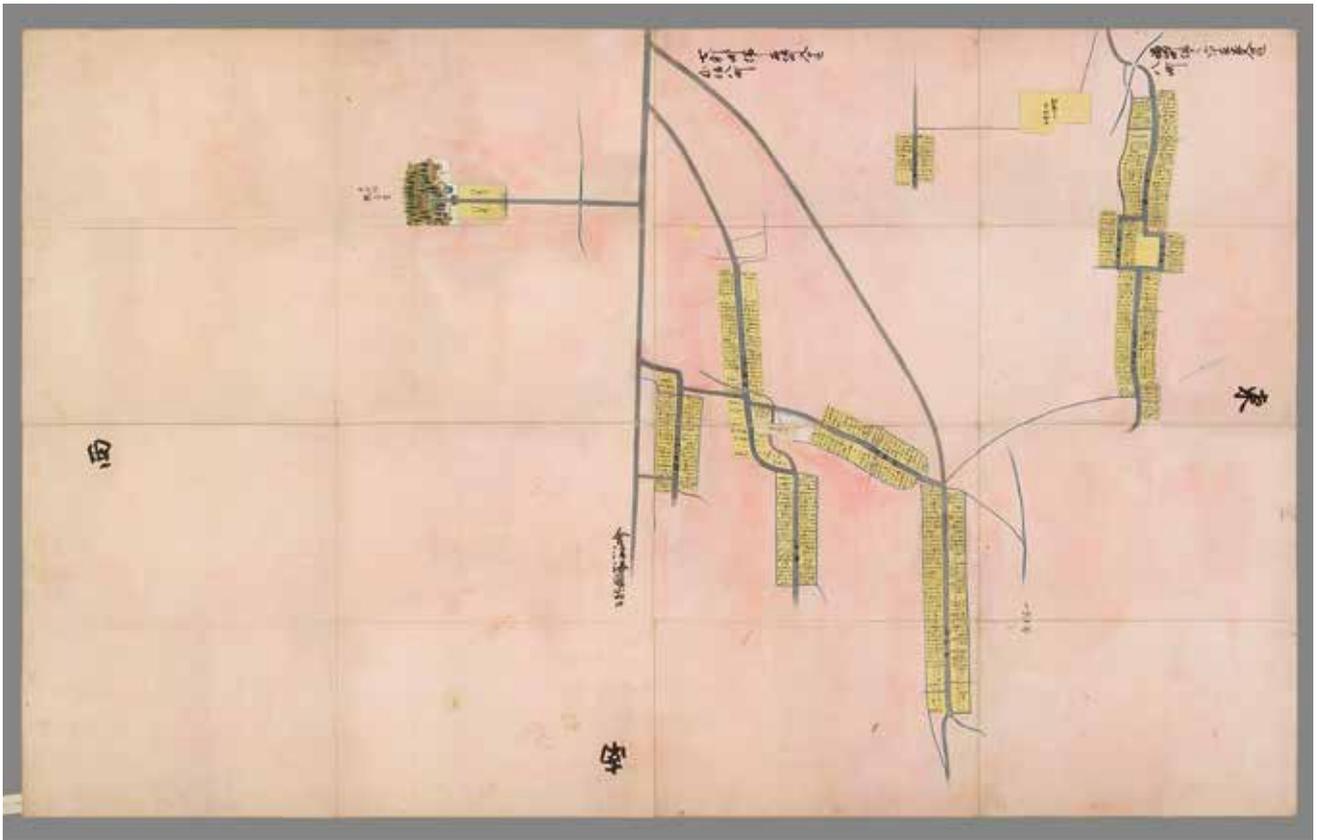
米沢城二の丸南側（寺院群・上杉重定御殿、三の丸上杉勝延御住居）、6分計り／1鋪／138枚（27.7×38.8）／折畳装（原装）・51.3×36.5、原裝裏打（西側の糊代はがれ）／211.6×587.4／（明和5年（1768）10月）／墨書「南」／楮紙／（竹俣当綱量）／彩色あり、針穴あり、全体にへら跡あり、東西に合印2カ所、No.1834と組になるが中央部分の絵図を欠く、方位書：南／234



地割定め（縮尺）と色分凡例部分

1834 米沢城絵図

米沢城二の丸北側（御厩・御作事屋・矢倉御門など）、6分計り／1 鋪／131枚（27.2×38.9）／折畳装（原装）・50.6×42.2、原装裏打／163.8×584.8／明和5年（1768）10月／墨書「北」／楮紙／竹俣当綱量／彩色あり、コンパス穴あり、全体にへら跡あり、地境筋・坎通筋・上水筋・下水筋の色分凡例あり、6分四方を一間分（6尺5寸）とする地割定めの罫紙書及び米沢城内の建物の内訳・建坪数の書上あり、No.1833と組になるが中央部分の絵図を欠く、方位書：北／234

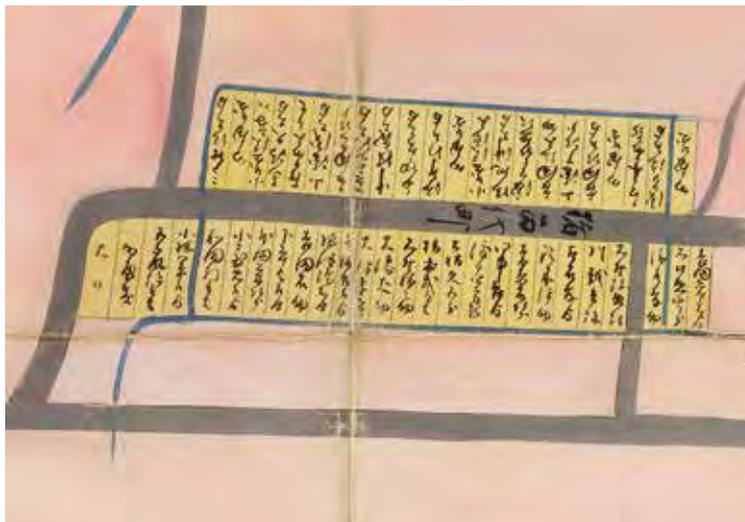


1882 「諸奉公人屋鋪絵図 南原五町 六十在家 長手新田」

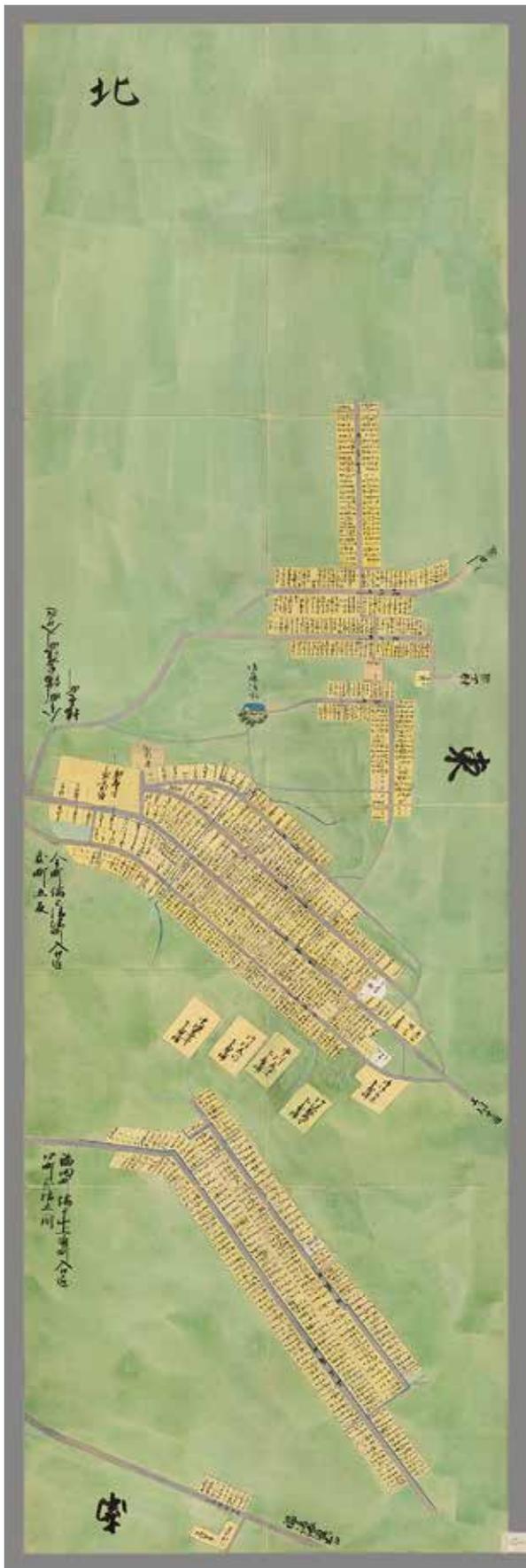
米沢城南側の方原部分／1鋪／20枚(30.3×43.7)／折畳装(原装)・46.2×28.8、原裝裏打／115.4×185.3／
明和6年(1769)10月／楮紙／彩色あり、東西のみ端の折返しあり、方位書：東西南、袋墨書「諸奉公人屋敷絵図
花沢八町 山上三町橋本町共 南原五町 六十在家長手新田共」(58.5×34.0)、城下絵図本体は市立米沢図書館が所蔵、
No.1907に関連文書あり／235



笹野観音堂



猪苗代町



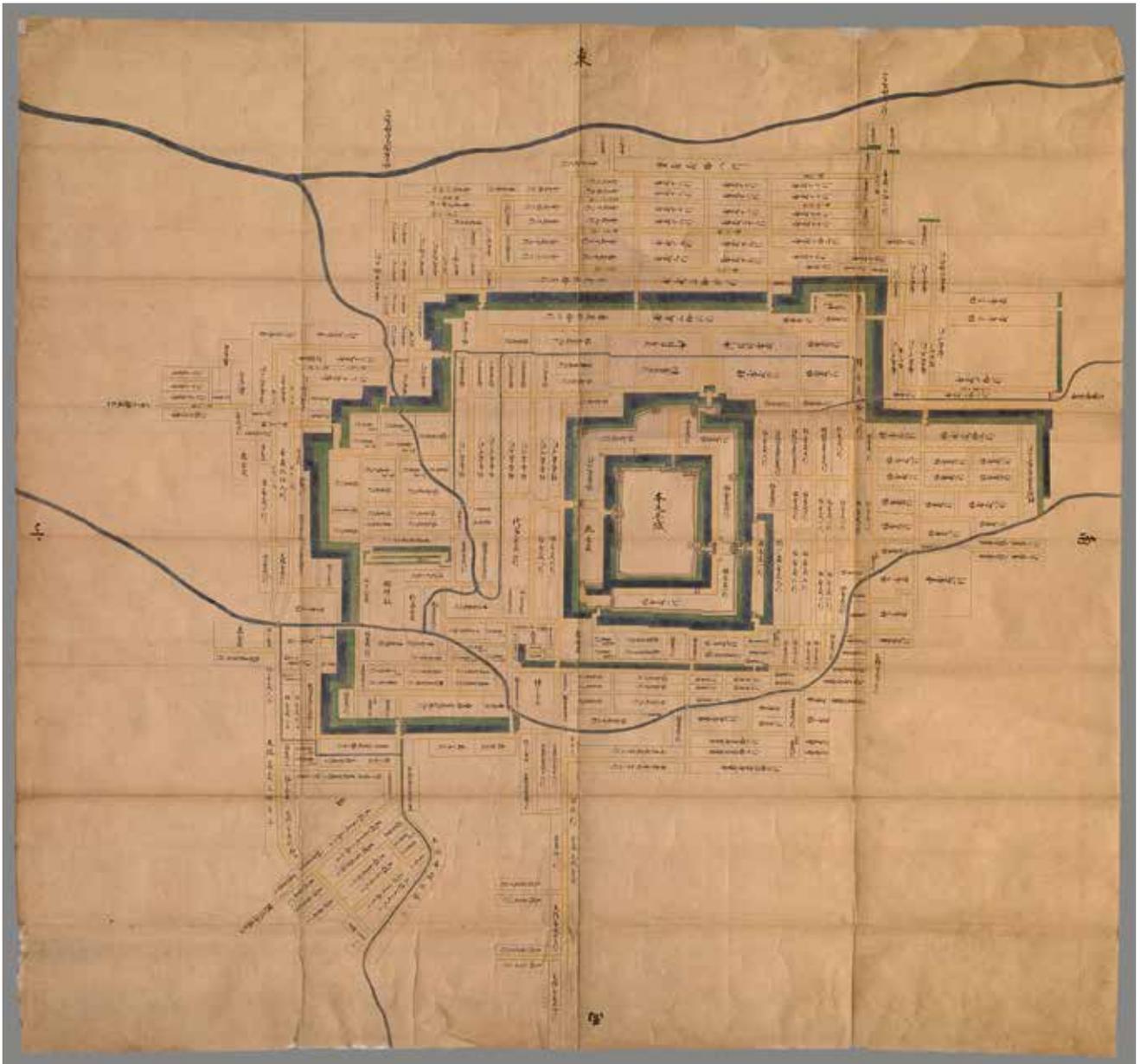
佐藤清水



長尾兵庫下屋敷と常信庵

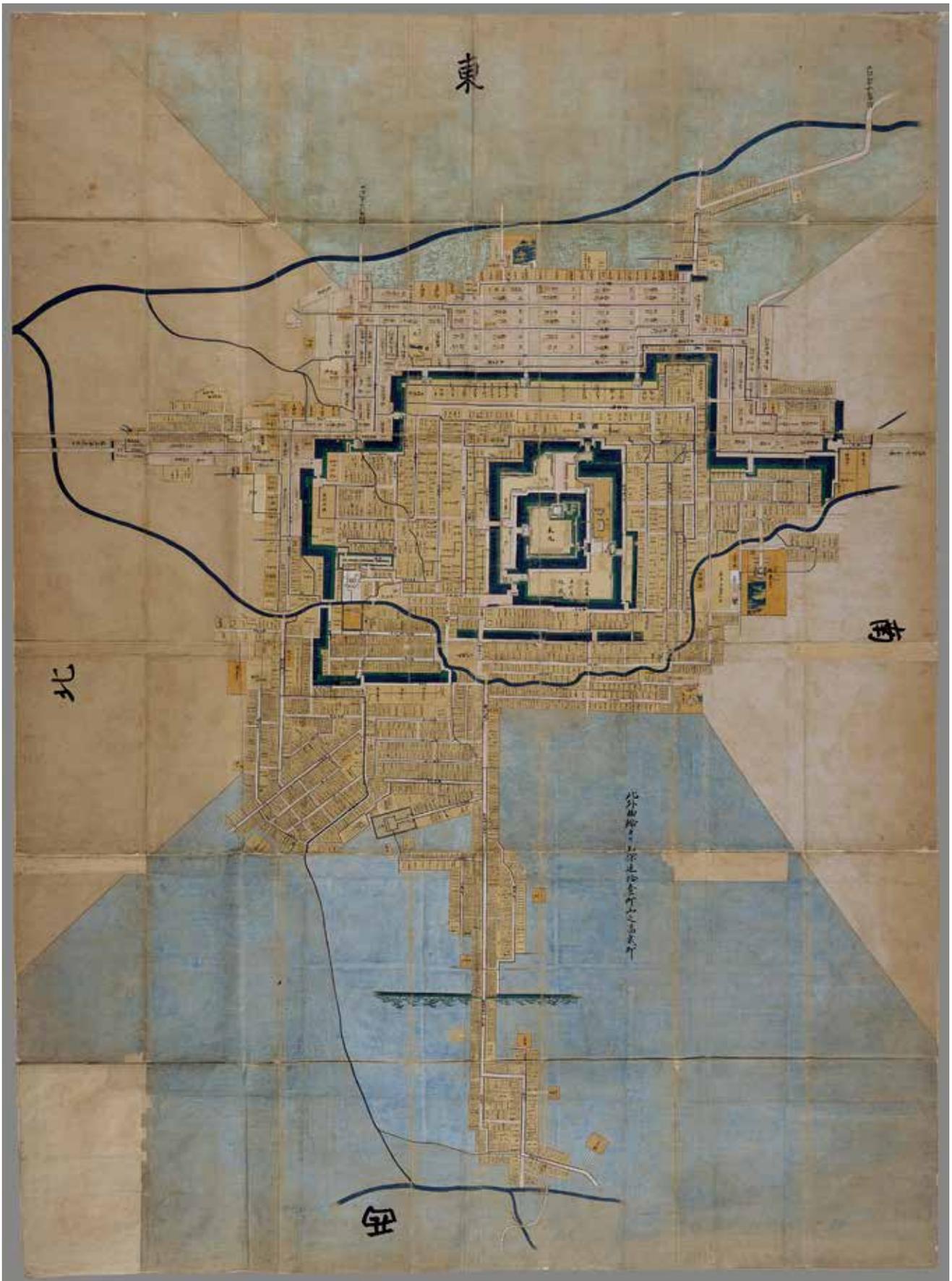
1883 「諸奉公人屋舗絵図 花沢八町 山上三町 橋本町共」

米沢城下東側の原方部分／1 鋪／4枚 (29.3×114.6) ／折畳装 (原装)・47.2×29.6、原装裏打／187.9×58.3／明和6年 (1769) 10月／楮紙／彩色あり、南北のみ端の折返しあり、方位書：東南北、袋墨書「諸奉公人屋敷絵図 花沢八町 山上三町橋本町共 南原五町 六十在家長手新田共」、城下絵図本体は市立米沢図書館が所蔵、No.1907に関連文書あり／235



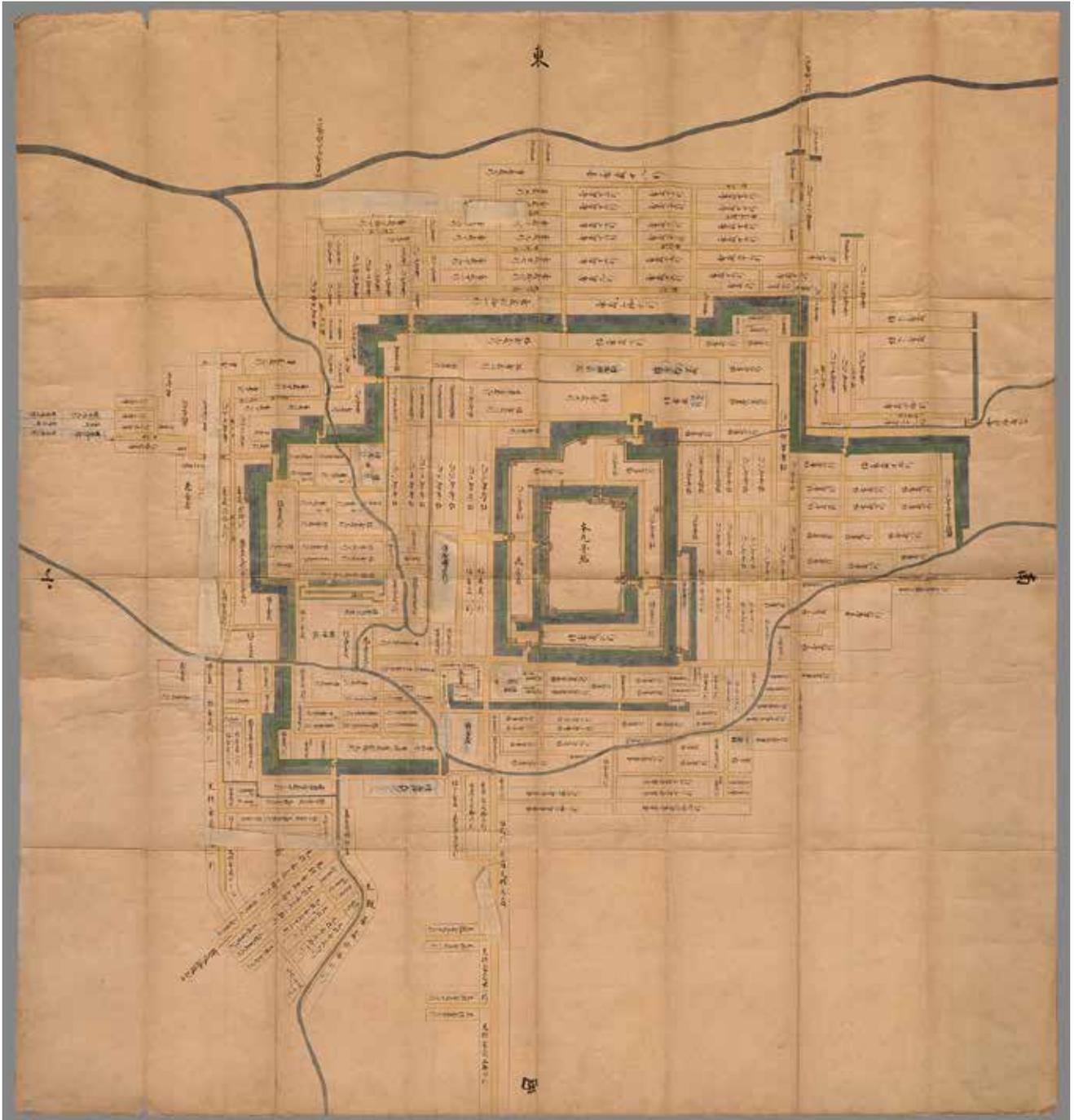
1884 「御城下絵図」

米沢城三の丸までの町割図／1 鋪／10枚 (36.5×93.0) ／現状は巻 (元は折疊装) ・23.1×46.7、原装裏打／185.8×188.6／明和6年 (1769) 10月／間似合紙／彩色あり、方位書：東西南北、袋墨書「嘉永五年より角之御蔵より預物」(58.1×34.1) ／235



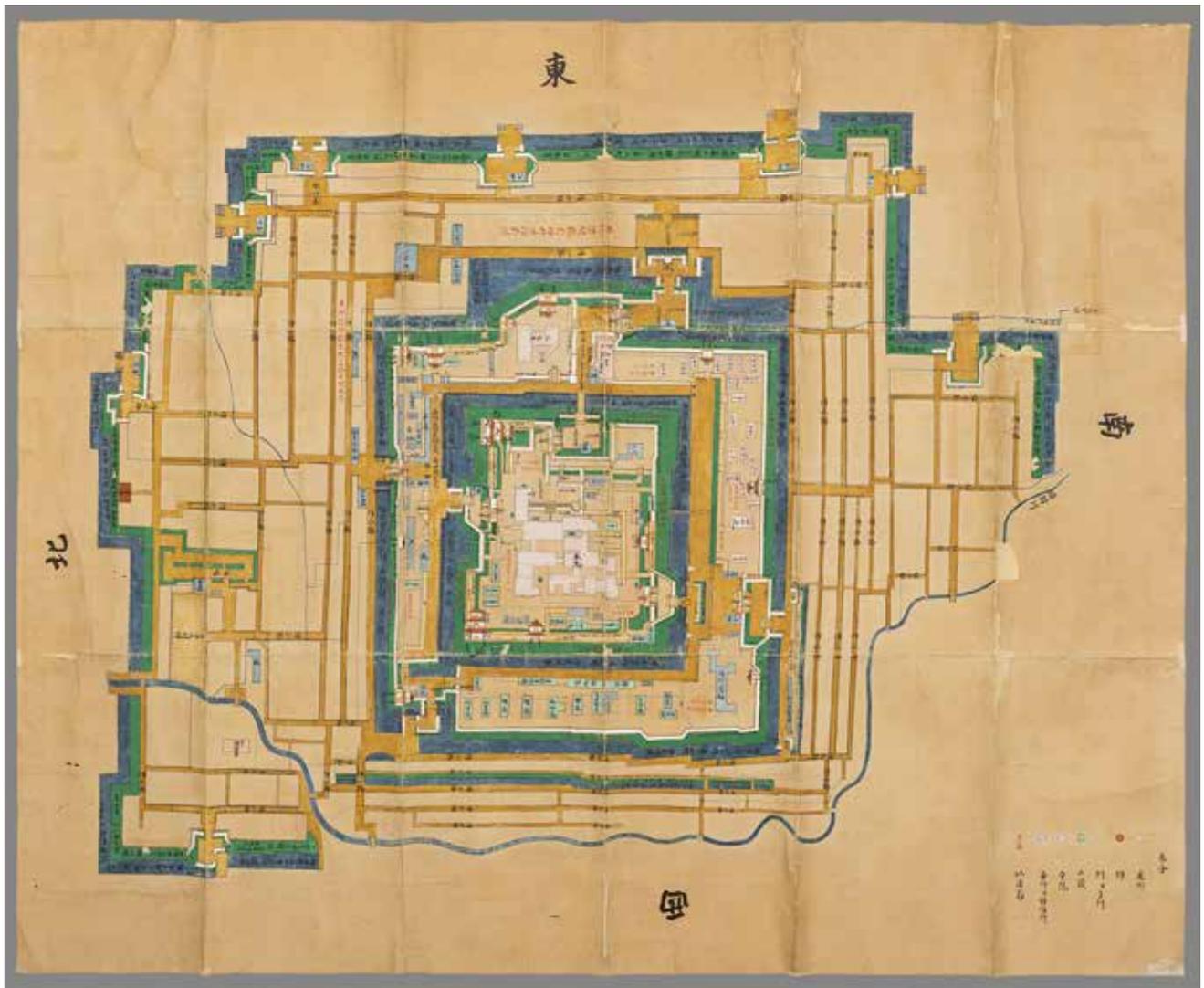
1873 米沢城下絵図

三の丸まで（西は館山口、東は極楽寺、北は北町、南は常安寺まで）の屋敷割／1鋪／35枚（33.4×49.5）／折畳装（原装）・50.2×46.0、原装裏打（一紙欠落）／279.0×200.8／江戸中期（年月日未詳）／鳥の子紙／彩色あり、方位書：東西南北、承応2年の注記があるが記載の住人名は享保10年に該当／235



1876 御城下絵図

町割図、正徳元年御堀浚御伺絵図の写し／1 鋪／10枚 (37.3×94.4)／現状は巻 (元は折疊装)・47.8×23.1、原装裏打／188.8×183.9／江戸中期 (年月日未詳)／作成経緯の裏書あり／間似合紙／岩瀬小右衛門／彩色あり、享保10年時点での訂正の貼紙、方位書：東西南北、袋墨書「享保七年御仕立御絵図、同拾年御目附御用ニ付、相改候写本ニ被成、但両御目附様御控ニ仕立被仰付差出之、公儀江者略絵図ニ付被差上之、御目附□御好ニ付而如此 に 御城下町割御絵図写本 岩瀬小右衛門」(53.8×35.0)／235



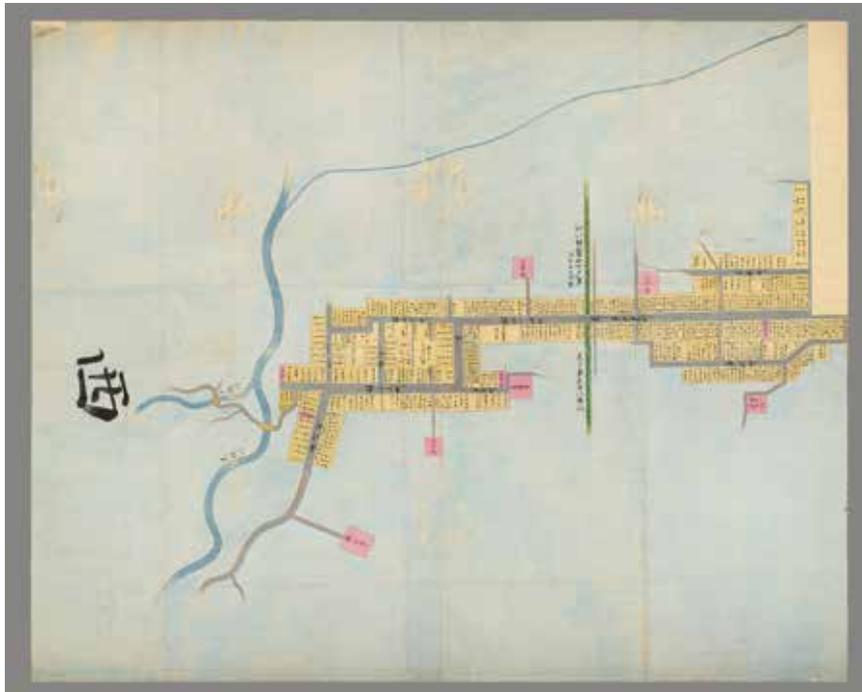
1881 米沢城下絵図

本丸・二の丸・三の丸の建屋の配置や一部の屋敷割／1 鋪／8枚 (38.1×72.2) ／現状は巻 (元は折畳装) ・40.3×24.6、原装裏打 (折跡に補強紙) ／118.6×144.4／江戸中期 (年月日未詳) ／鳥の子紙／岩瀬小右衛門／彩色あり、城郭施設の凡例あり、方位書：東西南北／235



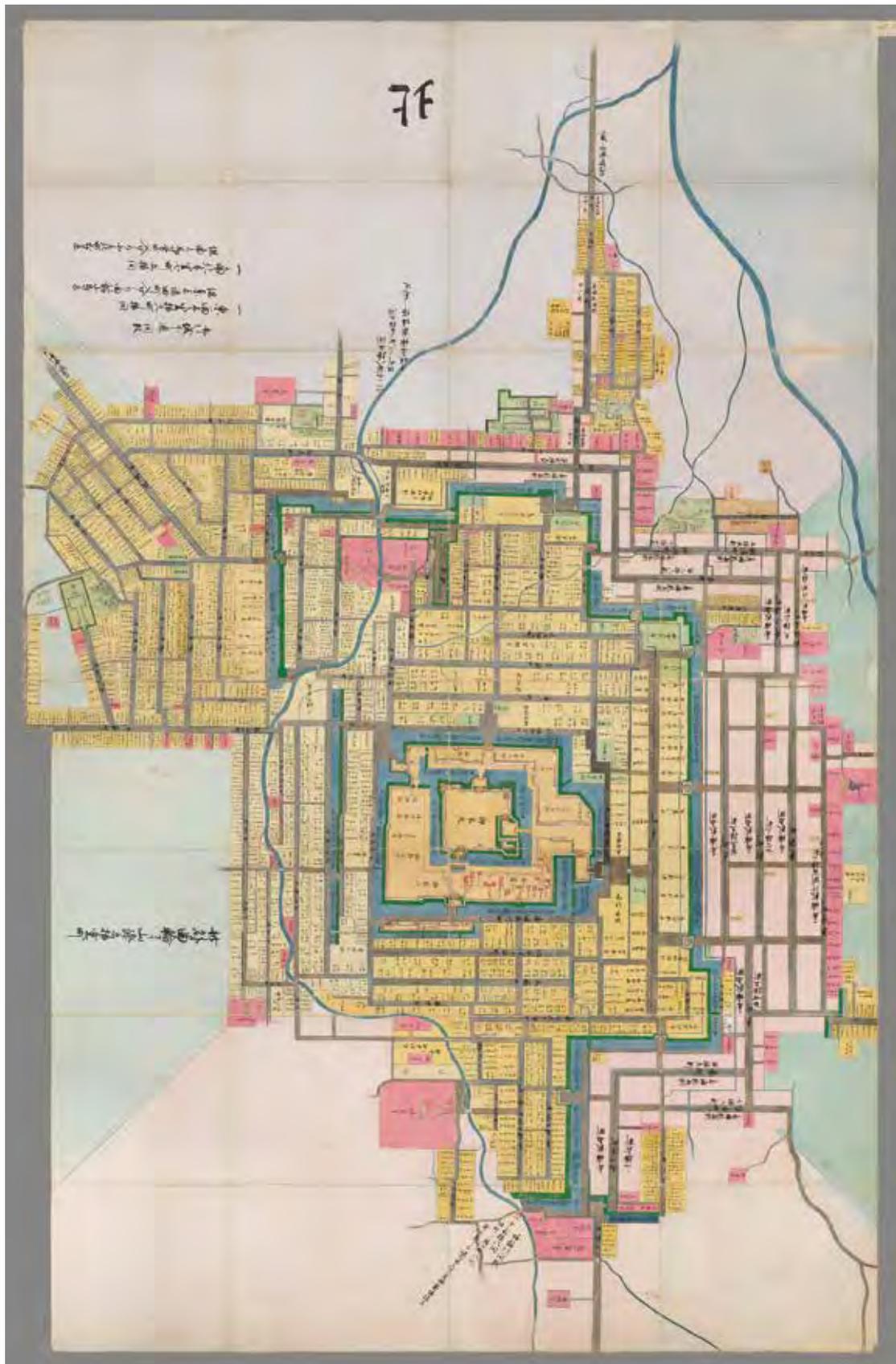
1885 「諸奉公人屋舗絵図 花沢 山上」

米沢城下東側の原方部分／1 鋪／10枚 (31.2×36.7) ／折畳装 (原装) ・ 35.8×25.1、後補裏打／70.6×148.8／文化8年 (1811) ／外題「諸奉公人屋敷絵図 花沢 山上 文化八年辛未御仕立」／楮紙／彩色あり、住人の後補貼紙あり、方位書：東、袋墨書「文化八年十月御仕立 御城下絵図 四枚 岩瀬三左衛門」(46.8×32.1)、No.1887に接続する／235



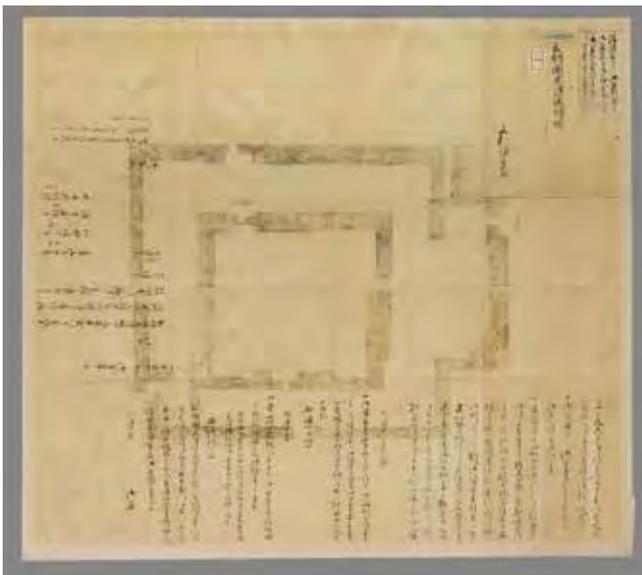
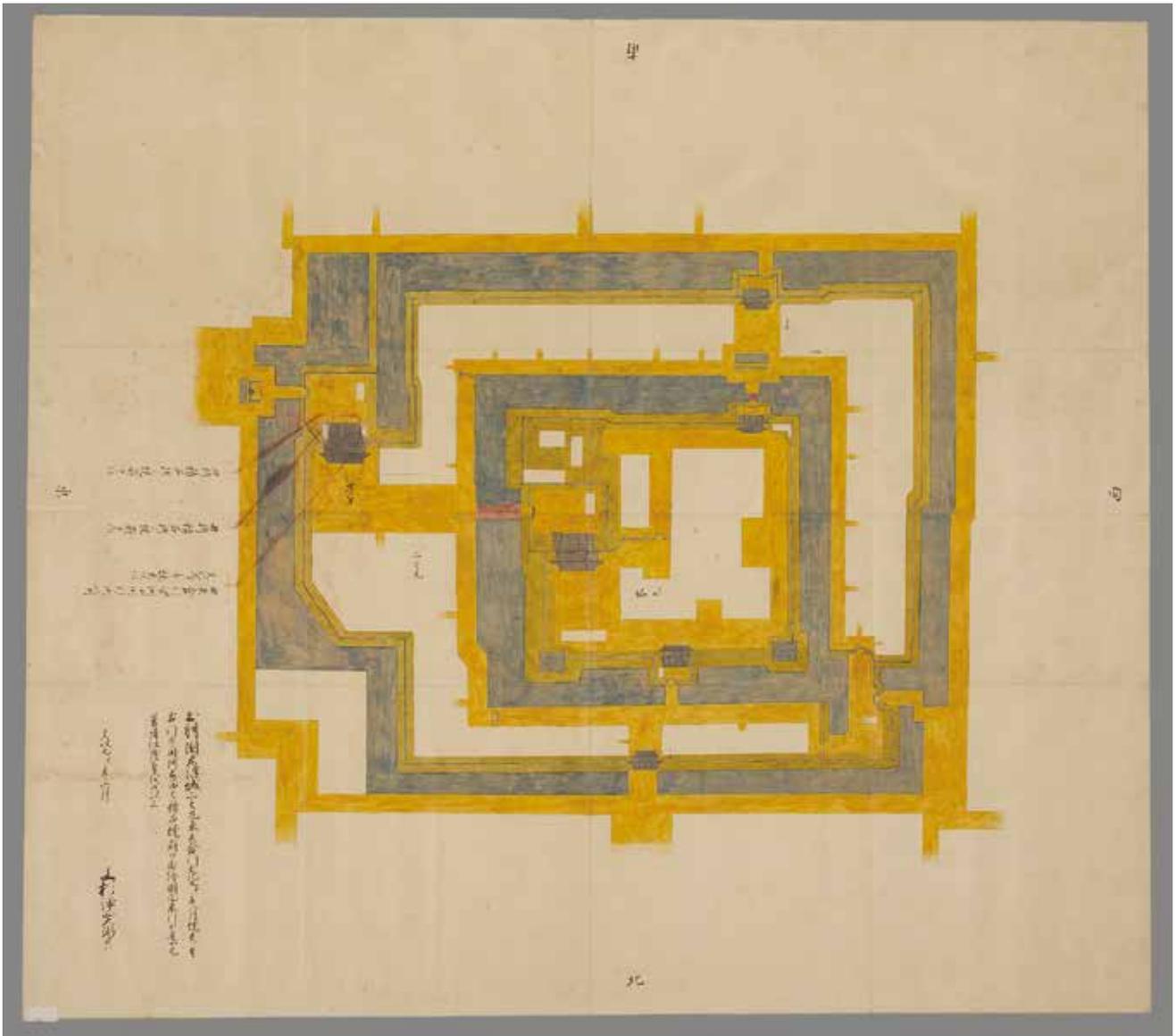
1886 「諸奉公人屋舗絵図 館山通」

米沢城下西側の原方部分／1 鋪／12枚 (31.2×39.3) ／折畳装 (原装) ・ 43.3×26.6、後補裏打／106.9×86.6／文化8年 (1811) ／外題「諸奉公人屋敷絵図 館山通 文化八年辛未御仕立」／楮紙／彩色あり、住人の後補貼紙あり、方位書：西、袋墨書「文化八年十月御仕立 御城下絵図 四枚 岩瀬三左衛門」(46.8×32.1)、No.1887に接続する／235



1887 「御城下絵図」

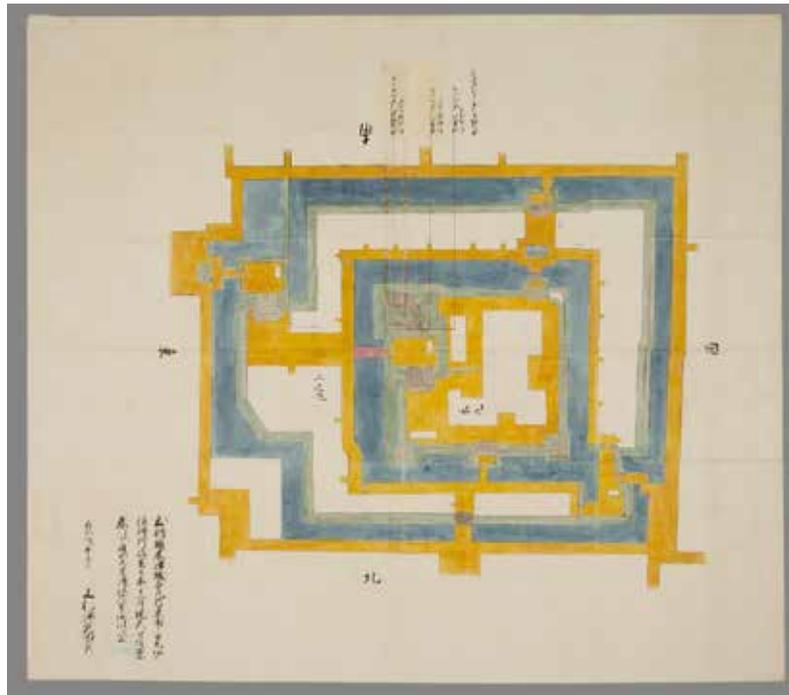
米沢城三の丸までの屋敷割／1 鋪／28枚 (31.7×39.7) ／現状は巻 (元は折畳装)・33.6×26.4、後補裏打／132.6×208.2／文化8年 (1811) ／楮紙／彩色あり、住人の後補貼紙あり、方位書：北、袋墨書「文化八年十月御仕立 御城下絵図 四枚 岩瀬三左衛門」(46.8×32.1) ／235



絵図裏面

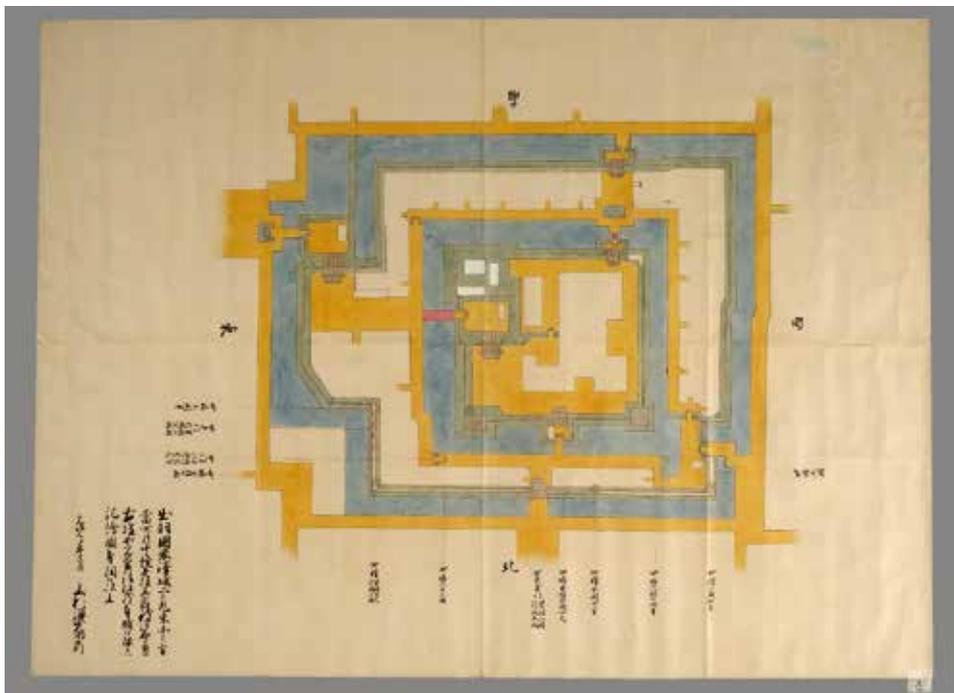
1828 「出羽国米沢城絵図」控

二の丸東櫓門焼失につき再建を幕府に願い出／1 鋪
／2枚 (40.0×88.3) ／現状は巻 (元は折畳装) ・
26.6×22.1、原装・後補裏打／78.9×88.3／文政元
年 (1818) 6月／幕府へ普請打診の経過及び老中奉
書写の裏書／間似合紙／上杉弾正大弼判／彩色あり、
道の角にへら跡あり、清書・内見図・控図に対する判
の有無に係る貼紙あり、方位書：東西南北、袋墨書「出
羽国米沢城絵図 三枚 上杉弾正大弼」(40.3×
24.2)、作成経緯および焼失・焼崩箇所に係る畠紙書
／234



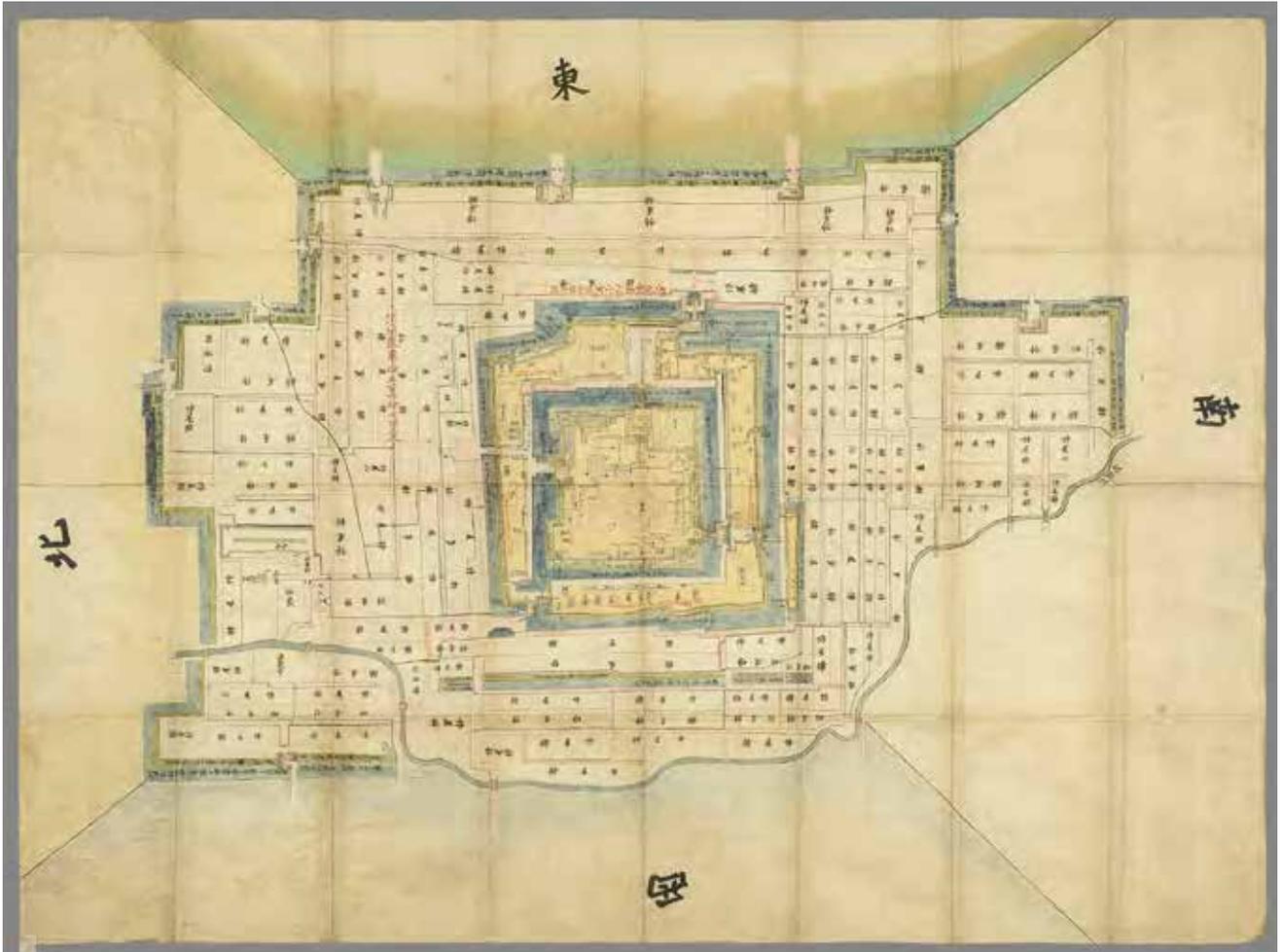
1829 「出羽国米沢城絵図」控

本丸内位牌所焼失につき再建を幕府に願い出／1鋪／2枚 (39.6×89.1)／現状は巻 (元は折畳装)・26.9×27.2、
 原装裏打／79.9×89.1／嘉永3年 (1850) 5月／外題「出羽国米沢城絵図」／間似合紙／上杉弾正大弼居判／彩色あり、
 焼失箇所を修正を示す貼紙あり、方位書：東西南北、袋墨書「出羽国米沢城絵図 三枚 上杉弾正大弼」(40.3×
 24.2)、作成経緯および焼失箇所に係る畚紙書あり／234



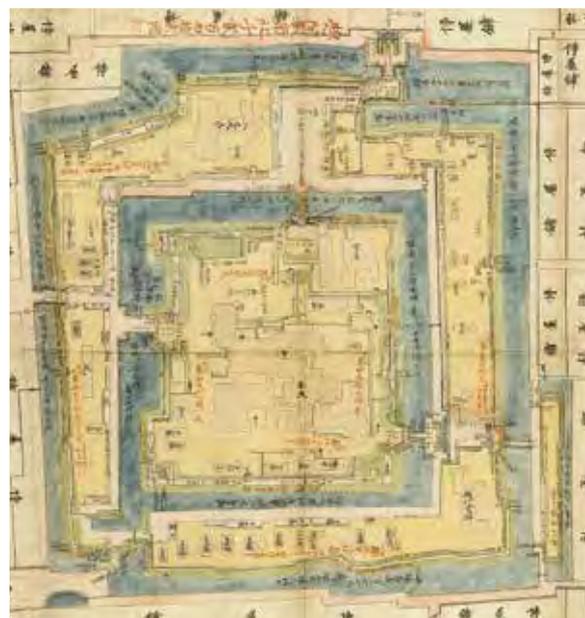
1830 「出羽国米沢城絵図」控

二の丸北東の普請仕様につき幕府に願い出／1鋪／4枚 (37.1×50.0)／現状は巻 (元は折畳装)・37.1×24.8、後
 補裏打／73.8×98.9／元治元年 (1864) 12月／外題「出羽国米沢城絵図」、貼紙「御国許御控分」／竹紙／上杉弾正
 大弼居判／彩色あり、方位書：東西南北、米沢城二の丸北東焼失につき普請仕りたき旨の畚紙書あり、袋墨書「出羽国
 米沢城絵図 三枚 上杉弾正大弼」(40.3×24.2)／234



1832 米沢城下絵図

米沢城三の丸までの堀・土居高・道幅などの間数書付／1 鋪／32枚 (26.4×38.4) ／現状は巻 (元は折疊装) ・38.4×25.8、原装裏打／153.4×205.4／江戸中期 (年月日未詳) ／楮紙／彩色あり、方位書：東西南北／234



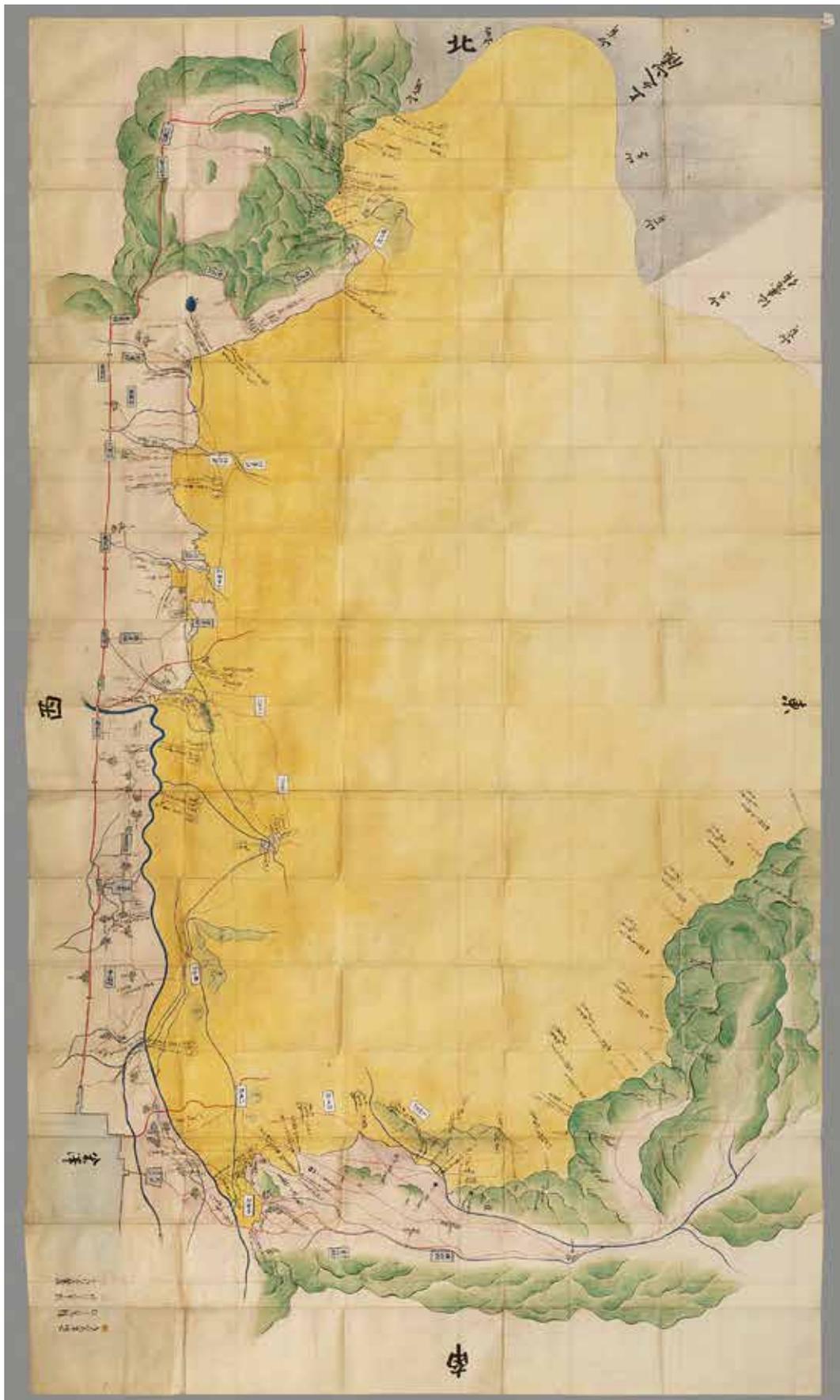
米沢城二の丸まで

領内絵図－藩境



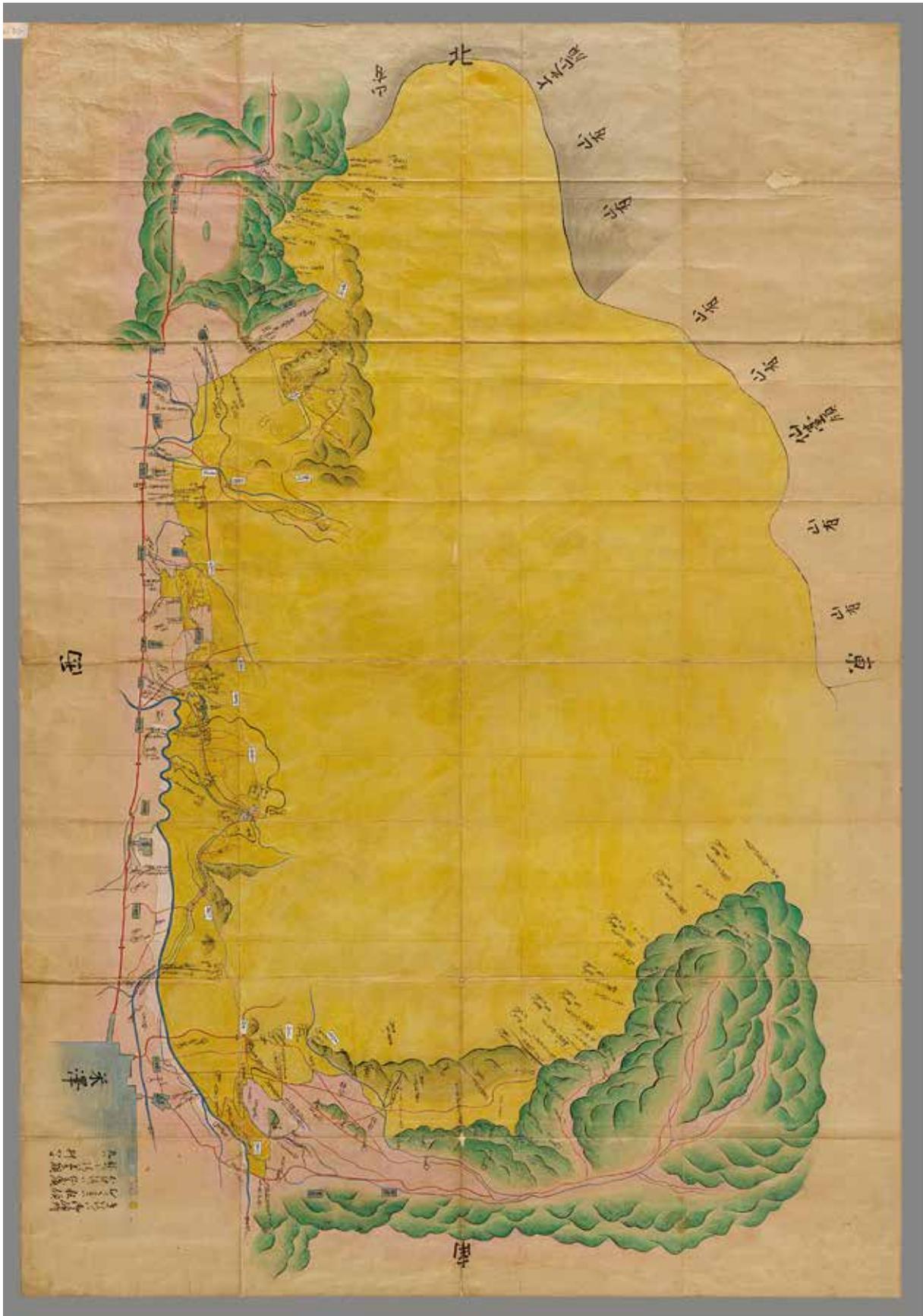
1781 伊達・信夫郡絵図（玉野絵図）

承応2～3年に信夫郡玉野村（米沢藩領）で起きた相馬藩との境争論につき／1 鋪／20枚（34.9×52.1）／現状は巻（元は折疊装）・41.5×24.3、後補裏打／168.2×199.2／（承応3年・1654 5月12日）／貼紙「此絵図面ハ元上杉家所有之図面ニ候也、明治十四年十月十三日、米沢士族岩瀬半兵衛（黒印）」／鳥の子紙／彩色あり、地名及び一里塚までの起点を示す貼紙・霊山の東側に貼紙「寛永八年仙台相馬当領相論之境」、方位書：東、袋墨書「玉野之絵図」（43.8×32.0）、貼紙1点剥離、No.0477に関連文書あり／233



1784 「御領御私領境御絵図」

幕府領の屋代郷と米沢藩領の境界につき／1 鋪／72枚 (30.4×44.0) ／折畳装 (原装) ・43.0×23.8、原装裏打、折目裏に補修紙貼付／369.0×210.0／元禄2年 (1689) 6月／外題「イ 元禄貳巳年六月 岩瀬小右衛門 御領御私領境御絵図」、岩瀬による作成過程の書留あり／楮紙／岩瀬小右衛門／彩色あり、領知別の凡例色分けあり、村境の肝煎の押印あり、方位書：東西南北／233



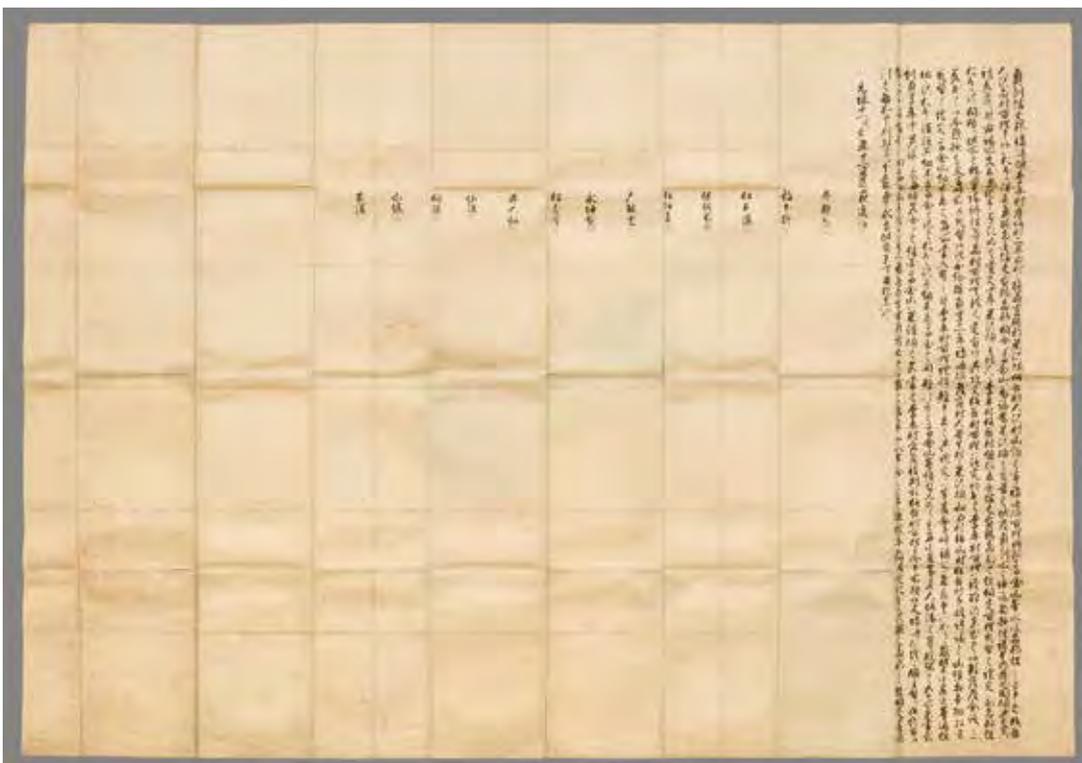
1799 「御領御私領境絵図控」

幕府領の屋代郷と米沢藩領の田地替訳関係の見取図、北西は小岩沢から南は梓山辺まで、原本には各村肝煎が加判／1鋪／14枚 (32.3×83.6) ／現状は巻 (元は折疊装) ・27.0×37.2、後補裏打／215.1×146.8／元禄2年 (1689) 11月5日／外題題箋「御領ト米沢領田地替訳之御絵図 但柘植殿江者此無判シテ相渡ト御土蔵江ハ双方印判之図入置 元禄貳年巳十一月五日 上杉弾正大弼内岩瀬小右衛門 御領御私領境御絵図控」／間似合紙／岩瀬小右衛門／彩色あり、端の折り返しあり、方位書：東西南北／233

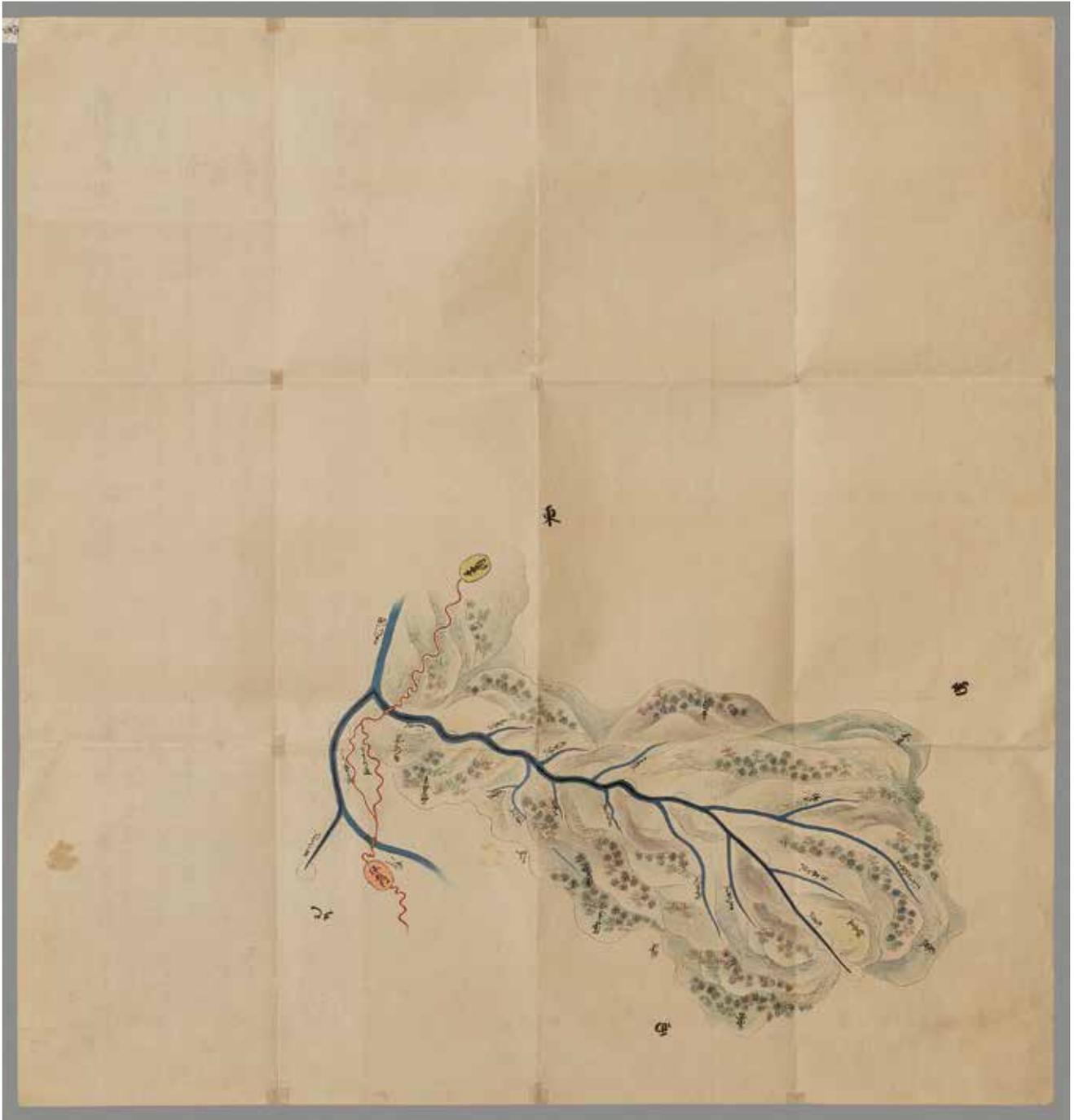


1807 幕府評定所裁許裏書絵図

米沢・福島間の境界裁許につき／1 鋪／36枚 (29.8×41.6) ／折畳装 (原装) ・47.0×28.2、裏打なし／175.4×249.5／元禄11年 (1698) 12月22日／裏書に幕府の判決文を記載／楮紙／荻近江 (黒印) 他13名／彩色あり、境界線上に幕府関係者14人の押印あり、方位書：東西南北、岩瀬家文書638と関連／234



裏面



裏面

1785 「御老中并諸奉行御下判御絵図写」

No.1807の写し／1 鋪／9枚 (36.7×51.2) ／折疊装 (原装)・
37.6×26.9、裏打なし／113.1×107.1／ (元禄11年・1698)
／幕府判決文および作成経緯に関する裏書、3cm幅の押罫あり
／鳥の子紙／萩近江印他13名／彩色あり、村境の肝煎の押印あり、
方位書：東西南北、折目裏に補修紙貼付／233

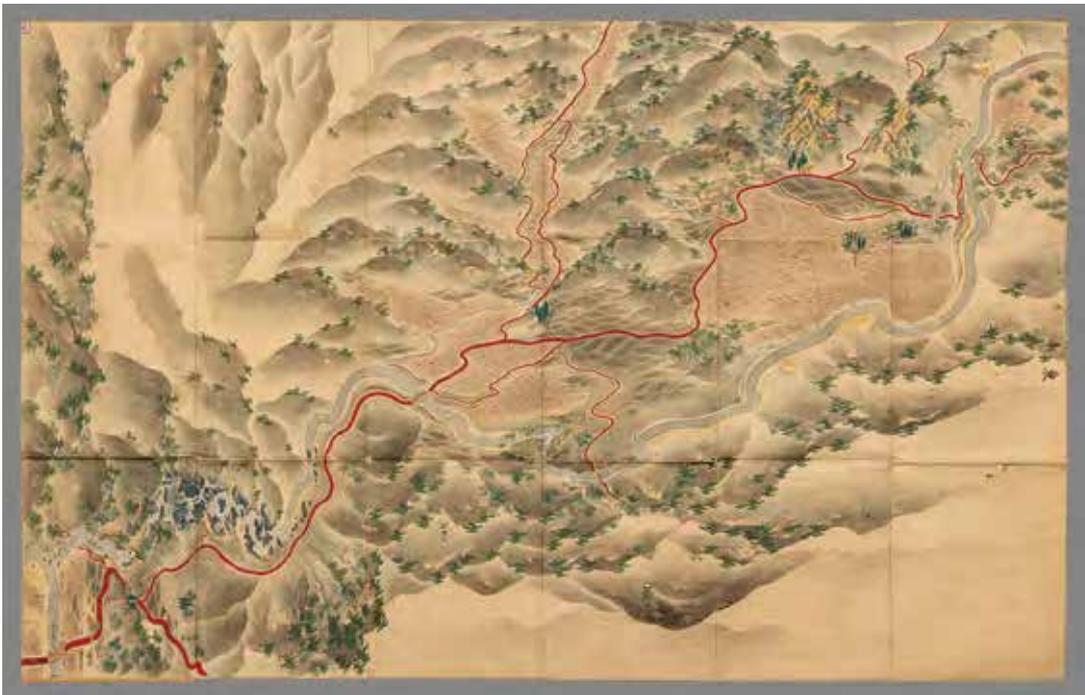
1806 御国境諸口絵図

御境勤の者が作成した明細絵図に不明瞭な箇所があるため、岩瀬左吉他2名が天明2年（1782）12月に御国境諸口絵図34点を改めて作成／34鋪／黄地原表紙、岩瀬家文書616号と関連／233



1806-01 「一 板谷口」

No.1806参照／1鋪／2枚（57.0×134.3）／折畳装（原装）・28.4×22.6、原装裏打／84.5×134.3／竹紙／彩色あり、合印1ヵ所あり、方位書：東／233



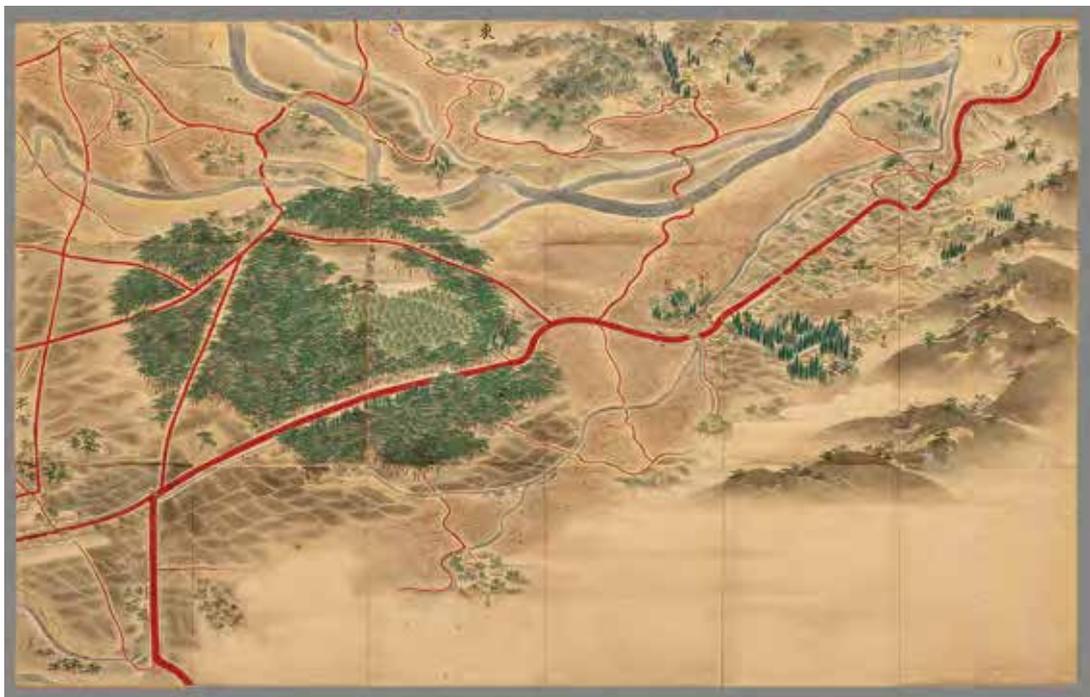
1806-02 「二 中荒井口」

No.1806参照／1鋪／2枚（56.9×134.1）／折畳装（原装）・28.9×22.6、原装裏打／85.3×134.1／竹紙／彩色あり、合印2ヵ所あり、方位書：東／233



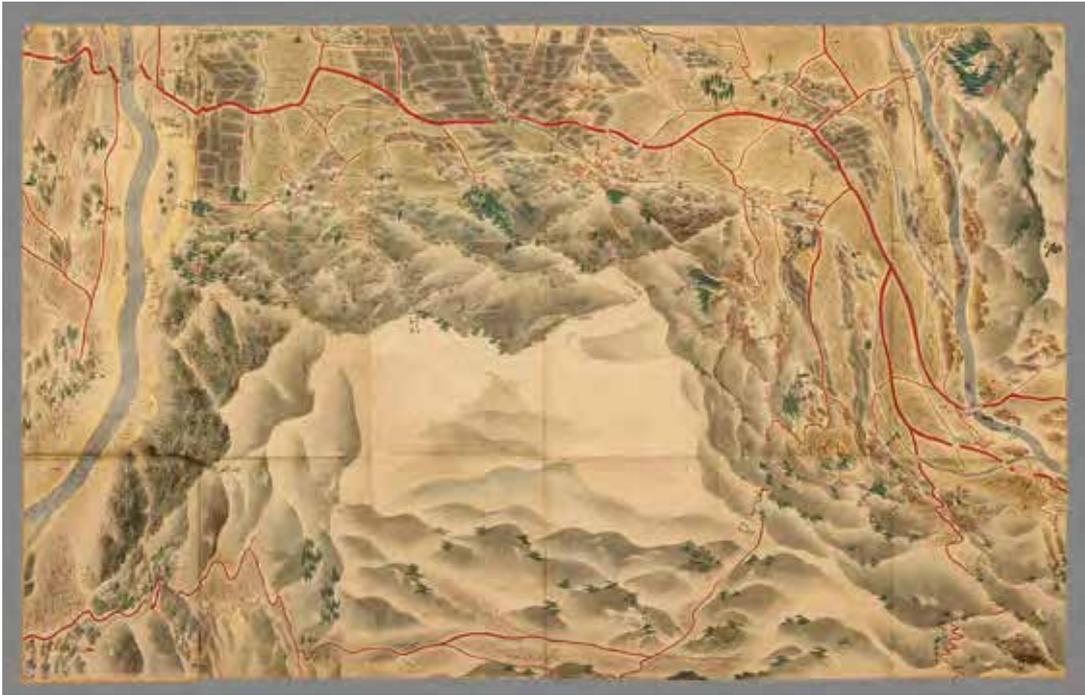
1806-03 「二ノ東 山上村ノ内赤浜刈安口」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (57.0×134.4) ／折畳装 (原装) ・29.0×22.5、原装裏打／85.4×134.4／竹紙／彩色あり、合印1ヵ所あり、方位書：東／233



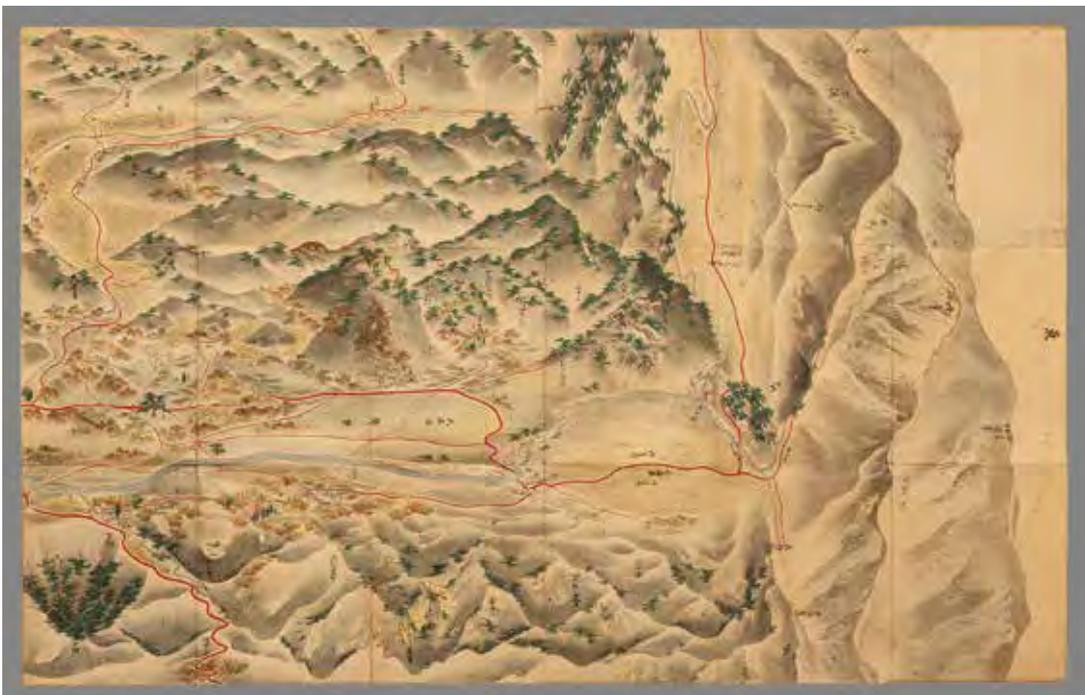
1806-04 「二ノ西 白旗松原通」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (56.3×134.3) ／折畳装 (原装) ・28.8×22.6、原装裏打／84.6×134.3／竹紙／彩色あり、合印1ヵ所あり、方位書：東／233



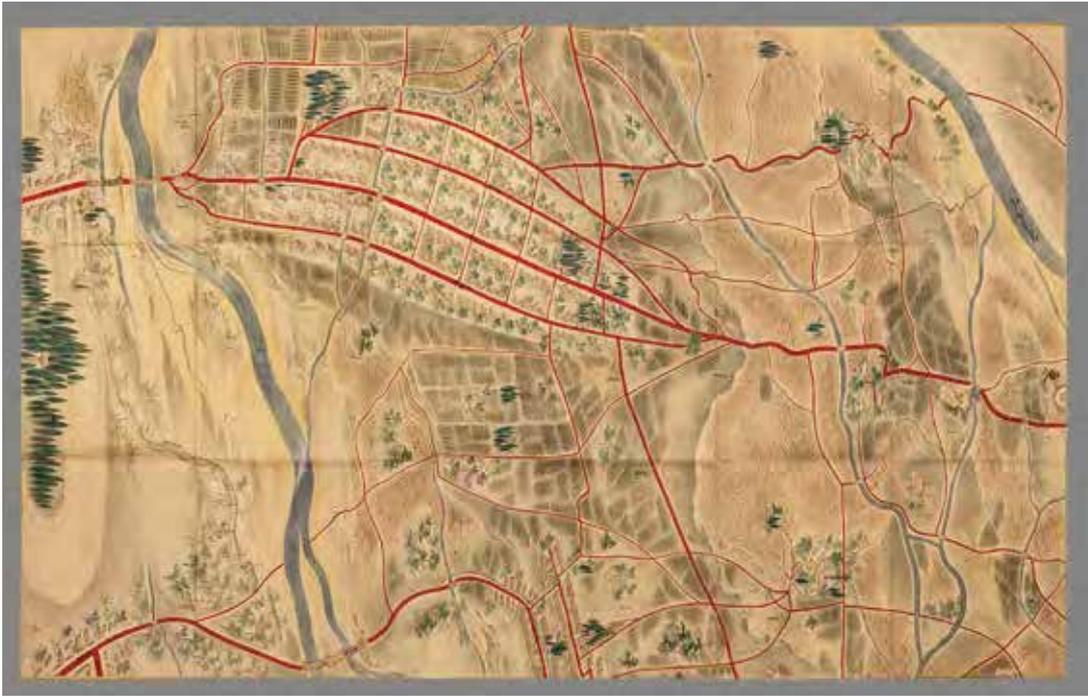
1806-05 「三 関那戸口 荒井口」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (57.2×134.3) ／折畳装 (原装) ・28.4×22.4、原装裏打／85.2×134.3／竹紙／彩色あり、合印2ヵ所あり、方位書：東／233



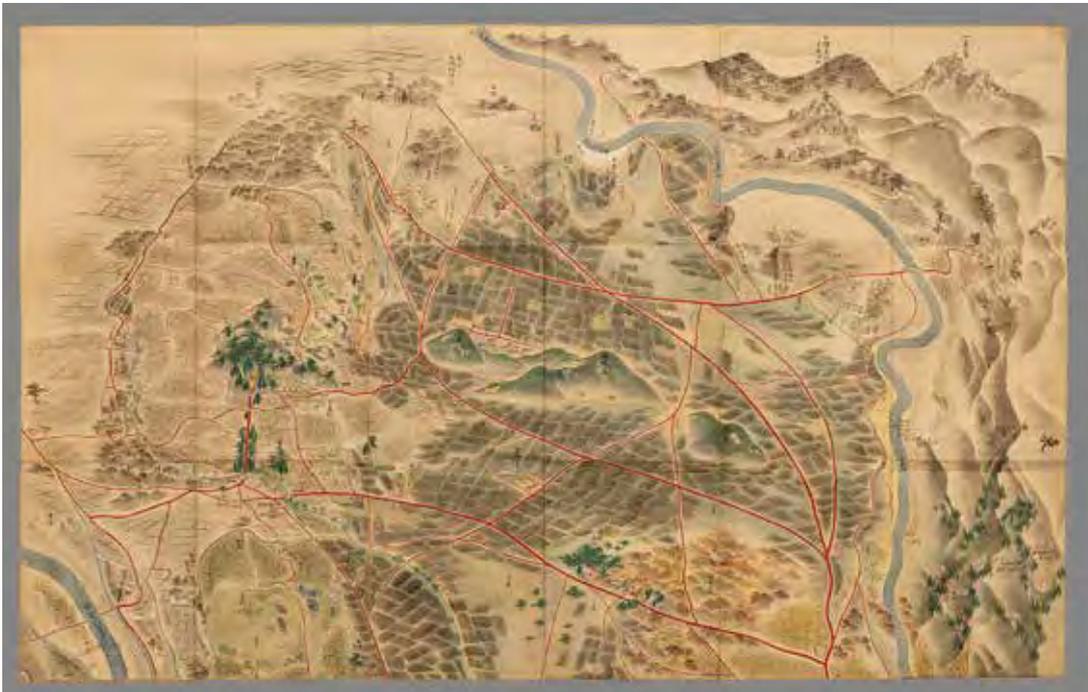
1806-06 「三ノ東 梓山村ノ内大石原」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (56.8×134.7) ／折畳装 (原装) ・28.6×22.3、原装裏打／85.6×134.7／竹紙／彩色あり、方位書：東／233



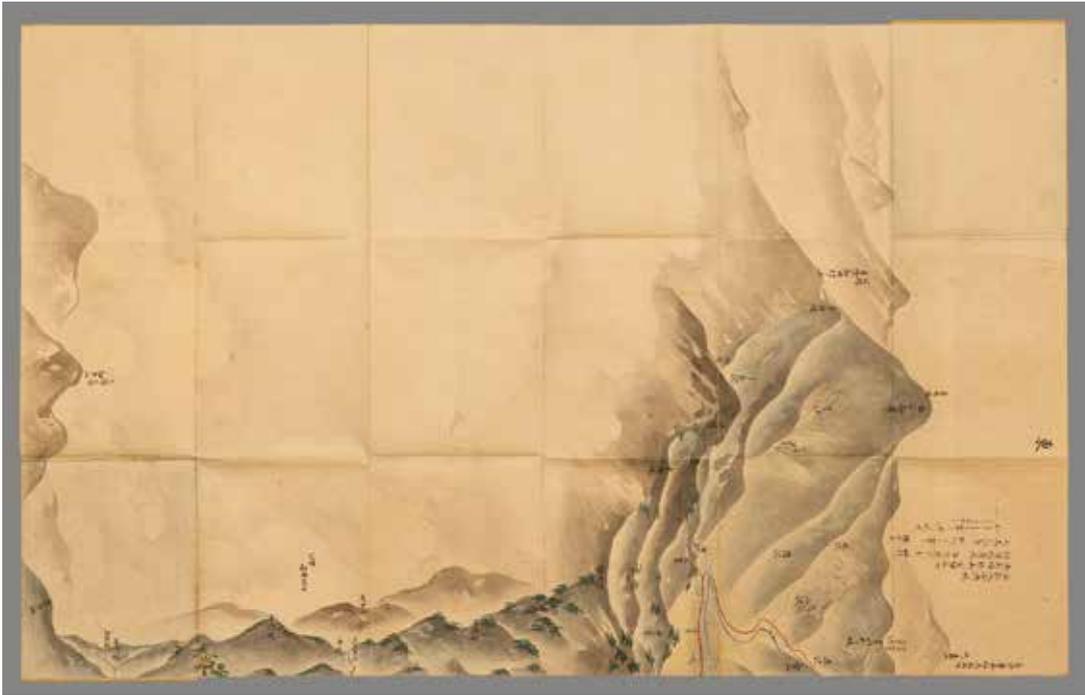
1806-07 「三四ノ東 上片子口 下片子口」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (56.1×134.4) ／折畳装 (原装) ・28.0×22.5、原装裏打／84.5×134.4／竹紙／彩色あり、合印1ヵ所あり、方位書：東／233



1806-08 「四 堂森村 牛森村」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (57.2×134.4) ／折畳装 (原装) ・27.8×22.4、原装裏打／84.6×134.4／竹紙／彩色あり、合印1ヵ所あり、方位書：東／233



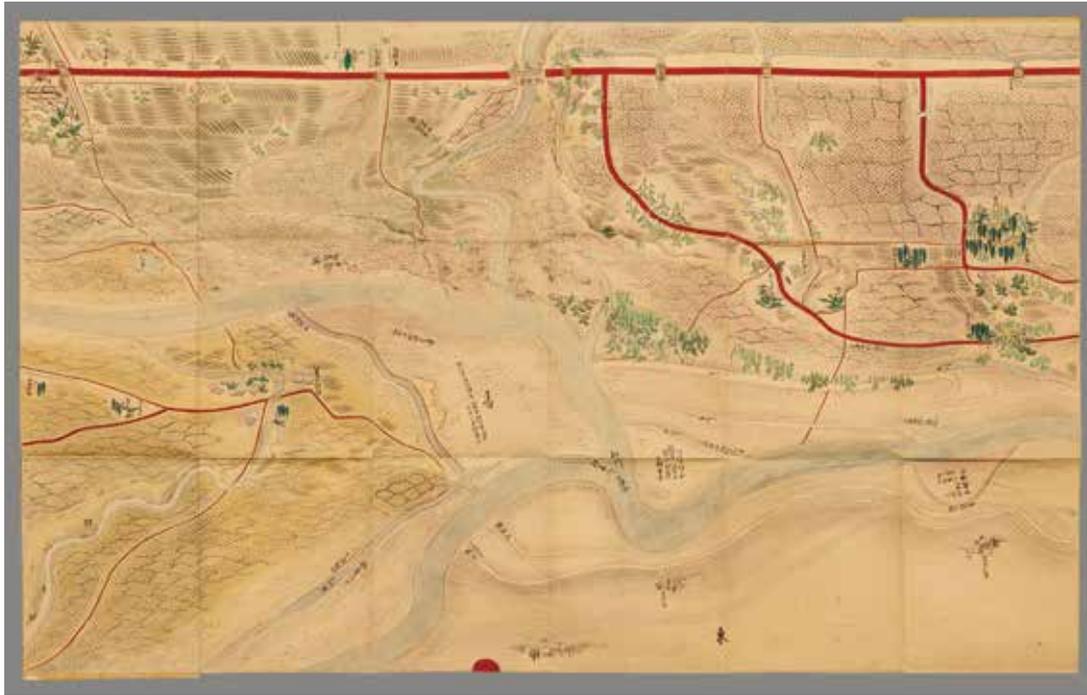
1806-09 「四ノ東 梓山村ノ内大笹生」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (57.2×134.6) ／折畳装 (原装) ・28.3×22.4、原装裏打／84.7×134.6／竹紙／彩色あり、方位書：東／233



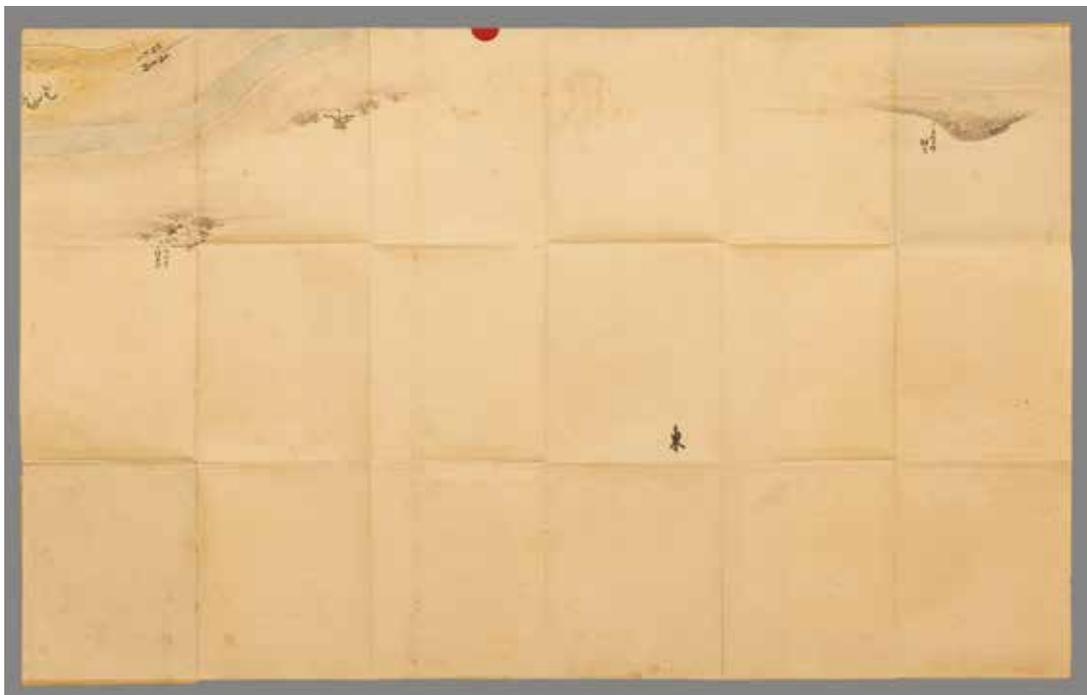
1806-10 「五 新洞台口 鉄砲町口 花沢口」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (54.7×133.0) ／折畳装 (原装) ・27.5×22.0、原装裏打／82.1×133.0／竹紙／彩色あり／233



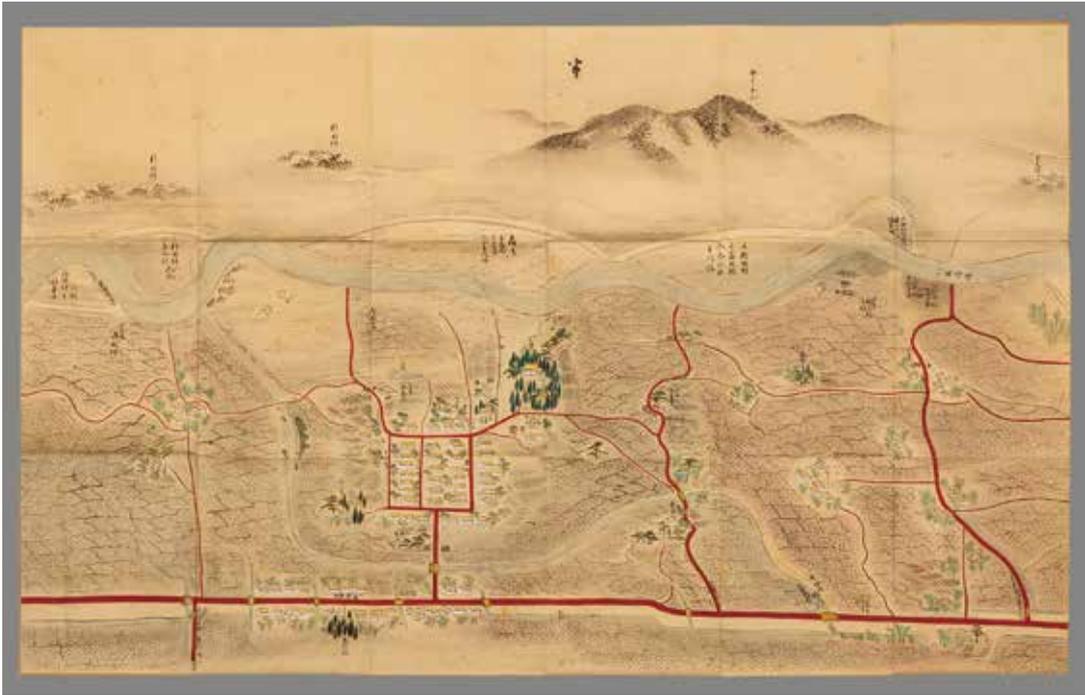
1806-11 「六 八木橋口 芦附口」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (55.7×132.8) ／折畳装 (原装) ・27.8×22.3、原装裏打／83.2×132.6／竹紙／彩色あり、合印1ヵ所あり、方位書：東／233



1806-12 「六ノ東 八木橋 芦附 副」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (55.1×131.6) ／折畳装 (原装) ・27.6×22.0、原装裏打／82.6×131.6／竹紙／彩色あり、合印1ヵ所あり、方位書：東／233



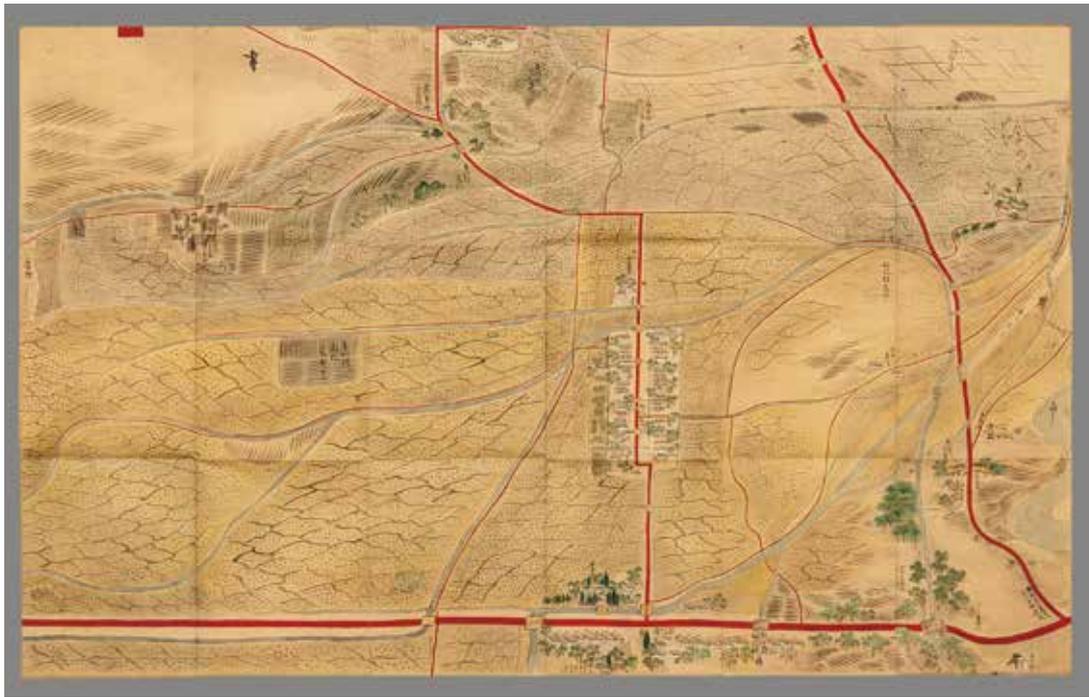
1806-13 「七 一本松口 上窪田町 并穀留番所」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (55.3×132.0) ／折畳装 (原装) ・27.3×22.2、原装裏打／81.8×132.0／竹紙／彩色あり、合印2ヵ所あり、方位書：東／233



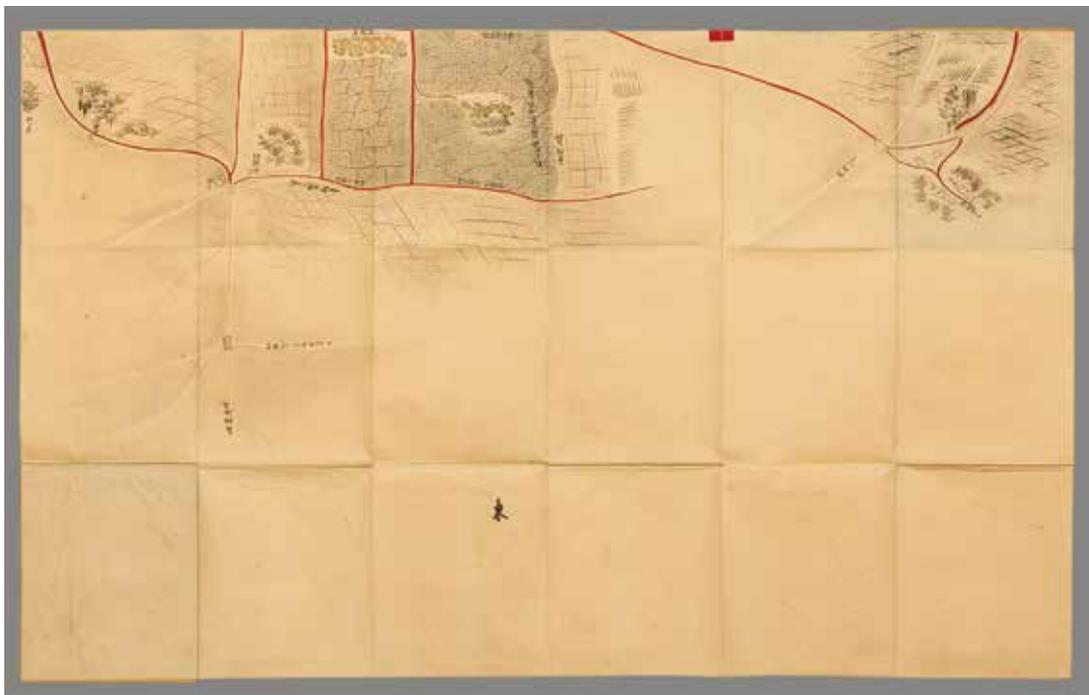
1806-14 「八 戸ノ内口 下窪田口 并穀留番所」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (54.7×132.3) ／折畳装 (原装) ・27.7×21.4、原装裏打／82.5×132.3／竹紙／彩色あり／233



1806-15 「九 糠野目口 福沢口 并穀留番所」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (56.3×133.3) ／折畳装 (原装) ・27.1×22.2、原装裏打／83.0×133.3／竹紙／彩色あり、合印1ヵ所あり、方位書：東／233



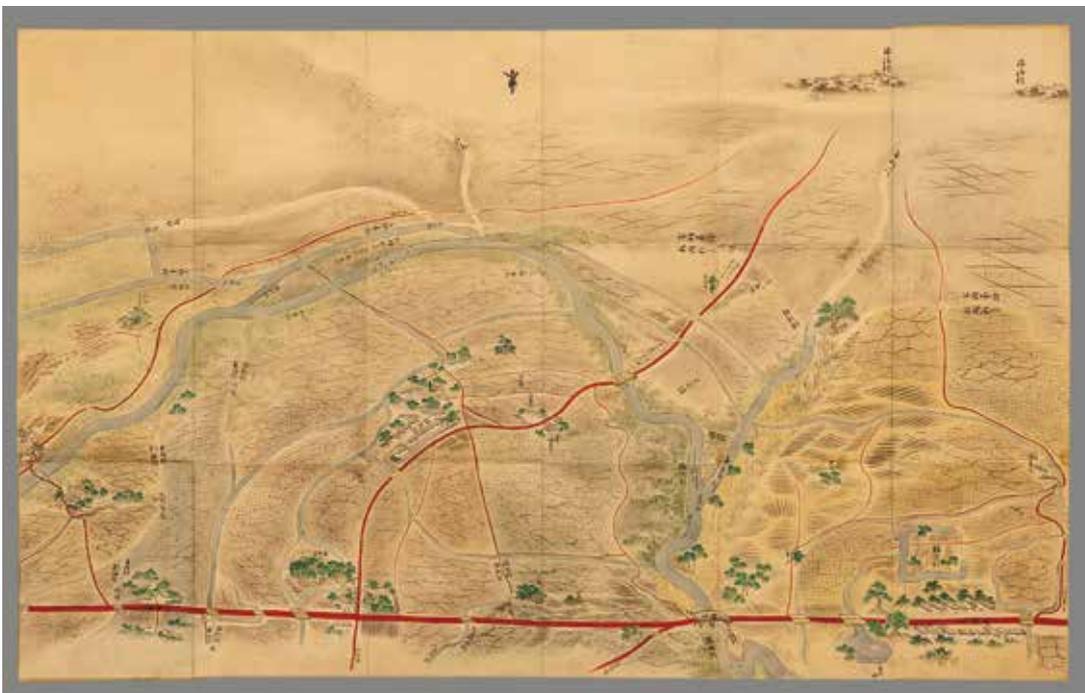
1806-16 「九ノ東 山崎村」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (55.2×133.8) ／折畳装 (原装) ・27.7×22.4、原装裏打／82.7×133.8／竹紙／彩色あり、合印1ヵ所あり、方位書：東／233



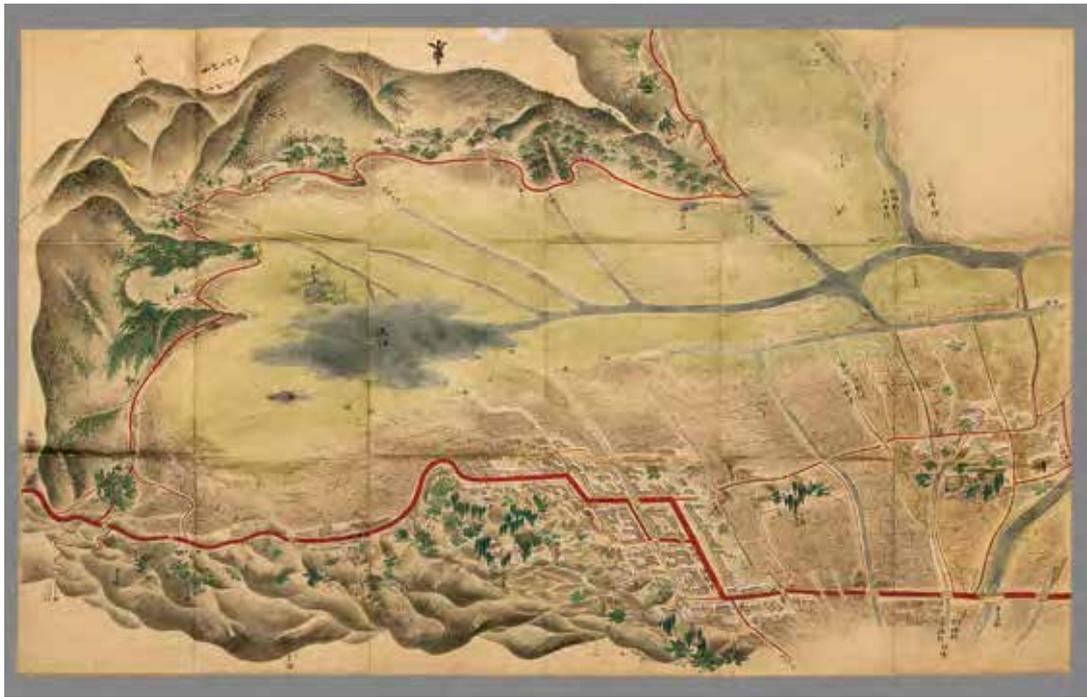
1806-17 「十 筑茂村」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (56.2×134.5) ／折畳装 (原装) ・27.9×22.3、原装裏打／83.7×134.5／竹紙／彩色あり、方位書：東／233



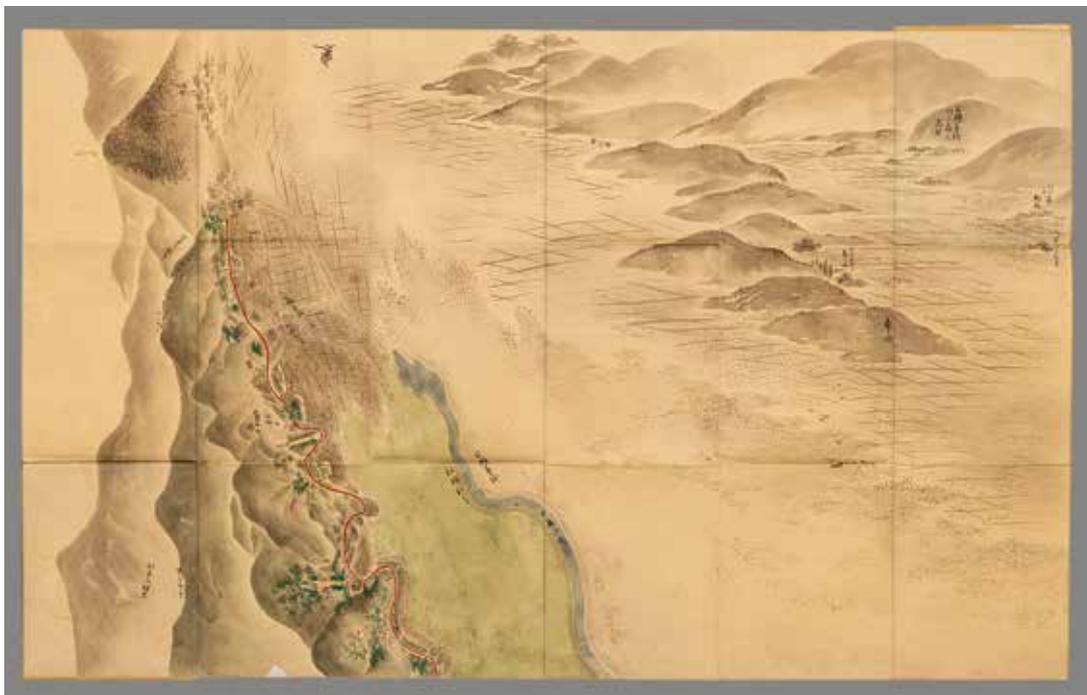
1806-18 「十一 大橋口 粗柳口 櫛塚口」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (54.8×134.5) ／折畳装 (原装) ・28.0×22.5、原装・後補裏打、南北に一部裁断／83.5×134.6／竹紙／彩色あり、方位書：東／233



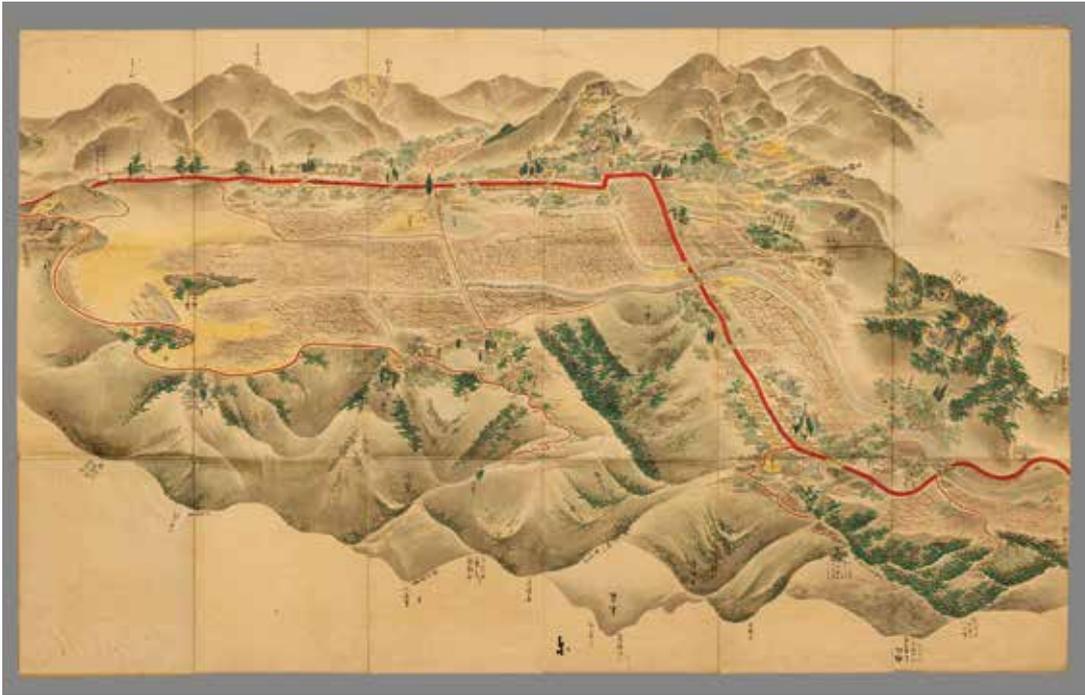
1806-19 「十二 十分一口」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (55.4×134.8) ／折畳装 (原装) ・28.0×22.5、原装・後補裏打、南東に一部裁断／83.5×134.8／竹紙／彩色あり、方位書：東／233



1806-20 「十二ノ東 松澤村」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (55.7×134.6) ／折畳装 (原装) ・28.2×22.4、原装裏打、東西南に一部裁断／84.0×134.6／竹紙／彩色あり、方位書：東／233



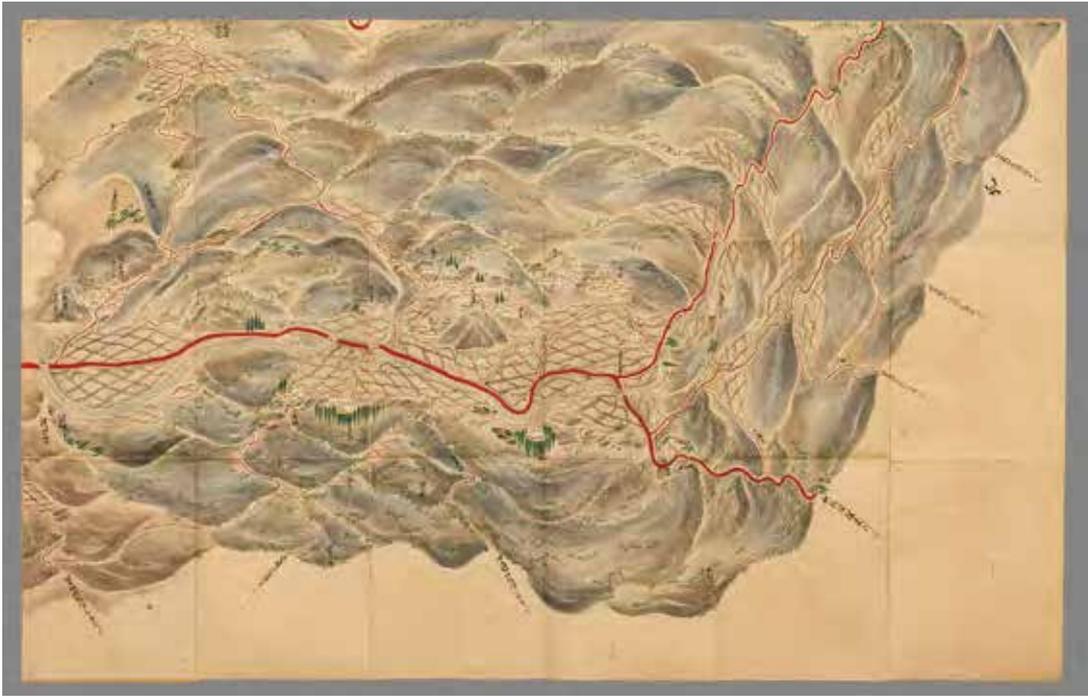
1806-21 「十三 大洞口」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (55.0×133.9) ／折畳装 (原装)・27.8×22.2、原装・後補裏打、南北に一部裁断／83.0×133.9／竹紙／彩色あり、方位書：東／233



1806-22 「十四 中山口」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (55.5×134.3) ／折畳装 (原装)・27.7×22.3、原装裏打、南北に一部裁断／83.4×134.3／竹紙／彩色あり、方位書：東／233



1806-23 「十五 小滝口」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (57.5×134.2) ／折畳装 (原装) ・28.7×22.3、原装裏打／85.5×134.2／竹紙／彩色あり、合印1ヵ所あり、方位書：北／233



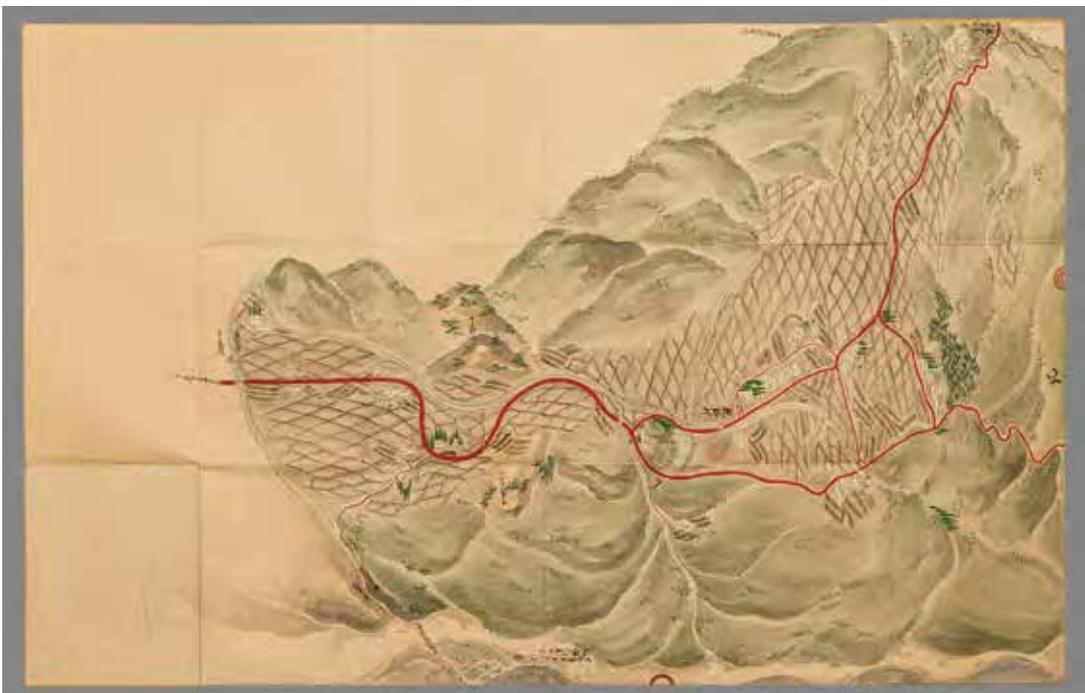
1806-24 「十五南 金山番所」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (57.2×134.4) ／折畳装 (原装) ・28.5×22.4、原装裏打、東南北に一部裁断／84.8×134.4／竹紙／彩色あり、合印1ヵ所、蟲紙書「此三ヶ村共ニ御番所無御座候得共敷道所々ニ御座候故、川ノ東通斗町間相詰、大図ニ相記申候、但川ノ西略申候」、方位書：東／233



1806-25 「十六 萩野口 田尻番所」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (56.8×134.8) ／折畳装 (原装) ・28.5×22.4、原装裏打、東西南北に一部裁断／85.5×134.8／竹紙／彩色あり、合印1ヵ所あり、並松の記載あり、方位書：北／233



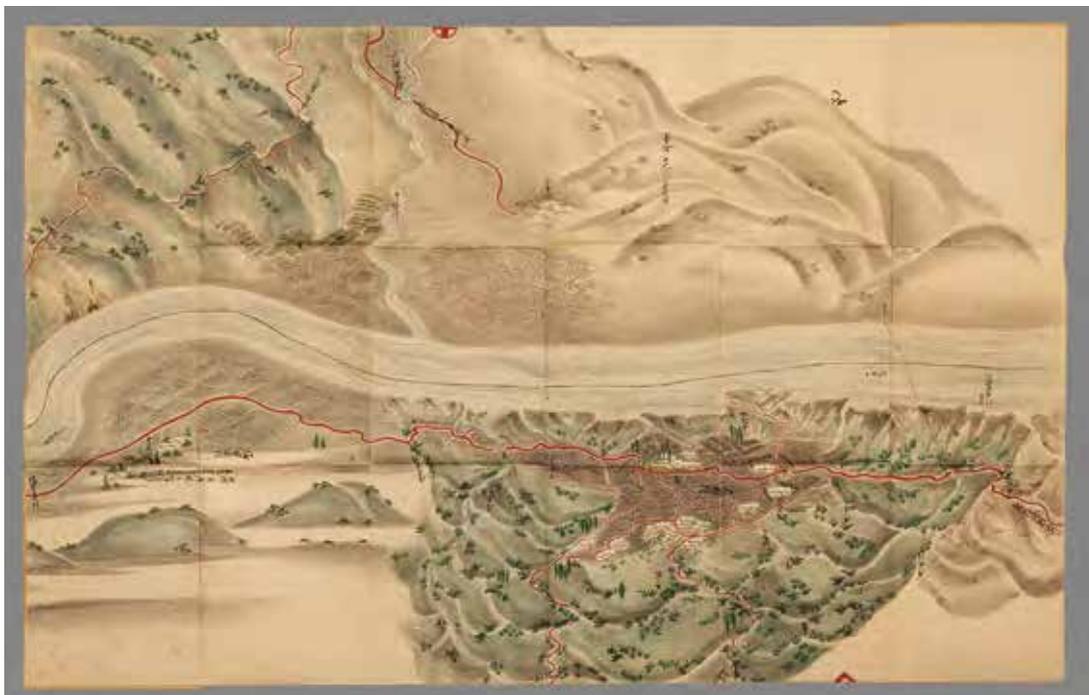
1806-26 「十六南 滝野穀留番所」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (57.2×134.0) ／折畳装 (原装) ・28.5×22.4、原装裏打／85.9×134.0／竹紙／彩色あり、合印1ヵ所あり、方位書：北／233



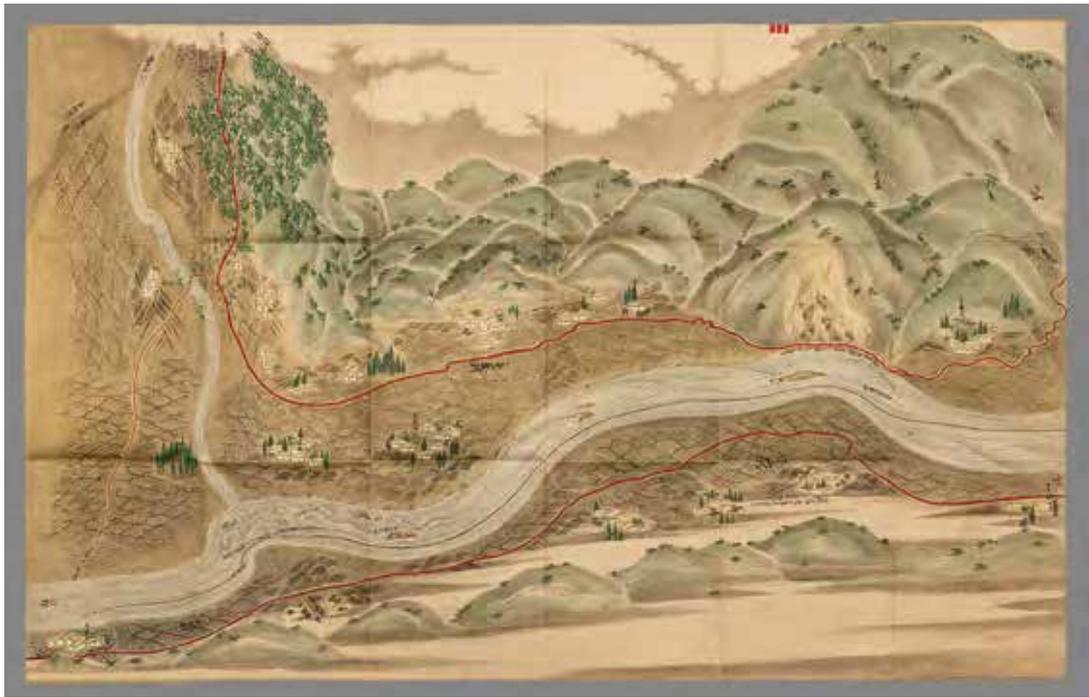
1806-27 「十七 平田番所」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (56.8×135.0) ／折畳装 (原装) ・28.4×22.4、原装裏打／84.6×135.0／竹紙／彩色あり、合印1ヵ所あり、方位書：北／233



1806-28 「十八 大瀬口」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (57.3×134.7) ／折畳装 (原装) ・28.7×22.4、原装裏打、東西南北に一部裁断／85.8×134.7) ／竹紙／彩色あり、合印2ヵ所あり、方位書：北／233



1806-29 「十八南 高岡番所 菖蒲御陣屋」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (57.5×134.3) ／折畳装 (原装) ・28.3×22.4、原装裏打、東西南北に一部裁断／85.2
×134.3／竹紙／彩色あり、合印1ヵ所あり、方位書：北／233



1806-30 「十九 栃窪口」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (57.7×133.7) ／折畳装 (原装) ・27.5×22.6、原装裏打、東西南北に一部裁断／85.9
×133.7／竹紙／彩色あり、合印3ヵ所あり、方位書：北／233



1806-31 「二十 黒鴨口」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (57.0×134.6) ／折畳装 (原装)・28.5×22.4、原装裏打、南東に一部裁断／84.5×134.3／竹紙／彩色あり、合印2ヵ所あり、方位書：北／233



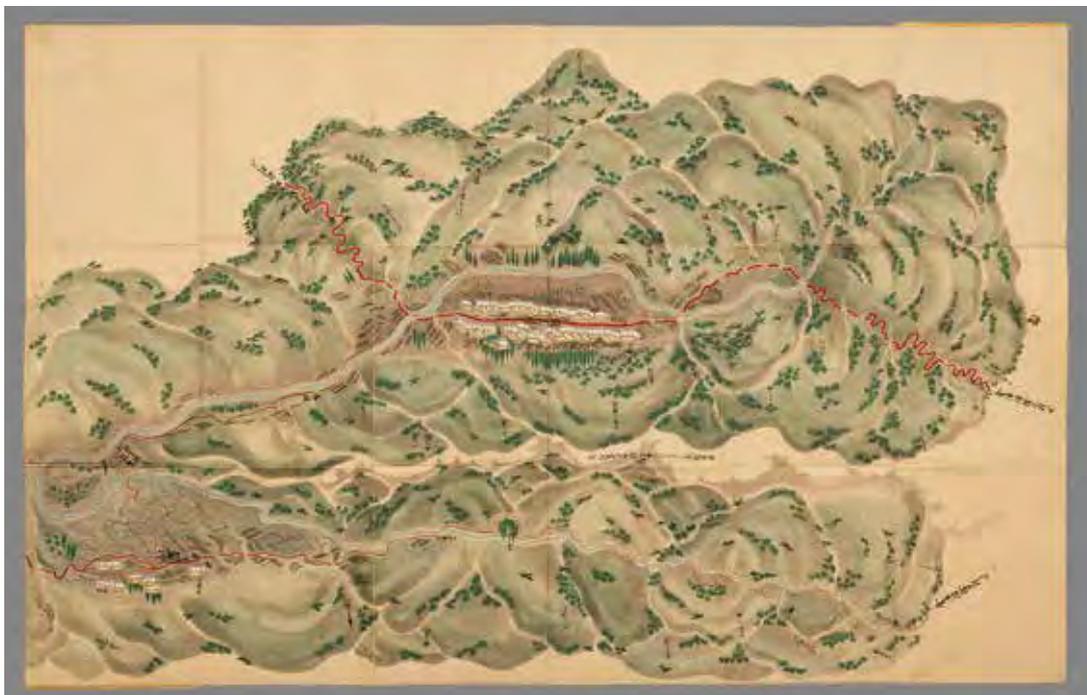
1806-32 「二十一 蓬生戸口 折戸口」

No.1806参照／1 鋪／2枚 (57.2×133.7) ／折畳装 (原装)・28.5×22.2、原装裏打、東西南に一部裁断／85.1×133.7／竹紙／彩色あり、方位書：北／233



1806-33 「二十二 玉川口」

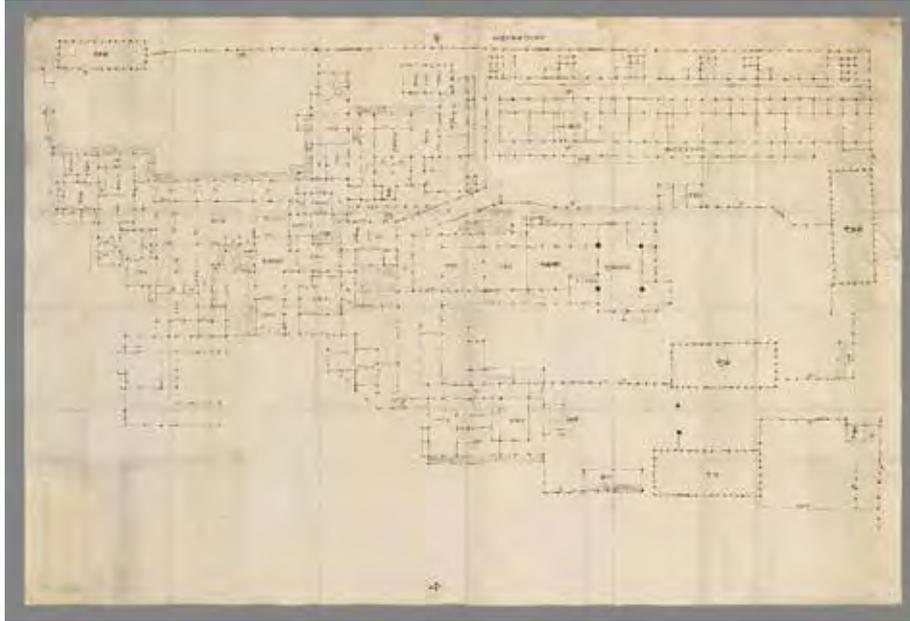
No.1806参照／1 鋪／2枚 (56.7×134.4) ／折畳装 (原装)・28.5×22.4、原装裏打、北に一部裁断／84.9×134.4
／竹紙／彩色あり、方位書：西／233



1806-34 「二十三 綱木口 鳥川番所」

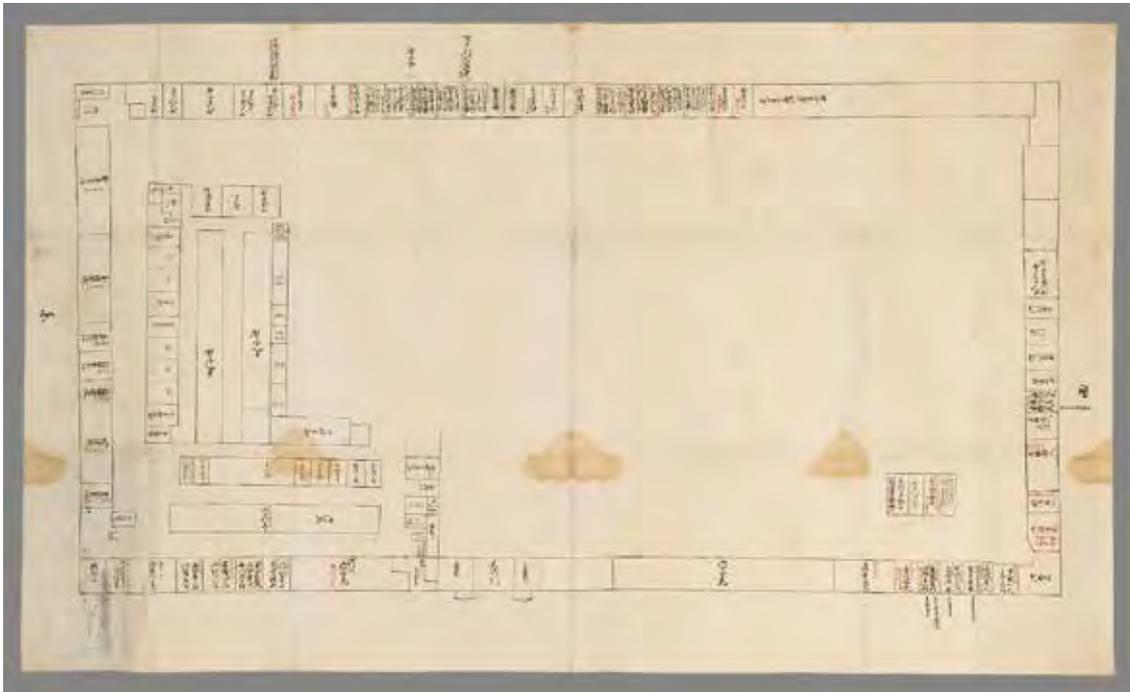
No.1806参照／1 鋪／2枚 (56.8×134.5) ／折畳装 (原装)・28.7×22.5、原装裏打、北に一部裁断／85.8×134.5
／竹紙／彩色あり、方位書：南／233

指図－御殿絵図－江戸上屋敷（桜田邸）



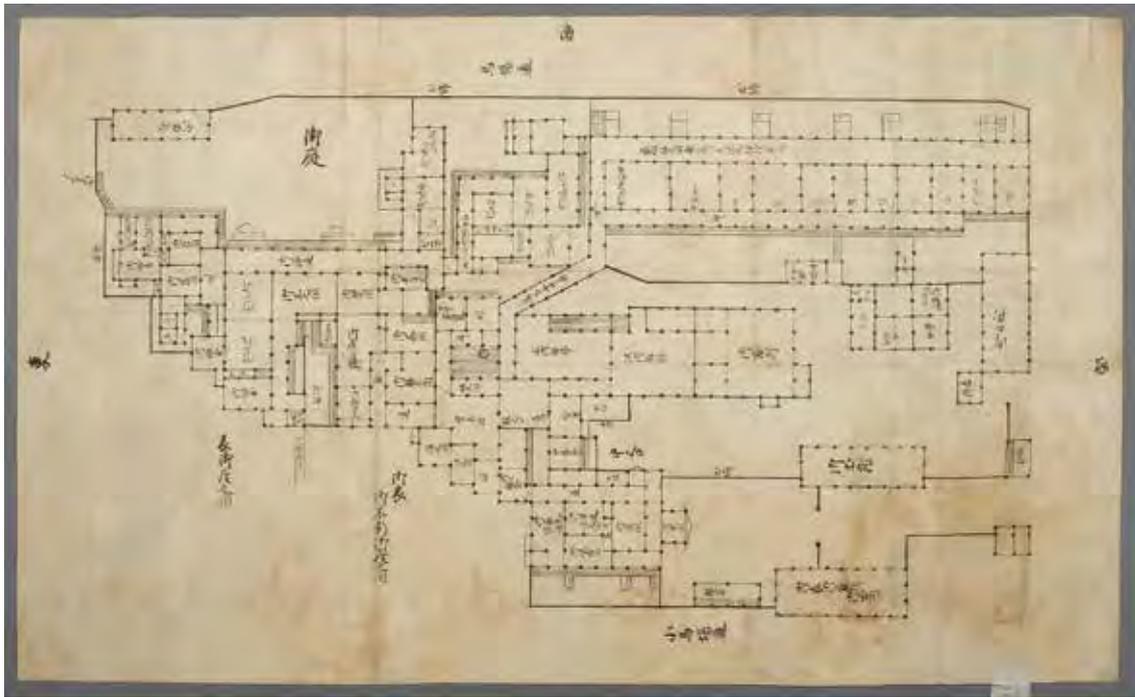
1848 「桜田御屋敷御前様御殿之図」

5代藩主上杉吉憲期の桜田屋敷奥向きの指図／1 鋪／21枚（30.4×41.7）／現状は巻（元は折畳装）・47.5×31.1、後補裏打／183.0×123.7／享保15年（1730）8月吉日／外題「桜田御屋敷御前様御殿之図」／楮紙／方位書：南北、罫紙書「享保十五年八月吉日」／234



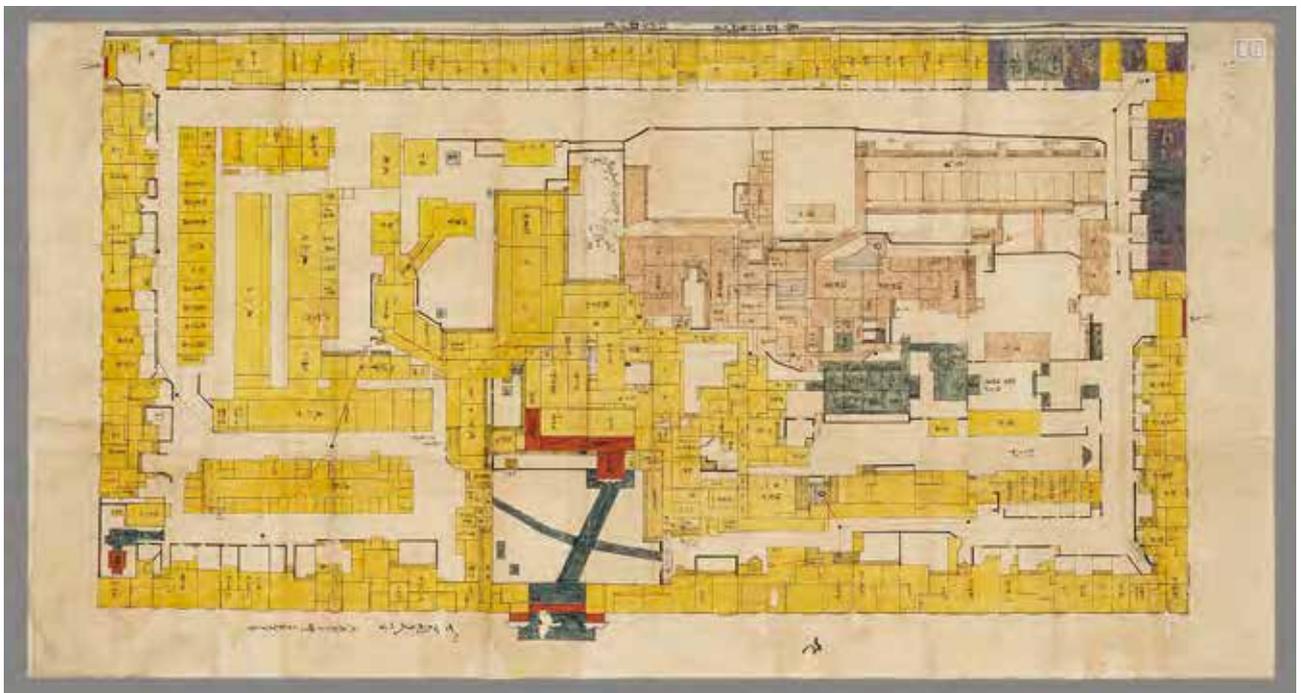
1840 「江戸桜田御屋敷小屋割之図」

表長屋と内長屋の指図、家臣の小屋割を主に記載／1 鋪／12枚（30.3×41.1）／現状は巻（元は折畳装）・30.4×19.5、後補裏打／88.7×149.8／延享2年（1745）11月／外題「延享二年十一月取上之 江戸桜田御屋敷小屋割之図 貞広」／楮紙／一部へら跡あり、訂正箇所および補足を示す貼紙あり、方位書：東西／234



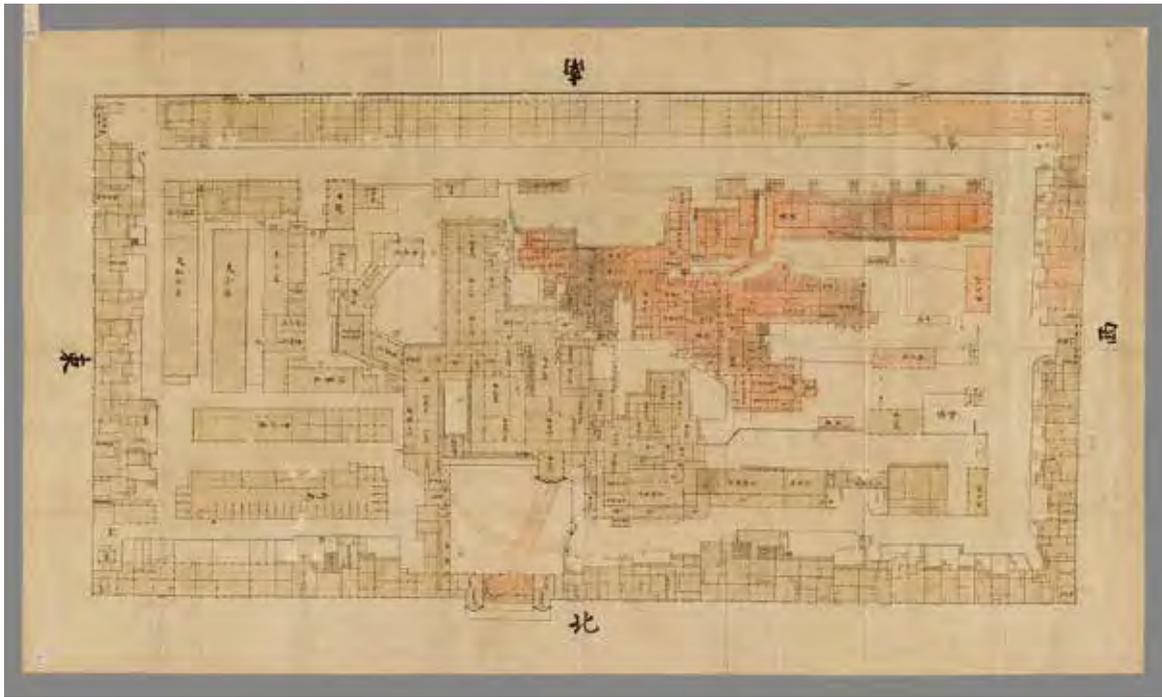
1841 「桜田御奥絵図」

7代藩主上杉宗房～8代藩主上杉重定頃の桜田屋敷奥向き、4分計り指図／1鋪／6枚(30.7×40.5)／現状は巻(元は折畳装)・25.5×13.5、後補裏打／49.0×80.9／延享3年(1746)12月1日／外題「延享三丙寅年十二月朔日 桜田御奥絵図」／楮紙／福島十兵衛／彩色あり、全体にへら跡あり、方位書：東西南／234



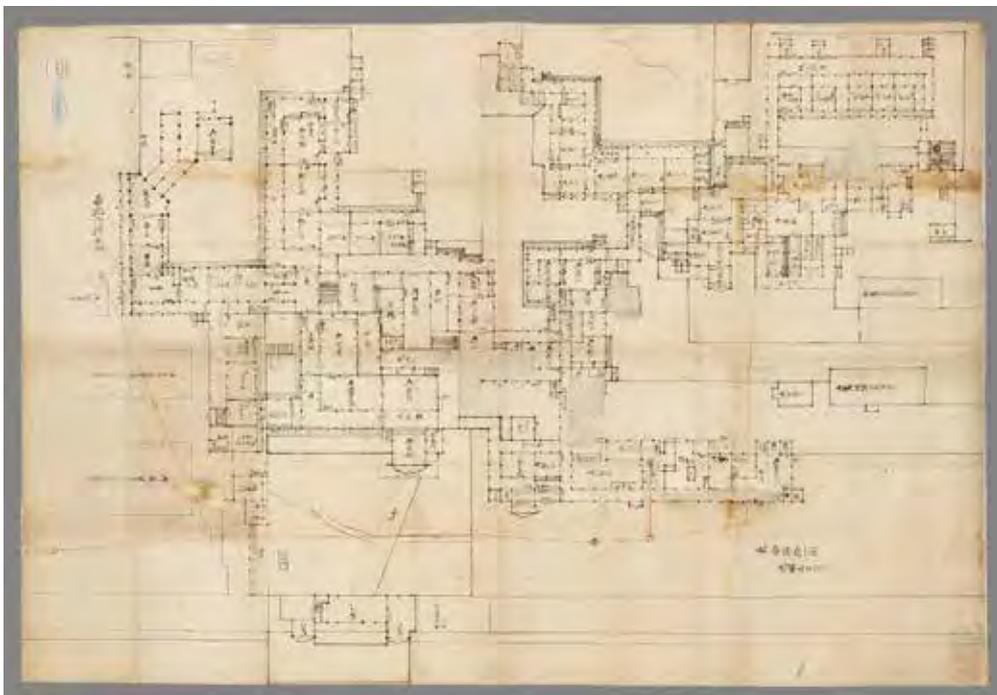
1842 桜田屋敷絵図

8代藩主上杉重定期の3分計り指図、家督前の鷹山の居住空間も記載／1鋪／12枚(28.0×34.3)／現状は巻(元は折畳装)・24.2×17.3、後補裏打／72.5×139.1／(宝暦10年～明暦4年・1760～1767)／楮紙／雅元写／彩色あり、全体にへら跡あり、改築箇所を示す貼紙あり、方位書：北、屋敷地の南北の長さを示す畧紙書あり／234



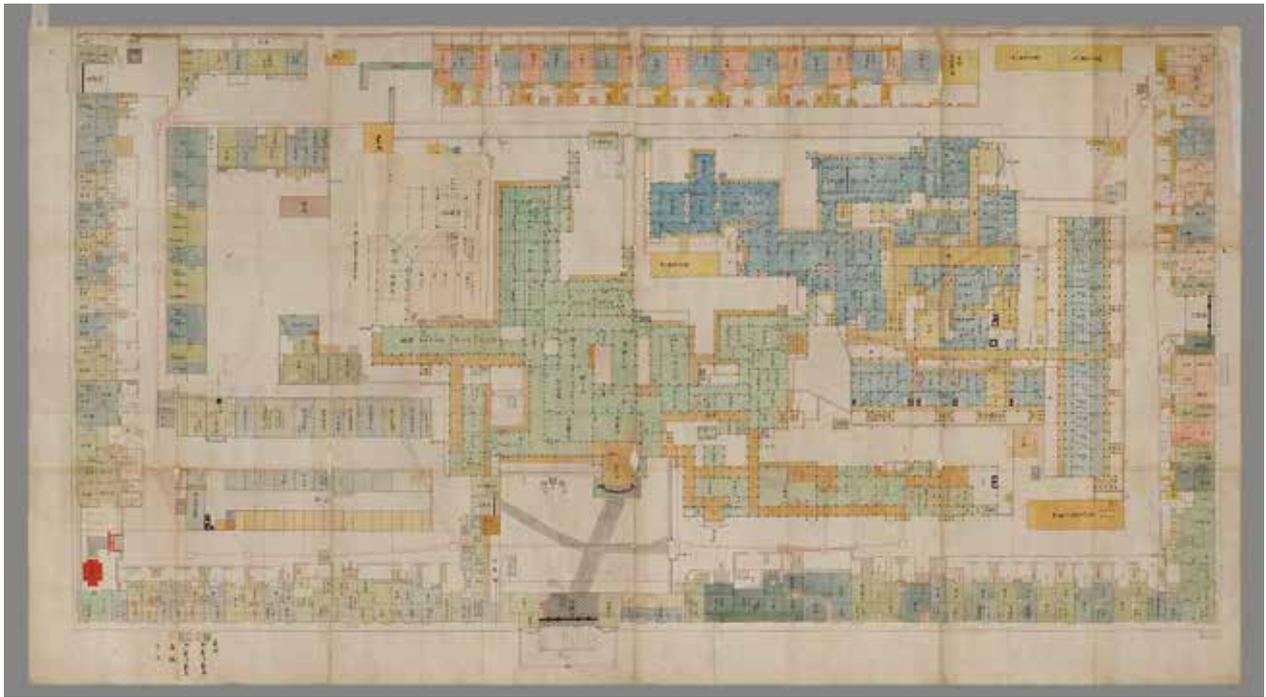
1868 桜田屋鋪絵図

8代藩主上杉重定期頃の5分計り指図／1鋪／18枚（35.0×48.0）／現状は巻（元は折畳装）・28.8×24.9、原装・後補裏打／115.8×199.7／江戸中期（年月日未詳）／楮紙／彩色あり、全体にへら跡あり、方位書：東西南北、奥向きはNo.1841と類似／234



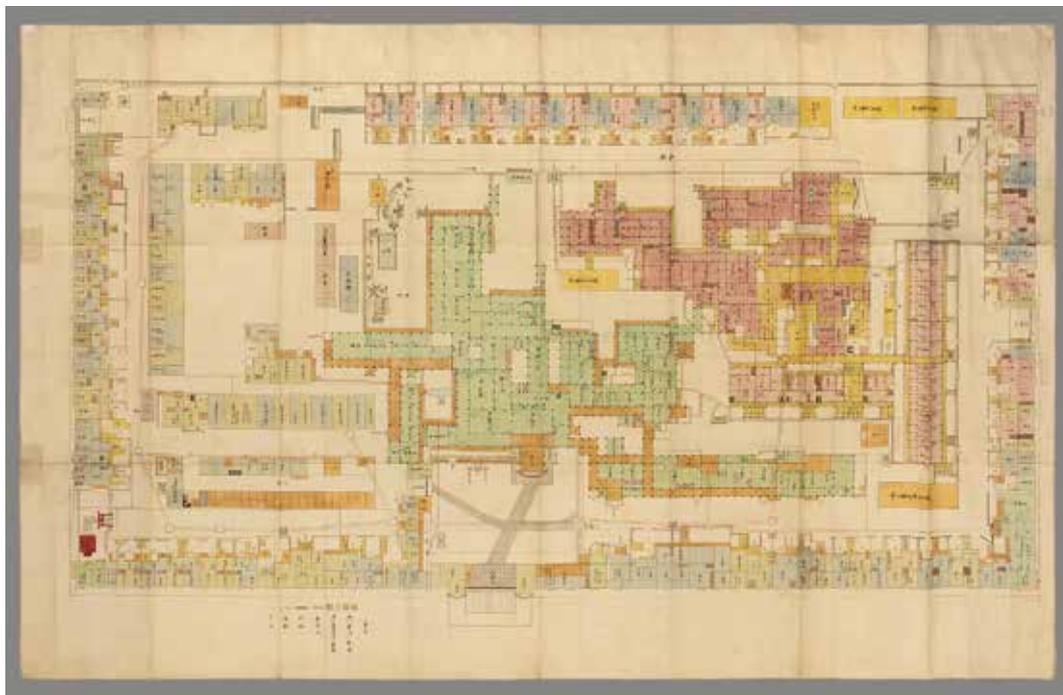
1870 桜田屋鋪絵図

9代藩主上杉鷹山期、主に表御殿と奥御殿の4分計り指図／1鋪／12枚（29.9×37.6）／現状は巻（元は折畳装）・22.5×32.0、後補裏打／86.1×125.8／（明和9年～天明5年・1772～1785）／楮紙／全体にへら跡あり、改築箇所を示す貼紙あり、屋敷地の東西および南北の長さを示す畧紙書あり／234



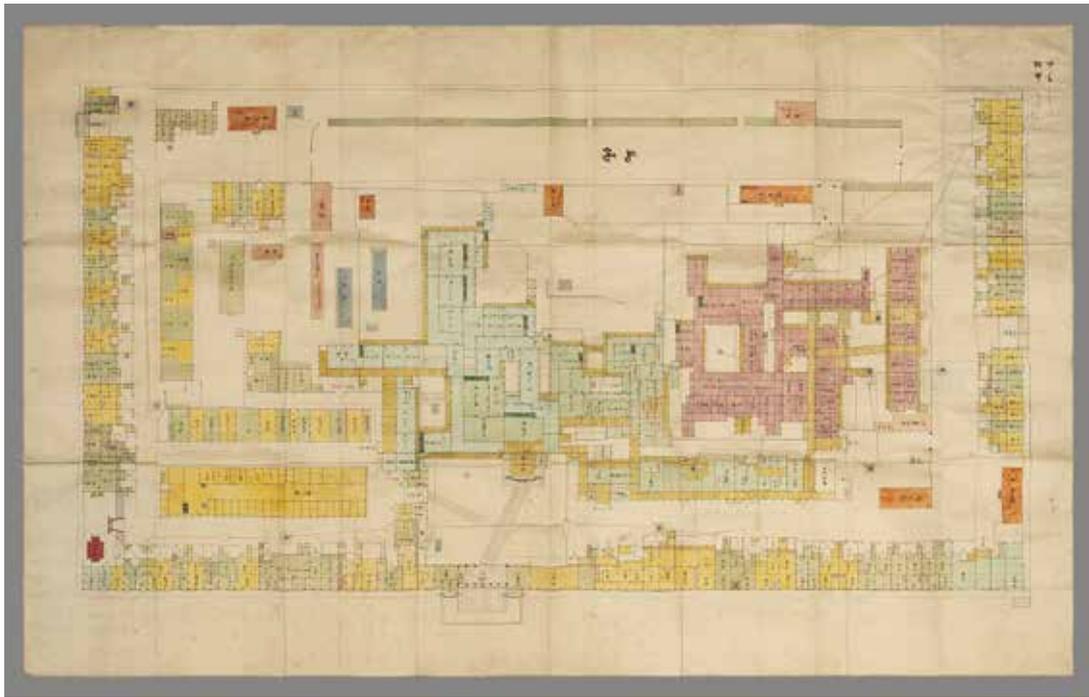
1843 「桜田御殿総御絵図」

10代藩主上杉治広家督後の時期に当たる5分計り指図／1鋪／20枚（31.4×45.5）／現状は巻（元は折畳装）・34.0×23.3、後補裏打／101.6×184.0／（天明5年・1785）／楮紙／彩色あり、全体にへら跡あり、奥と表長屋に関する凡例色分けあり、貼紙「元御舞台之図写置」、ラベル「江戸記念博覧会」／234



1839 桜田屋敷絵図

10代藩主上杉治広期の5分計り指図／1鋪／20枚（31.5×45.6）／現状は巻（元は折畳装）・39.5×23.2、原装裏打／118.2×186.0／享和元年（1801）7月／楮紙／彩色あり、全体にへら跡あり、長屋・竹垣・下水などの施設・設備関係の凡例あり、修築箇所を示す貼紙あり／234



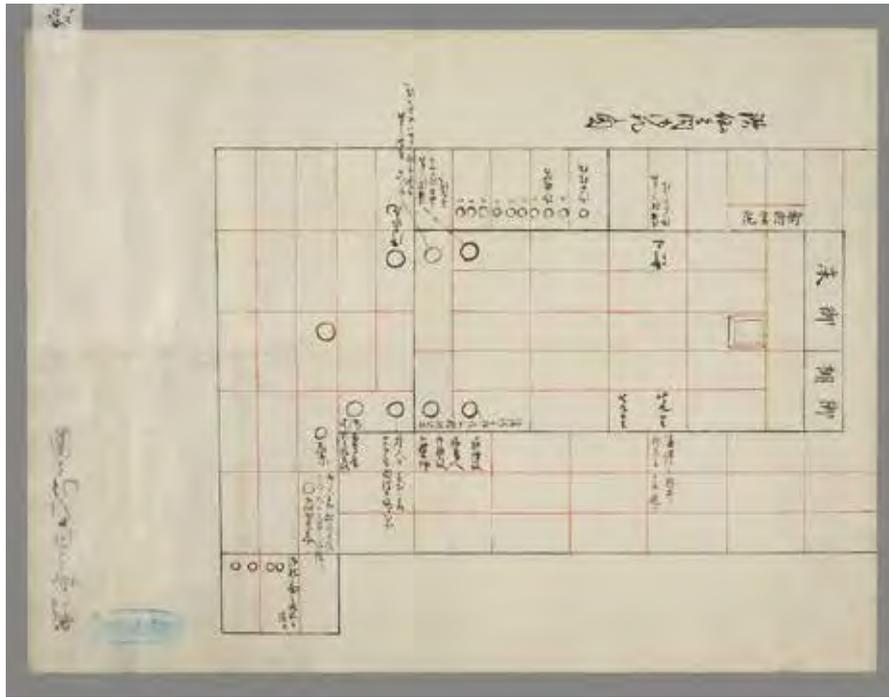
1844 「桜田御殿総御絵図」

11代藩主上杉齊定・後室寿姫時代の4分計り指図／1鋪／20枚（32.5×43.4）／折畳装（原装）・37.1×22.4、原装裏打／111.2×179.5／文政5年（1822）6月／外題題箋「桜田御殿総御絵図」／楮紙／上杉弾正大弼居判／彩色あり、針穴あり、全体にへら跡あり、底樋・下水の凡例あり／234



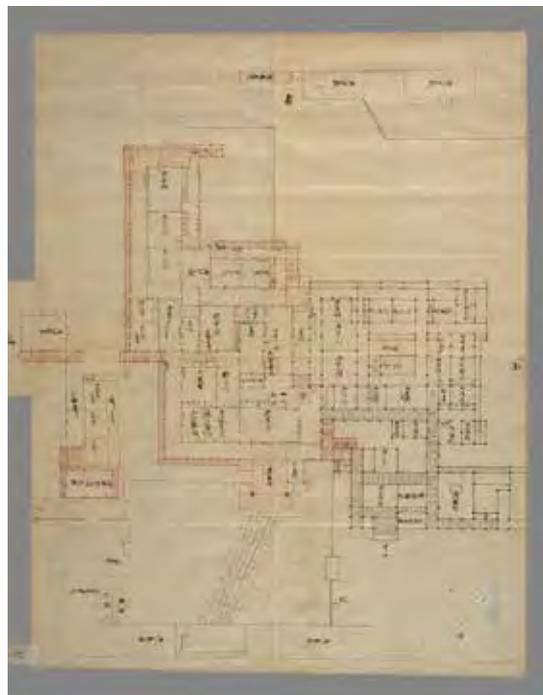
1845 「桜田御屋鋪絵図」

12代藩主上杉齊定期の4分計り指図／1鋪／24枚（27.0×38.8）／折畳装（原装）・37.8×23.8、原装裏打／113.2×190.0／安政3年（1856）8月／楮紙／全体にへら跡あり、表御座二の間と奥の御用人詰の間に貼紙あり、袋墨書「安政三年八月 桜田 麻布 白銀 御屋鋪絵図」（39.9×31.0）／234



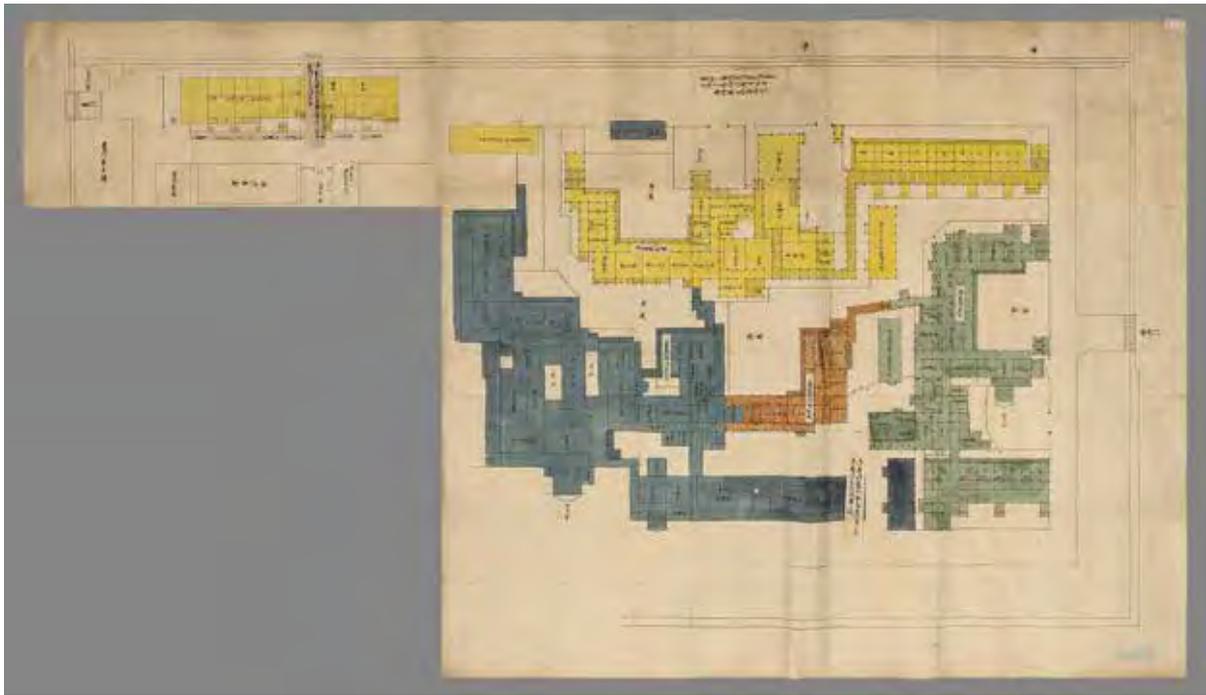
1857 「鉄仙之間御礼之図」

桜田屋敷内の鉄仙之間の7分計り指図、講談時の座図／1 鋪／1枚 (32.8×42.7) ／現状は巻 (元は折疊装)・10.7×16.4、後補裏打／32.8×42.7／江戸後期 (年月日未詳) ／外題「鉄仙之間御礼之図」／楮紙／全体にへら跡あり／234



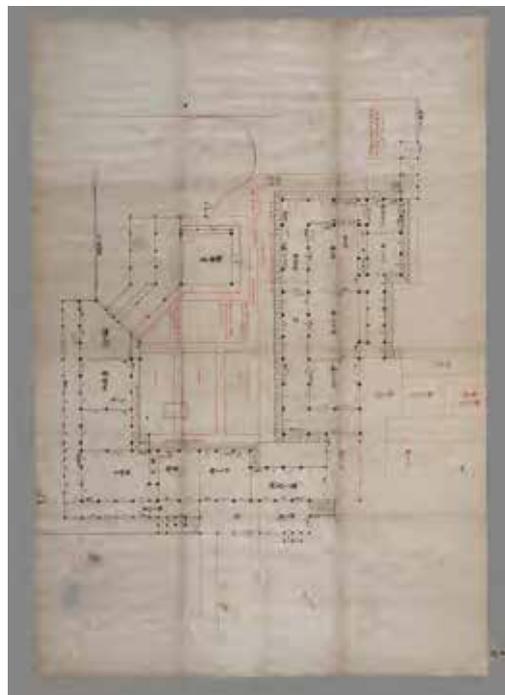
1865 桜田屋敷絵図

主に表御殿のみ作図、5分計り指図／1 鋪／7枚 (33.1×43.0) ／現状は巻 (元は折疊装)・21.3×17.7、後補裏打／85.4×73.3／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／全体にへら跡あり、訂正・改築の貼紙あり／234



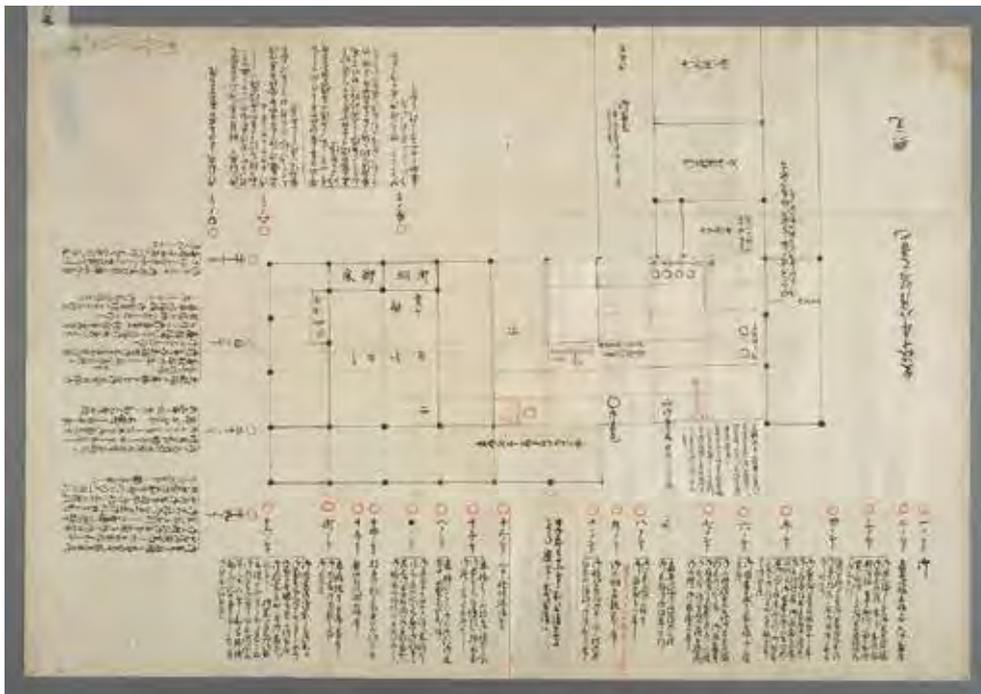
1866 桜田屋敷絵図

御守殿新建につき奥御殿建替、5分計り指図／1 鋪／14枚 (31.5×41.6) ／現状は巻 (元は折疊装) ・折疊時の法量不詳、後補裏打／109.4×194.6／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／彩色あり、全体にへら跡あり、新築箇所の説明および改築箇所の貼紙あり、切り取り部分あり、方位書：南／234



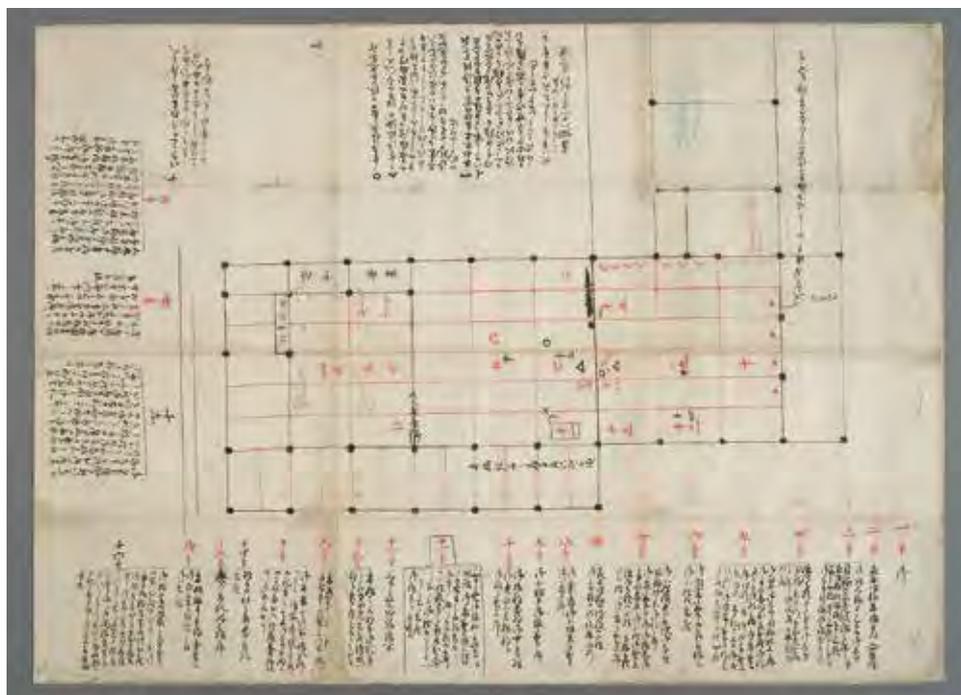
1869 桜田屋舗絵図

主に御書院から能舞台の8分計り指図／1 鋪／4枚 (31.8×47.0) ／現状は巻 (元は折疊装) ・22.0×23.0、後補裏打／63.9×93.8／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／へら跡あり、朱書きで能拝見のための準備箇所を示す、明和9年の再建以後／234



1837 「表御座之間絵図」写

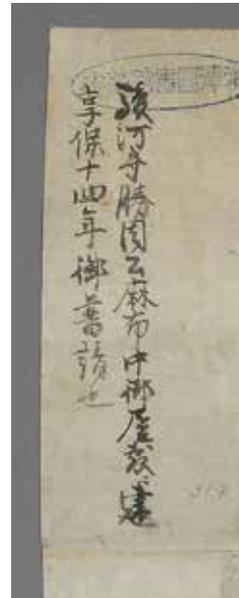
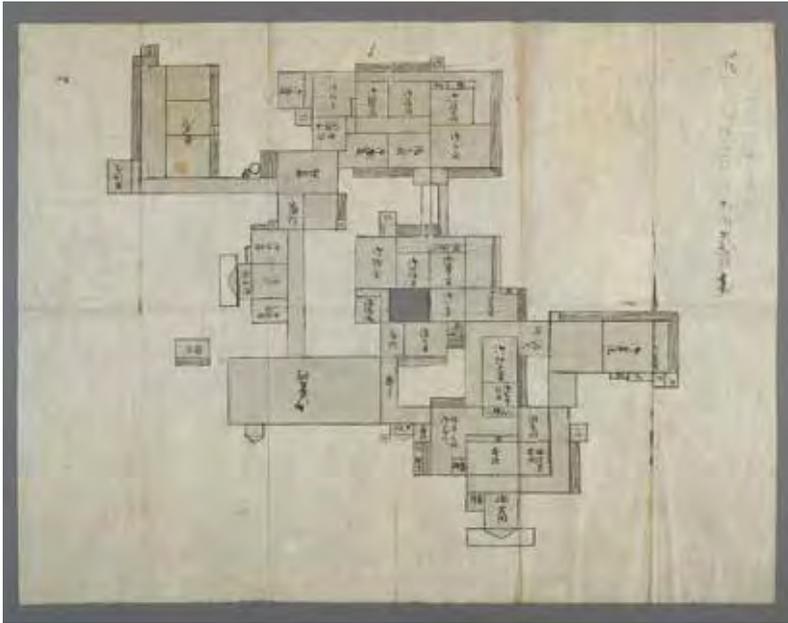
桜田屋敷表御座之間での拝領物・御見舞等の際の藩主と家臣の座る位置や所作を記した席図、1寸2分計り指図／1鋪／3枚（30.6×42.2）／現状は巻（元は折畳装）・10.2×15.3、後補裏打／42.5×61.3／文政10年（1827）8月／外題「表御座之間絵図」／楮紙／安田興元写／畳地へら跡あり、訂正箇所を示す貼紙あり、着座順を示す畠紙書あり／234



1835 「表御座之間図」

桜田屋敷表御座之間での拝領物・御見舞等の際の藩主と家臣の座る位置や所作を記した席図／1鋪／1枚（38.5×52.7）／現状は巻（元は折畳装）・17.8×9.7、後補裏打／38.5×52.7／江戸後期（年月日未詳）／外題題箋「表御座之間図」／奉書紙／全体にへら跡あり、着座の場所・所作などの畠紙書あり／234

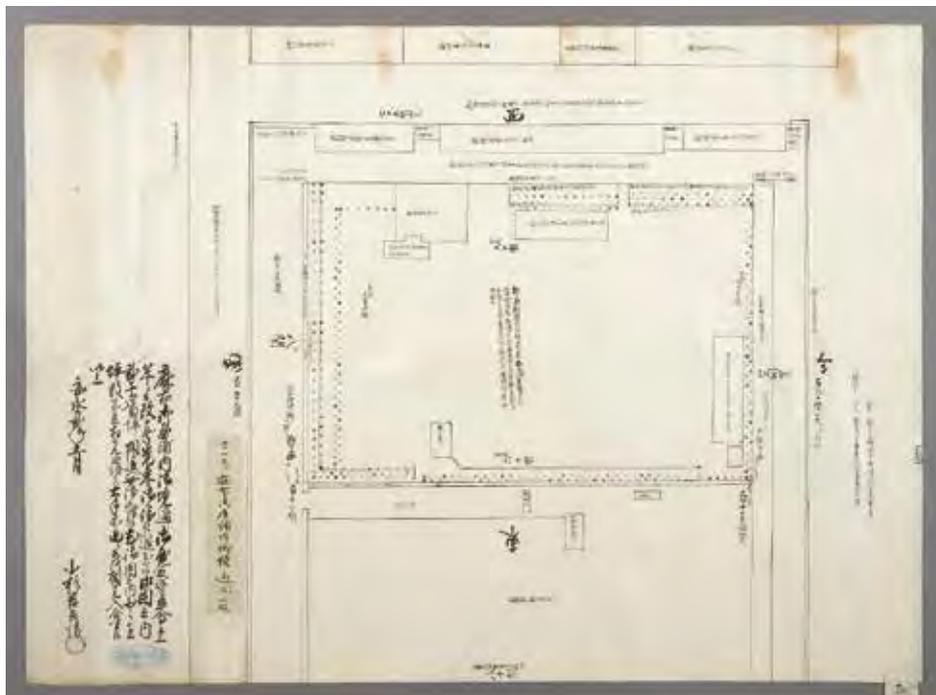
指図－御殿絵図－江戸中屋敷（麻布邸）



1859 麻布中屋敷絵図

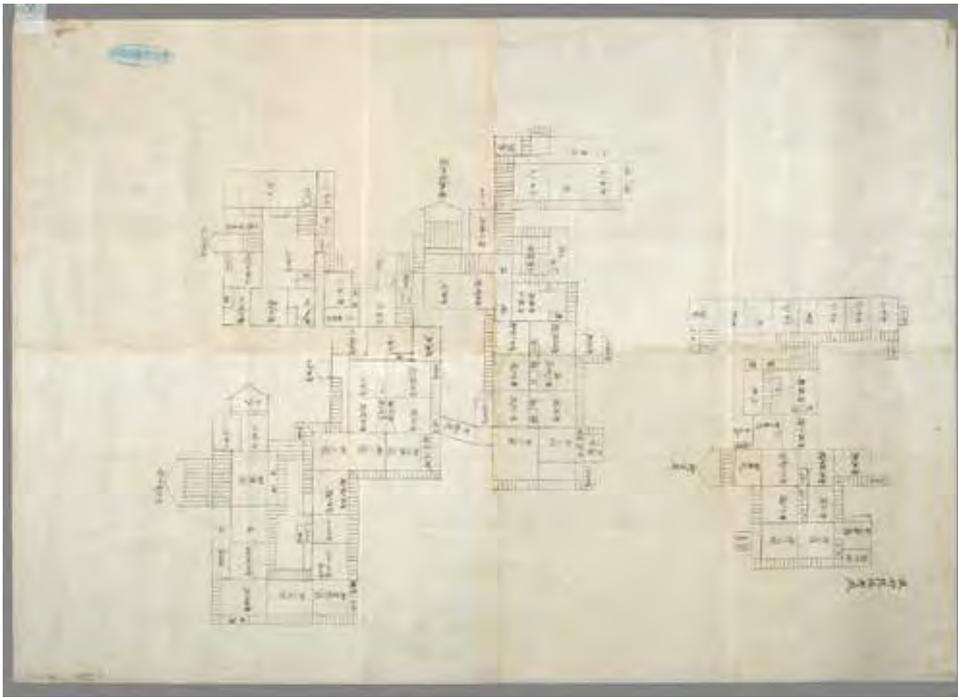
上杉勝周屋敷の3分計り指図／1 鋪／1枚 (31.7×41.3) ／折畳装 (原装) ・15.9×7.0、裏打なし／31.7×41.3／享保14年 (1729) ／墨書「駿河守勝周公麻布中屋敷二建、享保十四年御普請也」／楮紙／全体にへら跡あり、本紙切抜き部分あり、「御二階」の切紙 (2.8×2.0cm) あり／234

裏書



1849 「麻布御屋舗内御境通絵図」

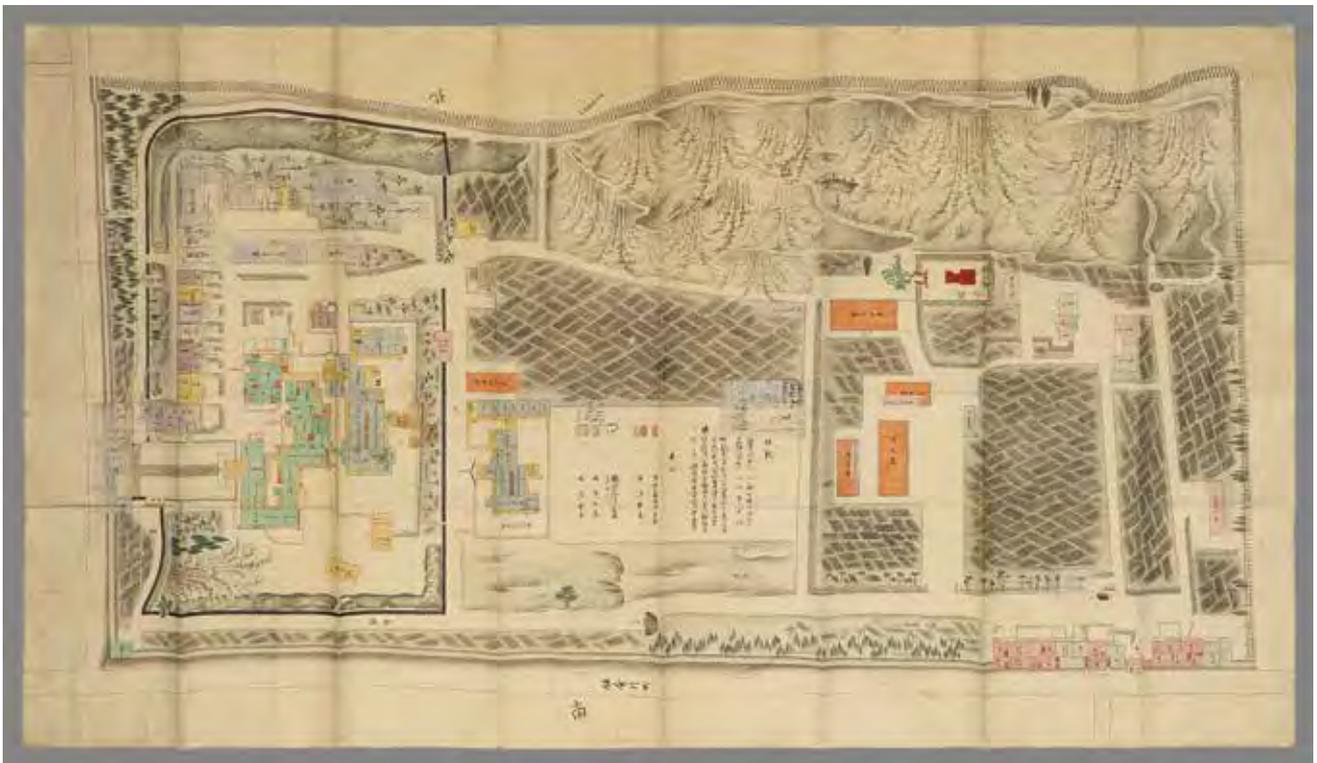
焼失後の米沢藩主家と米沢新田藩主家の境界確認につき／1 鋪／1枚 (53.1×72.0) ／現状は巻 (元は折畳装) ・27.0×18.0、後補裏打／53.1×72.0／安永2年 (1773) 5月／楮紙／小杉吉兵衛 (黒印) ／土手部分にへら跡あり、割印1ヶ所、方位書：東西南北、屋舗内御囲地2400坪の分地に関する小杉吉兵衛の畠紙書あり／234



1860 「麻布御屋鋪御殿之図」

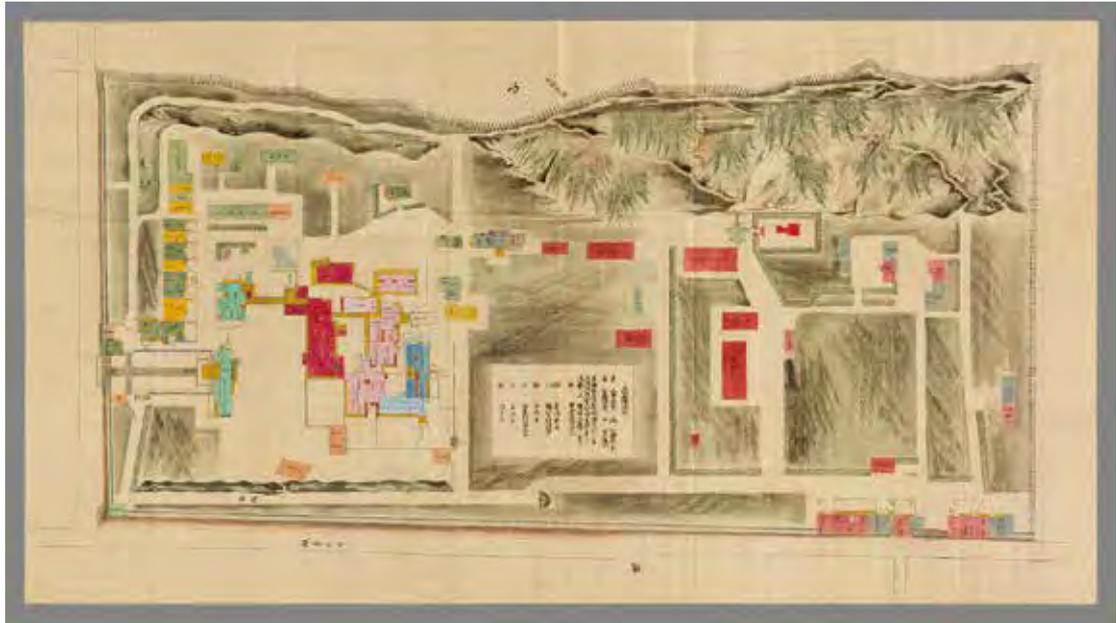
5分計り指図、微妙院（前米沢新田藩主上杉勝承の未亡人菊）の御殿を別棟で記載／1鋪／4枚（27.8×40.2）／現状は巻（元は折畳装）・19.5×27.8、後補裏打カ／78.0×55.0／江戸中期（年月日未詳）／楮紙／針穴あり、全体にへら跡あり、袋墨書「麻布御屋鋪御殿之図」（31.4×20.4）／234

絵図の入っていた袋



1850 「麻布御屋鋪絵図」写

寛政12年時点の4分計り指図の写し、微妙院（前米沢新田藩主上杉勝承の未亡人菊）の隠居御殿あり／1鋪／20枚（32.3×45.7）／現状は巻（元は折畳装）・38.8×26.0、原装裏打／115.9×209.0／文化4年（1807）9月／楮紙／岩瀬三左衛門／彩色あり、全体にへら跡あり、屋敷・設備に関する凡例あり、文化4年段階の変更箇所に関する貼紙あり、方位書：南北、坪数を示す畠紙書、袋墨書「文化四丁卯年九月麻布御屋鋪絵図但寛政十二年中相仕立候写、岩瀬三左衛門」（45×28.4cm）／234



1846 「麻布御屋鋪絵図」

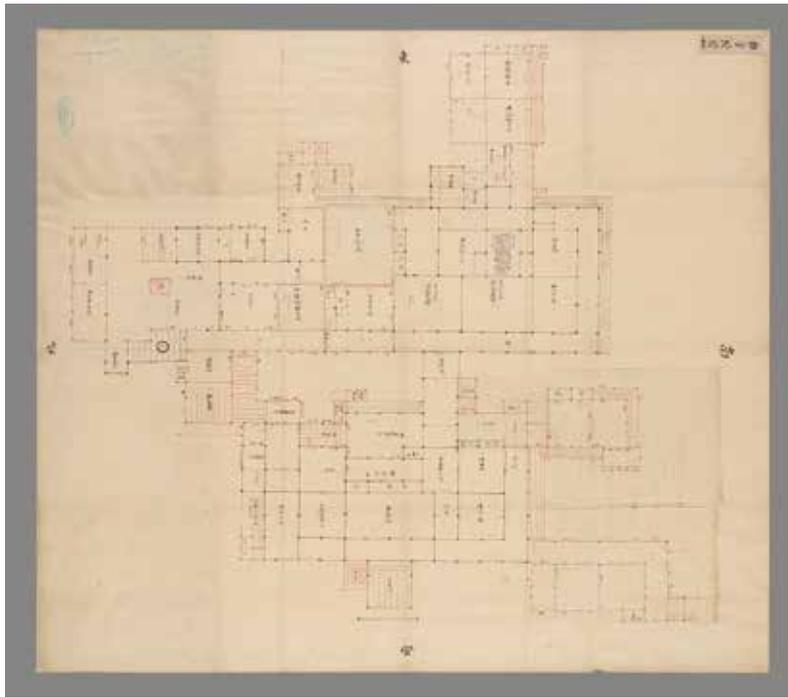
4分計り指図、安政2年10月の大地震後、大筒小屋・塩硝蔵などの施設も描写／1鋪／36枚（27.1×38.7）／折疊装（原装）・40.4×27.5、原装裏打／120.2×218.9／安政3年（1856）8月／楮紙／彩色あり、全体にへら跡あり、色分凡例あり、奥玄関前に貼紙訂正あり、方位書：南北、袋墨書「安政三年八月 桜田 麻布 白銀 御屋鋪絵図」（39.9×31.0）／234

指図－御殿絵図－江戸下屋敷（白銀邸）



1852 「寛政十二年 白金御屋鋪絵図」写

10代藩主上杉治広・純姫夫妻が桜田屋敷に転居した後の6分計り指図／1鋪／20枚（32.2×46.3）／現状は巻（元は折疊装）・24.2×36.5、原装裏打／146.7×146.4／文化4年（1807）9月写／外題「寛政十二年 白銀御屋鋪絵図」／楮紙／岩瀬三左衛門／彩色あり、全体と子午線にへら跡あり、2階と蔵部分に改修の貼紙あり、方位書：南北、御抱地坪数と境界垣根に関する畠紙書あり、袋墨書「文化四丁卯年九月 白銀御屋鋪絵図 寛政十二年之写 岩瀬三左衛門」（45.1×27.8）／234



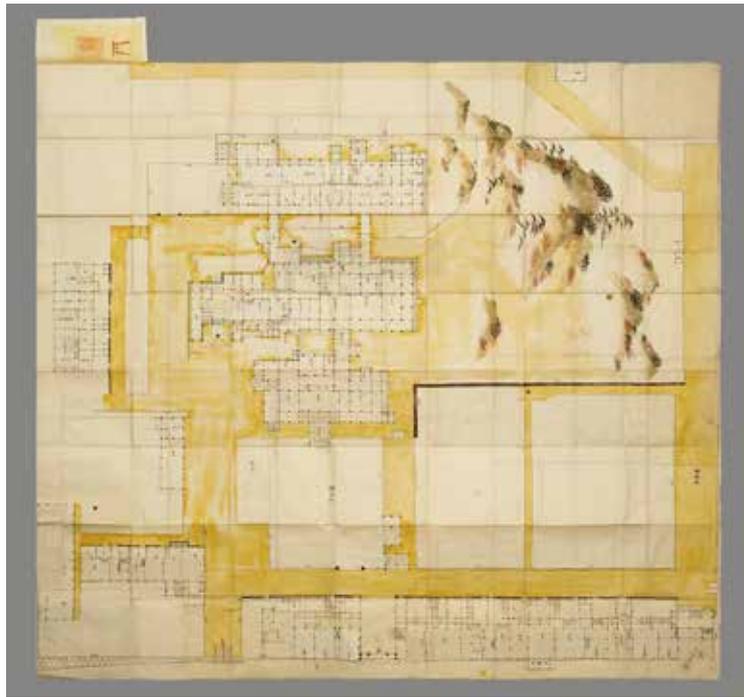
1853 「文化五年新建継足 白銀絵図」

1寸計り指図／1 鋪／6枚 (31.8×42.0) ／現状は巻 (元は折畳装) ・23.3×21.0、後補裏打／83.6×95.2／文化5年 (1808) ／外題「文化五年新建継足 白銀絵図」／楮紙／彩色あり、一部貼紙にへら跡あり、改築・新築部分に貼紙あり、方位書：東西南北／234



1854 「白金御屋鋪絵図」

文化6年新建分を含む5分計り指図／1 鋪／16枚 (31.7×45.5) ／現状は巻 (元は折畳装) ・28.7×29.5、原装裏打／113.8×117.0／文化6年 (1809) 7月／外題「文化六年七月白金御屋鋪絵図、但黄色之分文化六年中新建」／楮紙／岩瀬三左衛門／彩色あり、全体にへら跡あり、天保期の改築部分に貼紙あり、方位書：南、袋墨書「文化六年七月白銀御屋敷絵図 二枚 内壹枚 安政年中江戸為御登 岩瀬三左衛門」(42.2×35.3) ／234



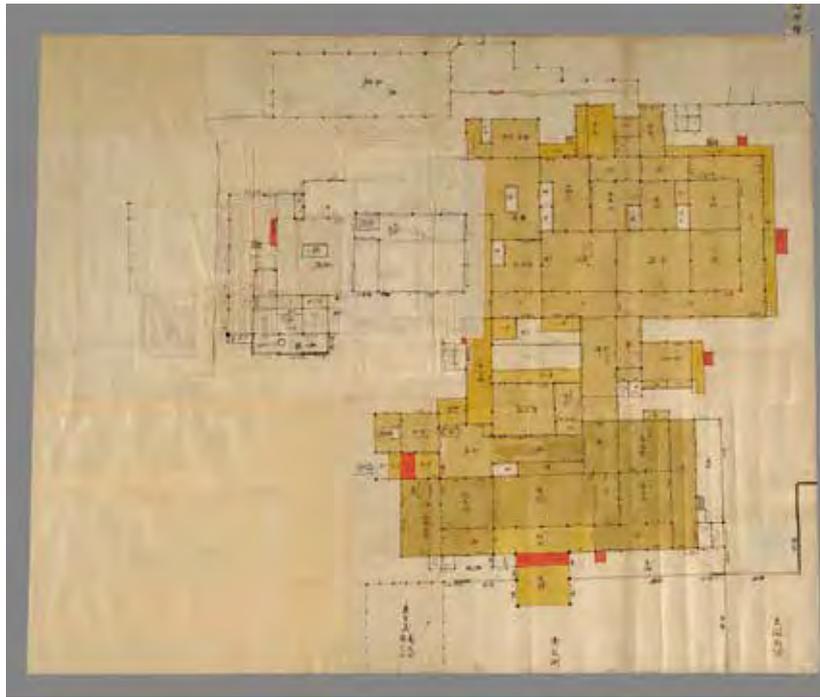
1851 「白金御屋鋪全図」

11代藩主上杉齊定・三姫（10代藩主上杉治広娘）夫妻が居住した白銀屋敷の宅地部分の指図／1 鋪／31枚（32.4×45.9）／折畳装（原装）・29.0×22.9、裏打なし／180.6×199.7／（文化6年・1809頃）／外題「白銀御屋鋪全図」／楮紙／改築箇所を示す貼紙あり／234



1847 「白銀御屋鋪絵図」

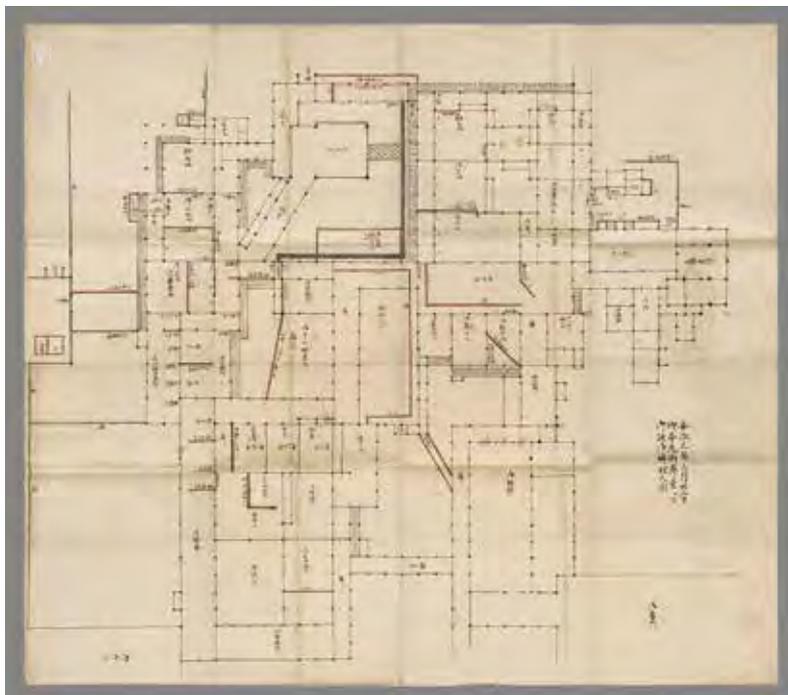
安政2年大地震後の屋敷修理後に係る4分計り指図／1 鋪／24枚（27.3×38.8）／折畳装（原装）・36.5×25.8、原装裏打／154.0×146.7／安政3年（1856）8月／彩色あり、全体にへら跡あり、方位書：南、御抱地坪数と天明2年に境石を置いた経緯に関する畠紙書あり、袋墨書「安政三年八月 桜田 麻布 白銀 御屋鋪絵図」（39.9×31.0）／234



1855 「白金御殿御絵図」

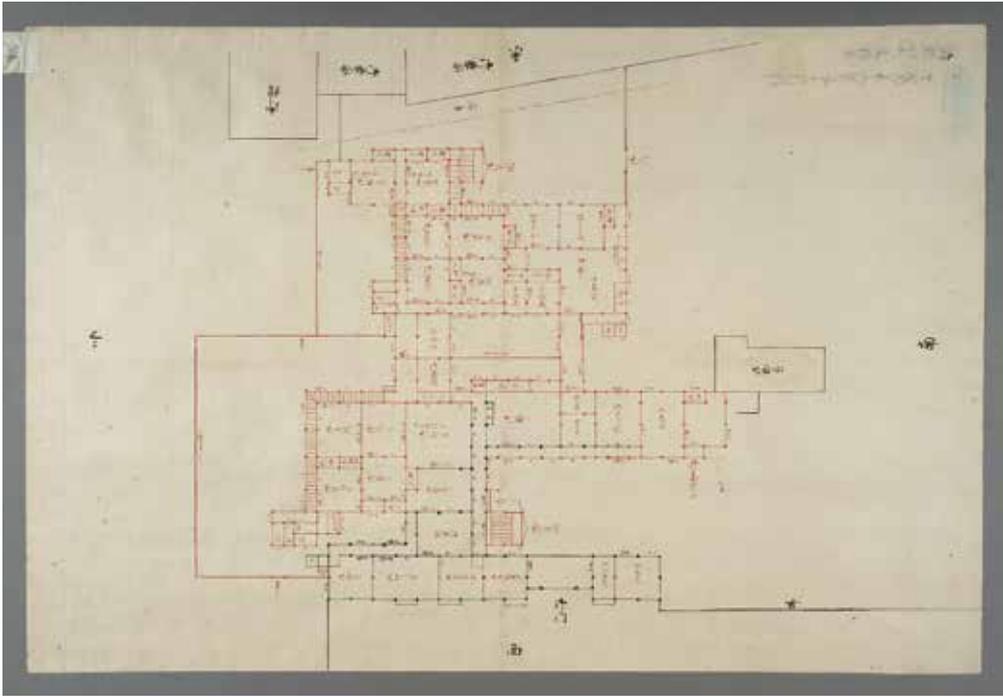
1寸計り指図／1 鋪／7枚 (32.2×44.4) ／現状は巻 (元は折畳装)・37.2×21.5、後補裏打／74.3×90.1／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／彩色あり、全体にへら跡あり、元メ所・台所の修築の貼紙、一部埋込の貼紙あり (紙数に計上) ／234

指図－御殿絵図－米沢城内



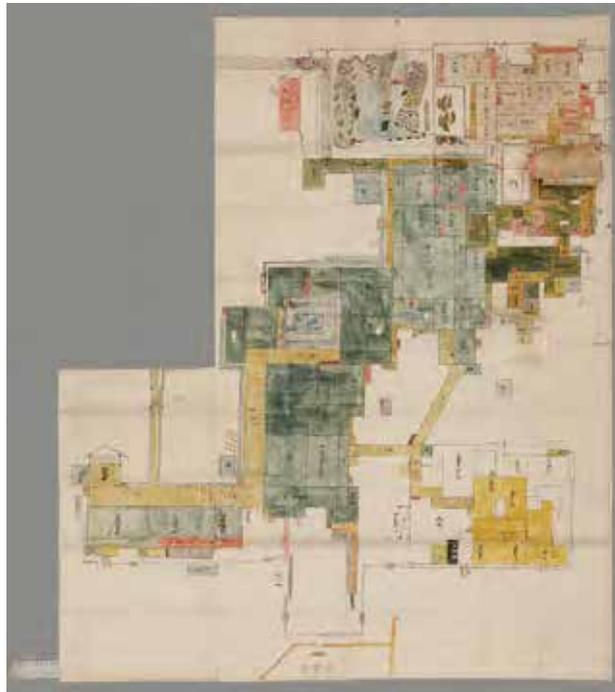
1867 「御本丸御舞台ニ而御能御補理之図」

本丸御殿の式台から表御座の間、能舞台等の8分計り指図／1 鋪／9枚 (31.5×37.1) ／折畳装 (原装)・31.4×26.2、原装裏打／91.8×104.7／安永3年 (1774) 3月22日／楮紙／全体にへら跡あり、訂正箇所を示す貼紙あり／234



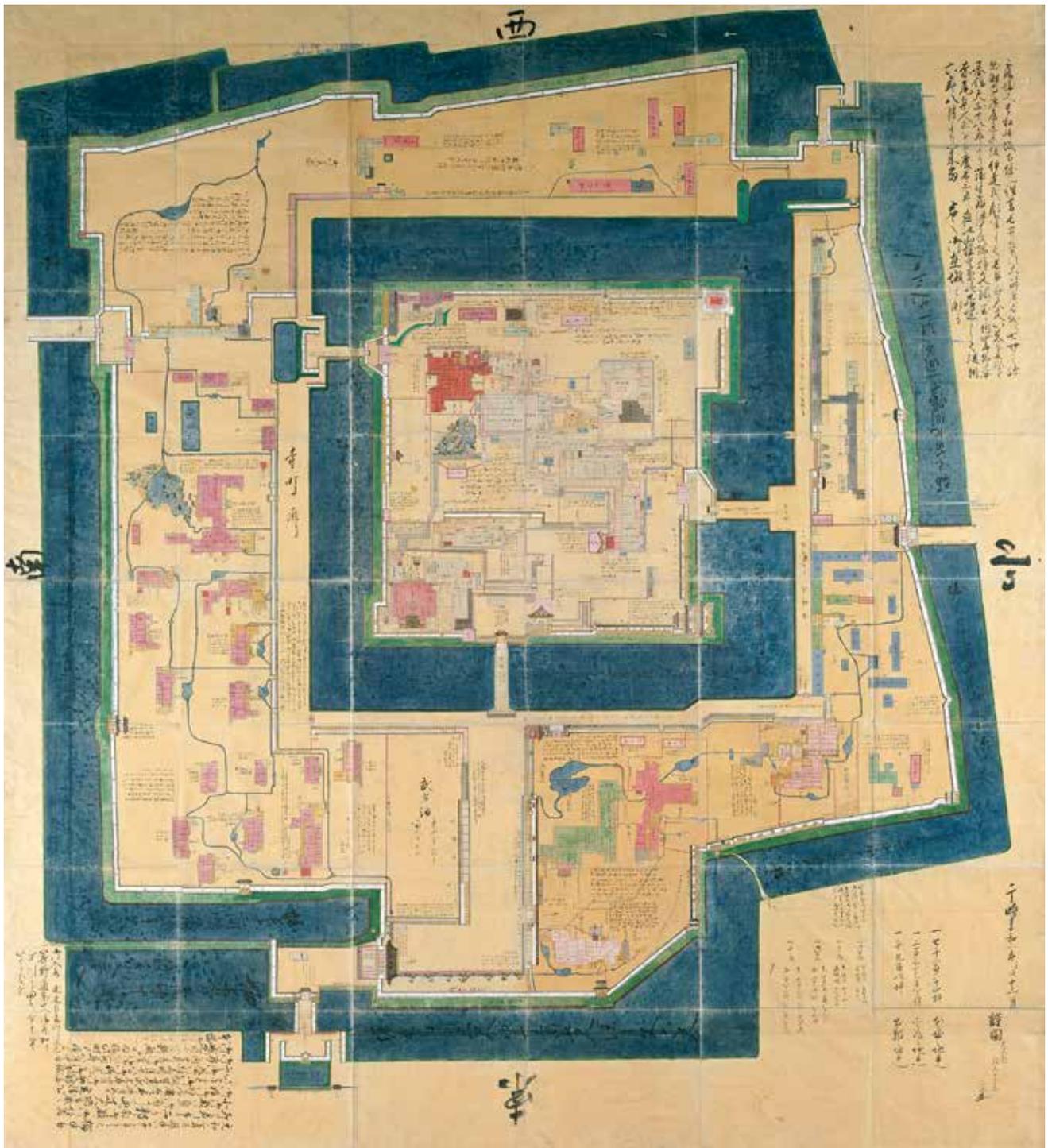
1858 「相模様御絵図」

二の丸北東上杉重定長子勝熙の屋敷引移りにつき、5分計り指図／1 鋪／2枚(32.4×44.0)／現状は巻(元は折畳装)・11.6×16.6、後補裏打／44.0×65.2／天明5年(1785)6月17日／外題「相模様御絵図 天明五年六月十七日 御引移」／楮紙／全体にへら跡あり、方位書：東西南北／234



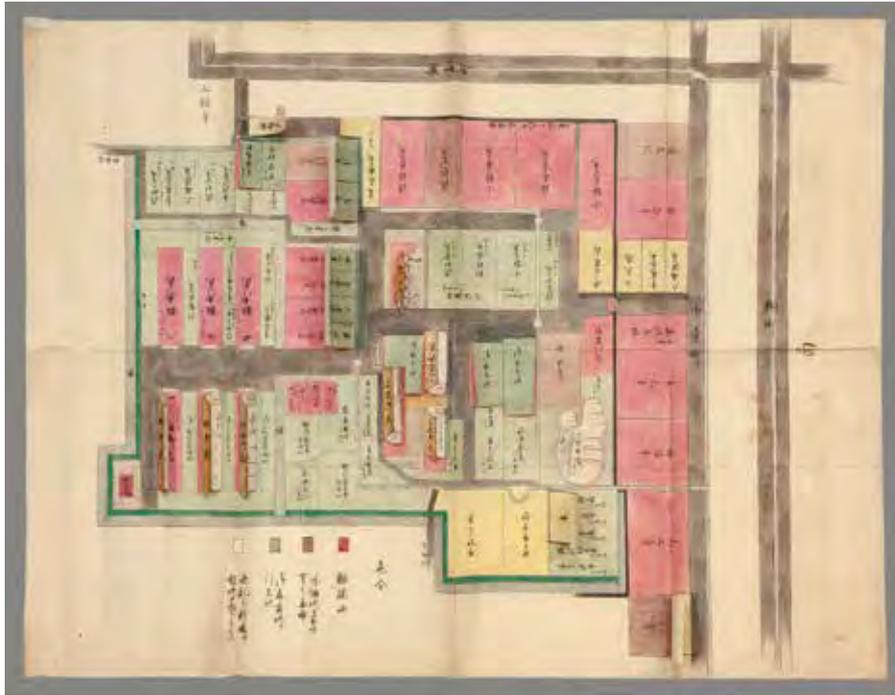
1836 「米沢御城御式台表御座間ヨリ御奥向迄御住居総絵図」

米沢城本丸御殿の6分計り指図／1 鋪／10枚(56.0×未詳)／現状は巻(元は折畳装)・23.5×23.5、後補裏打／118.5×97.2／文化4年(1807)7月改／外題「文化四丁卯年七月改 米沢御城御式台表御座間ヨリ御奥向迄御住居総絵図」／竹紙／彩色あり、全体にへら跡あり、2階部分と訂正の貼紙(楮紙)あり、方位書：東西南北、ラベル「伯爵上杉家」／234



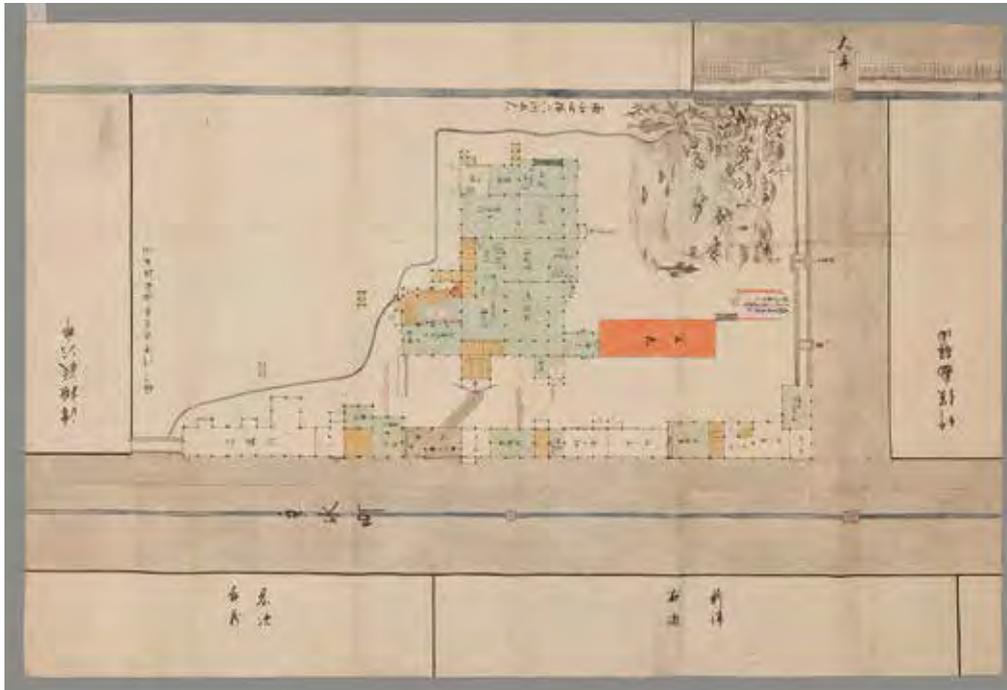
1981 「松崎城堞図」

作事・普請を含んだ米沢城二の丸までの城絵図、2分計り／1 鋪／60枚 (32.1×46.5) ／折畳装 (原装)・41.2×34.3、後補裏打／269.2×244.0／享和2年 (1802) 12月／楮紙／米沢木工鈴木五郎兵衛正満／彩色あり、全体にへら跡あり、端の折返しあり、方位書：東西南北、米沢城の由緒や本丸・二の丸・出郭の坪数などの畠紙書あり／無し



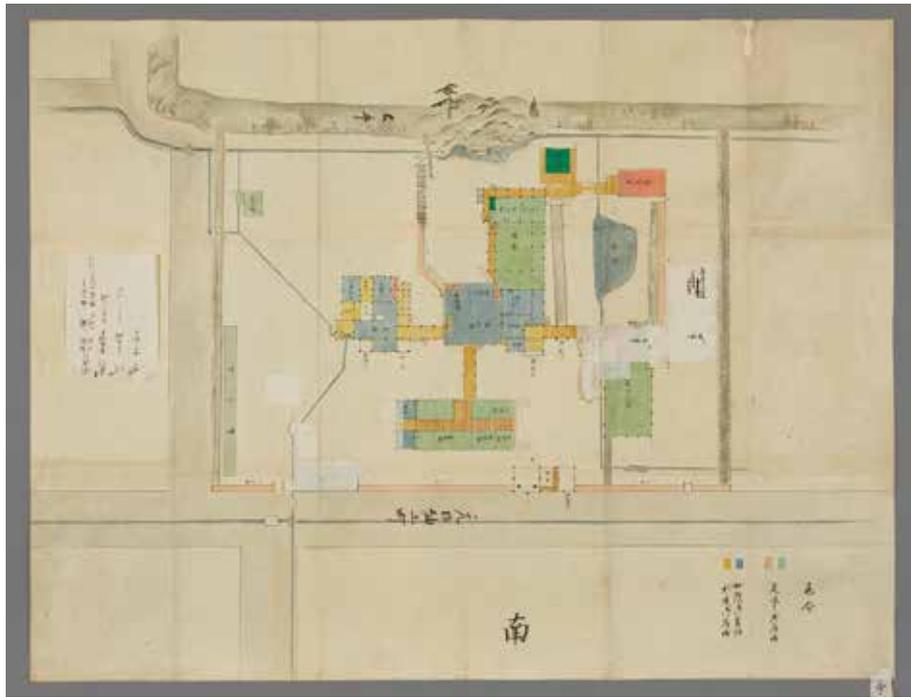
1890 「寺町御蔵絵図」

備前蔵の焼失につき再建、1寸2分計り指図／1 鋪／6枚 (31.8×44.7) ／現状は巻 (元は折疊装) ・32.6×21.4、裏打なし／65.6×86.5／文化8年 (1811) 5月／外題題箋「文化八年五月 寺町御蔵絵図」／楮紙／彩色あり、全体にへら跡あり、類焼跡の凡例あり、再建蔵および住人の貼紙あり、方位書：南／235



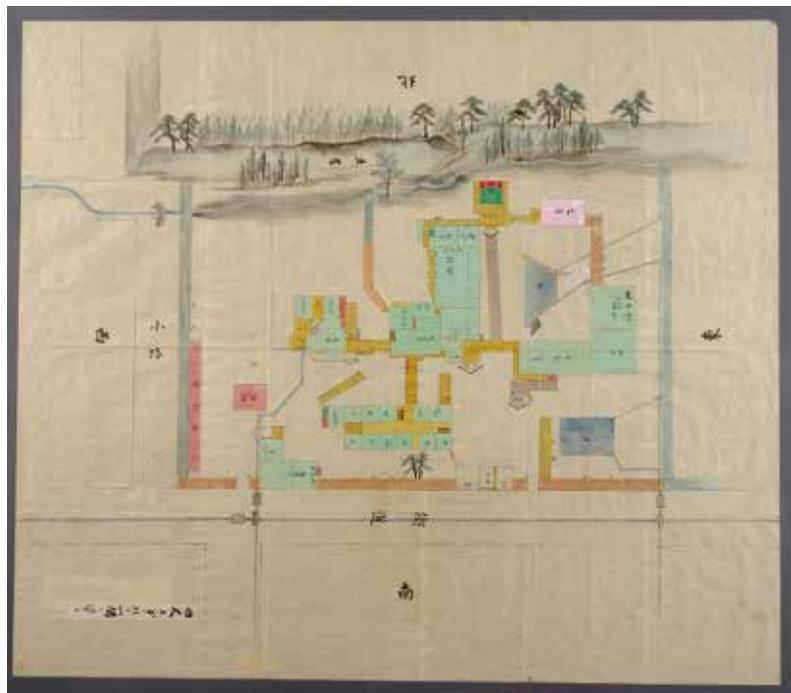
1891 「御役所絵図」

門東町にあった役所の6分計り指図／1 鋪／9枚 (31.0×42.0) ／現状は巻 (元は折疊装) ・27.6×20.1、裏打なし／120.8×81.1／文政2年 (1819) 12月／外題題箋「文政二年十二月 御役所絵図 岩瀬三左衛門図之」、貼紙「文政九年十月中御渡ニ相成候ニ付ラノ字之箱ニ入置」、文政2年12月22日付長尾権四郎・千坂太郎左衛門他24名の署名／楮紙／岩瀬三左衛門／彩色あり、全体にへら跡あり、土蔵廃棄を示す貼紙あり／235



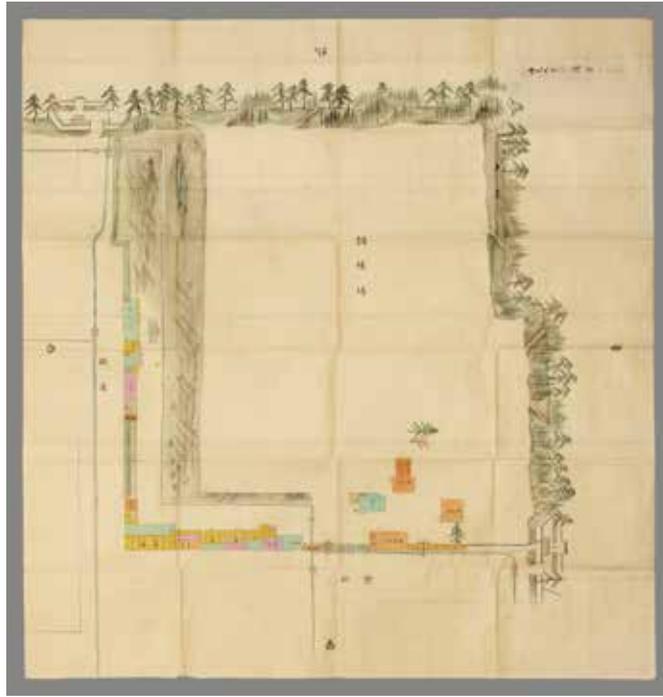
1892 「学館絵図」

元御細工町にあった藩校興讓館の5分計り指図／1 鋪／9枚 (30.3×40.1)／現状は巻 (元は折畳装)・27.2×17.6、後補裏打／81.1×105.5／文政3年 (1820) 7月／外題題箋「文政三年七月 学館絵図」／楮紙／彩色あり、全体にへら跡あり、新旧御座敷の凡例あり、改築箇所・街道幅・敷地幅を示す貼紙あり、方位書：南／235



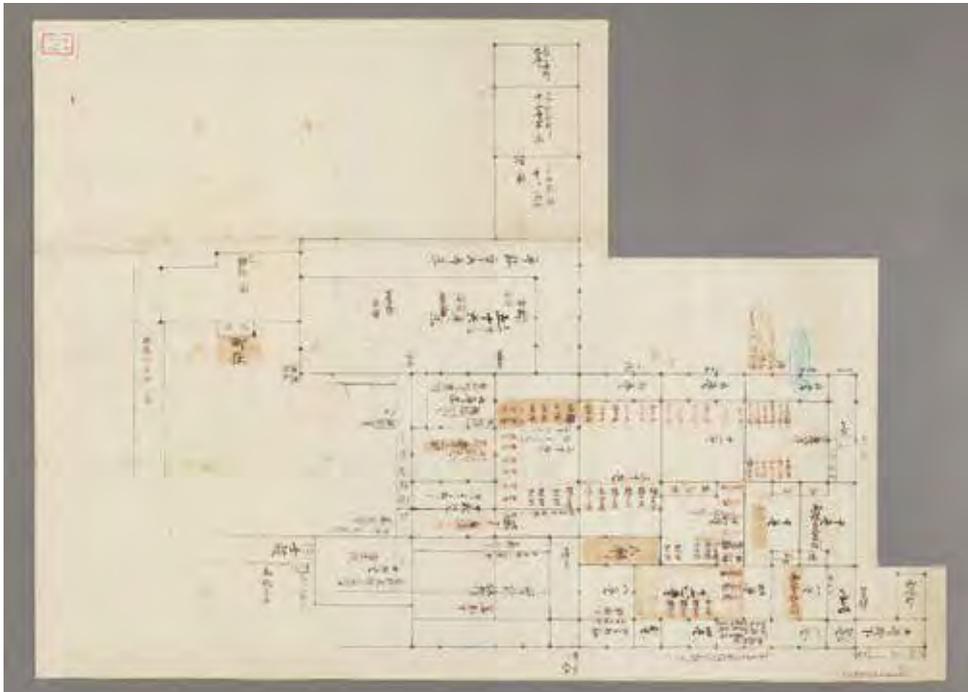
1893 「学館絵図」

藩校興讓館の5分計り指図／1 鋪／12枚 (27.0×38.5)／折畳装 (原装)・34.5×22.7、原装裏打／90.3×103.2／安政4年 (1857) 11月／外題題箋「安政四年十一月 学館絵図」／楮紙／彩色あり、全体にへら跡あり、縮尺および改築箇所の貼紙あり、方位書：東西南北、袋墨書「学館武芸所絵図」(40.5×29.0)、袋にはNo.1894を同封／235



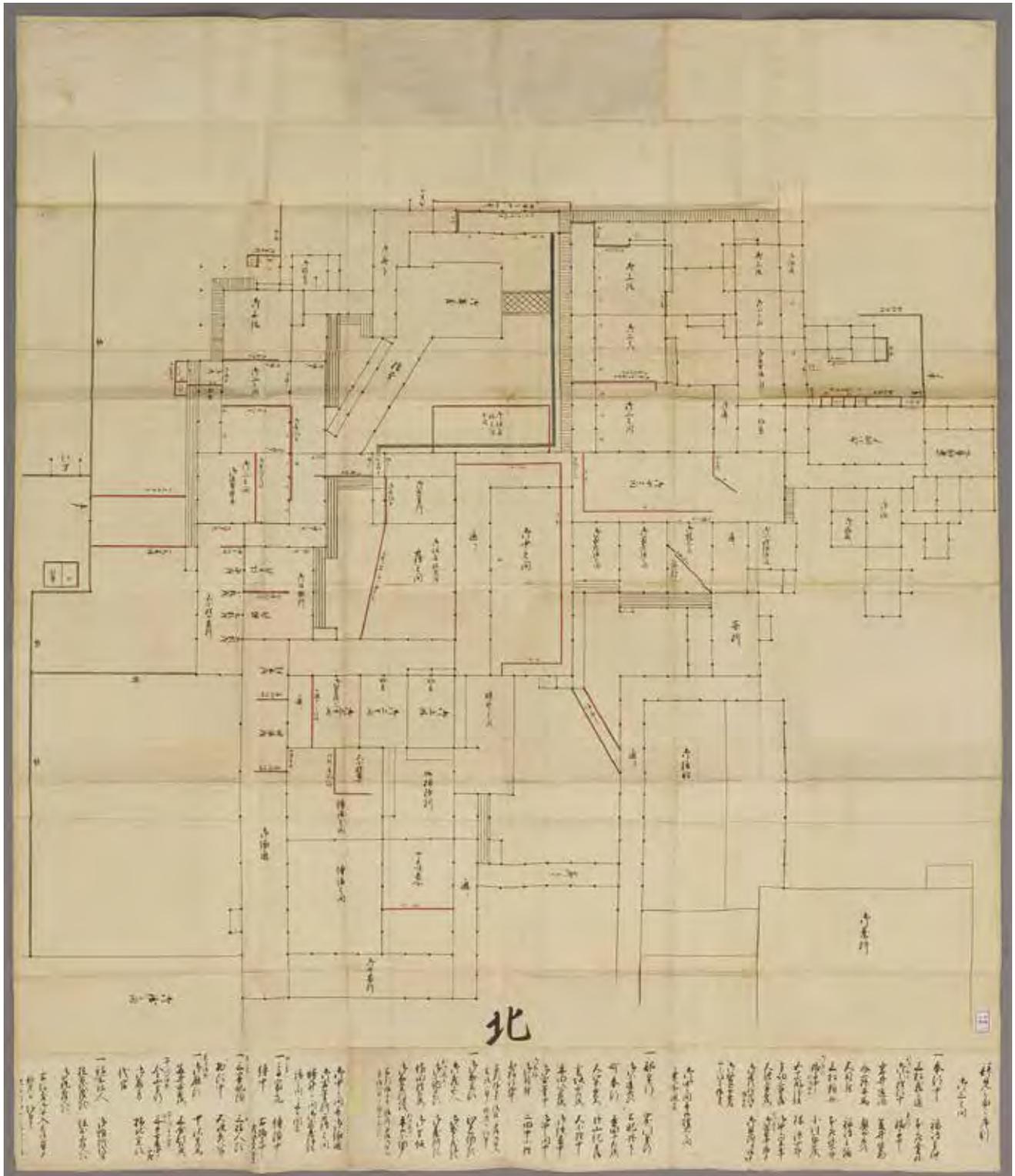
1894 「武芸所絵図」

5分計り指図／1 鋪／24枚 (26.9×38.4)／折疊装 (原装)・25.6×36.5、原装裏打／153.6×146.1／安政4年 (1857) 11月／外題題箋「安政四年十一月 武芸所絵図」／楮紙／全体にへら跡あり、貼紙「曲尺五分ヲ以テ一間ニ準ス」、方位書：東西南北、袋墨書「学館武芸所絵図」(40.5×29.0)、袋にはNo.1893を同封／235



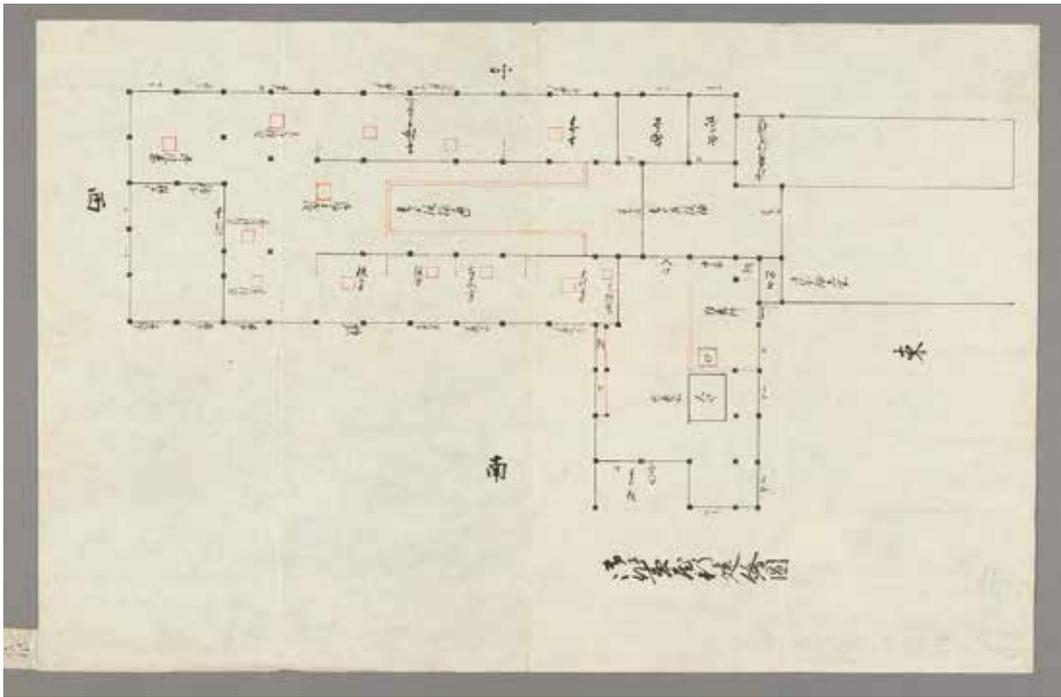
1872 米沢城本丸御殿役所部屋割図

藩庁設置に伴う部屋の使用方法変更に係る8分計り指図／1 鋪／5枚 (37.1×52.4)／現状は巻 (元は折疊装)・19.8×24.7、後補裏打／78.2×57.3／(明治3年・1870頃)／奉書紙／全体にへら跡あり、使用方法の訂正に関する貼紙あり／234



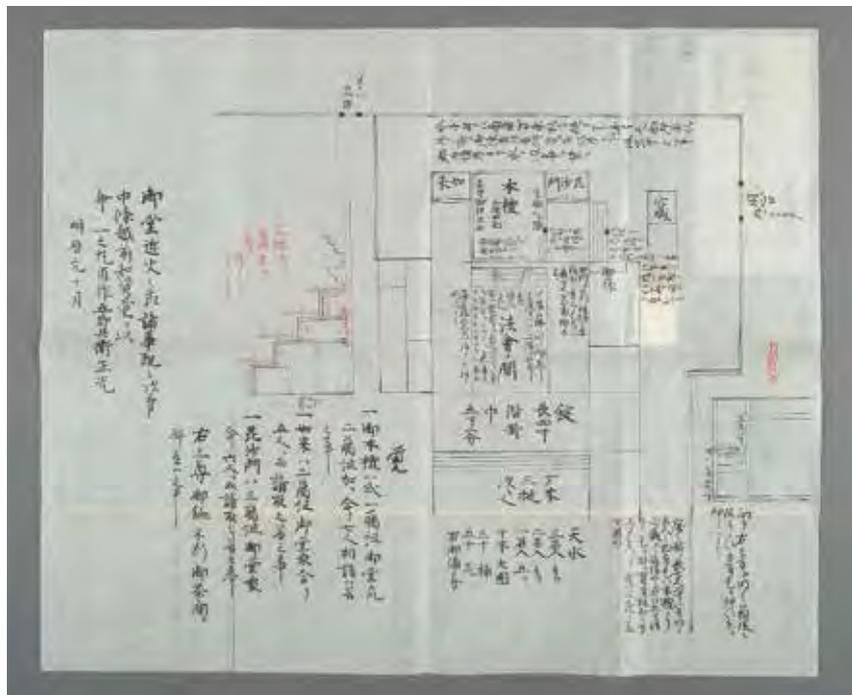
1864 米沢城本丸御殿絵図

1寸計り指図／1鋪／15枚 (32.0×43.7) ／折畳装 (原装)・26.0×32.5、原装・後補裏打／139.5×129.6／江戸中期 (年月日未詳) ／楮紙／全体にへら跡あり、方位書：北、「拝見之間」の席順を示す畚紙書あり／234



1895 「御作事新建絵図」

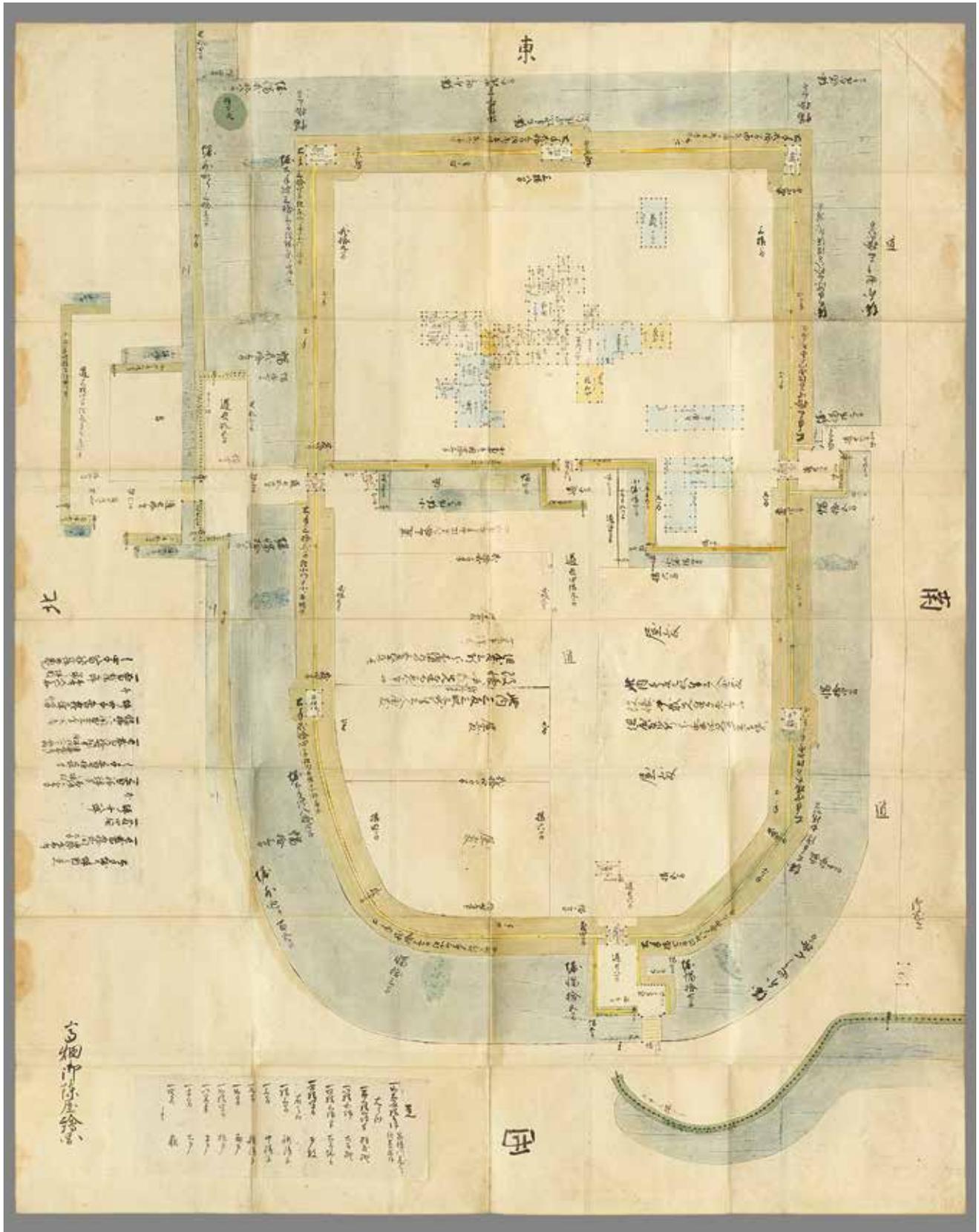
米沢城二の丸北側にあった作事方役所の改築につき1寸計り指図／1鋪／2枚（32.0×42.5）／現状は巻（元は折畳装）・16.5×10.7、裏打なし／64.7×42.5／江戸後期（年月日未詳）／楮紙／建物周辺にへら跡あり、方位書：東西南北／235



1956 「御堂近火手配之図」写

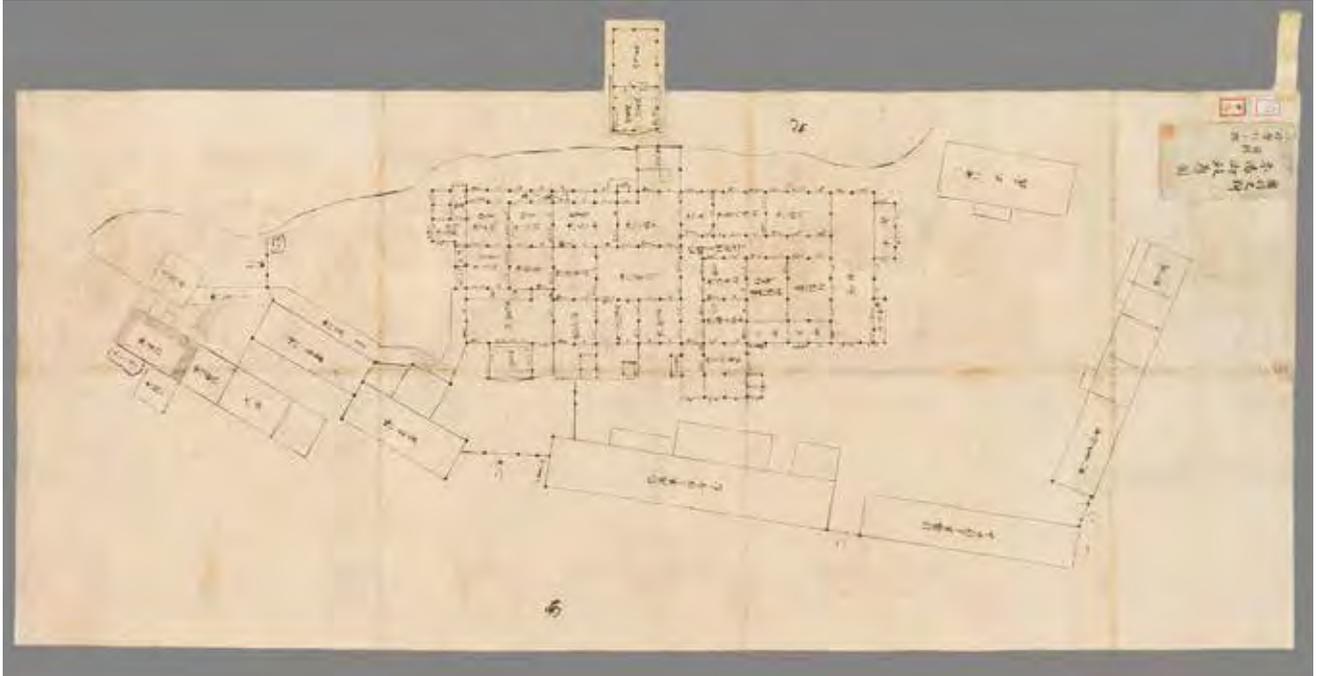
火災時の避難手順を記載した本檀周辺の平面図と雁木等の立面図、原本は明暦元年／1鋪／2枚（29.0×45.8）／折畳装（原装）・19.4×120.0、裏打なし／38.5×45.8／江戸後期（年月日未詳）／外題「明暦五年 御堂近火手配之図」／楮紙／避難時の役割分担に関する畠紙書あり、袋墨書「御堂近火手配之図」（21.4×12.5）／236

指図-御殿絵図-米沢藩内の陣屋など



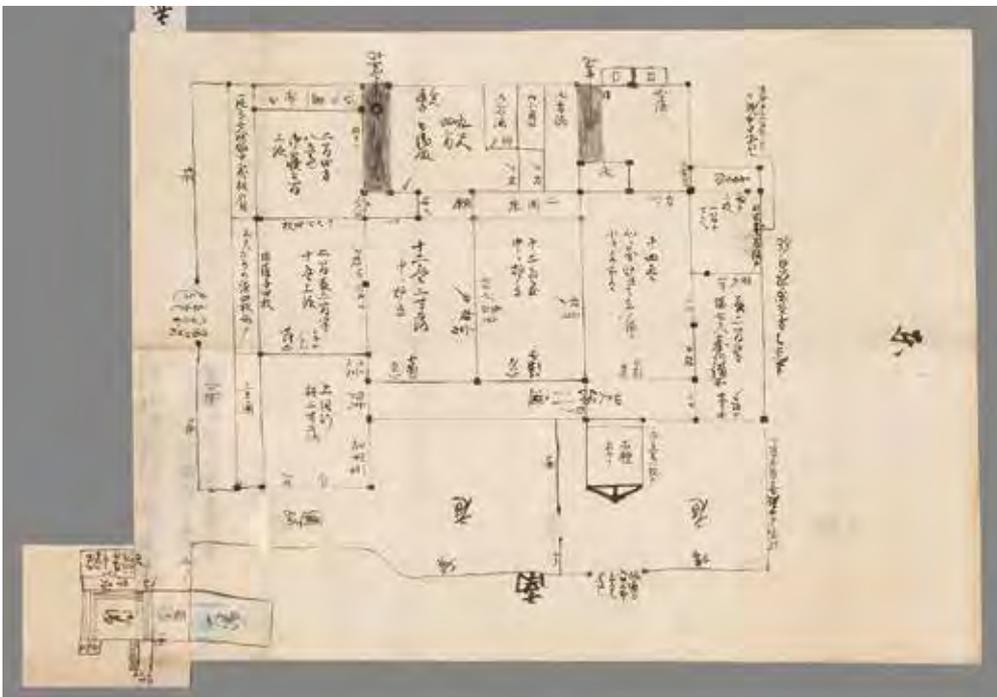
1888 「高畑御陣屋絵図」

預所となった際の高畑陣屋の城絵図、御殿部分是指図／1鋪／25枚 (31.4×45.0) ／折畳装 (原装)・36.4×23.3、裏打なし／186.6×147.7／(元禄2年 (1689) 6月) ／外題「高畑陣屋之絵図」／楮紙／彩色あり、へら跡あり、土手・堀の坪数と建具などに関する貼紙あり、方位書：東西南北／235



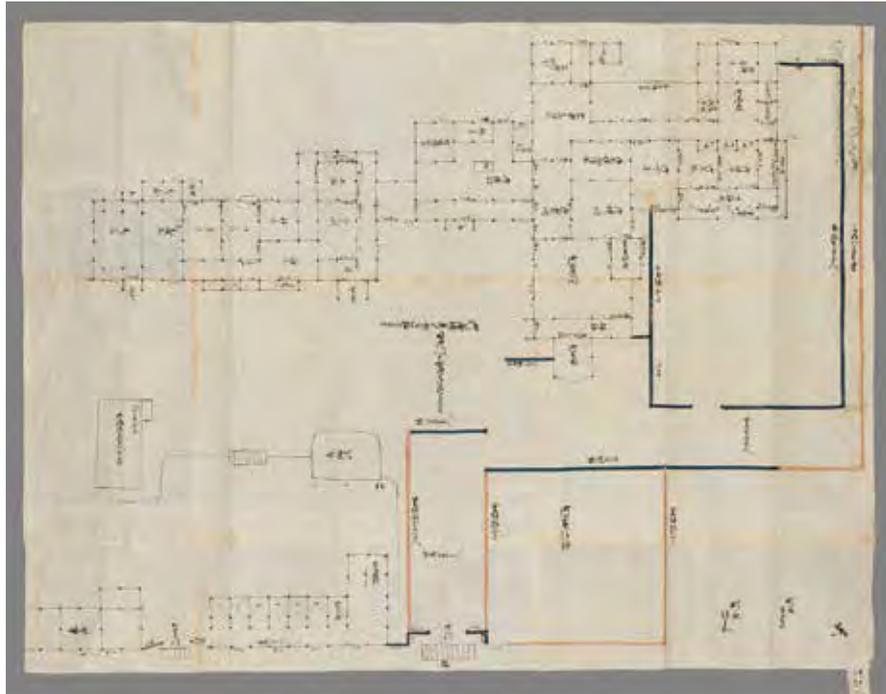
1862 「赤湯村御殿旧図」

類焼以前の指図、8分計り／1 鋪／8枚 (30.3×40.4) ／現状は巻 (元は折畳装) ・20.4×10.3、後補裏打／62.6×143.4／江戸前期 (年月日未詳) ／楮紙／全体にへら跡あり、二階部分の貼紙、方位書：南北、ラベル「ア〇本」、蔵書印「林泉文庫」、表紙部分が切り抜かれて絵図の表面に貼付け直されている／234



1861 「赤湯村御殿之図」写

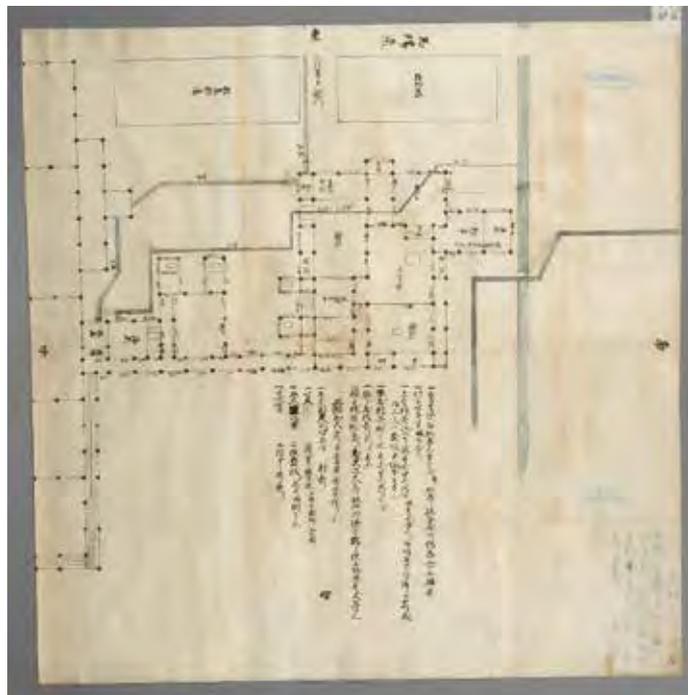
9分計り指図／1 鋪／2枚 (31.3×41.6) ／現状は巻 (元は折畳装) ・6.9×15.6、後補裏打／41.5×31.3／寛保3年 (1743) 4月／外題「此御殿宝曆四甲戌年閏二月廿七日之夜類焼也、赤湯村御殿之図、寛保三年卯月上旬入湯之時写之」／楮紙／全体にへら跡あり、方位書：南東／235



1863 「板谷御殿之絵図」

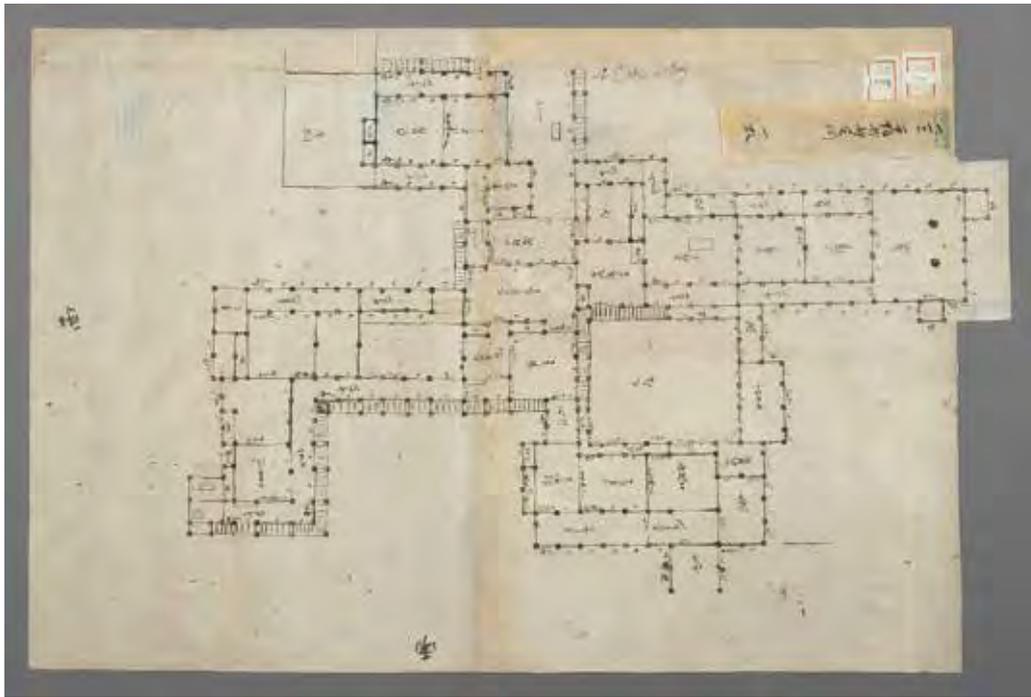
4分計り指図/1 鋪/9枚 (32.1×42.2) /現状は巻 (元は折畳装)・19.9×13.0、裏打なし/79.6×104.2/宝暦4年 (1754) 5月/外題題箋「板谷御殿之絵図 宝暦四年五月」/楮紙/彩色あり、屋敷内にへら跡あり、方位書：東、屋敷の東西南北の間数の畠紙書あり、柴垣と塀を色付の料紙で区別している/234

指図-屋敷図



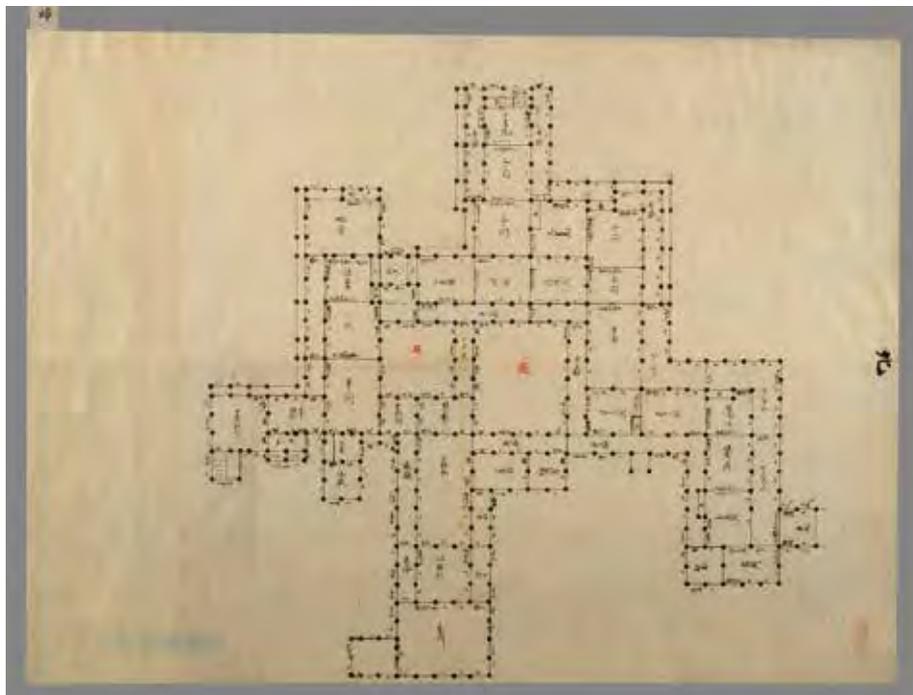
1960 「米沢藩家老毛利家享保六辛丑年十二月六日郷広夫婦婚礼相調ニ付同年夏ハ官元公御指図ニテ建部屋之絵図」

史料名を参照/1 鋪/4枚 (31.3×39.4) /現状は巻 (元は折畳装)・15.7×31.3、後補裏打/60.7×59.4/享保6年 (1721) 12月/外題「米沢藩家老毛利家享保六辛丑年十二月六日郷広夫婦婚礼相調ニ付同年夏ハ官元公御指図ニテ建部屋之絵図」/楮紙/全体にへら跡あり、下水の誤記箇所貼紙あり、方位書：東西南北、建屋毎の詳細を示す畠紙書あり、蔵書印「林泉文庫」/236



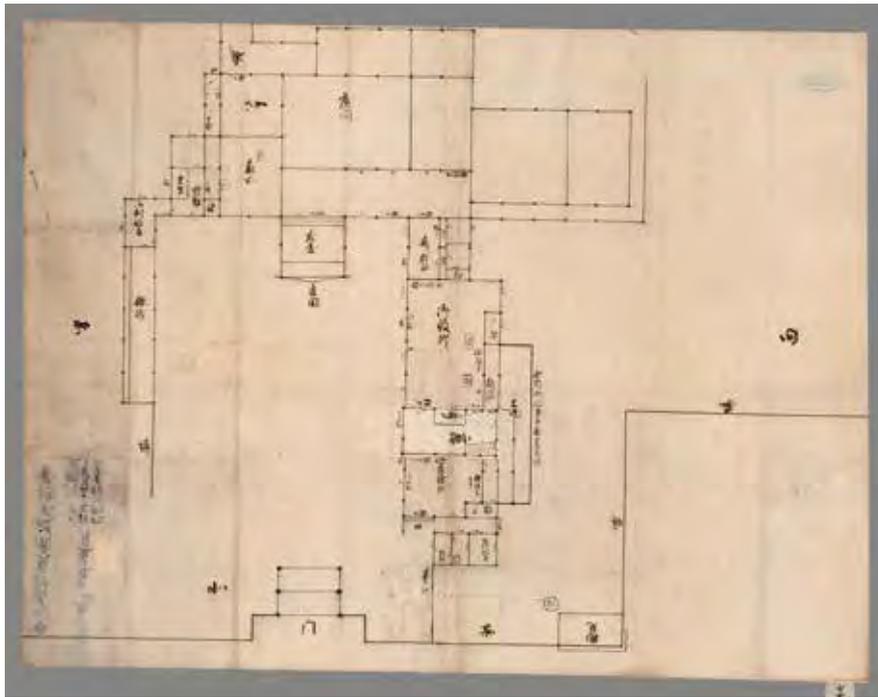
1896 「千坂兵部宅」

5分計り指図／1 鋪／4枚 (30.5×40.3) ／現状は巻 (元は折畳装) ・21.8×17.0、後補裏打／43.7×64.3／江戸中期 (年月日未詳) ／外題「千坂兵部宅」／楮紙／全体にへら跡あり、改築を示す貼紙あり、方位書：南西／235



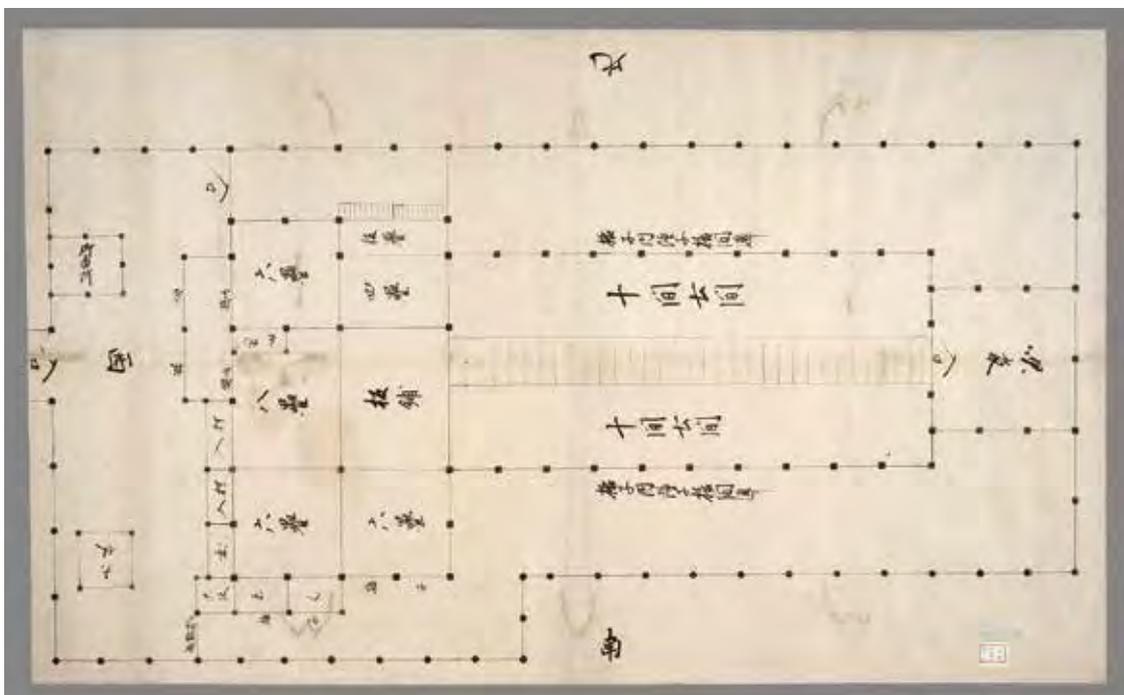
1856 屋敷部屋割図面

6分計り指図／1 鋪／4枚 (39.8×29.8) ／現状は巻 (元は折畳装) ・30.5×不明、後補裏打／79.7×59.7／江戸後期 (年月日未詳) ／墨書「絵図」／楮紙／全体にへら跡あり、絵図を切り取りの上で改変の形跡あり、蔵書印「林泉文庫」、方位書：北／234



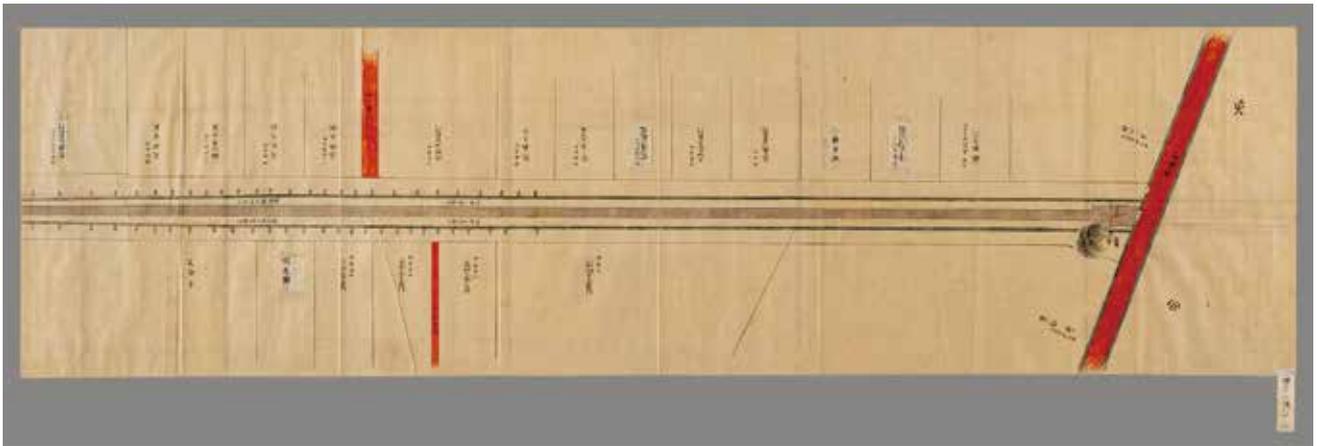
1889 「安田若狭貞広役所絵図」

1寸計り指図／1 鋪／4枚 (30.7×40.2) ／現状は巻 (元は折畳装) ・10.1×20.8、後補裏打／61.6×80.2／延享5年 (1748) 5月／外題「安田若狭貞広役所絵図」／楮紙／針穴あり、全体にへら跡あり、部屋の修正を示す貼紙あり、裏面に史料名部分の複写物を貼付、方位書：東西北／234



1871 屋敷図

「吹屋」入口近辺の屋敷割指図／1 鋪／6枚 (33.6×43.3) ／現状は巻 (元は折畳装) ・折畳時法量不明、後補裏打／66.3×108.5／江戸中期 (年月日未詳) ／楮紙／一部へら跡あり、方位書：西南北／235



1838 「御廟御絵図」

御廟前町の入口から延命寺まで、屋敷並の6分計り指図／1鋪／10枚(28.0×46.0)／現状は巻(元は折畳装)・31.0×25.1、裏打なし／203.0×55.6／江戸後期(年月日未詳)／楮紙／彩色あり、全体にへら跡あり、役屋将部分に岩瀬勘左衛門から三左衛門とした貼紙あり、方位書：東西、袋墨書「御廟御絵図 二枚 △四十一」(36.5×28.0)、岩瀬三左衛門の役屋将在任は文化14年～文政7年／235



1940 「駿府一御加番図」

加番役を勤めた米沢新田藩主家に割り当てられた駿府屋敷の指図／1鋪／1枚(55.4×94.4)／現状は巻(元は折畳装)・12.3×27.5、後補裏打／94.4×55.4／江戸中期(年月日未詳)／竹紙／彩色あり、内題題箋「駿府一御加番図」、方位書：東西南北／236

村絵図—村絵図等



裏面

1898 「朝日嶽絵図」

幕府の日本図作成に伴う目当山調査のため、絵図方岩瀬小右衛門らが朝日岳に登頂し方位を記載／1 鋪／8 枚 (30.0×49.1) ／折畳装 (原装)・30.5×28.5、原装裏打、嘉永3年6月修復／118.5×57.0／享保4年 (1719) ／貼紙「此朝日嶽場所二而被懸吟味候処此方ろ相渡候絵図とハ山形村居相違致由左候ハ、此伺絵図之通ヲ此方ろ相渡候本絵図江かふせ絵図ニ致可被差出候」／楮紙／作成経緯に関する詳細な文書2通を貼紙、方位書：東西南北、袋墨書「朝日嶽絵図」(40.2×30.8) ／235



1900 「小国村々色分并外中津川御絵図」

小国町、小坂村他32ヶ村／1 鋪／46枚 (32.1×42.8) ／折畳装 (原装)・35.6×33.8、原装裏打／212.4×262.9／享和2年 (1802) 3月／外題題箋「享和二年三月 小国村々色分并外中津川御絵図」／楮紙／彩色あり、合印2カ所あり、方位書：東西／235



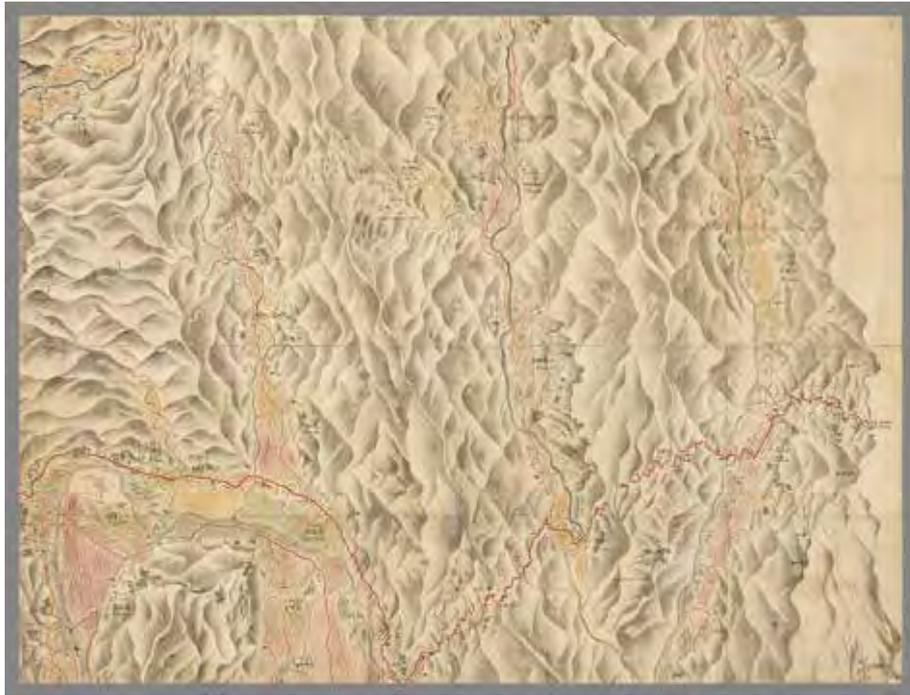
1901 「内中津川村絵図」

広川原村・須郷村他13ヶ村／1鋪／30枚（29.1×36.7）／現状は巻（元は折疊装）・33.8×35.2、原装裏打／134.5×212.5／（享和2年（1802）3月）／楮紙／彩色あり、方位書：東、袋墨書「内中津川絵図」（46.7×37.6）／235



1902 「外中津川之内上叶水村辺之図」

上・下大石沢村、上叶水村、小白子沢他の見取図／1鋪／25枚（31.5×44.9）／現状は巻（元は折疊装）・33.7×35.5、原装裏打／134.5×211.6／（享和2年（1802）3月）／外題題箋「外中津川之内上叶水村辺之図 五枚之内」／楮紙／彩色あり／235



1903 「玉川村辺之図」

玉川村、片貝村他18ヵ村／1 鋪／20枚 (26.9×31.2) ／現状は巻 (元は折畳装) ・34.9×33.0、原装裏打／173.0×131.8／(享和2年 (1802) 3月) ／外題題箋「玉川村辺之図 五枚之内」／楮紙／彩色あり、合印2ヵ所あり、畠紙書「此境ヨリ越後領畑村迄二十八町」／235



1904 「沼沢辺之図」

沼沢村、白子沢村他6ヵ村／1 鋪／25枚 (31.8×45.4) ／現状は巻 (元は折畳装) ・34.3×35.5、原装裏打／136.7×201.9／(享和2年 (1802) 3月) ／外題題箋「沼沢辺之図 五枚之内」／楮紙／彩色あり、合印1ヵ所あり、畠紙書「此川下箱口村ニテ出合」／235



1911 「小玉川村辺之図」

小玉川村周辺の村高・街道など／1 鋪／20枚 (31.4×45.1) ／現状は巻 (元は折畳装) ・34.6×32.8、後補裏打／174.2×130.6／ (享和2年 (1802) 3月) ／外題題箋「小玉川村辺之図 五枚之内」／楮紙／彩色あり、合形1ヶ所あり／235



1908 「小国絵図」 写

小国地域内の村高・街道・河川など、No.1900・1902~1904・1911を統合・縮小して作成／1 鋪／12枚 (31.2×43.7) ／折畳装 (原装) ・21.6×13.0、原装裏打／107.6×129.8／享和2年 (1802) 写／楮斐交紙／彩色あり、方位書：東西、袋墨書「享和二年之写 小国絵図」 (32.5×41.0) ／235



1912 「羽前国置賜山之図」

上小松村松光山大光院の境内図／1 鋪／12枚 (31.3×40.8) ／現状は巻 (元は折畳装) ・未詳×30.0、後補裏打／110.2×120.6／江戸後期 (年月日未詳) ／外題「羽前国置賜山之図」／楮紙／彩色あり、方位書：東西南北／235



1913 「綱木絵図」

綱木村内の景観を描写／1 鋪／4枚 (30.3×45.5) ／現状は巻 (元は折畳装) ・30.2×22.2、後補裏打／61.2×90.3／江戸後期 (年月日未詳) ／外題「綱木絵図」／楮紙／彩色あり、全体にへら跡あり、新旧御座敷の凡例あり、改築箇所・街道幅・敷地幅を示す貼紙あり、蔵書印「林泉文庫」、方位書：南／235

村絵図－村境絵図



1897 「梓山村林絵図」

梓山村内における大平・蟹沢・立石分の林境取決め／1 鋪／6枚 (33.3×45.6) ／現状は巻 (元は折畳装) ・34.7×23.0、後補裏打／99.9×91.2／寛文12年 (1672) 3月23日／外題「梓山村林絵図」／楮紙／彩色あり、方位書：東西南北、畠紙書「大平分、立石分、蟹沢分、林ニ取山絵図」、蔵書印「林泉文庫」／235



1910 茂庭絵図

茂庭村 (福島藩領) ・梓山村 (米沢藩領) 間の境相論につき／1 鋪／6枚 (30.8×32.3) ／現状は巻 (元は折畳装) ・15.2×23.4、後補裏打、料紙横裁断／60.4×93.2／ (貞享2年・1685) ／楮紙／彩色あり、色分凡例あり、裏印あり、署判者を示す貼紙あり、捺印24カ所あり、方位書：東西南北／235



1899 「於御役所被成御渡葭野川堀替絵図」

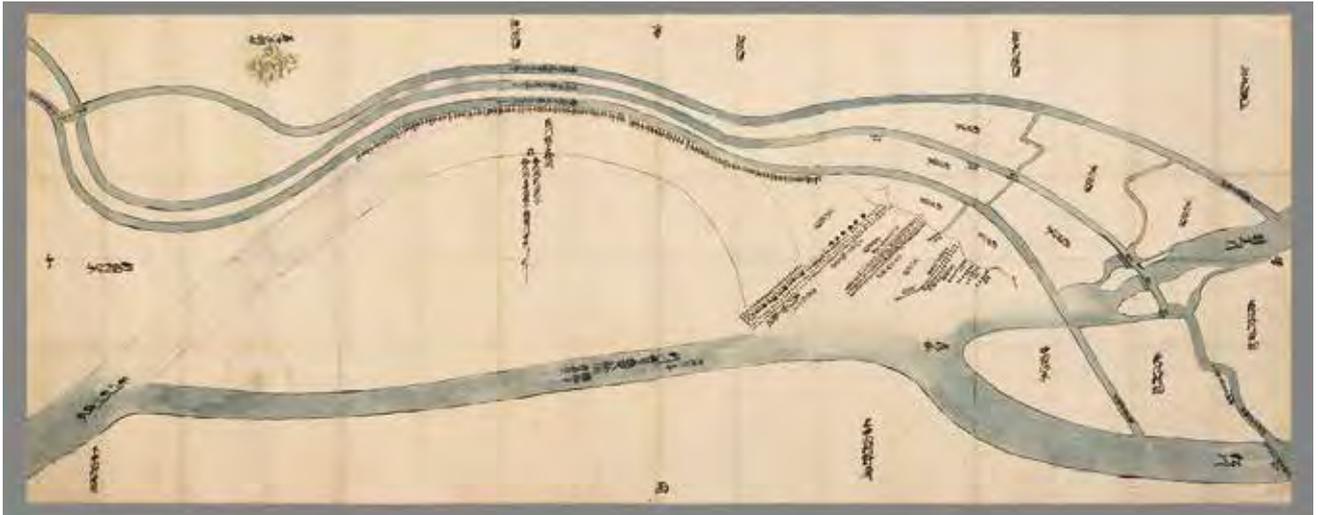
預所領内下四ヶ村落川上の堀替えにつき村境取決め／1 鋪／9枚 (31.2×40.8) ／現状は巻 (元は折畳装) ・29.4×15.6、後補裏打／92.8×120.6／宝暦8年 (1758) 3月26日／外題題箋「宝暦八年四月十四日於御役所被成御渡葭野川堀替絵図 尚公儀の变地御改候節ハ入可申御事」／楮紙／御預所高畑御役所勤今井源五兵衛 (黒印) ／彩色あり、方位書：東西南北、葭野川下四ヶ村落シの堀替につき境立会の旨の畠紙書あり／235



1914 「栃窪村黒鴨村論地之絵図」

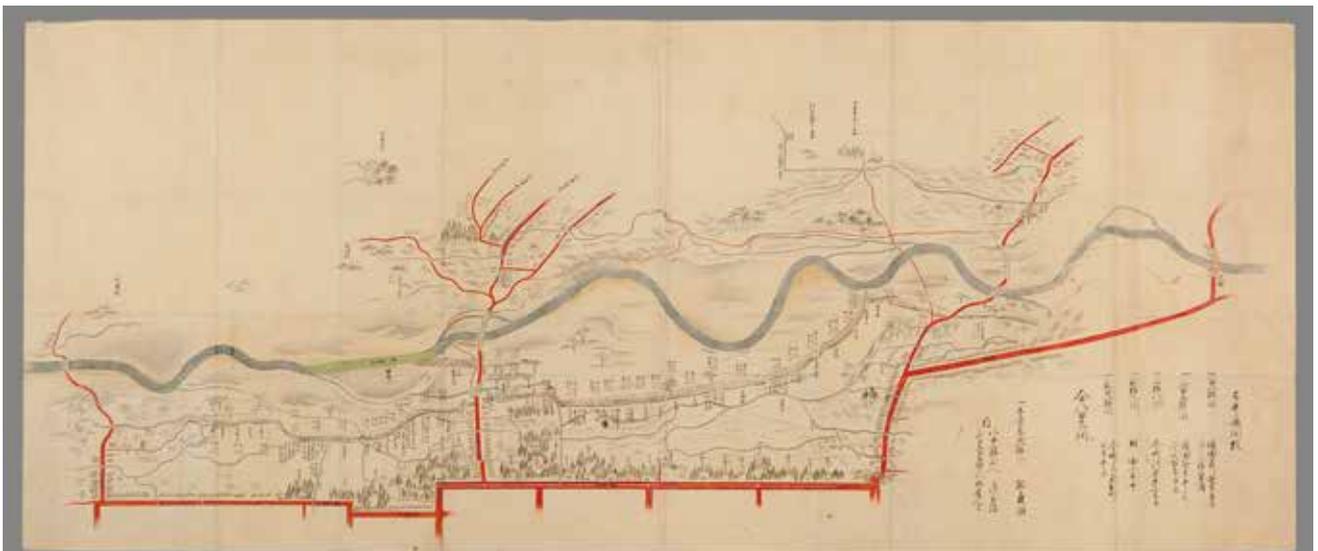
栃窪村と黒鴨村の境界相論につき「源山村用水」を境界と取決めのこと／1 鋪／4枚 (30.3×39.0) ／現状は巻 (元は折畳装) ・20.5×9.7、後補裏打／60.8×77.3／江戸中期 (年月日未詳) ／楮紙／彩色あり、方位書：南、畠紙書「栃窪村ハゑせくら小嶺伝ひ梨木迄、黒鴨村ハ手代森より水無し沢通村境の論地」、蔵書印「林泉文庫」／235

村絵図－御普請



1906 「出羽国置賜郡御料露藤村入生田村舟橋村亀岡村私領福沢村立合御普請所絵図」

史料名を参照／1 鋪／8枚 (31.0×39.3) ／現状は巻 (元は折畳装) ・9.9×21.0、後補裏打／156.9×61.1／江戸中期 (年月日未詳) ／楮紙／彩色あり、方位書：東西南北／235



1905 「東河原川除土手御手伝御絵図」

米沢城下の福田町裏から割出町までの家臣による御手伝普請の持ち場分担図／1 鋪／12枚 (32.0×42.2) ／現状は巻 (元は折畳装) ・25.2×22.2、後補裏打／75.4×179.2／寛政10年 (1798) 6月／外題題箋「寛政十年六月 東河原川除土手御手伝御絵図」／楮紙／彩色あり、土手通間数及び総物頭数の畠紙書あり／235



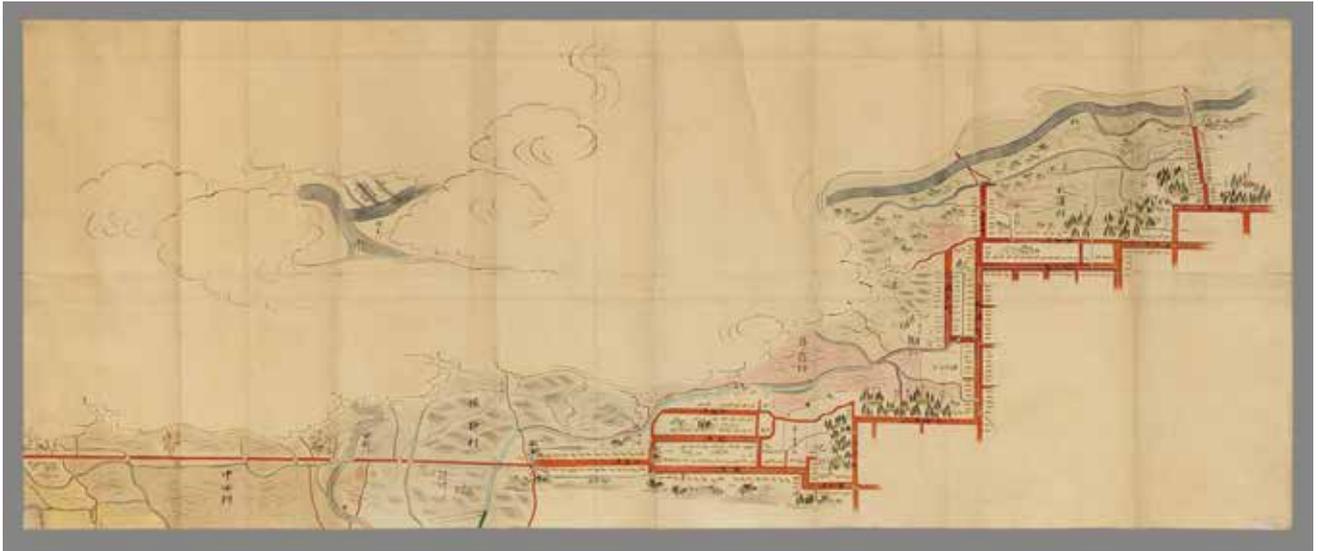
1909 「板谷新道絵図」

巖石沢から板谷駅まで、古道・新道・滑川道・五色湯道・赤濱道を朱線で描写／1 鋪／30枚 (26.7×39.0) ／折畳装 (原装) ・33.2×26.5、原装裏打／131.9×210.8／嘉永元年 (1848) ／楮紙／岩瀬半兵衛／彩色あり、袋墨書「嘉永元戊申歳 板屋新道絵図岩瀬半兵衛」(35.6×28.6) ／235



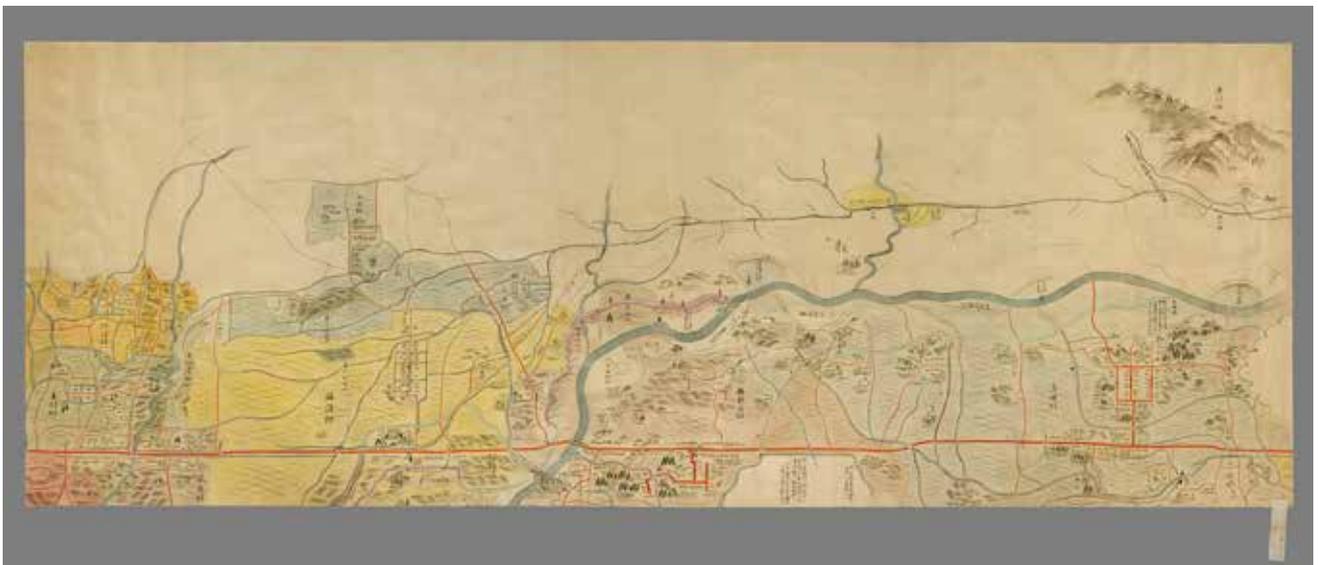
板谷駅で分岐する古道 (上) ・新道 (中央) ・五色湯道 (下)

堰絵図



1918 「御城下今町より中田村迄黒井堰絵図」

今町から中田村までの村高・街道など／1 鋪／12枚 (31.8×45.1) ／現状は巻 (元は折畳装) ・32.8×20.3、後補裏打／65.9×163.2／寛政7年 (1795) 6月／外題「寛政七乙卯六月 御城下今町より中田村迄黒井堰絵図 全部七枚」／楮紙／彩色あり、端の折返しあり (右のみ) ／235



1919 窪田村、糠野目村、福沢村、筑茂村堰絵図

窪田村、糠野目村他8カ村／1 鋪／19枚 (31.5×45.4) ／現状は巻 (元は折畳装) ・31.5×25.5、後補裏打、下部裁断あり／75.0×202.2／ (寛政7年 (1795) 6月) ／楮紙／彩色あり、黒井堰揚口からの距離及び御恵用水の新規堀立に関する畠紙書あり／235



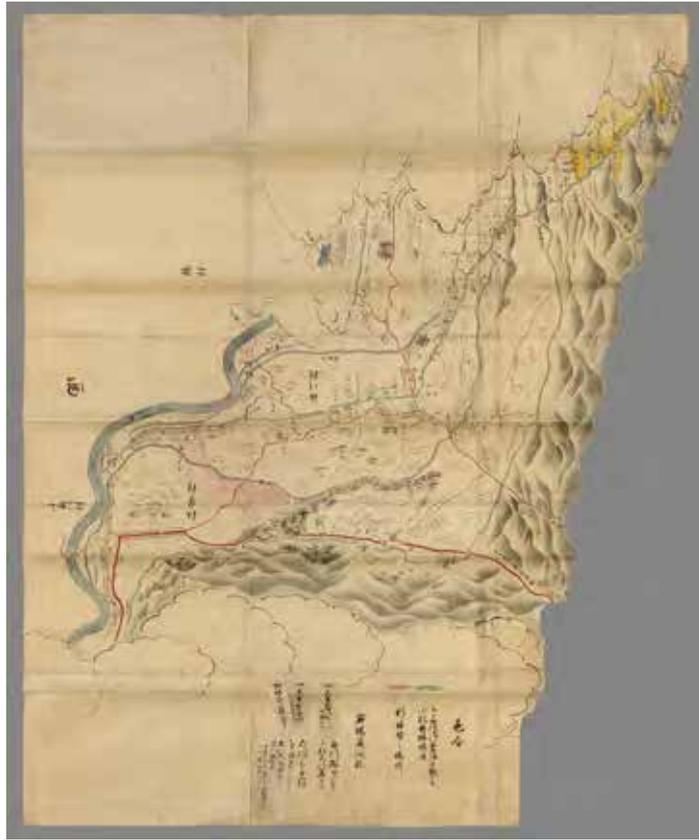
1927 「畔藤村新堰絵図」

浅立村、広野村他6ヶ村／1鋪／12枚 (32.0×45.0) ／現状は巻 (元は折畳装) ・29.4×21.1、裏打なし／88.5×167.4／文政元年 (1818) 6月／外題題箋「文政元年六月畔藤村新堰絵図」／楮紙／岩瀬三左衛門政辰／彩色あり、文字の中心にへら跡あり、凡例色分あり、新堰の未完成箇所を示す貼紙あり、方位書：東西、袋墨書「文政元年六月 畔藤村新堰絵図 岩瀬三左衛門政辰」(34.9×23.1) ／235



1926 「飯豊山穴堰絵図」

飯豊山穴堰の流路・位置／1鋪／12枚 (31.5×46.5) ／現状は巻 (元は折畳装) ・30.7×23.6、後補裏打／122.2×117.7／文政元年 (1818) 11月／外題「文政元年十一月 飯豊山穴堰絵図」／楮紙／岩瀬三左衛門政辰／彩色あり、方位書などにへら跡あり、方位書：南、袋墨書「文政元年十一月 飯豊山穴堰絵図 岩瀬三左衛門政辰」(38.1×26.3) ／235



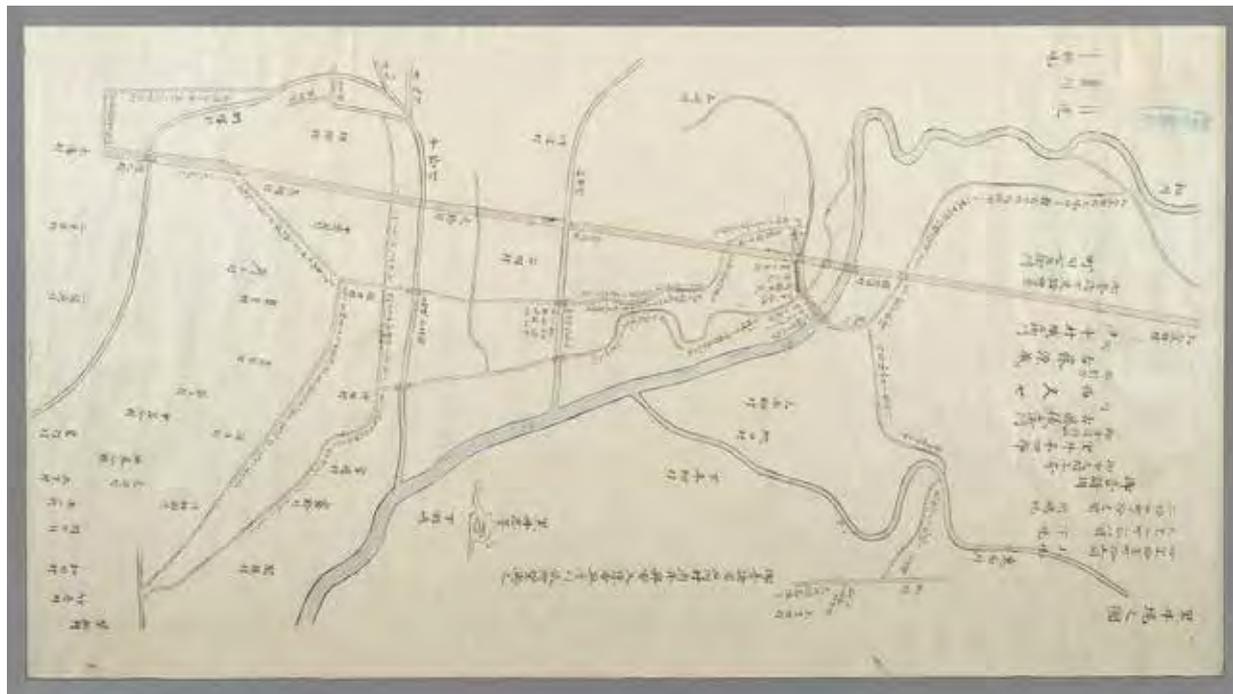
1925 「飯豊山穴堰御普請御成就白川元水附益候付長堀堰江増水高山村江御掛渡之堰筋絵図」

飯豊山穴堰完成に伴う松原村・添川村辺の流路／1 鋪／15枚 (32.0×45.7) ／現状は巻 (元は折畳装) ・41.7×25.4、裏打なし／151.9×120.2／文政3年 (1820) 5月／外題題箋「上 文政三年五月 飯豊山穴堰御普請御成就白川元水附益候付長堀堰江増水高山村江御掛渡之堰筋絵図」／楮紙／彩色あり、新堀替他の凡例色分あり、間数に関する貼紙あり、方位書：西、堰通間数に関する畚紙書あり／235



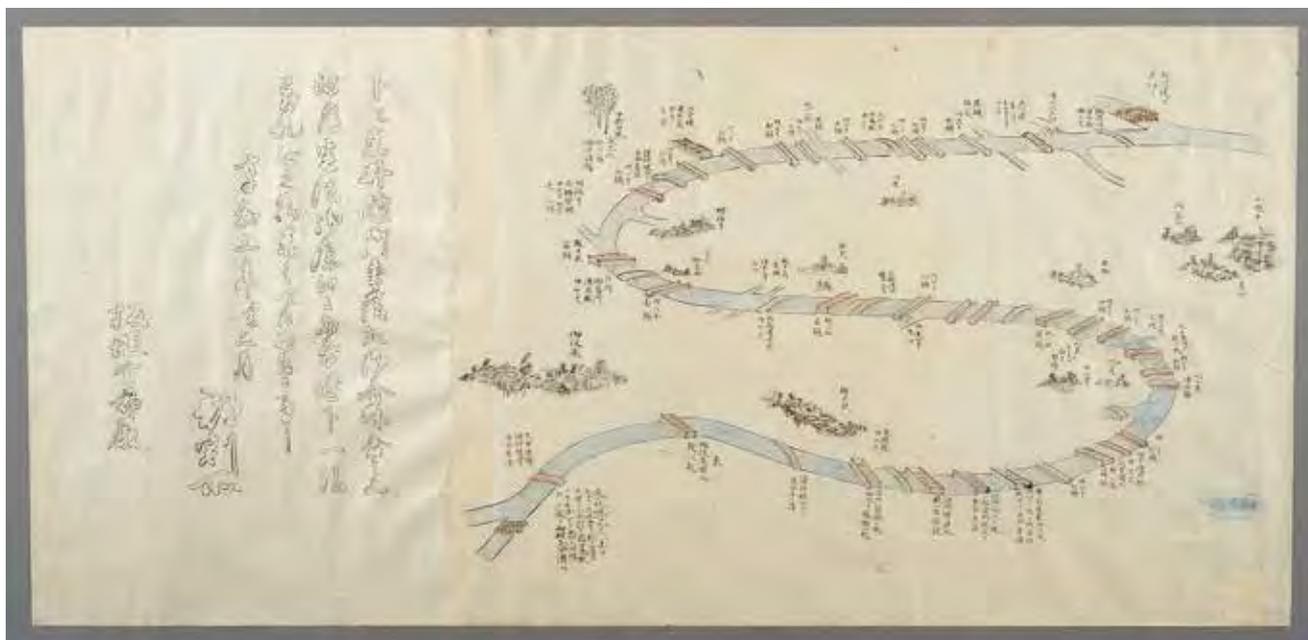
1928 「飯豊山穴堰御普請御成就白川元水附益候付長堀堰江増水高山村江御掛渡之堰筋絵図」

資料名を参照／1 鋪／10枚 (30.0×42.0) ／現状は巻 (元は折畳装) ・39.6×25.6、裏打なし／153.6×64.4／文政3年 (1820) 5月／外題題箋「中 文政三年五月 飯豊山穴堰御普請御成就白川元水附益候付長堀堰江増水高山村江御掛渡之堰筋絵図」／楮紙／彩色あり、文字の中心にへら跡あり、ラベル「上杉伯爵家」／235



1915 「黒井堰之図」

窪田から赤湯までの堰の設計図／1鋪／1枚(43.0×78.8)／巻(原装)原装裏打／78.8×43.0／江戸後期(年月日未詳)／間似合紙／彩色あり、道・川・堰を示す凡例あり、畠紙書「御普請宿右同村」／235



1916 黒井堰図写

窪田から矢野目通までの堰の取水口や橋工事の諸村の取り決め、原本は享和3年(1803)／1鋪／2枚(39.5×54.9)／巻(原装)、後補裏打／39.5×82.6／江戸後期(年月日未詳)／鳥の子紙／彩色あり、畠紙書「下も黒井堰」／235



1920 黒井堰図

下矢野目村から尾長嶋村辺りまで及び夏刈村内の黒井堰の流路／1 鋪／12枚 (31.7×44.7) ／現状は巻 (元は折畳装) ・32.0×23.6、後補裏打／64.6×138.1／江戸後期 (年月日未詳) ／墨書「下矢野目村小其塚村尾長嶋村下平柳村蛇口村上平柳村夏川村」／楮紙／彩色あり、新たな築立に関する畠紙書あり／235



1921 黒井堰図

宮崎村・酒井村から梨郷村までの黒井堰の流路／1 鋪／16枚 (31.4×44.6) ／現状は巻 (元は折畳装) ・28.6×21.4、後補裏打／170.3×115.1／江戸後期 (年月日未詳) ／墨書「宮崎村露橋村関根村酒井村法師柳村砂塚村梨郷」／楮紙／彩色あり／235



1922 石岡村、鍋田村、中野目村、高梨村、沖田村、萩生田村堰絵図

石岡村、宮井村他10ヶ村における樋・田の法量、新堰／1鋪／12枚 (32.1×44.1) / 現状は巻 (元は折畳装)・31.3×21.5、後補裏打／62.7×129.2 / 江戸後期 (年月日未詳) / 墨書「石岡村鍋田村中野目村高梨村沖田村萩生田村」 / 楮紙 / 彩色あり / 235



1923 塩野村、宮井村、小瀬村、藤泉村堰絵図

塩野村、宮井村他2ヶ村をめぐる黒井堰・河川・新堰／1鋪／9枚 (31.3×45.3) / 現状は巻 (元は折畳装)・31.7×21.7、後補裏打／63.3×131.5 / 江戸後期 (年月日未詳) / 墨書「塩野村宮井村小瀬村藤泉村」 / 楮紙 / 彩色あり、川通の凡例色分あり、凡例追記の貼紙あり / 235



1924 大橋村、俎柳村、長岡村、柵塚村、赤湯村堰絵図

赤湯村から石岡村までの街道・新堰／1 鋪／9枚 (26.2×45.3) ／折畳装 (原装) ・27.5×21.8、後補裏打／55.0×171.2／江戸後期 (年月日未詳) ／墨書「大橋村俎柳村長岡村柵塚村赤湯村」／楮紙／彩色あり／235

合戦図－合戦図



1929 川中島合戦図

永禄4年9月10日第4次川中島合戦の陣取図／1 鋪／1枚 (24.8×31.1) ／現状は巻 (元は折畳装) ・24.8×6.2、後補裏打／24.3×31.1／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／蔵書印「林泉文庫」、No.1930と一括／235



1930 「信州川中島合戦陣取略画図」

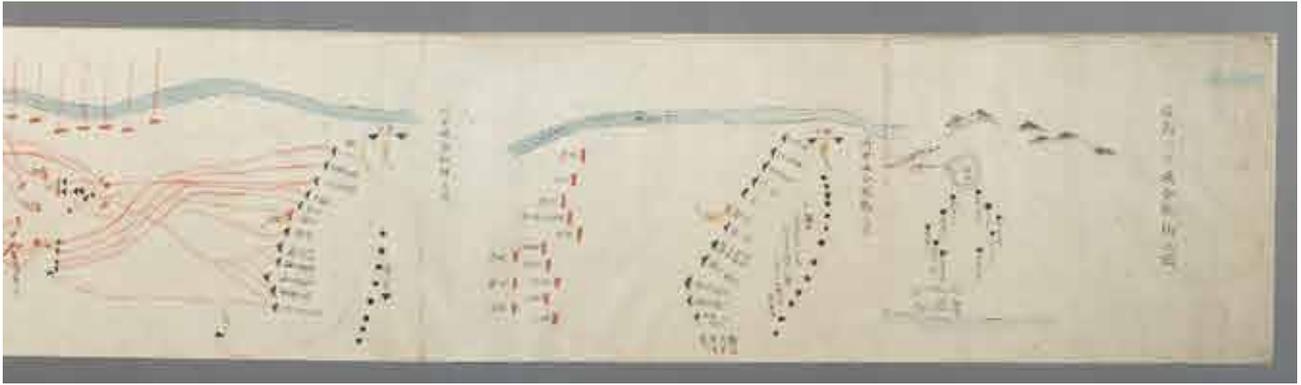
川中島合戦の上杉・武田両軍の配陣図／1 鋪／1枚 (31.2×40.8)／巻 (原装)、後補裏打／31.2×40.8／江戸後期 (年月日未詳)／楮紙／蘭溪亭泉／木版刷、蔵書印「林泉文庫」、方位書：東西南北、No.1929と一括／235



1954 「信州川中島絵図」

松代城下絵図／1 鋪／10枚 (33.3×48.3)／折畳装 (原装)・24.7×33.3、原装裏打、河川の流路修正の紙を貼継ぐ／147.0×98.8／江戸後期 (年月日未詳)／間似合紙／彩色あり、方位書：東西南北、袋墨書「信州川中島絵図四敷」(43.0×26.9)／236

合戦図一陣形図



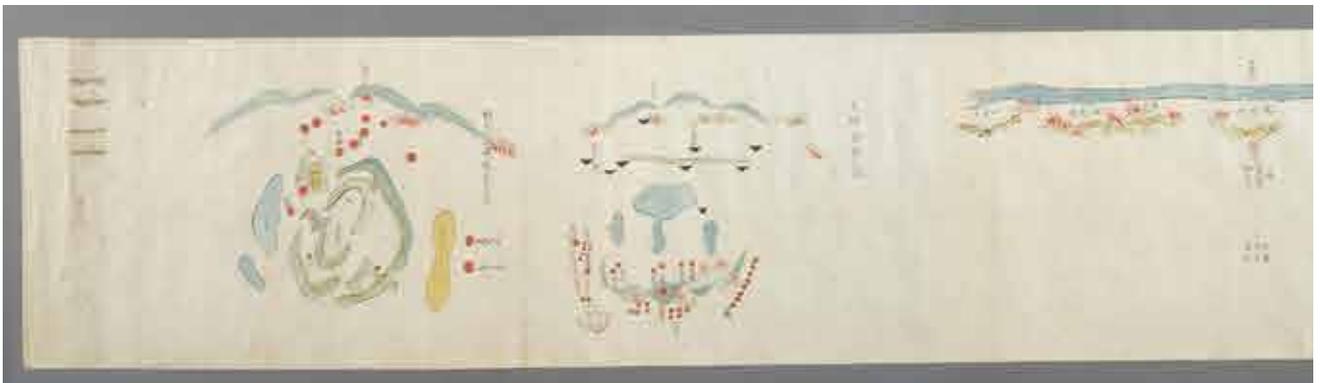
①



②



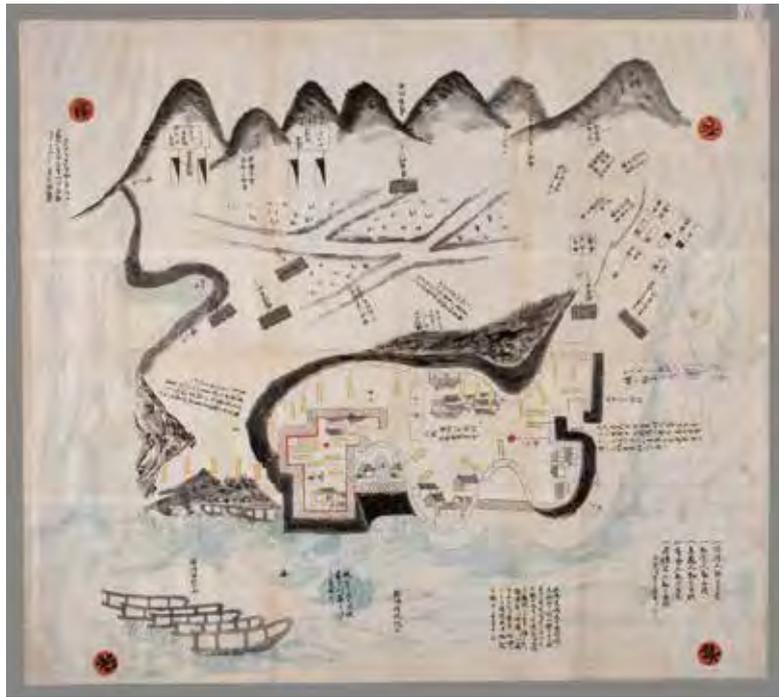
③



④

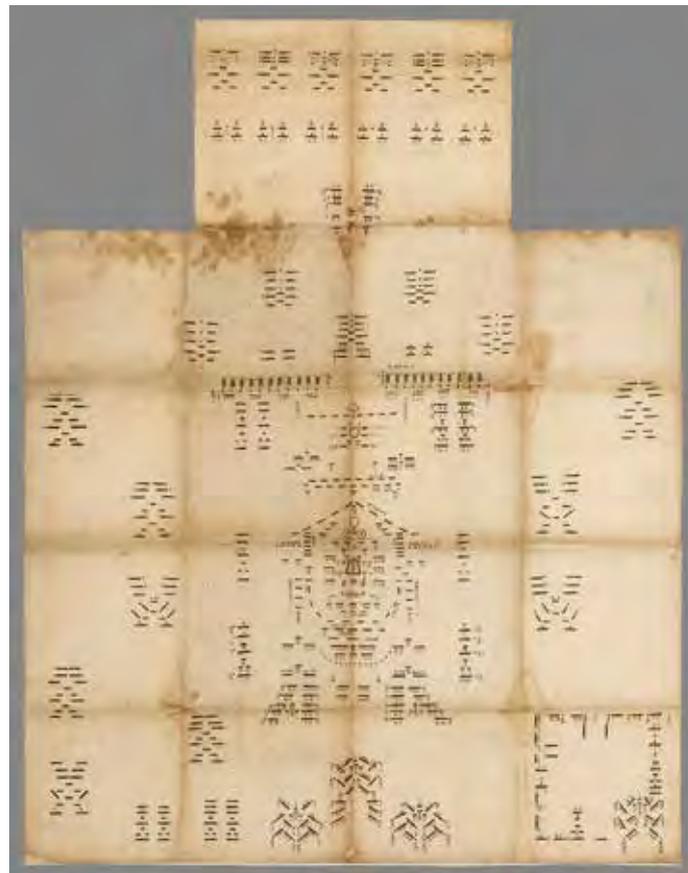
1932 川中島合戦図

武田信玄・勝頼の合戦絵図、陣形図／1 鋪／13枚 (27.4×38.7) ／卷 (原装)、後補裏打／27.4×420.5／江戸中期 (年月日未詳) ／楮紙／彩色あり／236



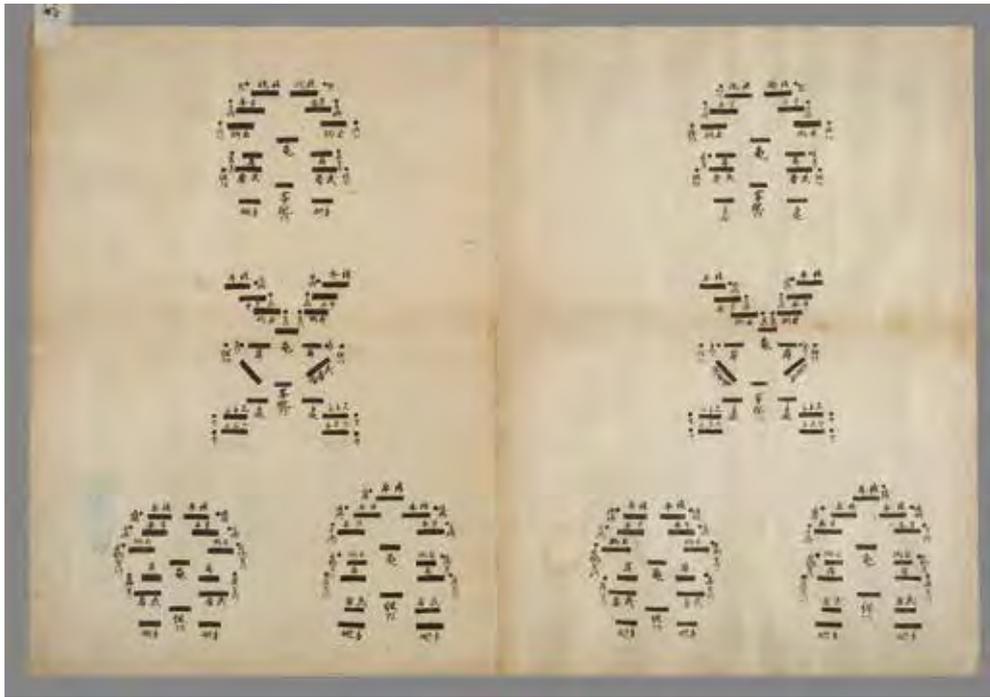
1966 「きりしたん籠中城の絵図」写

島原天草一揆における九州大名の布陣図／1 鋪／6枚 (29.3×39.2)／現状は巻 (元は折畳装)・20.1×22.3、後補裏打／79.3×88.7／江戸中期 (年月日未詳)／墨書「絵図類」／楮紙／彩色あり、方位書：東西南北、島原の乱に出陣した九州諸大名の動員数の畠紙書あり／236



1976 陣形図

大将を中心とした陣形図／1 鋪／15枚 (33.0×46.5)／現状は巻 (元は折畳装)・33.4×35.9、後補裏打／179.3×138.7／江戸後期 (年月日未詳)／楮紙／236



1977 陣形図

三手組以下8隊で構成／1 鋪／2枚 (34.1×46.7) ／巻 (原装)、原装裏打／46.7×67.6／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／236



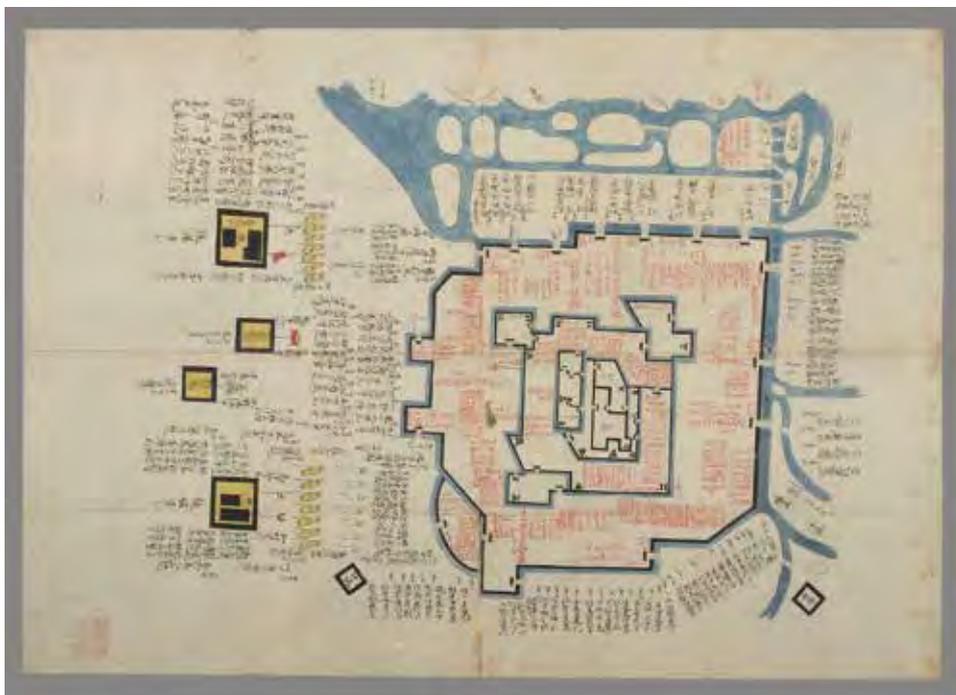
1931 川中島合戦陣形図

第4次川中島合戦における上杉・武田両軍の陣形／1 鋪／4枚 (31.9×48.3) ／現状は巻 (元は折畳装) ・11.5×25.0、後補裏打／64.0×95.5／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／方位書：東西南北、第4次川中島合戦の概要及び謙信の動向に関する畧紙書あり／236



1933 「大阪御陣図」

慶長20年5月6日の大坂夏の陣における両軍の布陣図／1 鋪／8枚 (26.1×39.2) ／折畳装 (原装) ・13.3×19.3、原装裏打／105.3×75.2／江戸後期 (年月日未詳) ／外題「大阪御陣図」／楮紙／彩色あり、内題「元和元年乙卯五月六日 難波戦場両軍備之図」、蔵書印「伊佐早蔵本」、ラベル「オ〇本 ニーニ」、方位書：南東、大坂夏の陣における各武将の動向を示す畠紙書あり／236



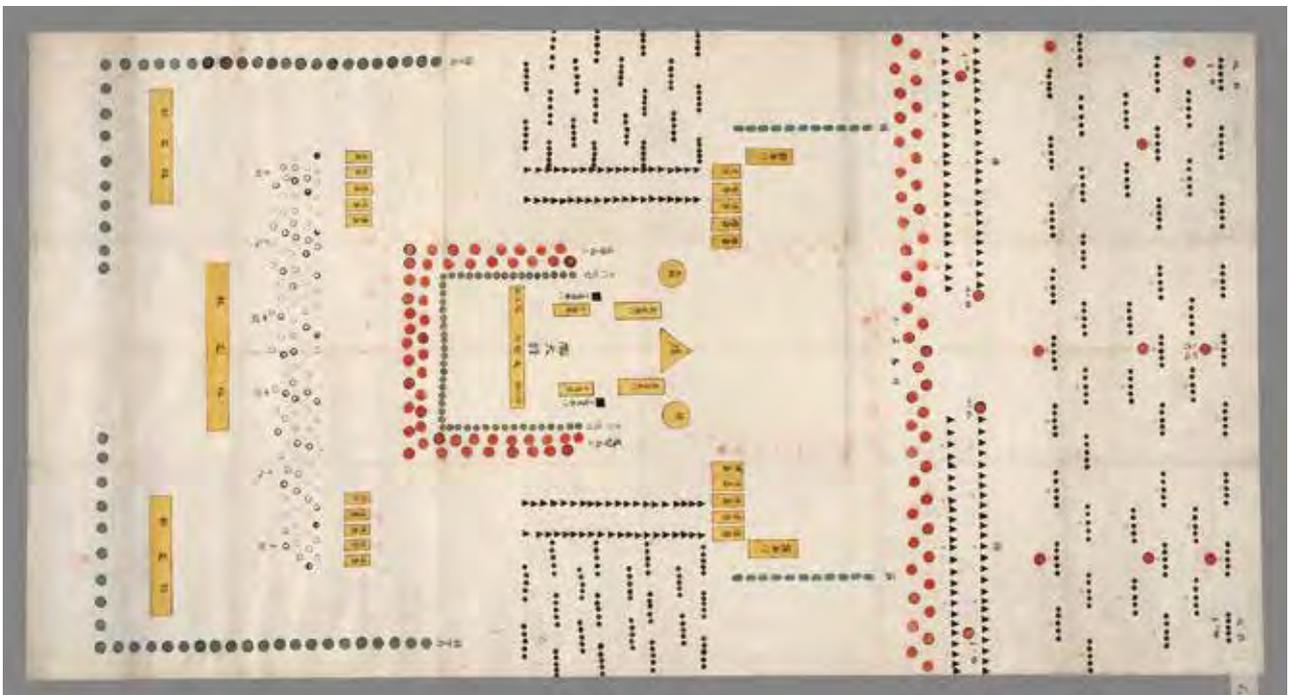
1934 大坂陣図

大坂城周辺における各武将の布陣図／1 鋪／4枚 (26.2×37.4) ／折畳装 (原装) ・18.7×13.3、原装裏打／74.7×53.2／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／彩色あり、蔵書印「伊佐早蔵本」／236



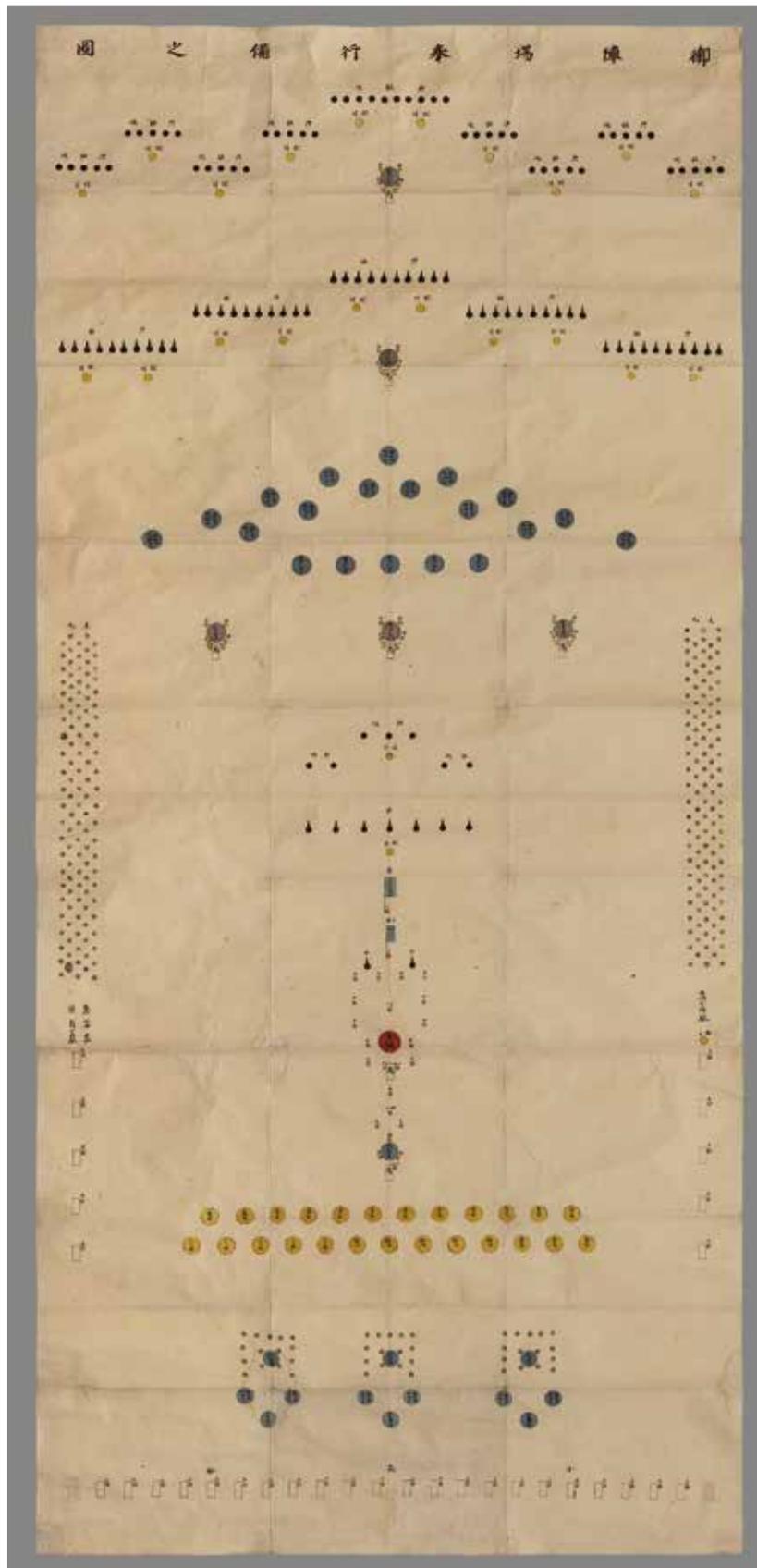
1935 「大坂夏御陣之図」

幕府方・豊臣方双方の武将配置図／1 鋪／15枚 (26.6×37.4) ／現状は巻 (元は折疊装)・33.2×19.1、後補裏打／107.4×127.4／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／彩色あり、方位書：東西南北、大坂夏の陣における豊臣方の動向を示す畠紙書あり、蔵書印「伊佐早蔵本」／236



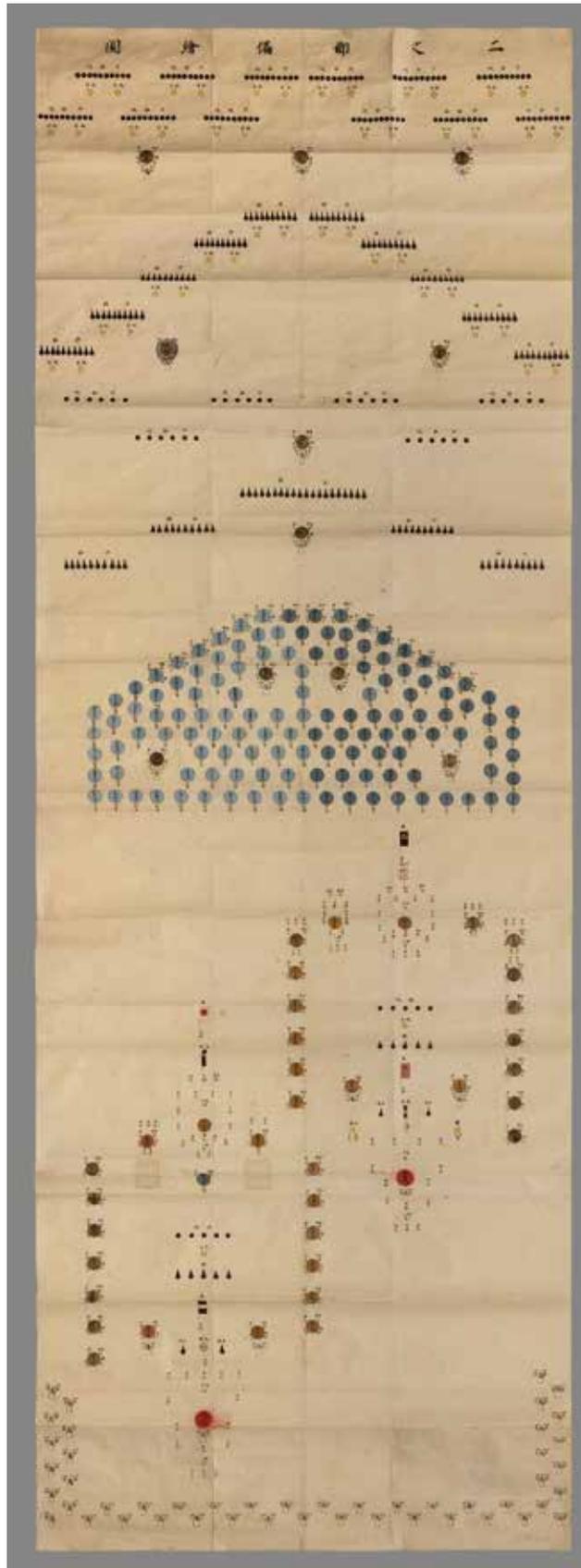
1955 大将陣営図

大将陣営の陣形図／1 鋪／6枚 (32.0×42.7) ／現状は巻 (元は折疊装)・19.5×22.0、後補裏打／121.0×64.2／江戸後期 (年月日未詳) ／墨書「大將軍」／楮紙／彩色あり／236



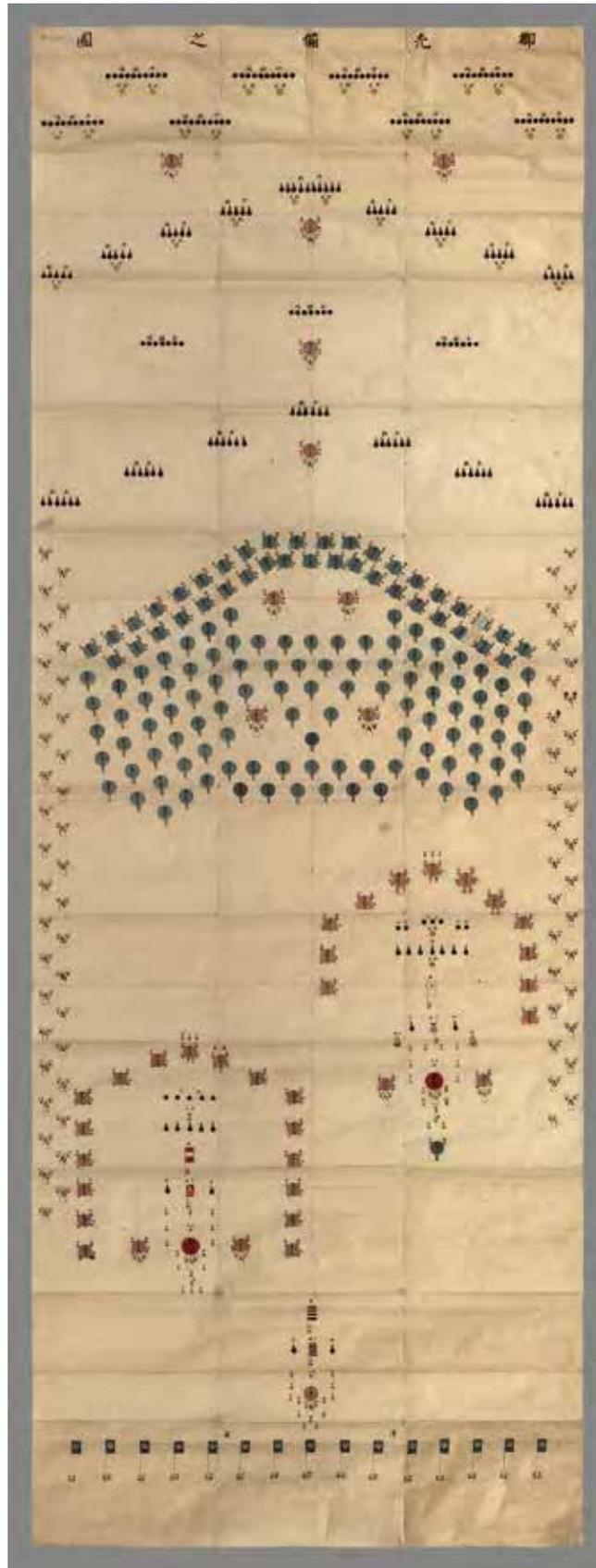
1950 「御陣場奉行備之図」

千坂隊の陣形図／1 鋪／12枚 (32.7×45.0) ／現状は巻 (元は折畳装)・21.7×30.0、裏打なし、補修紙跡あり／196.4×89.9／(寛文12年～延宝2年・1672～1674頃) ／外題「御陳 (ママ) 場奉行備之図」／楮紙／彩色あり、コンパス穴あり、陣形部分にへら跡あり、「御陣馬奉行 附遊軍勢」(文書編No.0853-02) に対応／236



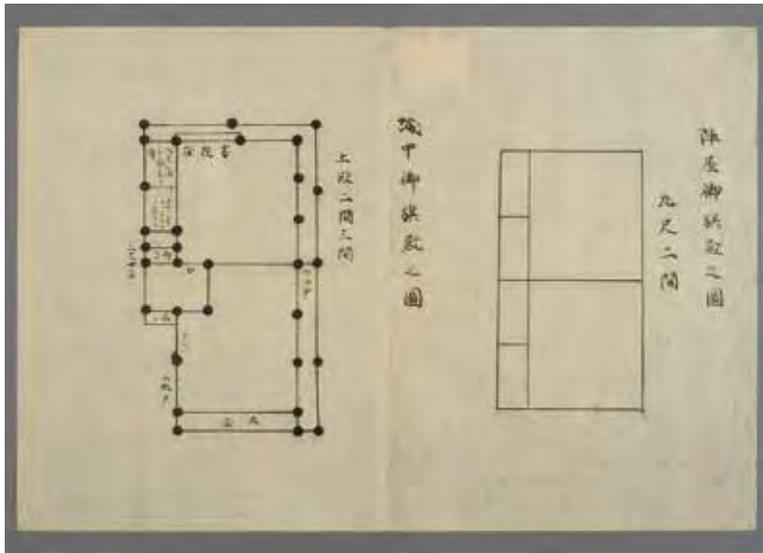
1951 「二之御備之図」

長尾隊・嶋津隊の陣形図／1 鋪／16枚 (33.1×44.5) ／現状は巻 (元は折畳装) ・21.3×29.4、裏打なし／254.4×88.8／ (寛文12～延宝2年・1672～1674頃) ／外題「二之御備之図」／楮紙／彩色あり、コンパス穴あり、陣形部分にへら跡あり、記載抹消を示す貼紙あり、「御陣馬奉行 附遊軍勢」(文書編No.0853-02) に対応／236



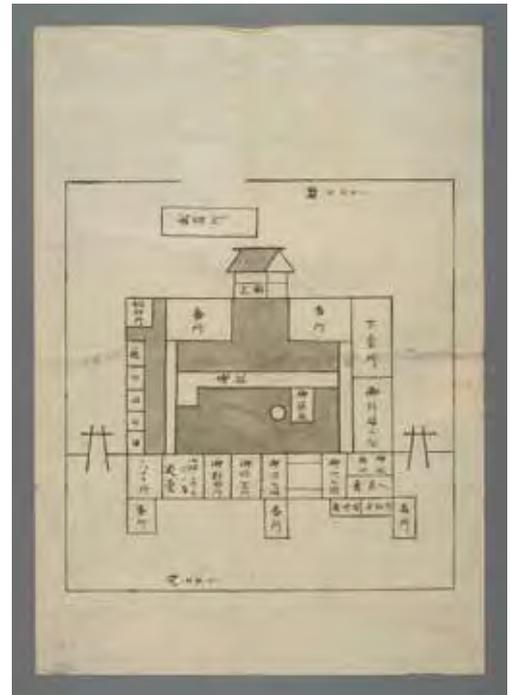
1952 「御先備之図」

本庄隊・市川隊の陣形図／1 鋪／16枚 (33.0×44.9) ／現状は巻 (元は折畳装) ・21.3×29.7、裏打なし／254.4×89.5／ (寛文12～延宝2年・1672～1674頃) ／外題「御先備之図」／楮紙／彩色あり、コンパス穴あり、陣形部分にへら跡あり、記載抹消を示す貼紙あり、「御陣馬奉行 附遊軍勢」(文書編No.0853-02) に対応／236



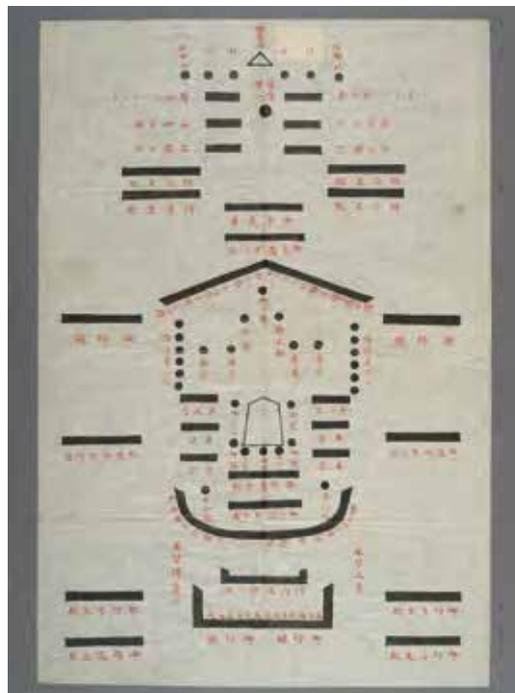
1970 「御旗殿之図」

城中旗殿および陣屋旗殿の指図／1 鋪／1枚 (27.2×39.7) ／折畳装 (原装)・13.7×19.8、裏打なし／27.2×39.7／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／袋墨書「御旗殿之図 本陣之図 本陣備之図 箭所之図」(24.8×14.4)、袋にNo.1970～1974を一括／236



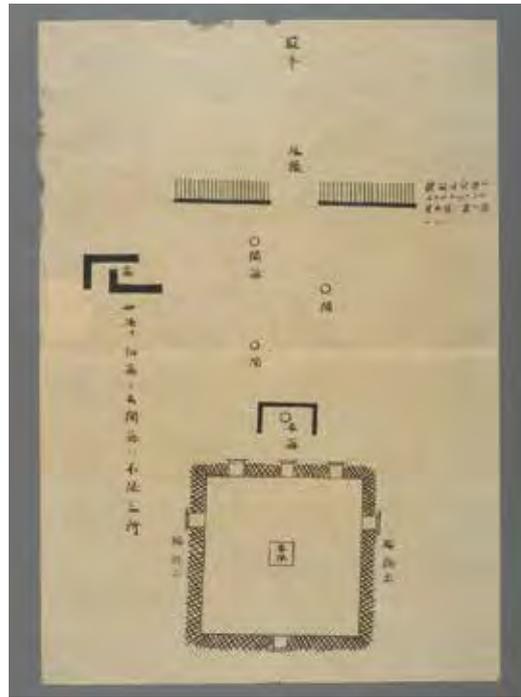
1971 「本陣之図」

本陣の建屋の配置図／1 鋪／1枚 (27.3×39.5) ／折畳装 (原装)・19.8×13.7、裏打なし／39.5×27.3／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／袋墨書「御旗殿之図 本陣之図 本陣備之図 箭所之図」(24.8×14.4)、袋にNo.1970～1974を一括／236



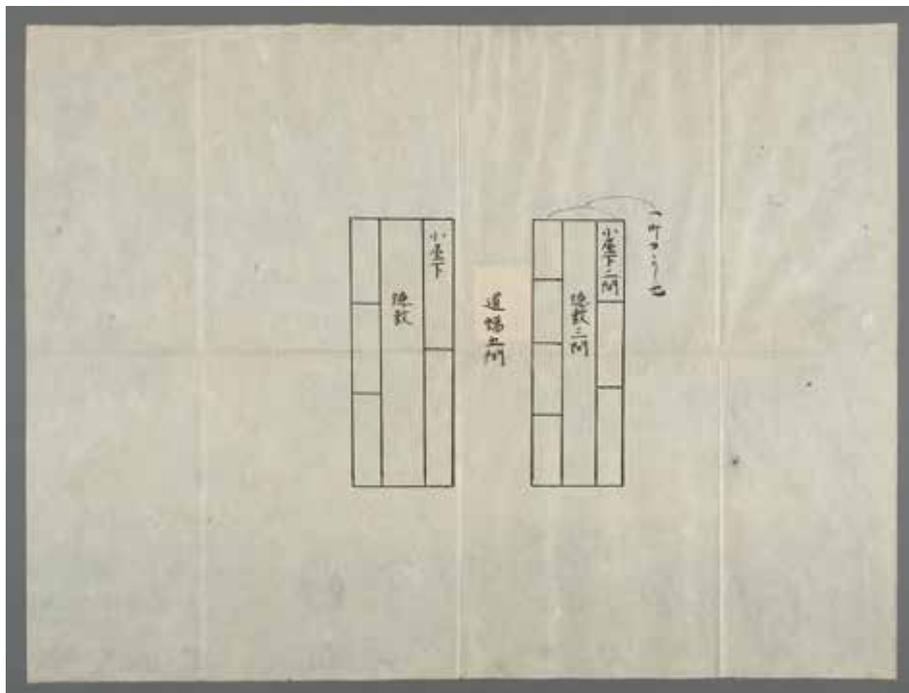
1972 「本陣備之図」

陣形図／1 鋪／1枚 (33.0×49.5) ／折畳装 (原装)・12.5×16.5、裏打なし／49.5×33.0／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／袋墨書「御旗殿之図 本陣之図 本陣備之図 箭所之図」(24.8×14.4)、袋にNo.1970～1974を一括／236



1973 「箭所之図」

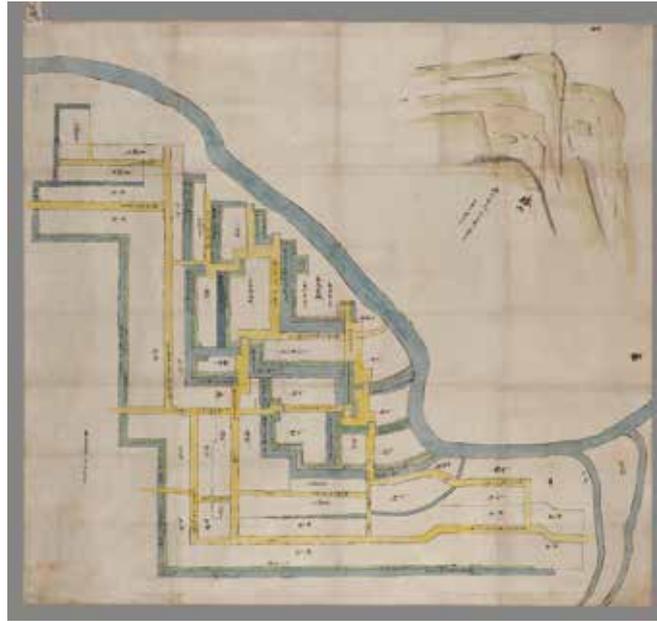
本陣周辺に設ける柵の配置図／1 鋪／1枚 (27.1×39.6) ／折畳装 (原装)・19.8×13.6、裏打なし／39.6×27.1／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／袋墨書「御旗殿之図 本陣之図 本陣備之図 箭所之図」(24.8×14.4)、袋にNo.1970～1974を一括／236



1974 「隠敷之図」

建物内の「隠敷」の配置図／1 鋪／1枚 (31.3×41.2) ／折畳装 (原装)・15.6×12.2、裏打なし／31.3×41.2／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／袋墨書「御旗殿之図 本陣之図 本陣備之図 箭所之図」(24.8×14.4)、袋にNo.1970～1974を一括／236

領外絵図－米沢以外の城絵図



1963 福島城下絵図

福島城下の町割り、堀の広さ・深さ、道の長さ／1 鋪／12枚 (27.8×37.4) / 現状は巻 (元は折畳装)・13.8×26.2、後補裏打／99.6×106.6／貞享4年 (1687) 6月25日／楮紙／彩色あり、方位書：南、蔵書印「林泉文庫」／236



1965 「元禄十六年酒井左衛門尉殿居城羽州庄内堀泥場普請願之節公方様御役人中江被指出候絵図之写」

洪水で崩落した鶴岡城本丸・二の丸の土居4カ所の修復、原本は元禄16年 (1703) 7月12日作成／1 鋪／4枚 (29.8×40.6) / 現状は巻 (元は折畳装)・27.1×14.9、後補裏打／81.5×60.5／天保16年 (1845) 写／外題「元禄十六年酒井左衛門尉殿居城羽州庄内堀泥場普請願之節公方様御役人中江被指出候絵図之写」、同内容の複写物を貼付／楮紙／酒井左衛門尉／彩色あり、方位書：東西南北、洪水につき崩落した本丸・二の丸の土居修復の罫紙書あり、蔵書印「林泉文庫」／236



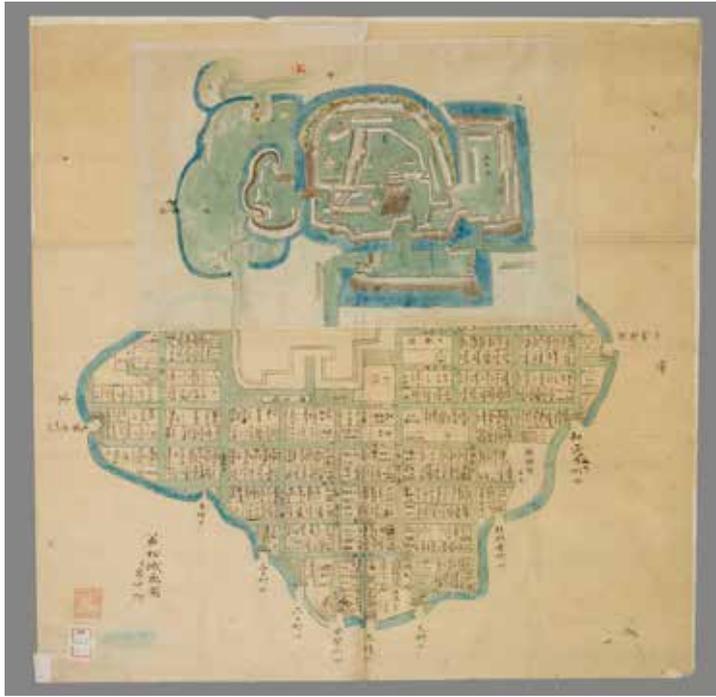
1980 「駿州有渡郡府中御城絵図」写

駿府城三の丸周辺まで、元図は安永7年9月作成／1鋪／6枚 (27.2×38.3) ／折畳装 (原装)・15.0×8.5、原装裏打／65.1×58.3／享和2年 (1802) 2月写／楮紙／彩色あり、後補外題「駿州府中御城絵図 安永七年」、袋墨書「駿州有渡郡府中御城絵図」(16.0×10.4) ／236



1978 「大坂城之図」

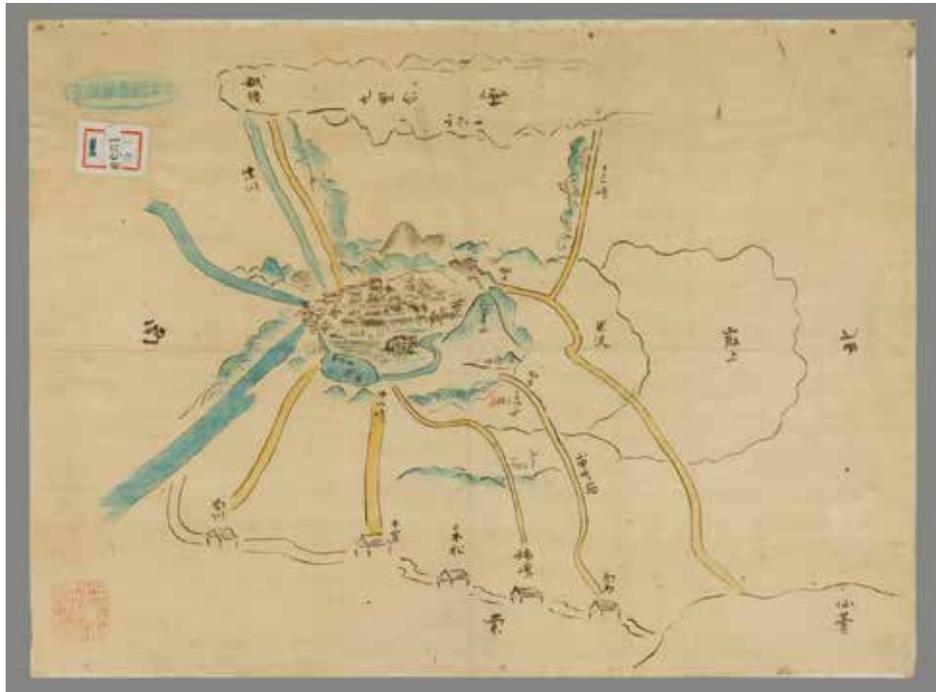
二の丸までの建屋配置など／1鋪／6枚 (24.1×32.8) ／折畳装 (原装)・16.8×35.2、後補裏打／65.5×71.2／文化6年 (1809) 11月／墨書「松城 三枚之内」、貼紙「松城 又 三枚之内」／楮紙／彩色あり、袋墨書「文化六己巳年十一月 大坂城之図」(29.6×18.5) ／236



1958 「若松城画図并家中附」

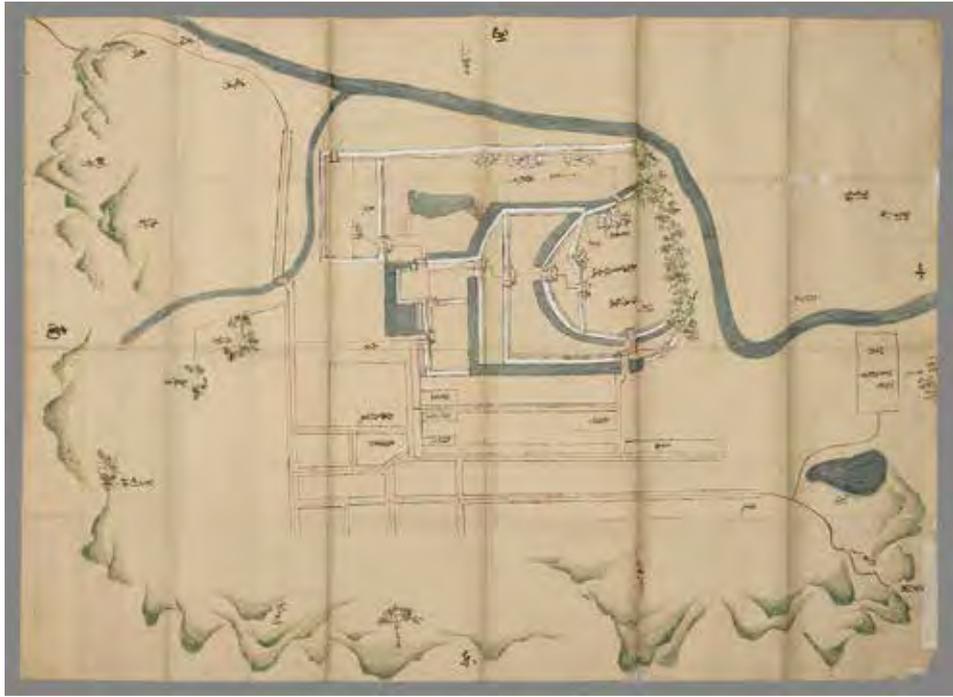
会津若松城と郭内の家臣屋敷割図／1 鋪／4枚 (31.0×41.1) /現状は巻 (元は折畳装)・18.7×15.4、後補裏打／61.3×60.9／慶応4年 (1868) 3月／楮紙／彩色あり、会津若松城本丸図の貼紙が附属、方位書：東西、袋墨書「若松城画図 二鋪 林泉文庫」(30.4×20.5)、蔵書印「林泉文庫」、蔵書印「林□蔵堂」／236

貼紙を捲った状態



1959 南奥羽略絵図

会津若松を中心に奥州街道沿いの城下町および越後に続く峠道を略記／1 鋪／1枚 (31.3×42.0) /現状は巻 (元は折畳装)・15.5×10.6、後補裏打／31.3×42.0／江戸後期 (年月日未詳) /楮紙／彩色あり、方位書：東西南北、袋墨書「若松城画図 二鋪 林泉文庫」(30.4×20.5)、蔵書印「林泉文庫」、蔵書印「林□蔵堂」／236



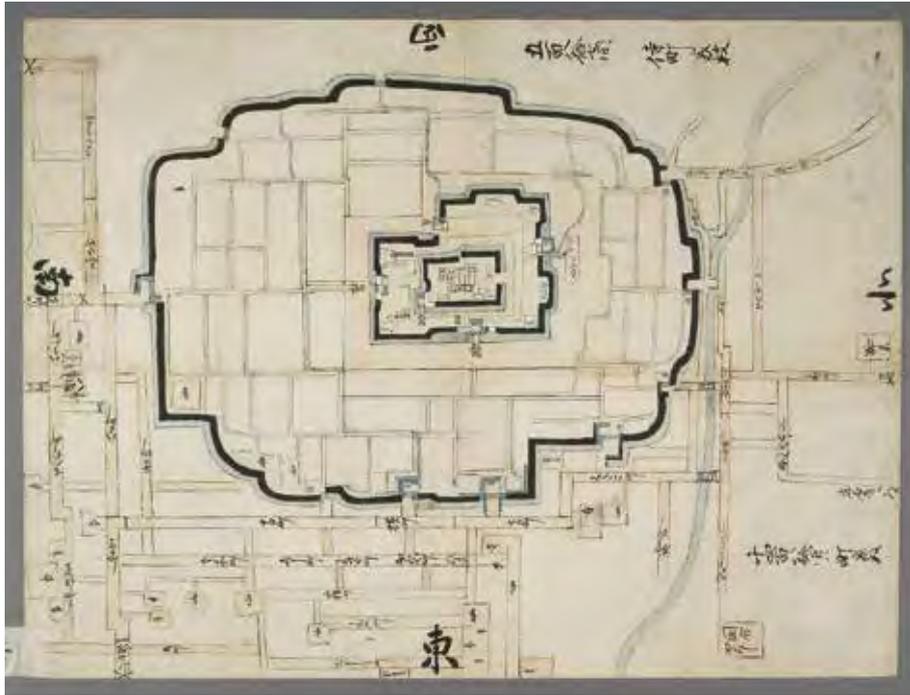
1943 松代城絵図

松代城下及び真田家一族の屋敷割図／1 鋪／9枚 (36.7×50.5)／現状は巻 (元は折畳装)・25.5×26.9、原装・後補裏打／150.5×107.2／江戸中期 (年月日未詳)／墨書「松城 三枚之内」、貼紙「松城 又 三枚之内」／鳥の子紙／彩色あり、全体にへら跡あり、新旧御座敷の凡例あり、改築箇所・街道幅・敷地幅を示す、方位書：東西南北／236



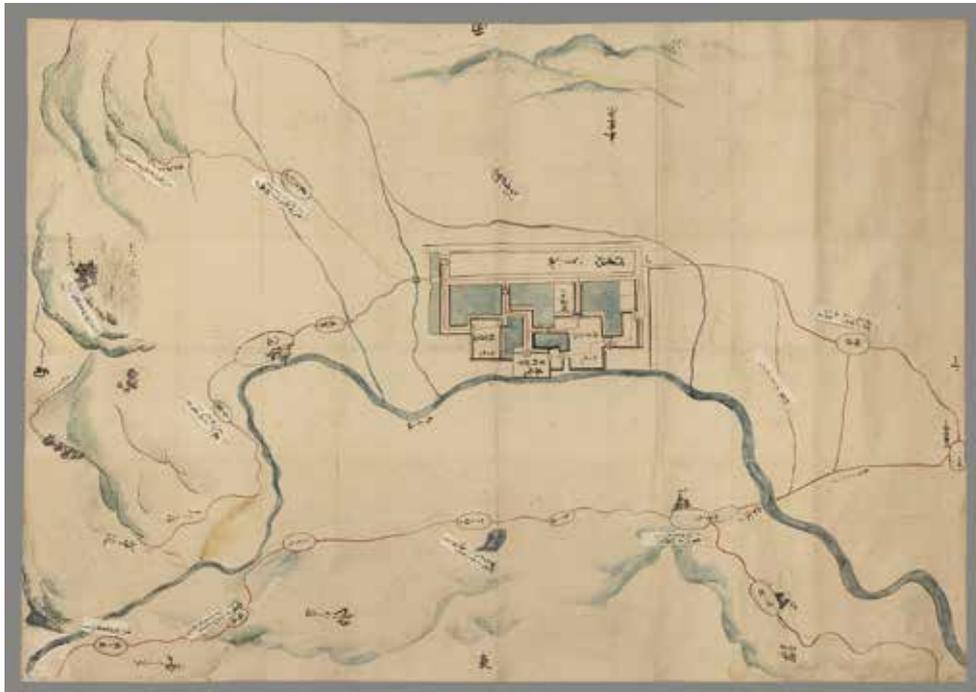
1944 上田絵図

仙石氏時代の上田城絵図／1 鋪／9枚 (36.8×50.9)／現状は巻 (元は折畳装)・24.8×35.7、後補裏打／150.8×106.2／江戸中期 (年月日未詳)／鳥の子紙／彩色あり、方位書：東西南北／236



1946 「山形之図 城下ノ略図」

山形城と城下町の略図／1 鋪／1枚 (37.5×49.6) ／現状は巻 (元は折畳装)・13.3×18.7、後補裏打／49.6×37.5
／江戸中期 (年月日未詳) ／外題「チ 山形之図 城下ノ略図」／楮紙／彩色あり、全体にへら跡あり／236



1953 河中島稻荷山城絵図

本丸・二ノ丸・三ノ丸のほか、街道・河道筋を簡略に描写／1 鋪／8枚 (34.0×47.9) ／現状は巻 (元は折畳装)・22.4×96.1、後補裏打／136.4×96.1／江戸前期カ (年月日未詳) ／鳥の子紙／彩色あり、領主名や修正を示す貼紙あり、方位書：東西南北／236



1821 「春日山本城之図」

史料名を参照／1 鋪／2枚 (26.9×37.9) ／折畳装 (原装)・19.0×26.5、原装裏打／37.9×53.2／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／彩色あり、方位書：南北、城内施設名の畠紙書あり／236



1822 「越州春日山城跡図」

史料名を参照／1 鋪／8枚 (27.9×38.4) ／現状は巻 (元は折畳装)・25.5×17.7、後補裏打／75.5×105.7／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／彩色あり、方位書：東西南北、春日山の由緒に係る畠紙書あり／236



1823-01 「越後国頸城郡春日山長尾謙信公古城之図」

春山城と城下／1鋪／2枚 (29.3×37.9) ／現状は巻 (元は折畳装) ・18.6×7.5、後補裏打／37.9×58.3／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／彩色あり、方位書：東、春日山城の周辺状況に関する畠紙書あり、No.1823-01～03は貼継／236



1823-02 「越州長尾謙信公古城之図」

春日山城と城下の略図／1鋪／2枚 (30.6×38.5) ／現状は巻 (元は折畳装) ・19.2×15.3、後補裏打／38.5×60.5／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／彩色あり、方位書：西、No.1823-3の下書きか、No.1823-01～03は貼継／236



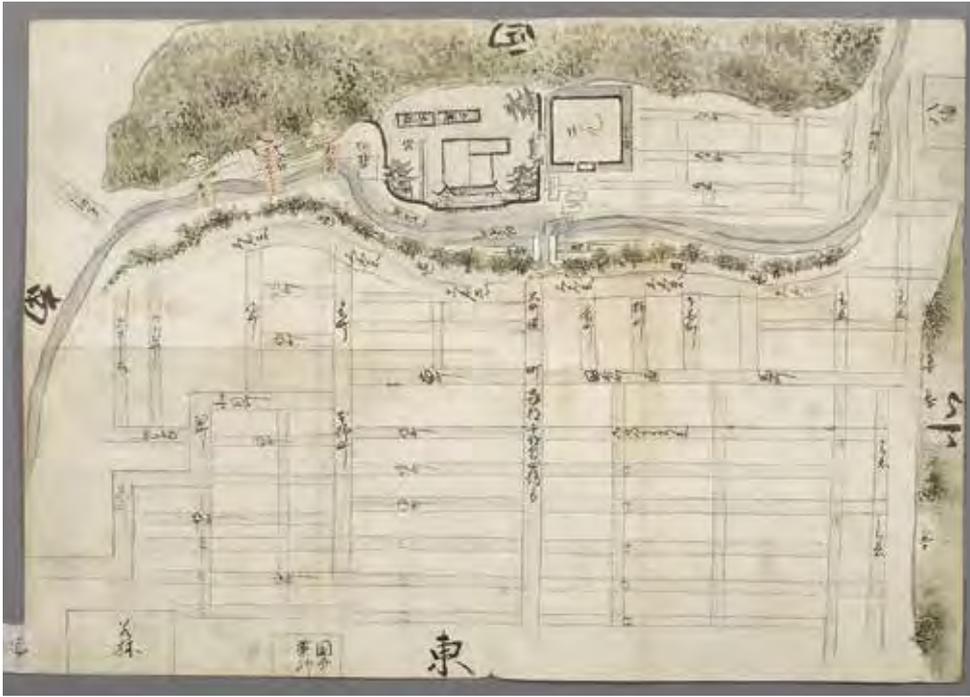
1823-03 「越州頸城郡春日山長尾謙信公古城之図」

春日山城と城下／1 鋪／2枚 (28.9×38.3) / 現状は巻 (元は折畳装)・20.3×5.5、後補裏打／38.3×59.2／元禄7年 (1694) 5月16日／楮紙／彩色あり、道・平地・川・橋の凡例あり、方位書：東西南北、「從松平大蔵太輔殿御家来來／元禄七戊五月十六日」および春日山城の周辺状況に関する畠紙書あり、No.1823-01～03は貼継／236



1937 「なこや城之図」

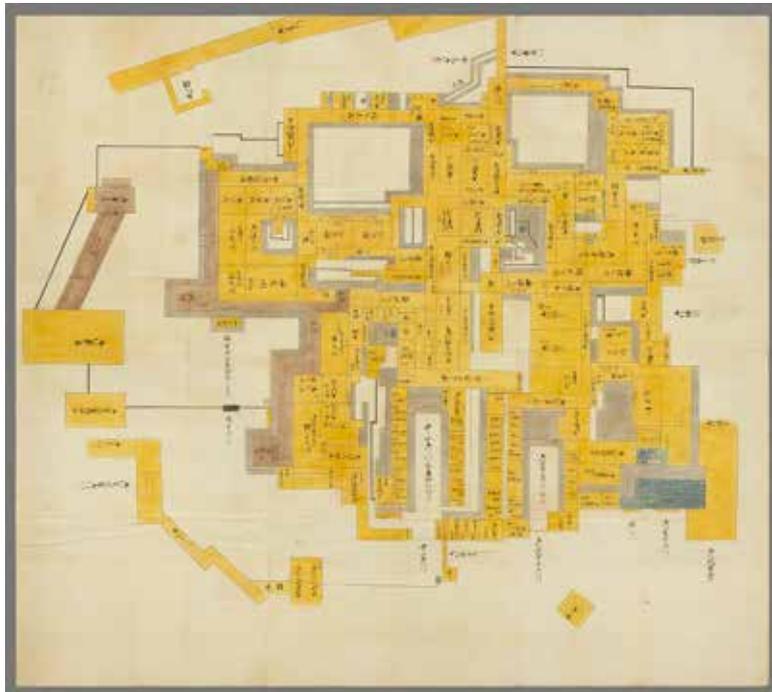
名古屋城三の丸までの城下絵図／1 鋪／19枚 (28.5×41.6) / 現状は巻 (元は折畳装)・31.5×24.9、後補裏打／124.8×149.1／江戸後期 (年月日未詳) / 外題「なこや城之図」、墨書「ハ」／楮紙／彩色あり、堀部分・諸注記・家臣名などの貼紙あり、方位書：東西南北／236



1939 「仙台居城絵図並城下略図」

仙台城および城下通り名／1鋪／1枚（37.7×53.4）／折疊装（原装）・18.7×26.6、原装裏打／37.7×53.4／江戸後期（年月日未詳）／外題「ト 式枚之内 仙台居城絵図并城下略図」／奉書紙／彩色あり、寺社名の貼紙、方位書：東西南北／236

絵図裏面



1957 江戸城内之図

江戸城本丸御殿の指図／1鋪／12枚（30.5×44.5）／折疊装（原装）・38.6×26.5、裏打なし／115.8×104.4／江戸後期（年月日未詳）／楮紙／彩色あり、部屋割部分にへら跡あり／236

領外絵図－他所・道中絵図



1942 「越後略絵図」

北は瀬波郡、南は頸城郡、東は上田庄、西は佐渡島まで／1 鋪／16枚 (30.8×44.9)／現状は巻 (元は折畳装)・31.3×29.9、後補裏打／122.5×178.5／(寛保元年・1741カ)／外題題箋「イ 越後略絵図」／楮紙／彩色あり、方位書：東西南北／236



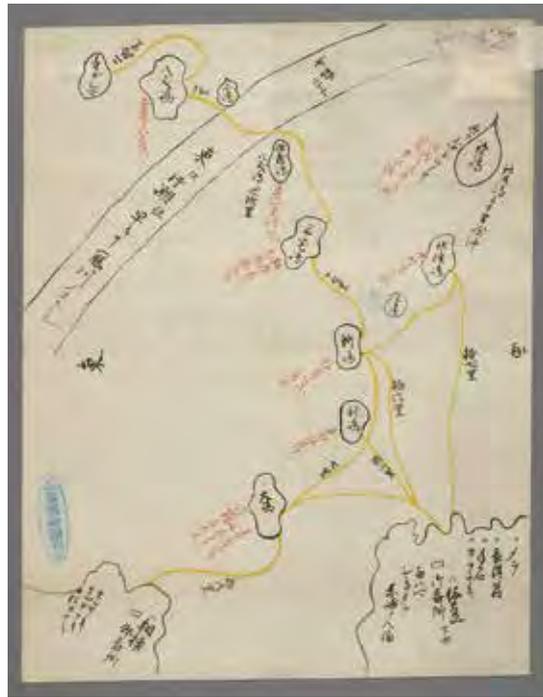
1961 「武州金沢擲筆山地蔵院能見堂八景之画図」

史料名を参照／1 鋪／4枚 (24.9×34.2)／現状は巻 (元は折畳装)・17.6×9.4、後補裏打／66.6×48.2／天明元年 (1781) 10月5日／楮紙／現住道曹再刻施主高倉宗寿画工加藤英宜等誌之／木版、方位書：東西南北／236



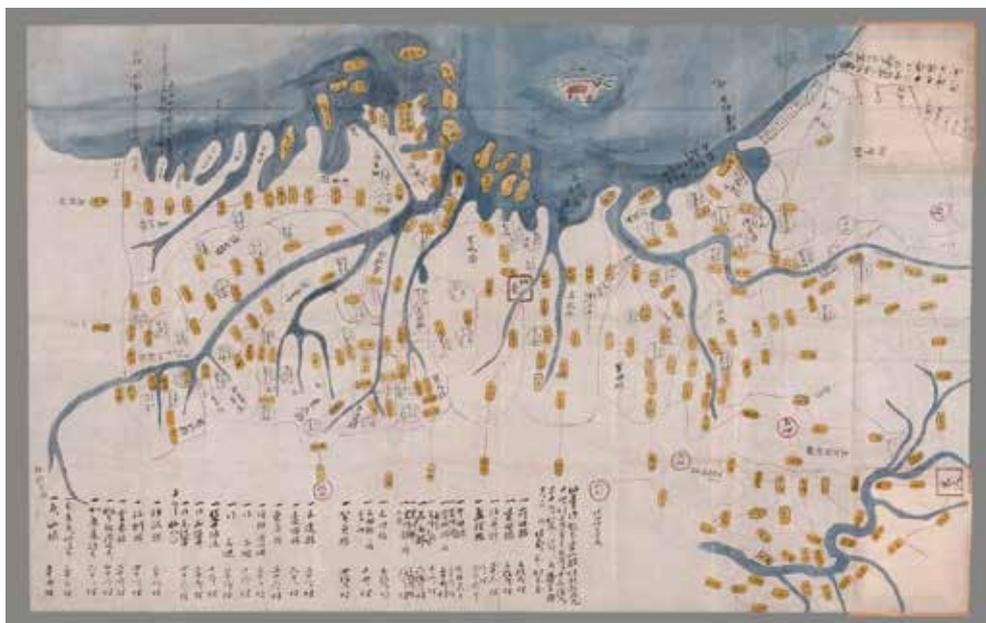
1769 会津領大絵図

会津藩松平氏時代の領地23万石、越後国蒲原郡から陸奥国耶麻郡まで／1 鋪／45枚 (39.0×94.5) ／折畳装 (原装)・83.8×52.3、原装裏打／335.7×419.3／ (明治2年・1869) ／間似合紙／彩色あり、コンパス穴あり、凡例にへら跡あり、私領・他領などの凡例あり、貼紙「此所御蔵入」、方位書：東西南北、会津領境の畧紙書あり／233



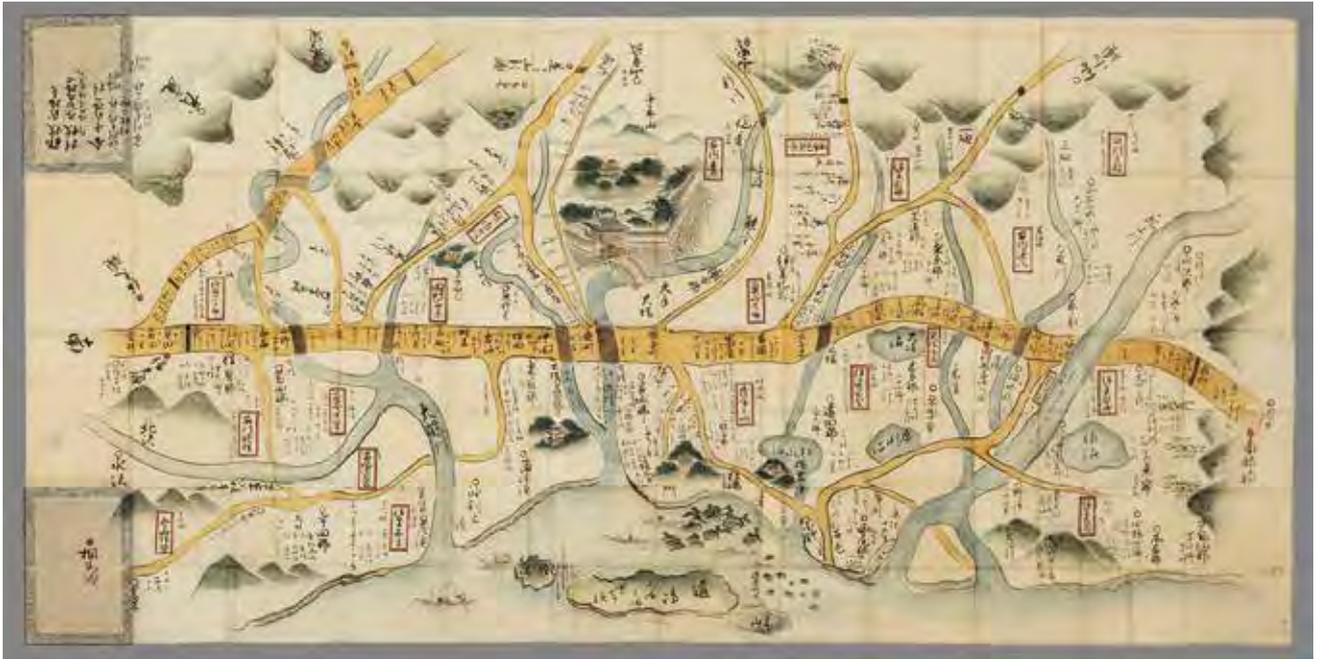
1964 「嶋々之図」

伊豆七島周辺の航路・潮流など／1 鋪／1枚 (30.5×39.5) ／現状は巻 (元は折畳装) ・19.9×15.4、後補裏打／39.5×30.5／江戸中期 (年月日未詳) ／外題「嶋々之図」／楮紙／彩色あり、方位書：東西／23



1938 米沢ヨリ奥州仙台之絵図

米沢藩から仙台藩までの見取図／1 鋪／9枚 (27.6×40.8) ／折畳装 (原装) ・16.5×13.3、原装裏打／64.3×102.6／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／彩色あり、方位書：南、仙台藩領内の村数内訳の畠紙書あり／236



1941 「奥州仙台領絵図」

街道・石高を明記／1 鋪／18枚 (27.0×40.3) ／折畳装 (原装) ・16.6×11.3、裏打なし／66.4×134.2／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／彩色あり、方位書：南、郡数・村数の晶紙書あり／236



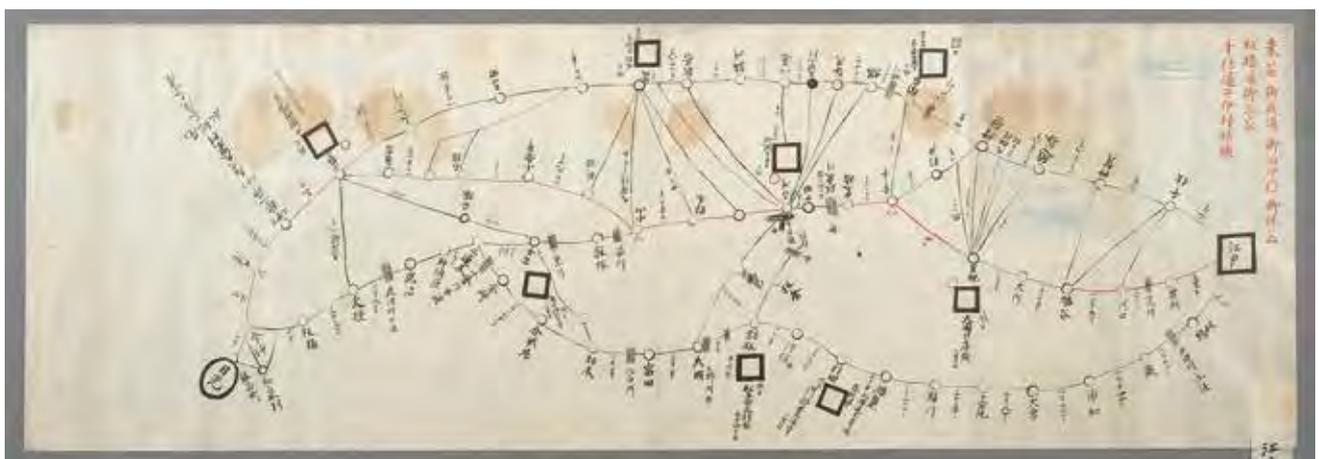
1945 「越後領三面絵図」

越後国三面村の切形図／1 鋪／4枚 (28.8×44.5) ／折畳装 (原装) ・22.7×10.8、裏打なし／57.4×87.0／江戸後期 (年月日未詳) ／外題「越後領三面絵図」／楮紙／彩色あり、米沢領境に合印2ヶ所あり／236



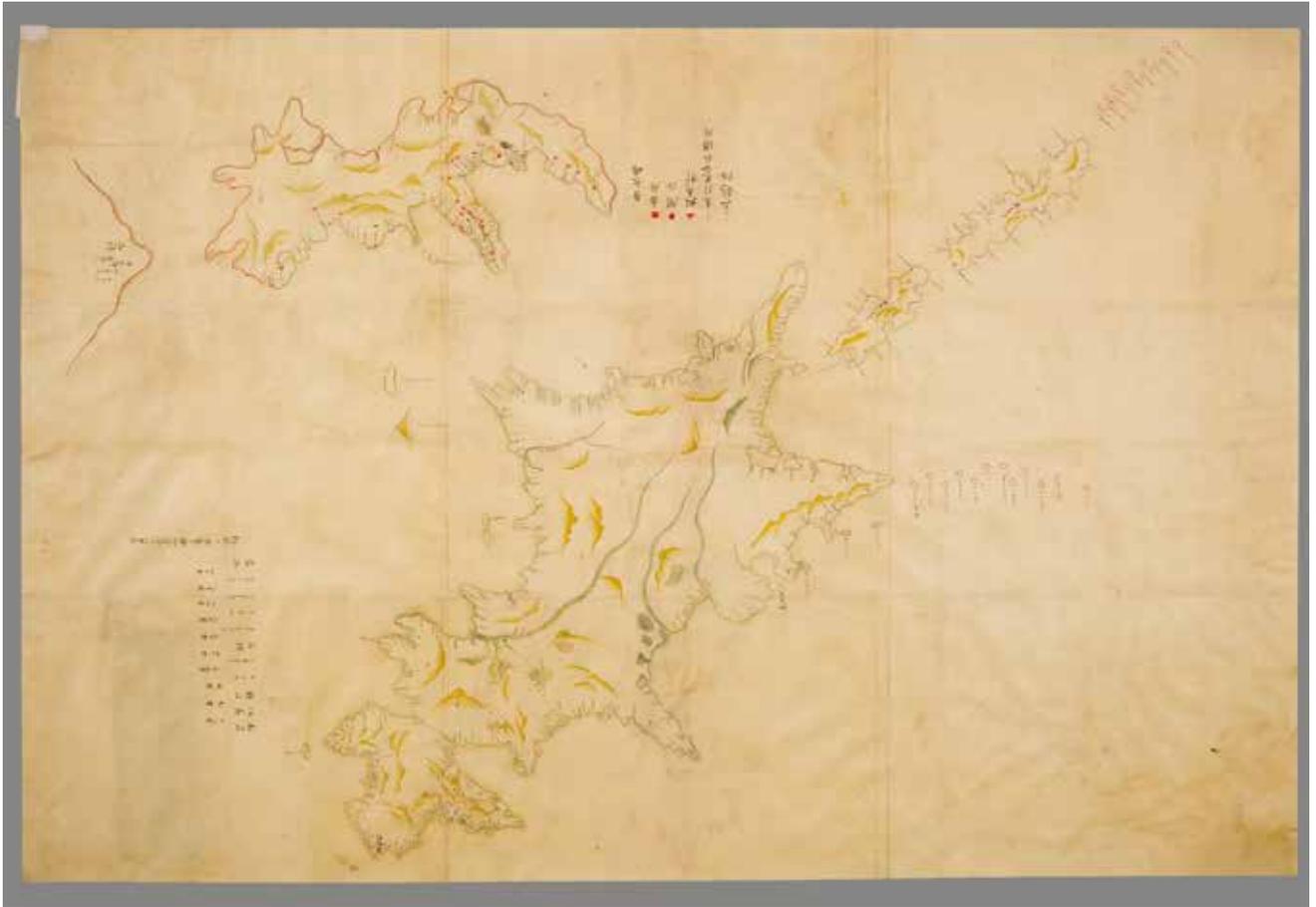
1947 「栃尾組万石絵図写」

越後長岡の栃尾地域の図／1 鋪／11枚 (27.3×38.8) ／現状は巻 (元は折畳装) ・28.5×21.2、裏打なし／111.6×80.5／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／彩色あり、方位書：東西南北、栃尾組内の村数内訳の畷紙書あり／236



1962 江戸日光御成道図

江戸から日光までの街道・宿場・里程を明記／1 鋪／2枚 (27.5×41.0) ／現状は巻 (元は折畳装) ・折畳時法量不明、後補裏打／27.5×81.7／江戸後期 (年月日未詳) ／楮紙／彩色あり、御成道を示す凡例あり／236



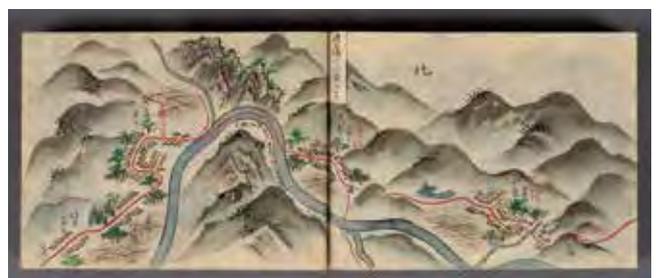
1967 「蝦夷絵図」写

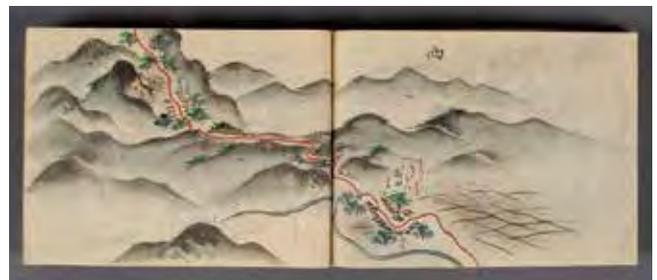
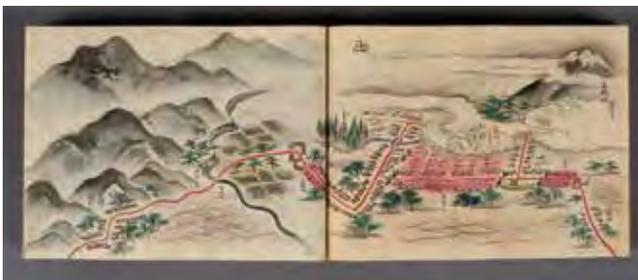
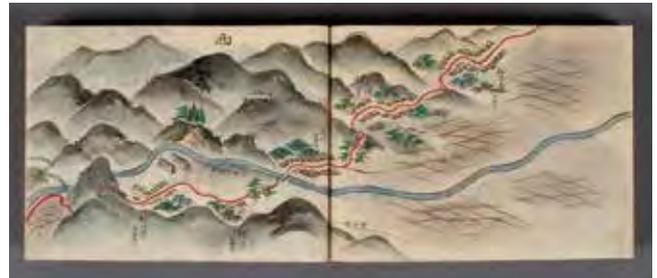
国後・樺太・択捉を含む／1鋪／9枚(26.7×39.7)／現状は巻(元は折疊装)・37.8×40.0、後補裏打／77.5×116.2／江戸後期(年月日未詳)／外題題箋「蝦夷絵図 会津家中丹羽織之丞ヨリ神保容助江贈候図之写」／楮紙／彩色あり／236



唐太嶋(樺太)と凡例









1968 「自米沢中山至津軽三厩道中記」

資料名を参照／1冊／38丁／袋綴冊子装／13.3×18.9／江戸後期（年月日未詳）／楮紙／彩色あり、地名の別称を示す貼紙2ヶ所あり、方位書：東西南北／236



1979 気多大社境内図

境内の建屋配置及び間数／1舗／1枚（27.2×36.7）／現状は巻（元は折畳装）・27.2×18.6、後補裏打／27.2×36.7／江戸後期（年月日未詳）／楮紙／彩色あり、建物・道を示す貼紙あり、方位書：東西南北、350石を25石に配分する旨の畠紙書あり／236



1969 「東蒲原郡明細図全」

資料名を参照／1 鋪／2枚 (51.8×110.7) ／折疊装 (原装) ・19.5×13.5、原装裏打、破れ・テープ跡あり／110.7×103.9／近代 (年月日未詳) ／、外題「東蒲原郡役所御蔵図 東蒲原郡明細図 全」／機械漉紙／文港堂 製図兼印刷 人白山浦秀錦堂／境界や道路、河川などの凡例あり／236

米沢市文化財調査報告書

上杉文書調査報告書

― 第四分冊 絵図編 ―

令和八年三月三十一日 発行

発行 米沢市教育委員会

〒九九二-〇〇一二

山形県米沢市金池三丁目一番一四号

電話 (〇三三八) 二二一五二一一

印刷 株式会社 川島印刷

山形県米沢市大字花沢三二一―二